

教育環境に関する意見交換会

結果報告書

令和2年3月

大野市教育委員会

目 次

1	開催概要 -----	1
	（１）開催目的	
	（２）開催結果	
	（３）結果の公表	
	（４）意見総括	
2	意見交換会における意見 -----	3
3	大野市教育委員会により -----	2 2

1. 開催概要

(1) 開催目的

平成29年1月に策定した「大野市小中学校再編計画」の見直しを行う取り組みとして、小中学校・保育所・認定こども園の保護者や各地区の方々などを対象に、本市の教育環境のあり方や学校再編などの様々な意見を聞くために開催した。併せて、参加者には「将来の教育環境に関するアンケート」も行い、意見交換会で話すことの出来なかった意見や学校再編に対する期待や提案をいただいた。今後、これらの結果を大野市小中学校再編計画の見直しのための資料として活用する。

(2) 開催結果

令和元年5月28日（火）から11月28日（木）までに41回実施した。期日や対象団体、開催場所、参加者数については、以下の表のとおりである。

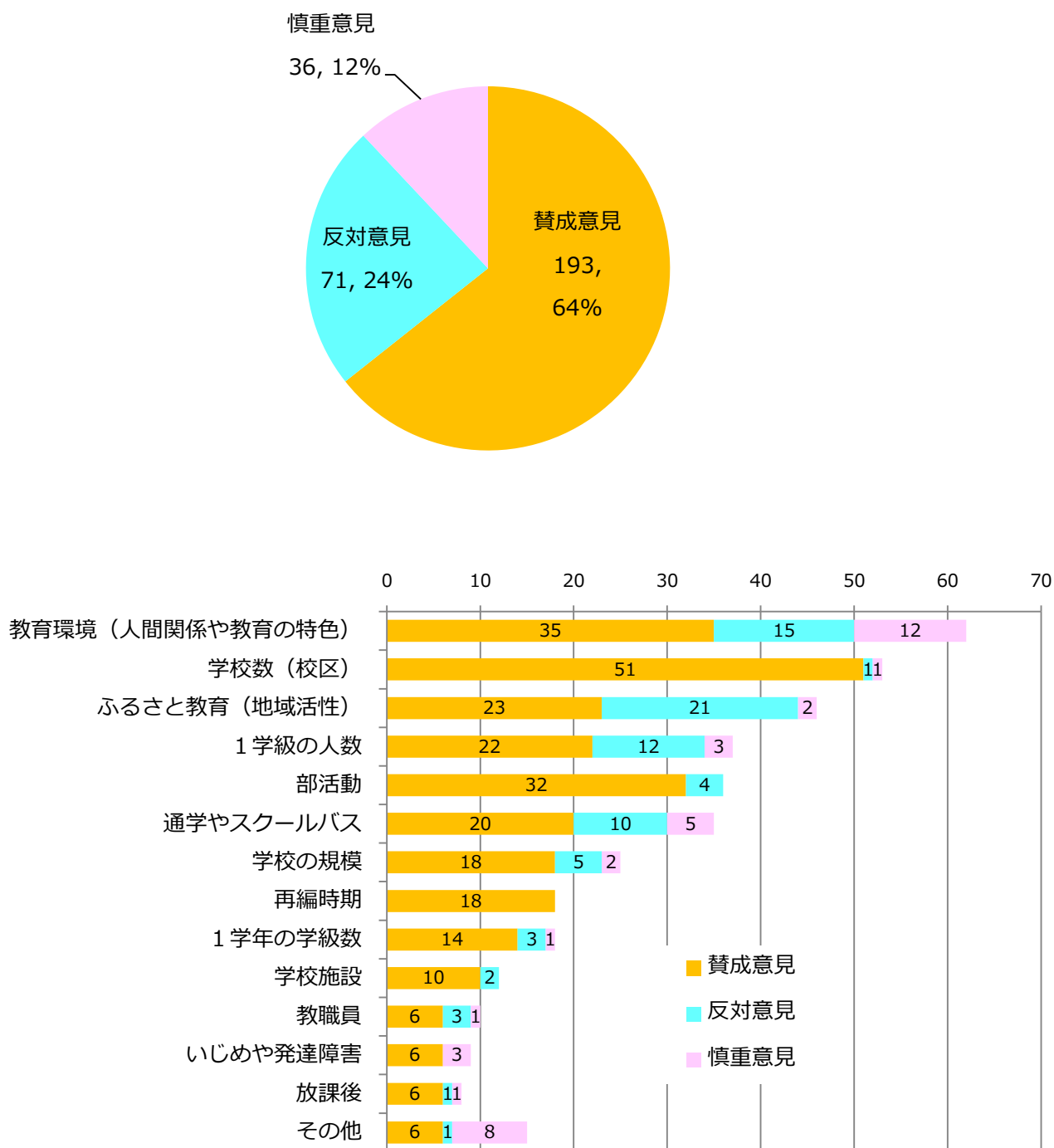
期日	曜日	対象団体等	開催場所	参加者数
5月28日	火	開成中学校	開成中体育館	8
5月30日	木	陽明中学校	陽明中多目的室	9
5月31日	金	上庄中学校	上庄中体育館	12
6月6日	木	尚徳中学校	尚徳中体育館	15
6月19日	水	和泉小中学校	和泉小体育館	17
6月25日	火	有終南小学校	有終南体育館	11
6月27日	木	有終東小学校	有終東体育館	12
7月2日	火	有終西小学校	めいりんランチルーム	8
7月4日	木	下庄小学校	下庄小体育館	16
7月9日	火	上庄小学校	上庄小体育館	23
7月11日	木	小山小学校	小山小体育館	9
7月16日	火	阪谷小学校	阪谷小体育館	8
7月18日	木	富田小学校	富田小体育館	10
7月23日	火	乾側小学校	乾側小体育館	6
8月5日	月	小中学校教職員	めいりんランチルーム	112
8月22日	木	亀山保育園	亀山保育園	30
8月25日	日	菖蒲池結サロン	菖蒲池結和館	15
8月27日	火	上庄保育園	上庄保育園	25
9月17日	火	開成こども園	開成こども園	18
9月19日	木	篠座こども園	篠座こども園	29
9月24日	火	誓念寺こども園	誓念寺こども園	19
9月26日	木	誓念寺中野こども園	誓念寺中野こども園	22
9月27日	金	まちづくり懇談会	秋葉集会所	50
10月1日	火	いとよ保育園	いとよ保育園広場	21
10月2日	水	大野未来を考える会	文化会館	9
10月3日	木	いなやまこども園 いなほこども園	いなほこども園	25
10月8日	火	大野幼稚園	大野幼稚園	18
10月10日	木	荒島保育園	荒島保育園	15
10月15日	火	あかね保育園	あかね保育園	22
10月17日	木	阪谷保育園	阪谷保育園	15
10月21日	月	和泉保育園	和泉保育園	9
10月24日	木	五箇公民館	五箇公民館	7
10月29日	火	和泉地区	和泉小学校体育館	22
10月31日	木	乾側地区	乾側小学校体育館	14
11月5日	火	小山地区	小山小学校体育館	16
11月7日	木	阪谷地区	阪谷小学校体育館	8
11月12日	火	富田地区	富田小学校体育館	20
11月14日	木	上庄地区	上庄小学校体育館	25
11月19日	火	下庄地区	下庄小学校体育館	22
11月21日	木	大野地区	結とびあ多目的ホール	37
11月28日	木	市政懇談会	めいりん洋室中	5
			合計	794

(3) 結果の公表

- ・意見交換会の結果概要は、開催場所ごとに「大野市教育委員会たより（以下、「たより」）」にとりまとめた。（「たより」1号から41号までは22ページから掲載）
- ・意見交換会に係る各団体には、該当する「たより」を配付し意見の共有を図った。また、市ホームページにも「たより」を掲載し、多くの方々に情報の周知を図った。

(4) 意見総括

意見交換会で出された様々な意見を300件抽出し、学校再編に対する「賛成意見」、「反対意見」、「慎重意見」に以下のとおり大別した。また、各意見を14項目に分類した。



2. 意見交換会における意見

◎学校再編に対する「賛成意見」【分類項目別】

※各意見で他の分類項目に関連がある場合は「関連分類項目」の欄に項目番号を記載しています。

1 教育環境（人間関係や教育の特色）について	開催場所	関連分類項目
子どもの可能性が広がるように、安心して集中して学べる環境をつくってほしい。	中学校	
学級数が多いとクラス替えができる。社会人になればいろいろな人と出会う。段階段階で、少しずついろいろな人と交わり、人間関係を築いていくことは必要だと思う。	中学校	
先細りが見えている現状で統廃合は避けられない中、地域のための学校でなく子どものための学校であってほしい。地域が廃れるとよく聞かすが、地域は行政機関に任せて、学校は子どもを育てることにもっと力を傾けて良いと思う。教育の明確なビジョンを出してほしい。例えば、全国の中でも先進的にＩＣＴを進め、全教室にプロジェクターを入れるとか、全員にタブレットを持たせて勉強させるなどして、空いた時間に子どもたちを見守ったり、体験活動に力を入れたりするなどである。	中学校	3
小学校はそのまま、中学校は人数を増やして学校生活を送らせてやりたい。中学校を大野に１校、和泉１校とし、和泉ではウィンタースポーツや英語教育などに特化すれば、市街から和泉に来たいと思う子がいると思う。	中学校	2
校外学習をいろいろ取り入れてもらっている。親が連れていけない所、見せてあげられない所へ行っているの、とても有難い。学校再編してもその取組みはやってほしい。	小学校	
保護者が自由に学校を選べたらいいと思う。例えば、たくさん子どもがいる学校、子どもが少なく伸び伸びした学校、スポーツに特化した学校などがあっても良いと感じる。	小学校	2
再編をすることで、手厚い授業や特色ある授業が受けられる、校外学習を増やすことができるなど、再編のデメリットをカバーする内容が見えてくると話がしやすいと思う。	小学校	
今の子どもは忙しすぎて、遊ぶ時間や交友関係を作る時間がない。いい先生に出会えた、いい学校を卒業できたという環境にしてほしい。	小学校	
複式学級のない学校は普通の授業で行えるが、複式学級のある学校の場合、特定の全校集会や他校との交流ができないため、不利益ではないかと思う。	小学校	
複式学級になってしまうぐらいの子ども的人数になると、学校としては小さすぎる規模だと思う。未就学児の保護者は、学校再編を早くしてほしいと思っているが、在校生の保護者は自分の子どもを地元の学校で卒業させてやりたいと思っている。学校再編をすると、在校生に何らかの負担がある。その時の子どもへのケアの方法を提示していくことが大事である。	小学校	
地区に学校がないと過疎化と思うので、市街から村部の学校へ通う再編もありかと思っている。また、子どもの教材（教科書が多く重い）の負担を減らしたり、タブレットなどのＩＣＴ化を進めながら、楽しい学習を行えるようにしてほしい。	小学校	2
大野を出た時に、大野出身であるという誇りを持てる教育をしてほしい。そうすれば県外に出た時に自信を持てると思う。いずれ、大野が好きで戻ってくる。バス通学は部活動の時間などが制限されるためハンディである。部活の練習をしたくても切り上げないといけなかった。ハンディをなくす方法を検討してほしい。	小学校	5、6
子どもが悪いことをした時でも受け止められる教育をしてくれればいいが、中学校１校の再編はしてほしくない。近くにライバル校があった方が競争できる。１校だと大野で１番学力が低い者が露呈する。何をしても、大野で一番出来る者、一番出来ない者が分かってしまう。いじめにつながる場合もある。	小学校	
複式学級でも良いと思う。上庄小で良い所は、子どもだけでなく、その保護者の顔も分かることである。悪い所は、子どもも先生も少なく、広い学校を掃除し維持していくのが大変である。再編では登下校が心配である。今は家を出るのが６時５０分で集合が７時５分である。現在も、よく遅刻するのでスクールバス通学を心配している。親の送迎を必要とした場合、学校周辺が渋滞になることもある。	小学校	6
新しい人の出会いが自分の成長に結びついていると感じている。固定されたメンバーで上庄小、上庄中の９年間が続く中でどれだけの刺激があるのか。他の学校との交流や大きな集まりの中に参加することで解決する場合もある。いろいろな人と交わって人間性を磨く機会を大人たちで与えてあげたい。	小学校	
学校と地域を切り離して考えていかないといけない。地域の事情は大人の事情でもある。今の子どもたちが犠牲になるのは可哀想だ。学校再編は、子どもの教育環境を中心に議論していったらいい。現状として再編は必要だと考える。	小学校	
今の教育環境は良い状況ではない。阪谷小の子どもたちにも、有終西などと同じ環境を与えて欲しい。	小学校	
再編した後、新しい学校が嫌だと言われない教育環境にしてほしい。今の環境は自分たちの時よりも、子どもと先生・大人との距離感が近いと思う。現状の環境を出来る限り変えないようにしてほしい。	小学校	
富田小が下庄小や有終東小の分校となり、小学校の間から交流ができ、中学校で一緒に学べるような環境が良いと思っている。	小学校	2
再編を行い、いろいろな子どもたちと触れ合ったり、いろいろな先生と出会ったりして、子どもたちは学ぶことが多いと思うし、部活面でも良いことがあると思うが、中学校１校、小学校２校は少なすぎる。	保育所等	2
自分は小学生の時、再編を体験している。小規模の小学校から大規模の中学校に入学するとき、非常に不安だった。すぐ中学校が大きく見えたが、入学後、いろいろな世界を見せてもらい、一番輝けたと思っている。	保育所等	
敦賀市では、東浦小中学校が地区の求めに応じて特認校として開校する予定で、校区もはずされ、全国からも	団体	

応募している。出来れば、和泉小中学校を特認校として残して欲しい。		
再編は早くして欲しい。誰がどう反対しているのか。再編したら、またそこから課題が見つかると思う。小さい学校から大きい学校に再編となった時の子どもたちのケアはどうしているのか気になる。	保育所等	
学校再編は、地域の問題と学校教育がごっちゃになっている気がするので、分けて欲しい。子どものために、本当に良い教育環境はどのようなものを最優先に考えて欲しい。例えば、プログラミング教育が始まるのであれば、その専門の先生が配置されるような環境づくりを考えて欲しい。	保育所等	
大きい学校になれば、友だちが多くでき、部活動も選べ、団体競技も出来て、自分のやりたいことが広がる。そういうことは子どもにとって大切なことだと思う。	保育所等	5
勉強よりも人間関係がうまくいくかが心配である。学校が小規模であれば、先生に手厚く見てもらえるという良さもあるが、クラスの人数が極端に少ないと勉強で立ち位置が決まってしまう、それが6年間ずっと同じになり、劣等感を抱いてしまう。褒めても褒めても立ち位置は変わらないため自信がつかない。人数が多ければ、友だちから教えてもらうことも多いと思う。小学校の再編は令和8年度ではなく、もっと早くても良い。週末は、遊ぶ同世代の友だちが近所にいない。	保育所等	4、8
学校再編は進めてもらえば良い。自分も和泉中の時、少ない人数の中学校でなくても良いと思っていたし、大野高校に入学した時、(たくさん人数がいるので人間関係などで)「楽だ」と思った。子どもがずっと小さい学校にいない必要はないと思っている。もっと視野をどんどん広げて欲しい。	保育所等	
和泉の教育環境は良いが、子どもはいろいろな人と出会っていききたいと思っている。以前、中学生の子どもが学校再編について、一番大変なのは体力のない小学校の子どもであると言っていた。	地区	
和泉に移住された方が「和泉の子どもたちに出会って非常に衝撃と感動を受けた。和泉の子は活き活きと子どもらしく、素晴らしい。助け合って個性が光っている。」とコメントしていた。地域と家庭、学校の連携がうまくいっているからだと思っている。再編では、特色ある学校を市内に1校作ってはどうかと思う。和泉小は子どもの力を伸ばす環境が揃っている。校舎も新しい。	地区	
中学校1校の再編は、不安要素を大きくしている。長い時間をかけて、たくさんの意見を聞いて欲しい。大きいクラスになると、英語の授業などで先生の話聞いていない子どももいると思う。少人数クラスに編成するか、先生をもう1人配置し、全員が授業に集中できる環境づくりをして欲しい。	地区	
阪谷地区の若い方には、子どもの教育を考え、地区を出て阪谷小以外の学校へ入学させる人もいる。	地区	
福井県は学力が優秀である。今の教育は間違っていない。この結果を継続しながら、再編が出来たら良い。	地区	
全国的に少子化になっているので、今までの教育を見直して、連合で教育する部分、小規模校が単独で教育を行う部分が出来れば良いと思う。20年先には、ひょっとしたら大野と勝山で小学校1校という発想が出てくるかもしれない。少人数で出来る教育、団体の場合は合同で行う教育を行うなど、発想を変えて教育の仕方を変えることが出来ないかと思う。	地区	
教育とは、クラスに弱い子、体力がある子などいろいろな子どもが集まり、その環境に子どもたちを置くことによって、弱い子にはいたわる、優しい気持ちを持つなどグループの中で学ぶことである。いろいろな子が集まらなないと教えられることがある。クラブ活動では上下関係を学ぶ。小さい学校だと塾と同じである。良いことや悪いことは事例がないと先生も教えられる。同じ年代の遊びで覚えたこともある。これまでの教育現場の経験に基づき、少子化の中で教育はこうしていくべきだと信念を持って語ってみたい。	地区	
小規模校にも、大規模校にもそれぞれメリット、デメリットがある。学校ではいろいろな子ども同士での出会い、教師との出会いがある。教員をしていた時、複式学級は人数が少なく難しいと感じていた。	地区	
2 学校数(校区)について	開催場所	関連分類項目
中学校が1つになると楽器も増え、合奏もできるが、競う学校もなくなるので可哀想だと思うので、間をとるのが一番いいかなと思う。	中学校	
今の規模で考えると、中学校2校、小学校4校が適当でないかと思う。中学校は既存の陽明、開成を、小学校も既存の学校を当面使う。通学範囲を考えると小学校において心配な面はある。複式を持つ学校がいくつかあり、地域が衰退するから残して欲しいという考えがあるだろう。しかし、その学校において、何人になるまで残すんですかとなった時に、ゼロまでとなると最後に卒業する子どもの教育環境を考えると可哀想である。なるべく早く再編を進め、その後、様子を見て対応を考えるべきではないかと思う。	中学校	8
上庄、尚徳は陽明や開成の子と比較すると、おっとりしている。小規模校のため、大人の目が届きやすいなどのメリットがあるが、競争心がないとか、居心地が悪い子にはつらいと思う。小学校でクラブをやっている、中学校でその部活がないから、競技を断念するか、競技を続けるために福井などの学校へ行く子もいる。中学校1校となった時、行き場がない子は変わらない。2校ぐらいに分けるのが理想だと思う。	中学校	5
小学校は地域に残し、中学校は2校ぐらいで仕方がないと思う。	中学校	
小学校は地元に残してほしい。地域と密着した活動が多い。子どもが小さいうちは、地域で育てるという考えは素晴らしいと思っている。中学校は、野球部がギリギリで成り立たない状況であり、合併を進めてほしい。市内で校風の違う学校が切磋琢磨して、意見を共有し合えるといいと思う。	中学校	5
中学校1校は行き過ぎだと思う。他の学校と競い合うのも必要。最終的に1校にする時期が来るかもしれないが、小学校は小さくなってきているが、各学校で頑張っている。小規模の学校を見ていると可哀想なので、早く進めてほしいと思う。	中学校	8
小学校はそのまま、中学校は人数を増やして学校生活を送らせてやりたい。中学校を大野に1校、和泉1校とし、和泉ではウィンタースポーツや英語教育などに特化すれば、市街から和泉に来たいと思う子がいると思う。	中学校	1【再掲】

現在の自分の子どもの状況を考えると、中学校の統合を望んでいる。校区が関係なくなり、市街からも和泉へ通う制度になるなら人数が増えるので、このまま小中一貫で残ってほしい。	中学校	
子どもたちの環境として一番望むのは、小学校の間だけは地元で育てたいと思うが、学校行事が成り立たなくなるような状況は望ましくないと思う。中学校については、最低２校は必要と考える。９年間安心した状況で過ごせることはいいことだが、新しい考え方が入って来ないことで、気付かないことがどんどん増え、高校に入ったとき、突然、不適応を起こすことがあるかもしれない。上庄という地域性は良いが、考えの多様性が失われる場合もあるので、新しい時代に必要な創造性や力がつけられない可能性もあるかと思っている。再編する場合は、子どもたちに負担がかからない形で考えてほしい。	中学校	3
再編を考える場合、市街の子が郊外の学校に行くことも検討してほしい。	小学校	
保護者が自由に学校を選べたらいいと思う。例えば、たくさん子どもがいる学校、子どもが少なくても伸び伸びした学校、スポーツに特化した学校などがあっても良いと感じる。	小学校	1【再掲】
地区に学校がないと過疎化と思うので、市街から村部の学校へ通う再編もありかと思っている。また、子どもの教材（教科書が多く重い）の負担を減らしたり、タブレットなどのＩＣＴ化を進めながら、楽しい学習を行えるようにしてほしい。	小学校	1【再掲】
市内に対戦するチームがないのは寂しい。競い合うことで自信がつくため、中学校１校はどうかと思う。	小学校	
中学校を１校にするとライバルがなくなるので、中学校２校、小学校２校にした方がいいと思う。そうすれば、小学校全員がそのまま中学校に行ける。市内で練習試合や対抗意識があると良いと思う。	小学校	
中学校２校、小学校３校かと思っている。通学が問題である。自分は市外に仕事へ行っており、高齢の親に子どもの送迎をお願いすることは、最近の高齢者の車の事故が多いことを考えると不安である。	小学校	6
再編する場合、学校の位置が問題となる。中学校は２校あった方がいい。新しく建てるのであれば、候補地を事前に説明した方が良い。	小学校	
小学校は小規模校で良く、中学校は１校の再編でも良いと思っている。地域から学校がなくなると過疎化が進むと思う。村部の学校は自然も多く、子どもたちにとっては良い環境だと思う。若い人たちが村部に残る理由にもなる。	小学校	3
小学校は地域の行事に参加して育ててもらえており、大事なことと思っている。小学校は人数が少なくても良い。中学校は部活や人間関係のことがあるので、多い人数の方が良い。中学校は１校ではなく、せめて２校だと思う。	小学校	3
考える力をつける環境が必要と考える。また、いろいろな体験ができることが必要。上庄は登下校で自然の四季を感じることができる。中学校は２から３校にして、出来る限り村部に配置してもらった方がいいと思う。部活は市全体で作って、練習場所へはスクールバスで送迎する方がいいと思う。	小学校	3、5
１クラスの人数は２０から２５人で良いが、１学年にクラスが複数ある方が良いと思う。クラス対抗などの競争の機会を与えたい。中学校１校、小学校１校でも良いと思っている。	小学校	4、9
小学校は基礎的な部分であり地域にあれば良いが、中学校は人数が少ないので、部活や競争の点から再編した方が良い。小規模の小学校は、地域の理解を得ながら、地域ごとに少しずつ再編した方が良い。	小学校	
富田小が下庄小や有終東小の分校となり、小学校の間から交流ができ、中学校で一緒に学べるような環境が良いと思っている。	小学校	1【再掲】
中学校は競争できるよう、２校ぐらいあった方が良い。	小学校	
乾側小の教育に不満はない。１人１人が先生から見てもらっている。他の学校にはない経験やスキルを学ばせてもらっている。下庄小などの子どもが乾側小へ入れるようなパターンがあるのではないかなと思う。	小学校	4
ある程度人数のいる下庄小と児童が２０人いない乾側小では学校再編の必要性が違う。人数の少ない学校から段階的に再編していくことが難しいのであれば、校区にしばられない、住所を変えなくても保護者の希望で行きたい学校へ行けるような制度も考えてほしい。	保育所等	
小学校は４校ぐらいが良いと思う。中学校は子どものことを考えると２校あっても良いと感じる。	保育所等	
再編を行い、いろいろな子どもたちと触れ合ったり、いろいろな先生と出会ったりして、子どもたちは学ぶことが多いと思うし、部活面でも良いことがあると思うが、中学校１校、小学校２校は少なすぎる。	保育所等	1【再掲】
中学校だけの再編で良いと思う。小学校は各地区にあった方が良い。中学校は部活のことを考えると人数は多い方が良く、２校ぐらいが良いと思っている。	保育所等	5
中学校１校になると連合体育大会（現在、中学校の連合体育大会は実施していない）はどうなるのか。中学校は２校以上が良い。	保育所等	
小学校２校は減らしすぎである。最初は小規模でも良いので、どこかで再編し、徐々に再編していくのが良いと思う。	保育所等	
再編は賛成である。学校の人数が少ないとＰＴＡなどの役員を２つも３つも掛け持ちしないといけないので大変である。だが、再編で学校が少なくなりすぎるのは嫌である。富田小と阪谷小で１つなど、小学校は４校か５校ぐらいだと思う。学校数は多すぎても少なすぎても駄目だと思う。その中間がいい。それであれば、再編は来年でも再来年でも行うことは良い。阪谷小が富田小と再編するのではあれば明日からでもＯＫである。	保育所等	8
最初の計画では、陽明中に和泉中が再編されるようになっていて嫌だと思ったが、その後の計画では中学校を１校にするとということで良いと思った。中学生全員が改めて１つになるという方が良いと思った。	保育所等	
小学校区と中学校区が違うため、小学校の同級生が中学校で別々になる。そのため、当時の自分の子どもも敏感であったため、可哀想だった。中学校が１つになればそういうこともなくなると思う。	地区	

再編計画の見直し計画を作り、その計画に基づいて再編したとしても、再び再編しなければならない状況となる場合がある。教育費の大半はハード整備に係る経費だと思う。再び再編する状況となれば、整備した施設は無駄になる。人口予測を見ながら、中学校1校、小学校2校の再編方法についても再度検討して欲しい。	地区	
大野の地形から考えて、中学校2校、小学校4校が理想と思っている。1学年100人ぐらい、もしくは1学年最低2クラスあれば良いと思っている。今後、子どもが減っても、この規模であれば20年ぐらいは学校としてやっていけると思う。	地区	7、9
いじめや不登校があった場合、中学校1校では逃げ場がなくなる。	地区	12
中学校の部活が少なく、やりたい部活がない生徒が多いと思う。中学校が2校に再編された場合、2校で1つの部活を作るなどの検討もして欲しい。	地区	5
教育でグローバル化をすればするほど、ローカルが重要になってくる。小規模が重要になってくる。今は、個人が重要で才能や個性を伸ばす時代になっている。学級は少なすぎても駄目だが、目の届きやすい人数であることは必要だと思う。国の基準ではなく、現場の視線でその規模（基準）を作って欲しい。学校再編は、PTAの意見を最優先しなければならない。地域はサポートする立場に回らないといけないと思っている。	地区	4
このような時代であり、再編は仕方がないと思う。今年、小浜市では小学校4校が1校に再編された。遠い地域の校区同士が再編されている。あわら市などでも再編を行っている。	地区	
子どものことを考えれば、もう少し多い方が良い。中学校では大人数の方が部活が出来る。	地区	5
小学校は中学校区ぐらいの数で良いと思う。早急に再編の形を示して欲しい。それに対して意見をもらった方が良い。	地区	
中学校は1学年4クラスが理想だが、最低1学年2クラスは必要である。校数は2つは欲しい。	地区	9
1学年1学級だったが生徒会や部活動をしっかり出来た。家庭、地域、学校がしっかりタッグを組めば、学校の大きい、小さいは関係ないと思う。再編では、少ない小学校が大きい小学校へ行く必要はない。東西南北4つで小学校を残せば良いと思っている。	地区	
上庄小は地域に残して欲しい。限界集落になる。中学校の再編は仕方がないと思っている。陽明中と開成中を残す2校案が良い。	地区	
子どもの頃、小学校の登下校での道草は思い出になっている。再編するとスクールバスで通うことになる。歩いて通うことで体力を養ったり、友だちと話しながら歩く登下校の楽しみなどがなくなったりする。また、校庭にバスが入ってくると危険である。小学校は散らばって何校があった方が良い。中学校はたくさんの人数がいたので、とても楽しかった。年代によって再編を考えて欲しい。	地区	6
小さい学校が大きい学校へ行くばっかりが再編ではないと思う。大きい所から小さい所へ行くのも1つのやり方と思う。	地区	
校区を変えることについては、そんな簡単に変わることが出来ないことを学校の保護者の時に体験した。再編は1回で済まないと思う。段階を踏んで、大野に合った形にしていけることが必要と思う。	地区	
再編は、耐震補強している学校へ徐々に行っていった方が良いと思う。少しずつ、段階的に移行しながら、学校を減らした方がベストだと思う。	地区	
競争社会で生きてきたため、ある程度競争心が芽生えさせるような教育が必要ではないかと考えている。そう考えると、複式学級の学校については、希望者だけ近くの小学校へ行くことが出来るように考えてはどうかと思う。	地区	
子どもの意見や希望をある程度取り入れるような学校再編を考えるべきである。再編をすると空き校舎が増えるので、機械的に小さい学校を大きい学校へ再編をするのではなく、希望が持てる再編をすべきである。	地区	
大野の過疎には驚いており、人の減り方はすごい。これだけ子どもの数が減っている中、学校を残すのはナンセンスである。各地域の意見交換会では、地域づくりや文化を大切にしたいから学校を残して欲しいという意見が多いが、それは公民館機能を有効にしていけば良い。再編は、中学校2校、小学校4校が妥当であり、令和5年ぐらいが良いと思う。	地区	8
3 ふるさと教育（地域活性）について		開催場所 関連分類項目
小学校の間は、地域との結びつきが大事であると感じている。中学校はある程度、人数の多い方が競争し合えたり、いろいろな先生と関わったりするのがいいと思う。	中学校	7
上庄に小学校を残してほしい。中学校は、ソフトボール部の人数が少なく他の部から借りてくることも考えている。	中学校	5
子どもたちの環境として一番望むのは、小学校の間だけは地元で育てたいと思うが、学校行事が成り立たなくなるような状況は望ましくないと思う。中学校については、最低2校は必要と考える。9年間安心した状況で過ごせることはいいことだが、新しい考え方が入って来ないことで、気付かないことがどんどん増え、高校に入ったとき、突然、不適應を起こすことがあるかもしれない。上庄という地域性は良いが、考えの多様性が失われる場合もあるので、新しい時代に必要な創造性や力がつけれられない可能性もあるかと思っている。再編する場合は、子どもたちに負担がかからない形で考えてほしい。	中学校	2【再掲】
小学校は地域に残してほしい。自分の生活の一端をとられるような気がしている。再編計画が出たとき、子どもが上庄小学校がなくなることにに対して寂しそうにしていた。中学校は部活の問題が一番であるが、選択肢が増えることでストレスになるのではないかと考えている。部活だけを市全体でつくるのがいいのではと思っている。複式のある学校の再編は、その地域で進めていただき、上庄は別で考えてほしい。	中学校	5

阪谷小学校は現在29人しかいない。昔に比べると運動会の種目も少なくなった。でも、地域の特色を生かした活動、田植えやどろりんピックなどを行っている。人数が少なくなったのでどこかと一緒になりたい気持ちはある。今すぐにでも行きたい。阪谷に学校がなくなると人が住まなくなるかとも思っている。	中学校	8
適正規模や部活動などを考えると再編は仕方ないと思う。規模などは教育委員会に任せたい。再編後、地域とのつながりのある学習をどうしていくかなどを考えてほしい。地域に学校がなくても、そのようなつながりがあることで地域の人も違った見方をしてくれると思う。	中学校	
先細りが見えている現状で統廃合は避けられない中、地域のための学校でなく子どものための学校であってほしい。地域が廃れるとよく聞くと、地域は行政機関に任せて、学校は子どもを育てることにもっと力を傾けて良いと思う。教育の明確なビジョンを出してほしい。例えば、全国の中でも先進的にICTを進め、全教室にプロジェクターを入れるとか、全員にタブレットを持たせて勉強させるなどして、空いた時間に子どもたちを見守ったり、体験活動に力を入れたりするなどである。	中学校	1【再掲】
子どもたちの良い教育環境とは、学校教育だけではないと思う。例えば、自分が住んでいる地区には小学生が3人だが、子ども神輿はやっている。育成会は休止している。地区の人が地区の子どもを育てていく環境（地区行事など）は止めてはいけない。社会教育・生涯教育の面で、子どもが少なく育成会などが行政区ごとに出来ない状況であり、広い範囲による育成会の活動を支援する働きかけをしてほしい。育成会がなくなると、ラジオ体操や夏祭りなどがなくなり、寂しい大野になる気がする。地域住民がどうやって子どもを育てていくかの面にも、学校教育と同じくらい光を当てていかないといけないと思う。	小学校	
複式学級的环境を解消するような再編をした方が良いと思う。下庄小の今の環境がちょうど良く守っていきたい。自分が家を建てる時、近くに保育園や小中学校があるかを基準に選んだ。大野に来て感じたことは、地域の子どもは地域で守ることをすごく感じている。再編で地域に学校がなくなると不安を感じている人は多いと思う。	小学校	
小学校は小規模校で良く、中学校は1校の再編でも良いと思っている。地域から学校がなくなると過疎化が進むと思う。村部の学校は自然も多く、子どもたちにとっては良い環境だと思う。若い人たちが村部に残る理由にもなる。	小学校	2【再掲】
移住のとき、子どもが歩ける範囲に学校があることで安心できた。移住希望者の相談では、絶対学校について聞かれる。しかし、小学校と中学校は要素が違う。中学校は部活のこともあるが、大きいコミュニティの中で成長してほしいので、小学校より先に再編を進めてほしい。小学校時代は地域で育てていきたい。	小学校	6
小学校は地域の行事に参加して育ててもらえており、大事なことと思っている。小学校は人数が少なくても良い。中学校は部活や人間関係のことがあるので、多い人数の方が良い。中学校は1校ではなく、せめて2校だと思う。	小学校	2【再掲】
考える力をつける環境が必要と考える。また、いろいろな体験ができることが必要。上庄は登下校で自然の四季を感じることができる。中学校は2から3校にして、出来る限り村部に配置してもらった方がいいと思う。部活は市全体で作って、練習場所へはスクールバスで送迎する方がいいと思う。	小学校	2、5【再掲】
小学校と中学校では再編の意味が違うと思っている。小学校は地域とのつながりを覚えていく時期で、中学校は自分を高めていきたいという時期だと思う。小学校は歩いていける範囲にあった方がいいと思っている。	保育所等	6
現再編計画では、地域との関わりが薄くなり、寂しくなると思う。地域と子どもの間を埋める代替案、公民館を使うなど、地域との関係を保っていけるような方法があればと思っている。	保育所等	
スクールバス通学になると子どもの体力が落ちると思う。行き帰りの道草の学習など上庄だから出来る子育てがあると思う。小学校の間は少人数で学習しても良い。中学校では、大きな所でもまれて社会に出る準備をしなければならない。上庄には独自のコミュニティがあり、安心感がある。地域みんなが見てくれる中で、のびのび育てて欲しいと思っている。	保育所等	4
地域と密着した教育をこれからも行い、子どもに地元の良さをもちと発信し、将来地元へ帰って来ようと思う子どもが1人でも増えると良い。	保育所等	
学校再編の第一は、子どもの幸せである。学校再編すれば、地域の良い伝統や文化を衰退させる。地域の要望を大切にしたい再編の見直しであって欲しい。地域の実情を無視した形であってはならない。	団体	
学校は教育の場である。保護者が中心になって学校をどうしたいのかを考え、それから、地域ではどうかと下りてくるのが良い。その後、地域でバックアップすることがあるのか、もし学校がなくなるのであれば、地域をどうすればいいのかは、後で考えれば良いことである。	地区	
再編の中心は子どもだと思うが、先生が働きやすく、教えやすいという環境も大事である。また、地域で子どもを育てているということも考慮して欲しい。	地区	1 1
再編は絶対必要と思うが、数合わせの再編はやめて欲しい。各地区の地域性を考慮しながら再編を進めて欲しい。	地区	7
学校を再編することで、子どもの将来が確約されるという主張が先生から出てこない。再編は、市の財政を考え、経費が掛かるからという理由が柱になっていると思う。どこの地域の学校も1クラス5人ぐらいになったら、他の学校との再編を考えるのが自然であると思う。子ども中心に学校再編を考えないといけない。教育にはお金を掛けたくないといけない。上庄小が地域からなくなると、子どもの姿が見えなくなるので寂しい。子どもの姿が地域で見れることは癒しである。	地区	9
ある規模の学校にしないといけないのは分かる。家族や校区の住民、地域の協調社会の中で子どもは育ていくべきと思う。それを踏まえて、学校の適正な規模を考えていかないといけない。以前は、子どもを育てることに対して効率主義を前面に出していたと思う。それぞれの地域で育てることを見失ってはいけない。	地区	
4 1学級の人数について	開催場所	関連分類項目

30人1クラスが理想と思っていたが、20人ぐらいで3クラスがいいと思っている。ある程度、小さいコミュニティの方がうまくいくと思う。	中学校	9
たくさんいるから競争するというものでもない。半分から下になると競争をあきらめてしまう場合がある。逆に30人ぐらいの小規模の方が、明確な競争相手が出来るという考えもある。たくさんいるといろんな個性の人間が集まってくるので、その子たちと触れ合う価値の方が大きいということもある。	中学校	7
部活をするためではなく、教育を受けるためにやるんだという考えが必要。通学に時間差ができ、結局、部活が出来ないこともある。和泉は通学に時間がかかり、部活ができなくなり、部活をするために住所を移さないといけない、そのようにつながっていくこともある。今の生活で教育をきちんと受けられる環境を行政は整備していかないとけない。平等に教育を受けられることに主眼を置いてほしい。西校にも子どもがいるが、1クラス20人ぐらいが、子どもも先生に見てもらっているという安心感がある。再編に反対ではない。現状に合わせて考えて変えていかなければならない。	中学校	5
自分たちの子どもが結婚して子どもを持ち、大野で教育をさせたいと思わせるような学校再編をしてほしい。1つの学校に600人は多いと思うが、現在の小規模校ぐらいの人数では、しっかり勉強を教えてもらえるのかもしれないが、友だち関係や人間関係を形成していくにはどうかと思う。1クラス20人から25人がちょうどいいと思う。複式学級にならないような再編をしてほしい。	小学校	7、9
市内の小規模校では、先生1人に対して児童1人の学級もある。子どもは学びやすいかもしれないが、常に1対1なので、学ば側（子ども）からしてみたらしんどくないのかと思う。	小学校	
人の多い所で、いろいろなコミュニケーションを養える環境が大事と思う。コンピュータなどでコミュニケーションはとれるが、相手の表情を見たり、目と目に向かいあったりすることが必要である。出来るだけ多い人数の中で教育を受けた方がいいと思っている。	小学校	7
大人数のクラスでの切磋琢磨はすごく良いと思う。人間として成長させてくれる。いろいろな人の意見を聞いて、それに対して発言することは必要なことだと思う。しかし、先生の目が行き届かない。再編は必要だと思っている。出来れば、1クラスの人数を多くして欲しくない。20人までにして欲しい。30人のクラスだと埋もれる子がいる。	小学校	
学校再編を早くやってほしい。子どもは複式学級にいるが、学校は勉強するだけではなく、社会性を教わる場所と考える。これから、子どもが中学、高校、社会に出たとき、人付き合いに苦労するのではないかと心配している。	小学校	
先生の目が行き届く20人ぐらいかと思う。小学校が一気に大きくならなくても良い。富田小と阪谷小が早く一緒になってほしい。	小学校	7
1クラスの人数は20から25人で良いが、1学年にクラスが複数ある方が良いと思う。クラス対抗などの競争の機会を与えたい。中学校1校、小学校1校でもいいと思っている。	小学校	2、9 【再掲】
何年も先の子どもの人数が推測されているのであれば、それに合わせて中学校の再編を進めて欲しい。中学校で1クラスが成り立たない状況ではどうしようもない。	小学校	
富田小や尚徳中では、子どもの顔を見たら保護者の顔が浮かび、先生も学校に行くと子どもの状況を教えてくれる。大きい学校でもこのような環境が保たれるのか心配である。再編すると校区が広がり、保護者の顔が分からないため、保護者から子どもの情報を聞けない心配がある。中学校では部活を選べないので可哀想である。市全体で部活が選べるような形を考えて欲しい。他の学校の子とも交わる機会にもなる。	小学校	5
小さい学校では、どんなときでも自分が前に立たないとけない。それが自信につながっている。先生がきめ細かく見てくれるので学習が遅れることはない。小さすぎるのは良くないとは思っている。	小学校	
乾側小の教育に不満はない。1人1人が先生から見てもらっている。他の学校にはない経験やスキルを学ばせてもらっている。下庄小などの子どもが乾側小へ入れるようなパターンがあるのではないかと思う。	小学校	2【再掲】
スクールバス通学になると子どもの体力が落ちると思う。行き帰りの道草の学習など上庄だから出来る子育てがあると思う。小学校の間は少人数で学習しても良い。中学校では、大きな所でもまれて社会に出る準備をしなければならない。上庄には独自のコミュニティがあり、安心感がある。地域のみんなが見てくれる中で、のびのび育てて欲しいと思っている。	保育所等	3【再掲】
複数学級が望ましいと思うが、大野市では1学年1クラスで良い。複式学級は子どものために避けて欲しい。	団体	
1クラスにある程度の人数がいないと、子どもは、社会に出た時にカルチャーショックを受けやすいのではないか。子どもの時から、ある程度の人数の中での競争は必要であると考え。	団体	
自分の時は1クラス20人で、先生に見てもらっていたという安心感があつたし、友だちと交流できた。阪谷小に入学予定であるが、複式学級のようにクラス的人数が少なくなると友だちの輪が狭くなる。出来れば1クラス10人から20人の間が良い。交流も出来るし、先生の目が行き届く。また、スクールバスで送迎されるとしても、最後は家まで1人で歩いて帰ることになり、家族の誰もが迎えにいけない状況で、送り迎えに不安がある。	保育所等	6
勉強よりも人間関係がうまくいかか心配である。学校が小規模であれば、先生に手厚く見てもらえるという良さもあるが、クラス的人数が極端に少ないと勉強で立ち位置が決まってしまう、それが6年間ずっと同じになり、劣等感を抱いてしまう。褒めても褒めても立ち位置は変わらないため自信がつかない。人数が多ければ、友だちから教えてもらうことも多いと思う。小学校の再編は令和8年度ではなく、もっと早くても良い。週末は、遊ぶ同世代の友だちが近所にいない。	保育所等	8

出生数が年間 200 人ぐらいと聞き、再編せざるを得ないと感じた。子どもが小山小に入学するとき、人数が少ないことに対する不安があった。周りからは「目が届くからいいね」と言われたが目が行き届きすぎる不安があった。入学後、6 年生の子が下級生の子に対して絵本を読んであげていたのを見て、小規模校も良いと思った。大きい学校では見られない光景だと思った。しかし、少ない人数の学級で担任の先生と相性が合えばいいが、合わなかったら辛い思いをすると感じている。1 学年に少人数の学級が複数あると良いと思う。	地区	9
教育でグローバル化をすればするほど、ローカルが重要になってくる。小規模が重要になってくる。今は、個人が重要で才能や個性を伸ばす時代になっている。学級は少なすぎても駄目だが、目の届きやすい人数であることは必要だと思う。国の基準ではなく、現場の視線でその規模（基準）を作って欲しい。学校再編は、PTA の意見を最優先しなければならない。地域はサポートする立場に回らないといけないと思っている。	地区	2【再掲】
少なくとも、1 学年 2 学級は必要であると思うし、1 学級でも 20 人ぐらいは必要である。そのような人間関係の中で勉強するのがもっとも良いと思っている。また、阪谷小も子どもが減り、厳しい環境だと思うので、富田小と一緒に、尚徳小になると良いと思っている。保護者が子どものことを思い、しっかり考えていくべきである。	地区	9【再掲】
5 部活動について	開催場所	関連分類目
子どもが野球をしているが、部活でやりたい部に入れないのは可哀想と思う。陽明の子たちは軟式野球部の人数が足りないため、硬式野球をやるしかない。	中学校	
クラブ活動の掛け持ちはできないのか。いい意味で世界が広がるのでは。	中学校	
陽明でさえ、野球部やサッカー部の人数が揃わなくなっており、ソフトも昨年廃部になった。部活が昔に比べてどんどん減っていて寂しさがある。有終西では各学年が 1 クラスで 6 年間一緒にいいこともあるが、トラブルがあった時にクラス替えができない。複式が悪いとは思わないが、もう少し大きい規模の方がいいと思う。	中学校	7
部活をするためではなく、教育を受けるためにやるんだという考えが必要。通学に時間差ができ、結局、部活が出来ないこともある。和泉は通学に時間がかかり、部活ができなくなり、部活をするために住所を移さないといけない、そのようにつながっていくこともある。今の生活で教育をきちんと受けられる環境を行政は整備していかないといけない。平等に教育を受けられることに主眼を置いてほしい。西校にも子どもがいるが、1 クラス 20 人ぐらいが、子どもも先生に見てもらっているという安心感がある。再編に反対ではない。現状に合わせて考えて変えていかなければならない。	中学校	4【再掲】
教育の中で部活動がすべてではないと思う。中学校 1 校になると競争相手がいなくなると言っていたが、県内に競争相手があるので、競う相手がいなくなる訳ではないと思う。なるべく早く、再編して、修繕経費などの管理経費を他の教育に充ててほしい。	中学校	10
上庄、尚徳は陽明や開成の子と比較すると、おっとりしている。小規模校のため、大人の目が届きやすいなどのメリットがあるが、競争心がないとか、居心地が悪い子にはつらいと思う。小学校でクラブをやっているが、中学校でその部活がないから、競技を断念するか、競技を続けるために福井などの学校へ行く子もいる。中学校 1 校となった時、行き場がない子は変わらない。2 校ぐらいに分けるのが理想だと思う。	中学校	2【再掲】
上庄に小学校を残してほしい。中学校は、ソフトボール部の人数が少なく他の部から借りてくることも考えている。	中学校	3【再掲】
小学校は地元に残してほしい。地域と密着した活動が多い。子どもが小さいうちは、地域で育てるという考えは素晴らしいと思っている。中学校は、野球部がギリギリで成り立たない状況であり、合併を進めてほしい。市内で校風の違う学校が切磋琢磨して、意見を共有し合えるといいと思う。	中学校	2【再掲】
中学校と小学校では、根本的に問題が違うと感じる。中学校が直面しているのは部活の問題。一緒に議論しているが、抱えている問題が違うので中学校を先行して考えるなどをしないと、先に進まないと思う。	中学校	
小学校は地域に残してほしい。自分の生活の一端をとられるような気がしている。再編計画が出たとき、子どもが上庄小学校がなくなることにに対して寂しそうにしていた。中学校は部活の問題が一番であるが、選択肢が増えることでストレスになるのではないかと考えている。部活だけを市全体でつくるのがいいのではと思っている。複式のある学校の再編は、その地域で進めていただき、上庄は別で考えてほしい。	中学校	3【再掲】
今は早く統合してくれた方が良いと感じている。現状の尚徳は、授業がうまくいかなかったり、いじめがあったりする。小さい学校でいじめがあった時、逃げ場がなくなると感じている。尚徳から大きい学校へ移った人から、メリットやデメリットはあるが、対応をしっかりとっていて、移って良かったと聞いている。部活では、小学校のときにやっていた競技がないため、入る部活がない。子どもの楽しみがない。陽明や開成の部活に行ける環境をつくってほしい。	中学校	8、12【再掲】
早く再編の方向性を決めた方が良い。中学校における部活動は大切で、たくさん部活があった方が良い。いろいろな絆が生まれる。中学校 2 校ぐらいにして、競い合った方が良い。働き方改革で部活の練習が減り、自主練習が行われている。	小学校	
今、スポーツなどで、やりたい子がやれない、選べない状況で、小学校でスポ少などの団体競技をしているが、中学校で個人競技に変わる子どもがいる。	小学校	
大野を出た時に、大野出身であるという誇りを持てる教育をしてほしい。そうすれば県外に出た時に自信を持てると思う。いずれ、大野が好きで戻ってくる。バス通学は部活動の時間などが制限されるためハンディである。部活の練習をしたくても切り上げないといけなかった。ハンディをなくす方法を検討してほしい。	小学校	1、6【再掲】
部活については、市が教育の一環として割り切るのであれば、中学校対抗にする必要があるのかと思う。競い合いたいのであれば、クラブチームに任せるなど、部活をどう捉えるかを示した方がいい。	小学校	

考える力をつける環境が必要と考える。また、いろいろな体験ができることが必要。上庄は登下校で自然の四季を感じることができる。中学校は2から3校にして、出来る限り村部に配置してもらった方がいいと思う。部活は市全体で作って、練習場所へはスクールバスで送迎する方がいいと思う。	小学校	2、3 【再掲】
富田小や尚徳中では、子どもの顔を見たら保護者の顔が浮かび、先生も学校に行くとき子どもの状況を教えてくれる。大きい学校でもこのような環境が保たれるのか心配である。再編すると校区が広がり、保護者の顔が分からないため、保護者から子どもの情報を聞けない心配がある。中学校では部活を選べないので可哀想である。市全体で部活が選べるような形を考えて欲しい。他の学校の子ともと交わる機会にもなる。	小学校	4【再掲】
部活が出来ないから再編するのではなく、勉強面で支障が出るから再編する方向で考え、部活動は部活動で考えないといけな。	小学校	
中学校だけの再編で良いと思う。小学校は各地区にあった方が良い。中学校は部活のことを考えると人数は多い方が良く、2校ぐらいが良いと思っている。	保育所等	2【再掲】
上庄は、保育園、小学校、中学校と一緒に良い所も悪い所もある。部活が寂しいということで中学校の再編は良いかなと思う。小学校は子どもが減って寂しいと思うが、市が別の面で頑張ってもらい、若い人が戻って来られる大野になって欲しい。自分の子どもに対して、仕事がない大野に「帰っておいで」と胸を張って言えない。	保育所等	
中学校は部活が少ないから再編をしていくことは分かる。	保育所等	
大きい学校になれば、友だちが多くでき、部活動も選べ、団体競技も出来て、自分のやりたいことが広がる。そういうことは子どもにとって大切なことだと思う。	保育所等	1【再掲】
中学生であれば市街へ通える年齢でもあるので、再編により、部活動の選択も友だち関係も広がると思うし、将来の進路や夢が広がるのではないかと考えた。	保育所等	
学校は最低1学年2クラスは必要と思っている。年頃になると気の合わない友だちが出来たりするので、クラス替えが必要になることが必要と思う。音楽、美術、技術、家庭などの教科に専任の教職員が配置できるような人数の規模にして欲しい。部活動に関しても子どもが自分たちのやりたいことを見つけられる規模にして欲しい。再編計画を進める中で「地区の核がなくなる」、「母校がなくなるから再編は嫌だ」などの反対意見が出ていたが、第一に考えて欲しいのは子どものことである。このことをこれまで以上に強く言って欲しい。再編はもっとスピード感を持ってやって欲しい。みんなが自分の子どもは関係ないと言っていたのでは、これからの小中学生のためにならないので、早めにやった方が良い。	地区	8、9 【再掲】
中学校の部活が少なく、やりたい部活がない生徒が多いと思う。中学校が2校に再編された場合、2校で1つの部活を作るなどの検討もして欲しい。	地区	2【再掲】
本心では、子どもが1人でもいる限り学校を続けて欲しい。しかし、子どものためを思うとそういう訳にはいかない。子どもが少ないと、しっかり先生から勉強を教えてもらえると思うが、スポーツは出来ないと思うので悩ましい所である。	地区	
子どものことを考えれば、もう少し多い方が良い。中学校では大人数の方が部活が出来る。	地区	2【再掲】
平日の部活は保護者が迎えにいけるが、土日の部活については、仕事がある保護者もいるのでスクールバスの送迎などをお願いしたい。	地区	
再編は早くして欲しい。中学校が1校になっても、市外に出れば他校と練習試合などが出来る。現在、校外の部活に所属している生徒もいるが、自分は校内の部活をするべきと思っている。	地区	
小学校時代に続けてきたクラブ（スポーツ）が中学校にないので困っていると聞いている。子どものやりたい部活が出来るようにしてやりたい。また、保育園の時に同級生にいじめられていて、小学校、中学校は1クラスでクラス替えがなく、ようやく高校で離れることが出来たという話もある。	地区	9、12 【再掲】
部活動では野球、ソフトボール、バレーボール、水泳など学校の先生では教えられるレベルは限られてしまっているので、部活動の時間帯は親に責任を持ってやらせ、先生は部活動をしないで授業、放課後などだけを見てもらうだけで良い。	地区	
部活を通じて校外の子どもなどいろいろな人と触れ合うのは大きいことであり、他校と競い合うのも必要なことではあるが、部活動を学校単位で行わなくても良いと思う。	団体	
6 通学について	開催場所	関連分類項目
人数が多いという環境も大事なんだと思う。統合するのは悪いと思わないが、遠くに住んでいる子どもたちには負担になることが心配である。	中学校	7
合併して登下校が大変だと思っても、パワフルなじいちゃん、ばあちゃんが助けてくれると感じる。	中学校	
通学中のバスの中で、お漏らししたり吐いたりするとトラウマになるのではと心配している。子どもは朝の支度に時間がかかる。学校の始業時刻を遅くするなどの対策をとってもらえるといい。	中学校	
中学校を1校にして、スクールバスで通うことになった時、各地区を回ると約1時間乗っている場合もある。そうなると、福井の中学校に通わせる保護者も出てくるかもと考えられていた。再編の際は、通学時間が短くなるよう、バスのルートを検討してほしい。	小学校	
和泉小が再編された場合、冬期間の通学では道が雪崩などで危ない。冬期間だけ分校にするなど、子どもの安全を考えてほしい。学校再編は仕方がないと思っている。	小学校	
大野を出た時に、大野出身であるという誇りを持てる教育をしてほしい。そうすれば県外に出た時に自信を持てると思う。いずれ、大野が好きで戻ってくる。バス通学は部活動の時間などが制限されるためハンディである。部活の練習をしたくても切り上げないといけなかった。ハンディをなくす方法を検討してほしい。	小学校	1、5 【再掲】

中学校2校、小学校3校かと思っている。通学が問題である。自分は市外に仕事へ行っており、高齢の親に子どもの送迎をお願いすることは、最近の高齢者の車の事故が多いことを考えると不安である。	小学校	2【再掲】
移住のとき、子どもが歩ける範囲に学校があることで安心できた。移住希望者の相談では、絶対学校について聞かれる。しかし、小学校と中学校は要素が違う。中学校は部活のこともあるが、大きいコミュニティの中で成長してほしいので、小学校より先に再編を進めてほしい。小学校時代は地域で育てていきたい。	小学校	3【再掲】
再編で一番心配したのが子どもの通学方法である。現在も家から車で送り、途中から歩いて通学している。みんなが平等な通学時間になるように計画してほしい。	小学校	
大雪の時、特別支援学校のバスが運休し保護者が送迎する状況となった。そのため学校を何日か休んだことがある。再編でスクールバスになった場合、保護者の負担が増える状況になることを心配している。	小学校	
複式学級でも良いと思う。上庄小で良い所は、子どもだけでなく、その保護者の顔も分かることである。悪い所は、子どもも先生も少なく、広い学校を掃除し維持していくのが大変である。再編では登下校が心配である。今は家を出るのが6時50分で集合が7時5分である。現在も、よく遅刻するのでスクールバス通学を心配している。親の送迎を必要とした場合、学校周辺が渋滞になることもある。	小学校	1【再掲】
小学校と中学校では再編の意味が違うと思っている。小学校は地域とのつながりを覚えていく時期で、中学校は自分を高めていきたいという時期だと思う。小学校は歩いていける範囲にあった方がいいと思っている。	保育所等	3【再掲】
自分の時は1クラス20人で、先生に見てもらっていたという安心感があつたし、友だちと交流できた。阪谷小に入学予定であるが、複式学級のようにクラスの人数が少なくなると友だちの輪が狭くなる。出来れば1クラス10人から20人の間が良い。交流も出来るし、先生の目が行き届く。また、スクールバスで送迎されるとしても、最後は家まで1人で歩いて帰ることになり、家族の誰もが迎えにいけない状況で、送り迎えに不安がある。	保育所等	4【再掲】
保護者が通学について心配であるのは当然である。中部縦貫自動車道を利用すれば15分で通えるというが、実際にバスを走らせてみないと立証できない。自動車道が完成した後、実際に走らせてから再編の協議をしてもらいたい。市民一体となって再編を考えていかないと駄目である。	地区	
家から有終南小まで3.9キロである。再編した場合、学校から4キロ以内でもスクールバスを出して欲しい。また、学校が終わった後、子どもを預かる場所を確保して欲しい。子どもの両親は共働きで、60歳を過ぎた祖父母も働きに出る時代である。児童クラブや放課後子ども教室もいっぱいの状況と聞いている。	地区	
再編は、いずれしなないといけない状況であると多くの人が考えていると思う。その中で、子どもを学校へ送り出す時にバスだけでうまくいか、登下校で保護者の送迎が前提条件ではないかなどの不安が多々あると思うので、そのカバーをしっかりとしなければならない。	地区	
スクールバスを利用する場合、低学年と高学年で同じ時間帯に授業が終わることが出来るのかなどを踏まえて運行しないと、単に建前でバスを2便出すだけでは保護者は納得しないと思う。	地区	
仮に、10年後に小学校を再編し、スクールバスで運行するとしても、子どもを迎えにいかないといけない場合がある。自分たちの年齢を考えると孫を迎えに行くことが出来なくなると思う。出来れば、上庄小と上庄中は今の場所にあった方がよい。	地区	
子どもの頃、小学校の登下校での道草は思い出になっている。再編するとスクールバスで通うことになる。歩いて通うことで体力を養ったり、友だちと話しながら歩く登下校の楽しみなどがなくなったりする。また、校庭にバスが入ってくると危険である。小学校は散らばって何校があった方がよい。中学校はたくさんの人数がいたので、とても楽しかった。年代によって再編を考えて欲しい。	地区	2【再掲】
現在運行しているスクールバスは、各集落を回るルートとなっていて、登下校の環境としては悪いと思う。朝、5分でも10分でも早く家を出ることは負担になるので、遠いところの子どもに対しては、特別のダイヤにするなど、学校生活へのしわ寄せがないように便数には十分配慮した方がよい。	地区	
7 学校の規模について		開催場所 関連分類項目
学校の児童生徒数があまりにも少なすぎるのは良くないと思う。学校でいろいろな人に出会って、得られるものが大きいと思う。だから、ある程度の人数はほしい。	中学校	
こんな人がいるんだ、こんな考え方があるんだ、たくさん知ること、こんな私でも、こんなことが出来るという心の成長をするためには、たくさんいるというのはすごく大事なことだと思う。	中学校	
人数が多いという環境も大事なんだと思う。統合するのは悪いと思わないが、遠くに住んでいる子どもたちには負担になることが心配である。	中学校	6【再掲】
陽明でさえ、野球部やサッカー部の人数が揃わなくなっており、ソフトも昨年廃部になった。部活が昔に比べてどんどん減っていて寂しさがある。有終西では各学年が1クラスで6年間一緒にいいこともあるが、トラブルがあった時にクラス替えができない。複式が悪いとは思わないが、もう少し大きい規模の方がいいと思う。	中学校	5【再掲】
たくさんいるから競争するというものでもない。半分から下になると競争をあきらめてしまう場合がある。逆に30人ぐらいの小規模の方が、明確な競争相手が出来るという考えもある。たくさんいるというんな個性の人間が集まってくるので、その子たちと触れ合う価値の方が大きいということもある。	中学校	4【再掲】
小学校の間は、地域との結びつきが大事であると感じている。中学校はある程度、人数の多い方が競争し合ったり、いろいろな先生と関わったりするのでいいかと思う。	中学校	3【再掲】
自分たちの子どもが結婚して子どもを持ち、大野で教育をさせたいと思わせるような学校再編をしてほしい。1つの学校に600人は多いと思うが、現在の小規模校ぐらいの人数では、しっかり勉強を教えてもらえるのかもしれないが、友だち関係や人間関係を形成していくにはどうかと思う。1クラス20人から25人がちょうどいいと思う。複式学級にならないような再編をしてほしい。	小学校	4、9【再掲】

人の多い所で、いろいろなコミュニケーションを養える環境が大事と思う。コンピュータなどでコミュニケーションはとれるが、相手の表情を見たり、目と目に向かいあったりすることが必要である。出来るだけ多い人数の中で教育を受けた方がいいと思っている。	小学校	4【再掲】
学校再編を行うなら早い方がいい。再編計画策定の時と今の現状が同じであれば、じっくり進めてもいいが、大野の子どもの増加が見込めない中、運動会やクラブ活動などができない状況である。子どもがたくさんいる環境が良いと思っている。	小学校	
先生の目が行き届く20人ぐらいかと思う。小学校が一気に大きくならなくても良い。富田小と阪谷小が早く一緒になってほしい。	小学校	4【再掲】
教育委員会が理想とする教育を実現するためには、学校があまり大きすぎても駄目であると思った。自分が遠距離通学をしていたため、子どもには学校へ歩いて通わせたい。最初は同級生が少なく不安だったが、地域との連携により、自分の意見を言える子どもに育った。	小学校	
生まれてくる子どもの数が本当に少ないので、学校には人数がある程度いた方がいいと思う。	保育所等	
学校再編は必要と思っている。その時期も遅くない方がいい。乾側小は他の学校と比べて、子どもの人数が最も少ない。大きい学校で学ばせてあげたい。	地区	7【再掲】
乾側小の子どもの人数はあまりにも少なすぎる。学校を単独で残せる人数ではない。大きい学校の方が小さい学校より、メリットが多いと思う。平成23年頃にも再編の話があったが、未だにこのような状況になっているのは遅いと思う。	地区	
大野の地形から考えて、中学校2校、小学校4校が理想と思っている。1学年100人ぐらい、もしくは1学年最低2クラスあれば良いと思っている。今後、子どもが減っても、この規模であれば20年ぐらいは学校としてやっていけると思う。	地区	2、9【再掲】
30人ぐらいの小学校から、いきなり大きな中学校へ入学することに対する不安がある。中学生になる頃には、物心や分別もついている。成長過程に従って、徐々に学校の規模が大きくなっていくのであればいいのだが。小学校の時期は転校があっても対応できる年頃と思っている。	地区	
再編は絶対必要と思うが、数合わせの再編はやめて欲しい。各地区の地域性を考慮しながら再編を進めて欲しい。	地区	3【再掲】
再編は地区住民からのボトムアップ形式で進められるのが良い。地区住民の利害関係や考え方はいろいろあると思うが、基本は地区住民がどのようなことを望むかを大切にしたい。学校数を決める際には、10年先ぐらいまでの各校区の子どもの数の推移を基に検討するべきである。	地区	
8 再編時期について	開催場所	関連分類項目
今の規模で考えると、中学校2校、小学校4校が適当でないかと思う。中学校は既存の陽明、開成を、小学校も既存の学校を当面使う。通学範囲を考えると小学校において心配な面はある。複式を持つ学校がいくつかあり、地域が衰退するから残して欲しいという考えがあるだろう。しかし、その学校において、何人になるまで残すんですかとなった時に、ゼロまでとなると最後に卒業する子どもの教育環境を考えると可哀想である。なるべく早く再編を進め、その後、様子を見て対応を考えるべきではないかと思う。	中学校	2【再掲】
中学校1校は行き過ぎだと思う。他の学校と競い合うのも必要。最終的に1校にする時期が来るかもしれない。小学校は小さくなってきているが、各学校で頑張っている。小規模の学校を見ていると可哀想なので、早く進めてほしいと思う。	中学校	2【再掲】
今は早く統合してくれた方が良く感じている。現状の尚徳は、授業がうまくいかなかったり、いじめがあったりする。小さい学校でいじめがあった時、逃げ場がなくなると感じている。尚徳から大きい学校へ移った人から、メリットやデメリットはあるが、対応をしっかりとっていて、移って良かったと聞いている。部活では、小学校のときにやっていた競技がないため、入る部活がない。子どもの楽しみがない。陽明や開成の部活に行ける環境をつくってほしい。	中学校	5、12【再掲】
再編はいずれしないといけな。スピードを上げて向かっていくしかない。一つ一つ戻って練り直していくのでは時間の無駄である。みんなが納得する資料を出してもらった方が意見交換になると思う。	中学校	
阪谷小学校は現在29人しかいない。昔に比べると運動会の種目も少なくなった。でも、地域の特色を生かした活動、田植えやどろんどろんピックなどを行っている。人数が少なくなったのでどこかと一緒になりたい気持ちはある。今すぐにでも行きたい。阪谷に学校がなくなると人が住まなくなるかとも思っている。	中学校	3【再掲】
人口が減っている中、意見を聞くなど、いつまでもやっているべきではないと思う。	保育所等	
自分の周囲の保護者は、学校再編に対しての意見を持っていない。再編が絶対嫌だという意識はなく、なるようになるという感じである。逆に早く再編をしてほしいと思っているのではないかと思う。	保育所等	
出生率は確実に減っているので、再編は免れない。阪谷小のようにクラスの人数があまりにも少ないと授業も成り立たない。体育も出来ない。子どものことを考えるとある程度人数があった方がいいと思う。地域に学校を残したいという気持ちも分らないが、子どもは広い社会に出て行くので、そこそこ学校に人数がいる環境が良い。	保育所等	
再編は賛成である。学校の人数が少ないとPTAなどの役員を2つも3つも掛け持ちしないといけないので大変である。だが、再編で学校が少なくなりすぎるのは嫌である。富田小と阪谷小で1つなど、小学校は4校か5校ぐらいだと思う。学校数は多すぎても少なすぎても駄目だと思う。その中間がいい。それであれば、再編は来年でも再来年でも行うことは良い。阪谷小が富田小と再編するのではあれば明日からでもOKである。	保育所等	2【再掲】

勉強よりも人間関係がうまくいくかが心配である。学校が小規模であれば、先生に手厚く見てもらえるという良さもあるが、クラスの人数が極端に少ないと勉強で立ち位置が決まってしまう、それが6年間ずっと同じになり、劣等感を抱いてしまう。褒めても褒めても立ち位置は変わらないため自信がつかない。人数が多ければ、友だちから教えてもらうことも多いと思う。小学校の再編は令和8年度ではなく、もっと早くても良い。週末は、遊ぶ同世代の友だちが近所にいない。	保育所等	4【再掲】
学校は最低1学年2クラスは必要と思っている。年頃になると気の合わない友だちが出来たりするので、クラス替えが出来ることが必要と思う。音楽、美術、技術、家庭などの教科に専任の教職員が配置できるような人数の規模にして欲しい。部活動に関しても子どもが自分たちのやりたいことを見つけられる規模にして欲しい。再編計画を進める中で「地区の核がなくなる」、「母校がなくなるから再編は嫌だ」などの反対意見が出ていたが、第一に考えて欲しいのは子どものことである。このことをこれまで以上に強く言って欲しい。再編はもっとスピード感を持ってやって欲しい。みんなが自分の子どもは関係ないと言っていたのでは、これからの小中学生のためにならないので、早めにやった方が良い。	地区	5、9【再掲】
学校再編は必要と思っている。その時期も遅くない方が良い。乾側小は他の学校と比べて、子どもの人数が最も少ない。大きい学校で学ばせてあげたい。	地区	7【再掲】
再編については、1つ1つ順番に決めていった方が良い。	地区	
再編については、それなりに速度を速めた方が良い。間延びすると、現在の保護者がどうでも良いと感じてしまう。	地区	
すでに再編の取り組みは、以前から行っている。再編は早くしていかないといけない。地区の子どもの出生数はここ数年、本当に少ない。人口減少は進んでいる。	地区	
再編をしなければならぬ学校から徐々にやっていくべきと思う。	地区	
再編はスピード感を持ってやるべきと思う。あまり遅いと小さい子どもを持つ保護者は大野に見切りをつけて福井市などへ移ってしまい、子育て世代がどんどん減っていくと思う。	地区	
大野の過疎には驚いており、人の減り方はすごい。これだけ子どもの数が減っている中、学校を残すのはナンセンスである。各地域の意見交換会では、地域づくりや文化を大切にしたいから学校を残して欲しいという意見が多いが、それは公民館機能を有効にしていけば良い。再編は、中学校2校、小学校4校が妥当であり、令和5年ぐらいが良いと思う。	地区	2【再掲】
9 1学年の学級数について	開催場所	関連分類項目
学級数が多いとクラス替えができる。社会人になればいろいろな人と出会う。段階段階で、少しずついろいろな人と交わり、人間関係を築いていくことは必要だと思う。	中学校	
30人1クラスが理想と思っていたが、20人ぐらいで3クラスがいいと思っている。ある程度、小さいコミュニティの方がうまくいくと思う。	中学校	4【再掲】
自分たちの子どもが結婚して子どもを持ち、大野で教育をさせたいと思わせるような学校再編をしてほしい。1つの学校に600人は多いと思うが、現在の小規模校ぐらいの人数では、しっかり勉強を教えてもらえるのかもしれないが、友だち関係や人間関係を形成していくにはどうかと思う。1クラス20人から25人がちょうどいいと思う。複式学級にならないような再編をしてほしい。	小学校	4、7【再掲】
複式学級の環境を解消するような再編をした方が良いと思う。下庄小の今の環境がちょうど良くなくて守っていききたい。自分が家を建てるとき、近くに保育園や小中学校があるかを基準に選んだ。大野に来て感じたことは、地域の子どもは地域で守ることをすごく感じている。再編で地域に学校がなくなることや不安に感じている人は多いと思う。	小学校	
クラス替えができることは子どもたちにとって、気分転換にもなるし、友だちをたくさん作れる。	小学校	
1クラスの人数は20から25人で良いが、1学年にクラスが複数ある方が良いと思う。クラス対抗などの競争の機会を与えたい。中学校1校、小学校1校でもいいと思っている。	小学校	2、4【再掲】
中学校では少し競争が必要である。ずっと1学年1クラスで寂しい。	小学校	
学校は最低1学年2クラスは必要と思っている。年頃になると気の合わない友だちが出来たりするので、クラス替えが出来ることが必要と思う。音楽、美術、技術、家庭などの教科に専任の教職員が配置できるような人数の規模にして欲しい。部活動に関しても子どもが自分たちのやりたいことを見つけられる規模にして欲しい。再編計画を進める中で「地区の核がなくなる」、「母校がなくなるから再編は嫌だ」などの反対意見が出ていたが、第一に考えて欲しいのは子どものことである。このことをこれまで以上に強く言って欲しい。再編はもっとスピード感を持ってやって欲しい。みんなが自分の子どもは関係ないと言っていたのでは、これからの小中学生のためにならないので、早めにやった方が良い。	地区	5、8【再掲】
大野の地形から考えて、中学校2校、小学校4校が理想と思っている。1学年100人ぐらい、もしくは1学年最低2クラスあれば良いと思っている。今後、子どもが減っても、この規模であれば20年ぐらいは学校としてやっていけると思う。	地区	2、7【再掲】
出生数が年間200人ぐらいと聞き、再編せざるを得ないと感じた。子どもが小山小に入学するとき、人数が少ないことに対する不安があった。周りからは「目が届からいいね」と言われたが目が行き届きすぎる不安があった。入学後、6年生の子が下級生の子に対して絵本を読んであげていたのを見て、小規模校も良いと思った。大きい学校では見られない光景だと思った。しかし、少ない人数の学級で担任の先生と相性が合えばいいが、合わなかったら辛い思いをすると感じている。1学年に少人数の学級が複数あると良いと思う。	地区	4【再掲】

少なくとも、1学年2学級は必要であると思うし、1学級でも20人ぐらひは必要である。そのような人間関係の中で勉強するのがもっとも良いと思っている。また、阪谷小も子どもが減り、厳しい環境だと思うので、富田小と一緒に、尚徳小になると良いと思っている。保護者が子どものことを思い、しっかり考えていくべきである。	地区	4【再掲】
中学校は1学年4クラスが理想だが、最低1学年2クラスは必要である。校数は2つは欲しい。	地区	2【再掲】
学校を再編することで、子どもの将来が確約されるという主張が先生から出てこない。再編は、市の財政を考え、経費が掛かるからという理由が柱になっていると思う。どこの地域の学校も1クラス5人ぐらひになったら、他の学校との再編を考えるのが自然であると思う。子ども中心に学校再編を考えないといけない。教育にはお金を掛けないといけない。上庄小が地域からなくなると、子どもの姿が見えなくなるので寂しい。子どもの姿が地域で見れることは癒しである。	地区	3【再掲】
小学校時代に続けてきたクラブ（スポーツ）が中学校にないの困っているという話を聞いている。子どものやりたい部活が出来るようにしてやりたい。また、保育園の時に同級生にいじめられていて、小学校、中学校は1クラスでクラス替えがなく、ようやく高校で離れることが出来たという話もある。	地区	5、12【再掲】
10 学校施設について	開催場所	関連分類項目
財政ありきで物事を考えるのは反対であるが、再編は必要であると考えている。	中学校	
中学校を1校にするとクラスがたくさん必要になる。既存の校舎では無理かと思う。ゆくゆくは人口が減っていくので、今の校舎を使っていけばいいと思う。	中学校	
教育の中で部活動がすべてではないと思う。中学校1校になると競争相手がいなくなると言っていたが、県内に競争相手があるので、競う相手がいなくなる訳ではないと思う。なるべく早く、再編して、修繕経費などの管理経費を他の教育に充ててほしい。	中学校	5【再掲】
再編する場合、学校の位置が問題となる。中学校は2校あった方がいい。新しく建てるのであれば、候補地を事前に説明した方がいい。	小学校	
小学校で運動会があると路上駐車で車がいっぱいになる。再編したら、その学校は、学校行事などで保護者の駐車場はさらになくなると思う。	保育所等	
学校が再編された時、国の基準による教職員の配置だけでは恐らくバタバタと思うので、教職員の手厚い加配を考えて欲しい。多忙すぎると子どもを見たくても見られない状況となり、心に余裕がなくなる。教職員も子どもも健康で居て欲しい。あと、再編する学校の場所は、災害のない場所で考えて欲しい。	保育所等	11【再掲】
全国的に少子高齢化になっている。子どもが少なくなり、学校も老朽化している。学校の分散による経費口スが出ている。税収は増えない。再編は絶対すべきである。母校を残すべきだと言う人もいるが、五箇地区にも昔はたくさんの学校があった。市の財政を考えたら、早く取り掛からないといけない問題である。県内の他市でも学校再編は行っている。	地区	
学校を新築するなら、この阪谷地区でも良い。この地域は環境も良い。	地区	
学校は必要があって作られるものである。子どもが多かった昔は、家庭科室なども教室にしたり、プレハブの校舎もあった。学校が維持できなくなった場合は再編せざるを得ないと思う。再編計画で3校を新築するとしていたが、市の財政が大丈夫なのか心配している。耐震した学校もたくさんある。再編後、空き校舎をどうするのかも疑問である。また、高齢者、子育て世代、子ども自身それぞれがどう考えているかを腹を割って話をしていくべきと考える。	地区	
再編は賛成である。大野市だけを見ているが、教育委員会は、市外の再編の例も出していただき、空き校舎をどのように利用しているかなどを資料として出して欲しい。来年度、再編計画見直しの検討をするということだが、しっかりスケジュールを決めて進めて欲しい。	地区	
11 教職員について	開催場所	関連分類項目
学校を再編しても、先生の数減らさなければいい。	中学校	
学校が再編になっても、先生の数がある程度維持されて、子どもの能力を伸ばせる環境にあってほしい。	中学校	
今の子どもは忙しすぎて、遊ぶ時間や交友関係を作る時間がない。いい先生に出会えた、いい学校を卒業できたという環境にしてほしい。	小学校	
学校が再編された時、国の基準による教職員の配置だけでは恐らくバタバタと思うので、教職員の手厚い加配を考えて欲しい。多忙すぎると子どもを見たくても見られない状況となり、心に余裕がなくなる。教職員も子どもも健康で居て欲しい。あと、再編する学校の場所は、災害のない場所で考えて欲しい。	保育所等	10【再掲】
多様な社会に未来を切り拓いていく子どもたちにとっては、学校は、音楽や美術などの分野に進む入口でもある。そうであれば、ちゃんとした入口にして欲しい。音楽の道に進む場合でも、その前に学校でその気付きがある。であれば、専門の免許を持っている教職員が配置されていないのは問題である。	地区	
再編の中心は子どもだと思うが、先生が働きやすく、教えるという環境も大事である。また、地域で子どもを育てているということも考慮して欲しい。	地区	3【再掲】
12 いじめや発達障害について	開催場所	関連分類項目
今は早く統合してくれた方が良く感じている。現状の尚徳は、授業がうまくいかなかったり、いじめがあったりする。小さい学校でいじめがあった時、逃げ場がなくなると感じている。尚徳から大きい学校へ移った人から、メリットやデメリットはあるが、対応をしっかりとっていて、移って良かったと聞いている。部活では、小学校のときにやっていた競技がないため、入る部活がない。子どもの楽しみがない。陽明や開成の部活に行ける環境をつくってほしい。	中学校	5、8【再掲】

1 学年に1クラスしかないのでクラス替えが出来ない。良い、悪いがあるが、クラスで嫌なことがあった時、そのことを親や先生に言えない子にとってはつらいと思う。	小学校	
子どもが小学校で意地悪してくる子がいるため、学校へ行きたくないという状況である。最低限、安心して過ごせる学校になって欲しい。	保育所等	
孫がもうすぐ小学校に上がるので、早く再編して欲しいと思っている。一番心配なのは、小規模校から大規模校へ行くと不登校になったり、小規模校出身の子が社会人になって引きこもりになったりすることである。大人の社会でも競争があるので、小さい時からの競争は必要である。	地区	
いじめや不登校があった場合、中学校1校では逃げ場がなくなる。	地区	2【再掲】
小学校時代に続けてきたクラブ（スポーツ）が中学校にないので困っていると聞いている。子どものやりたい部活が出来るようにしてやりたい。また、保育園の時に同級生にいじめられていて、小学校、中学校は1クラスでクラス替えがなく、ようやく高校で離れることが出来たという話もある。	地区	5、9【再掲】
1 3 放課後について	開催場所	関連分類項目
時代の流れとともに再編は仕方ないと思っている。放課後、子ども同士で遊ぶとき、友だちが遠くにいてそこまで自転車で行くことがあり、事故に遭う確立が増える。両親が市外で仕事をしている場合、学校に子どもを迎えにいけない。そのようなことも吟味して再編を検討してほしい。地域との連携も考えてほしい。	小学校	
学業に関しては先生に任せたい。放課後や夏休みなどの長期休業の時、家庭での見守り方を充実させて欲しい。富田小では夏休みにプールへ行く時、スクールバスに乗っていきけるが、バスが発着するまでの時間に、家に子どもを1人で残しておくことが心配である。	保育所等	
村部に行けば行くほど、友だちとの家の距離が遠くなる。昔は家からちょっとの距離に友だちが居た。近所に同性の友だちがいないため、車で送迎しないといけない状況である。子どもたちだけでも集合できるような安全な場所があれば安心である。	保育所等	
家から有終南小まで3.9キロである。再編した場合、学校から4キロ以内でもスクールバスを出して欲しい。また、学校が終わった後、子どもを預かる場所を確保して欲しい。子どもの両親は共働きで、60歳を過ぎた祖父母も働きに出る時代である。児童クラブや放課後子ども教室もいっぱいの状況と聞いている。	地区	
小山小の放課後子ども教室では、上の学年が1、2年生の面倒を見ていて仲が良い。再編しても、このような小規模校の良さを残して欲しい。	地区	
再編後の放課後子ども教室の運営方法なども含めた素案を示してもらえれば、保護者や地域住民の安定材料になると思う。	地区	
1 4 その他	開催場所	関連分類項目
財政ありきで物事を考えるのは反対であるが、再編は必要であると考えている。	中学校	
自校給食は子どもたちの楽しみであり、残して欲しい。	小学校	
子どもは新しい環境にすぐに順応する。固まった環境だけでなく、いろいろな環境を感じさせられたらと思う。給食は匂いを感じたり、温かいものを食べられたりすることを希望するので自校式が良い。	小学校	
再編の背景にはコストが関係していると感じている。子どものためにはコストをかけるという意識は忘れないでほしい。	小学校	
保護者の小さい不安は尽きない。市で現場を確認してもらい、再編を進めて欲しい。もう少し時間をかけて、いろいろなことをみんなが納得できるところまで話を聞いて集計して欲しい。	保育所等	
子どもは小学校入学前に、学校への体験などがある。保護者も入学前にそういう場（体験）があれば安心すると思う。	保育所等	

◎学校再編に対する「反対意見」【分類項目別】

1 教育環境（人間関係や教育の特色）について	開催場所	関連分類項目
再編は難しい。自分の子は友人を作るタイプではなく、心配していた。みんなが受け入れてくれて、中学校まで同じメンバーだったので有難かった。高校では自分らしさを持ったまま通っている。子どものベストな環境は良く分からないが、1クラスの上で良かったと思っている。	中学校	
子ども自身が現状に満足している。学校外の交流に参加し、友だちがたくさんいる。保育園が学校内に入り、縦のつながりが強くなった。	中学校	
自分の子どもが陽明中に上がる時、有終西の卒業生のほとんどが開成中へ行くことになり、たくさん人数のいる陽明中へ有終西の子どもが5人しか行かないことに不安があった。中学校が1校になると、さらにたくさん的人数となるので、非常に不安を感じている。	小学校	
小規模の小学校に子どもが在学しているが、入学するとき不安は1つもなかった。子どもも学校へ行きたくないという日は1日もなかった。小学校で大事に丁寧に育てられてきた分、中学校での生活を心配している。中学校の文化祭を見たが、大きさとたくさんの生徒に圧倒された。現在の小学校で再編の話があった時は、教育上、少人数では難しいのかと感じた。地域でも再編に対して意見が割れてしまい、再編は早い段階で決められれば、みんなが不安になることはないと思った。	保育所等	
子どもは保育園で自由にさせてもらっているため、小学校に上がり、時間など型にはまることでうまく学校に慣れるか不安である。	保育所等	
少ない人数だから人と関われないという心配はない。少ないからこそ、人とうまくやっていかないと生きてい	保育所等	

けないことがある。		
思いっきり特色ある学校づくりを行い、地域の目玉にするのも1つの方法だと思う。特認校や山村留学制度など、いろいろな方法はある。この地域にしかない学校づくりを考えていくべきである。	地区	
義務教育は、基礎・基本を学ぶ場である。子どもが教職員とどれだけ密接に関わるかであり、少人数教育は非常に大事な教育環境である。	地区	
英語などによる特認校を目指すなどの検討をして欲しい。市外からも入学してくる子どもがいるかもしれない。児童を増やせる方法を考えて欲しい。	地区	
上庄中の学校を利用して、小中一貫校にして欲しい。子どもが夏祭りで活躍してくれているので、再編で市街の学校へ通うようになった子どもが地区の行事に参加してくれるか不安である。	地区	3
上庄と和泉だけが、小学校からそのまま中学校にあがるので、小中一貫校として上庄を残して欲しい。	地区	
学校間の合同の場を増やしていかないといけない。スポーツだけでなく、勉強でも、様々な学校での組合せによる交流学习を行い、友だちを増やし、人間関係を増やしていかないといけない。9年間ずっと同じクラスという固定観念をはずして、もっと柔らかい頭で、合同でやることや単独でやることを、子どものために考えて欲しい。	地区	
どうしても新しい学校を建てないといけないか。十分に活用できる学校が残っている。村部の学校は、都会から人を呼び込むことが出来る教育を展開できる施設であると感じる。それぞれの学校が特色ある教育をされたらどうかと思う。	地区	
グローバル社会に対応するための人間を育てることを小中学校の義務教育に必要とは思わない。義務教育は、基礎基本を身につける場である。中学校で専門教科の教職員が配置できないのであれば、市の経費で配置しようと思えば出来る。	団体	
学校の人数が多いのも大事かもしれないが、教育環境はその子ども自身の問題である。	団体	
2 学校数（校区）について	開催場所	関連分類項目
学校再編で中学校が1つになると競争が出来なくなり、今後学校がどうなるのか不安である。	保育所等	
3 ふるさと教育（地域活性）について	開催場所	関連分類項目
地域が衰退するので、少人数でも今の学校のままでいいと思う。	中学校	
上庄は、地区に学校を残して欲しいという人が多いと思う。その意見が採用されるのかどうかの不安がある。意見集約がどのような形で反映されるのか。いろいろなパターンをシュミレーションして、経費をしっかりと出して欲しい。	中学校	
子どもは複式でも、1学年に1クラスでも、たくさん児童がいる中でも、その中の1人として、生きる術を学ぶと思う。学校は地域のもと基本的に思っている。子どもの頃から地域のいろいろな人を知っているのが当たり前と思っていた。地域の濃厚さは、校区が広がれば広がるほど薄れていく。音楽や美術などの教科の指導について、先生は専任ではないが一生懸命してくれると思うので、そんなに影響はないと感じている。部活については、全員が納得できる部に入れる訳ではない。子どもはやったことのないスポーツをやっているが、自分なりに頑張っているのが有難い。部活が一番思い出に残るかもしれないが、日々のいろいろな所で育っているのではないかなと思う。	中学校	4、8
移住を検討するとき、そこに学校があるか、保育園があるかを考えた。和泉なら特色もあり、子どもは成長してくれると感じた。地域と学校のつながりが深い。単に人数が少なくなってきただけで再編を考えるのは寂しい。インターネットを使ってグループワークなどをすれば、少人数をカバーできると思う。分校で残してほしい。	中学校	
和泉のことを学ぶには、ここに学校がないと厳しいと思う。和泉昇竜太鼓、穴馬の紙すき、紅葉まつりの芋販売など地域にいるからこそ出来る学習がある。学校がないと良い伝統がなくなる。	中学校	
自分は、集団登校をしながら、上の学年の子どもたちから交通マナーなどを学んだ。スクールバスで通うようになると、交通マナーを学ばなくなったり、体力がなくなったり、外で遊んだりしなくなってしまう。自然があるのに、教育に生かしていない気がするし、校外学習が減っている感じがする。	小学校	6
学校がなくなり人がいなくなることで、地域が疲弊することを考えると、里山を守るために草刈りをしたり、農道を整備したり、集落排水を維持したりすることが出来なくなる恐れがあり心配だ。	小学校	
一番心配なのは、住んでいる地域に学校がなくなることによって過疎化することである。	小学校	
学校は地域コミュニティの拠点の役目を果たしているため、高齢者から学校再編に対して、かなりの反対がある。	保育所等	
小学校が2校になると、市の中心部に学校が建てられると思い、村部は過疎化すると思った。村部は人が少なくなるという不安感があり、寂しいと感じた。	保育所等	
市街地に学校が再編されると村部に誰も住みたくなくなると思う。	保育所等	
地区体協主催の運動会などには学校の子どもが参加してもらっているが、戻すほみになり、他の地区行事も実施が困難になるかもしれない。地区の交流がどんどん減っていくのかと思っている。	保育所等	
市街の学校に再編となった場合、家から学校までの通学が片道1時間は掛かる。小学校1年生が毎日通うのは、体力的に無理ではないかと判断している。1番の問題は地域が元気でなければならない。そこに住む人や子どもも元気でなければならない。1つでも無くなったら地域は衰退する。よって、この地域に学校は絶対残すべきだ。	地区	6

学校が再編されると地域が崩壊する。乾側小をなんらかの形、例えば特認校方式などで残して欲しい。子どもと地域とのつながりの場所を残していきたい。地域が崩壊したら、地域行事などでの助け合いがなくなる。子どもを大きい学校で学ばせたいと思うが、そうしなければならないのであれば、地域の活性化策を考えて欲しい。	地区	
中学校 1 校になると、小山地区の地域性がなくなる。市総体などの運営に影響があるのではないかと考えている。	地区	
子どもは地域で育て、みんなで協力して育てるのが一番だと思う。勝山市は、未だに各地域に小学校 1 校ある。地域の中で学校がいろいろな行事をしている。我が子が複式でのびのび育ち、先生の目がすごく届いていた。低学年の子を良く世話をするとか、忘れ物をしない、校庭のゴミを拾うなどそのようなことをすごく先生が大切にしてくれた。小学校ではこういうことが大切だと思う。小さい子どもへの教育にはもっとお金をかけて欲しい。	地区	
上庄中の学校を利用して、小中一貫校にして欲しい。子どもが夏祭りで活躍してくれているので、再編で市街の学校へ通うようになった子どもが地区の行事に参加してくれるか不安である。	地区	1【再掲】
小学校が地区にあると地域の絆が深まる。年配者はこの絆を大事にしたいと思うから、再編に反対となる。上庄地区には小学校を残して欲しい。	地区	
再編計画で小学校 2 校、中学校 1 校になると聞いた時はびっくりした。下庄小がなくなることショックだった。また、子どもたちと公民館が一体となった素晴らしい施設である有終西小（学びの里「めいりん」）がなくなることについても寂しく感じた。地域とつながりを大切にする教育を進めるとしているのに、地域から子どもたちがいなくなるのは矛盾していると思う。	地区	
地域の人の話より、子どもを主体とした再編をして欲しいという意見があったが、学校の存在は地域にとって大きなことである。また、不登校や発達障害の子どもたちが行きやすい学校にならないといけないと思う。その子どもたちのためにも、地域に学校を残していくべきと考える。	団体	
小学校は地域の核であると思う。子どもは大人に見守られている環境にある。バスで遠くの学校へ行くと、地域の方とのつながりがなくなると思う。	団体	
4 1 学級の人数について	開催場所	関連分類項目
尚徳や上庄は先生の目が行き届く規模だから、ケアが出来ていると感じる。	中学校	
子どもは複式でも、1 学年に 1 クラスでも、たくさん児童がいる中でも、その中の 1 人として、生きる術を学ぶと思う。学校は地域のもので基本的に思っている。子どもの頃から地域のいろいろな人を知っているのが当たり前と思っていた。地域の濃厚さは、校区が広がれば広がるほど薄れていく。音楽や美術などの教科の指導について、先生は専任ではないが一生懸命してくれると思うので、そんなに影響はないと感じている。部活については、全員が納得できる部に入れる訳ではない。子どもはやったことのないスポーツをやっているが、自分なりに頑張っているのが有難い。部活が一番思い出に残るかもしれないが、日々のいろいろな所で育っているのではないかなと思う。	中学校	3、8【再掲】
現在の教育環境は行き届いていると思う。生徒 1 人に先生 1 人がついてような形であり、大きい学校になり、周りに知っている友だちがいなくなるなどの環境になった時に子どもが不安になるのではないかと心配だ。	中学校	
10 人を超えると先生の目が行き届かないと思う。子どもの人格が形成されるまでは少人数で温かく見守ってあげたい。生活圏に学校がないと保護者会や学校開放日など仕事を休まないと参加できなくなり、学校と保護者の距離が離れてしまう。出来れば分校でも残してほしい。	中学校	
少ない人数だから市街へ再編するのはどうかと思う。子どもは身体が弱い、先生の目が行き届きサポートしてくれているため、普通学級で過ごさせている。	中学校	
特別支援学級の子でも、いろいろな体験をさせてもらっている。先生にも手厚く見ていただいている。再編で中学校が 1 つになった場合、現在少ない人数でしっかり見ていただいているのがどうなるのか不安である。	小学校	
昔と比べて今の子どもは違う。自分で進んでやるのではなく、与えられないと出来ない。少人数だから出来るのであり、先生の目が行き届かなくなると出来ない。1 クラス 40 人にしてしまうのはどうかと思う。	小学校	
1 クラスの人数はあまり関係ないと思う。人とのコミュニケーションは、学校や友だちで培うものであるが、基本は保護者が示すべきと常に思っている。	小学校	
小規模校にも良さがある。中学校で積極的に授業で発言できているのは、小山小で培った力だと感じている。	小学校	
1 人 1 人に先生が教えるのではなく、1 人 1 人が失敗して気付いていく過程を阪谷の子どもは小さい時から踏んでいる。子どもの力や良さ、弱みを見ていくには、少人数でないと難しい。再編で小規模校の子どもを潰すのであれば再編をやめて欲しい。競争も大事だが、学習に向かっていく力をつけて欲しい。その子に合わせた学習や声掛けがなくなってしまうのであれば再編は怖いと思っている。	小学校	
生まれは市外である。そこでは中学校 1 校（1 学年 8 クラス）、小学校 3 校（1 学年 5 クラス）であった。大野に来たとき、小中学校が多いと感じた。大規模の方が子どもは刺激があって楽しいのではないかなと思うが、今と昔の子どもは違うと思う。手を掛けた方がいいと感じている。再編により、子どもに目が行き届かなくなるのではないかと心配している。	保育所等	
富田小は、1 学年 1 学級で 20 人ぐらいを維持していて、先生の目が行き届く範囲でちょうど良い。慌てて再編をする必要はない。	地区	
5 部活動について	開催場所	関連分類項目

有終西は、子どもの数が多くも少なくもなく、ちょうど良い。中学校を考えると、再編計画は1校で600人で、多すぎると思った。部活ありきではない。その競技を継続したいのであれば部活でなくても良い。その中学校の人数で出来る部活をやれば良い。違う競技をやりたいのであれば、市外や県外に出ることも可能である。	小学校	7
部活などの問題がなければ、少人数の方が良いと思う。	小学校	
小規模校ほど地域の人々が学校を大事にする。学校がなくなると地域の人が集える場所がなくなる。小規模校だから教育ができない訳ではない。ITを使えば、お互いに意見を言い合える。中学校で好きな部活が出来ないというが、これは子どもが部活をしている保護者が言うことである。働き方改革と言われ、教職員が土日を使ってまで部活をする時代ではない。中学校を1つにするのではなく、大野市で指導者を雇って、スポーツ少年団のようにやれば良い。子どもの要望に合わせられる。	団体	7
部活を学校単位で行わず、学校のエリアごとに行えば良い。	地区	
6 通学について	開催場所	関連分類項目
再編した場合、和泉から市街地まで通学で約30分かかる。自宅から和泉小まで約15分かかる。子どもたちは耐えられるのか。毎日のことであり、一番気になっている。	中学校	
自分は、集団登校をしながら、上の学年の子どもたちから交通マナーなどを学んだ。スクールバスで通うようになると、交通マナーを学ばなくなったり、体力がなくなったり、外で遊んだりしなくなると思う。自然があるのに、教育に生かしていない気がするし、校外学習が減っている感じがする。	小学校	3【再掲】
中学校1校、小学校2校になると範囲が広くなり、学校まで歩いていけない距離の子どもが増える。	保育所等	
現在でも遠い地区の子どもたちはバスを使っている。再編でさらに学校が遠くなると、通学の際に、小さい子どもは通学で時間的、体力的なことを考えると非常に無理が掛かる。	保育所等	
バスに一番先に乗る子どもの乗車時間が長くなる。小学校1年生だと体力がないので疲れてしまう。	保育所等	
学校が1つになると通学時間が気になる。朝早く起きて準備をするのが大変である。	保育所等	
学校再編は通学の問題などデメリットが多いため、反対される人が多い。	保育所等	
バス通学で出発時刻が早くなると、家事なども早くしないといけない。	保育所等	
市街の学校に再編となった場合、家から学校までの通学が片道1時間は掛かる。小学校1年生が毎日通うのは、体力的に無理ではないかと判断している。1番の問題は地域が元気でなければならない。そこに住む人や子どもも元気でなければならない。1つでも無くなったら地域は衰退する。よって、この地域に学校は絶対残すべきだ。	地区	3【再掲】
中部縦貫自動車道が開通すれば、インター間は20分でいけるかもしれないが、インターに乗るまでの時間やインターを下りてからの時間も必要である。また、冬道による危険性もある。	地区	
7 学校の規模について	開催場所	関連分類項目
有終西は、子どもの数が多くも少なくもなく、ちょうど良い。中学校を考えると、再編計画は1校で600人で、多すぎると思った。部活ありきではない。その競技を継続したいのであれば部活でなくても良い。その中学校の人数で出来る部活をやれば良い。違う競技をやりたいのであれば、市外や県外に出ることも可能である。	小学校	5【再掲】
小規模校ほど地域の人々が学校を大事にする。学校がなくなると地域の人が集える場所がなくなる。小規模校だから教育ができない訳ではない。ITを使えば、お互いに意見を言い合える。中学校で好きな部活が出来ないというが、これは子どもが部活をしている保護者が言うことである。働き方改革と言われ、教職員が土日を使ってまで部活をする時代ではない。中学校を1つにするのではなく、大野市で指導者を雇って、スポーツ少年団のようにやれば良い。子どもの要望に合わせられる。	団体	5【再掲】
大規模校、小規模校それぞれにメリット、デメリットがある。現在の各学校は、それぞれに特徴がある。学校が1つや2つになると画一した子どもしか出来ない。特色ある教育が出来るように学校はいくつかあった方が良い。	団体	
小さい学校で出来ることはある。大きい学校のメリットを知らないので、再編はやってみないと分からない。	保育所等	
富田小は今が適正な人数である。クラブ活動のために再編する必要はない。	地区	
8 1学年の学級数について	開催場所	関連分類項目
クラス替えはなくてもいい。姉が鹿谷（勝山市）にいて、学校に児童が10人ほどしかいないらしいが、すごく密な関係を持っている。嫌なこと、嫌な子がいると逃げられないこともあるが、卒業の時は良かったとまとまる。コミュニケーション能力が必要なら、どんな人ともとれることが必要。クラスに嫌な子がいるからクラス替えすればいいという考えはどうかと思うので、少人数のクラスを希望する。	中学校	
子どもは複式でも、1学年に1クラスでも、たくさん児童がいる中でも、その中の1人として、生きる術を学ぶと思う。学校は地域のものと基本的に思っている。子どもの頃から地域のいろいろな人を知っているのが当たり前と思っていた。地域の濃厚さは、校区が広がれば広がるほど薄れていく。音楽や美術などの教科の指導について、先生は専任ではないが一生懸命してくれると思うので、そんなに影響はないと感じている。部活については、全員が納得できる部に入れる訳ではない。子どもはやったことのないスポーツをやっているが、自分なりに頑張っているのが有難い。部活が一番思い出に残るかもしれないが、日々のいろいろな所で育っているのではないかなと思う。	中学校	3、4【再掲】
複式学級で困っていることは特段ない。大規模校では得られない経験をしていると思う。乾側小の子は鍛えられているので、いきなり大規模校に入ったとしてもやっていける力は十分に備わっている。	地区	
9 学校施設について	開催場所	関連分類項目

新しく学校を建てた場合、税金が増えて負担が掛かると思う。途中から再編されると、体操服やランドセルなど、新しい物をすべて揃えないといけなくなり、その負担もある。	小学校	
再編により、新築整備による負債、廃校及び新校舎の維持管理経費が掛かる。財政を切り詰めた中で、教育が今より充実していればいいが、教育環境にしわ寄せがくるのではないかと心配している。学校再編をして教育の質が落ちたのでは意味がない。	小学校	
10 教職員について	開催場所	関連分類項目
大学生で教員の資格を取ろうとしている子が、これから学校が合併になって先生が必要なくなるから大野市に戻ろうと思わないと言っている。小中学校を合併することは本当にいいのだろうかと思ってしまう。	中学校	
学校全体で考えると今の規模はいいと思うが、教員数が確保できないのは短所である。	中学校	
再編は基本的に反対である。阪谷小と富田小が一緒になるなら良い。急に大きい学校に行くことも心配であるが、一番は先生の質である。小学校や中学校で高い学力をつけて欲しいとは思わない。再編するのであれば、先生1人1人の質や心を育てて欲しい。教育長の子育て講演を、学校の先生にしてもらいたい。先生がしっかりしていたら再編はうまくいくと思う。	保育所等	
11 放課後について	開催場所	関連分類項目
今の小山小の教育に不満もなく、安心している。放課後子ども教室でも、地域の方にしっかり見てもらい、相談にも乗ってくれている。子どもはいろいろな人のおかげで育っていて有難い。現在のような地域の関わりのある形を残してほしい。	小学校	
12 その他	開催場所	関連分類項目
体育祭などにおいて、大勢の人数の中でやっている姿を見たいと思っているが、子どもは現状に満足している。	中学校	

◎学校再編に対する「慎重意見」【分類項目別】

1 教育環境（人間関係や教育の特色）について	開催場所	関連分類項目
大野に住む理由、大野の学校に通う理由がしっかりあるといいと思った。もっと大野らしさが明確になっていると良いと思う。	小学校	
学校が大規模化した時に、1つの分野に飛び抜けている・この教育を受けさせたいがために大野に残る・ひいては大野に移住するぐらいまでになれば再編のメリットはあると思った。教育委員会や先生だけでメリットをシェアするのではなく、外に向けてアピールしていくことが必要と思う。親の意識付けにもなるし、ひいては自信や誇りにつながる。先生たちが頑張っている姿を見ており、先生自身が誇りを持てる職場であってほしい。	小学校	
学校教育に求めるものは自立である。自分の将来を自分で決めていく力。この職業に就くには、どういう勉強をするといい、何のために勉強をしないといけなかなど方向性が分かる教育が必要と感じている。	小学校	
学校に通えない子どもたちに対する環境整備や学校の取組みを考えてほしい。	小学校	9
スクールカウンセラーを学校に常駐してほしい。大規模校でも小規模校でも、自分から助けてと言えない子どもはいる。長期的に助けを必要とする子どもはいる。	小学校	
幼児教育と小学校教育の相互理解が必要と考えている。小学校の先生もこども園に足を運んでいただき、遊びの中の学びや感動を見ていただきたい。遊びが小学校の学習につながっていることを感じて欲しい。	保育所等	
こども園の卒園児のことを思うと再編は常に気になっている。卒園児が小学校などで活躍しているとすごく嬉しい。幼・保・小の連携はさらに一歩踏み込んで進めて欲しい。	保育所等	
学校教育は、人間のベースをアップさせることである。子どもの時、幸せだったと感じられるのが必要である。生涯学習で地域に立つと、そこに学校があると良いと実感している。	団体	
昨年、一昨年の出生数が200人を切り、こども園から小学校へ子どもを送り出していくことを考えると少子化は本当に悩ましい問題である。10年後、高校も奥越地区に1つでいいという状況になりかねない。危機意識を持たないといけない。大野市は環境が良いと感情的に言うのではなく、客観的に問題をつかみながら意見を言う必要があると思っている。	保育所等	
再編計画通りに進んだ場合、小学校が再編する令和8年度では、子どもが小学校6年生になっている。現在子どもが少ない学校にいて、いざ再編で大人数の学校に行くとなった場合、とても不安がある。子どもが集団の中に入っていけるのか心配である。学校へは楽しく行って欲しい。	保育所等	
再編に反対、賛成というよりも地域のために学校を残して欲しい。以前は、大きい中学校へ上がることに不安だったが、今は大丈夫であると思っている。自分の仕事の立場から考えると、たくさんの子どもの中で競争しながら備わっていく力とか、子どもが主体的に行っていく力も大きいと最近は思うようになった。子どもにとって、小規模校、大規模校、どちらがいいかは言えない。子どもにとってどちらがいいかを考えた時、保護者だけでは難しいので、地域の人と一緒にもう一度最初から考えていった方が良いと思う。	地区	
今は、昔なかったような思いもよらない事件が起きている。その要因が教育にあると感じている。一番考えていかなければならないのは、心の問題である。子どもたちがどうやって育っていくのかを考えたら、果たして数字だけで学校を小さくしたり、大きくしたりしていいのか。どうしたらいいかの結論はない。中学校1校、小学校2校の再編の時、教育委員会はスクールバスを出すと言ったが子どもを荷物みたいに運ぶ感じで、乱暴だと思った。再編による細かい問題は分からないが、子どもの心を育てて欲しい。	地区	
2 学校数（校区）について	開催場所	関連分類項目

学校再編に対しては、賛成反対半々の気持ちである。和泉小中は、小学校、中学校の壁を乗り越えて結団力が あり、体育大会や音楽会などを立派に行っている。絆の深さを見ていると大きい学校になってしまうのはもっ たいたいと思う。再編を行うのであれば、小さい学校同士の再編ならなんとかかなと思うが、いきなり大人数 になると、この和泉で積み重ねてきたものが無くなってしまう不安がある。大きい再編は極力避けて欲しい。 全く再編しないというのは、これから先のことを考えると仕方ないと思う。	保育所等	3
3 ふるさと教育（地域活性）について	開催場所	関連分類項目
地域が廃れないように、地域が頑張るしかないと言うが、市がそういう施策をしてこなかったから、人が出て いって帰って来ないという現状を招いている。学校再編は市全体で考える必要がある。	小学校	
学校再編に対しては、賛成反対半々の気持ちである。和泉小中は、小学校、中学校の壁を乗り越えて結団力が あり、体育大会や音楽会などを立派に行っている。絆の深さを見ていると大きい学校になってしまうのはもっ たいたいと思う。再編を行うのであれば、小さい学校同士の再編ならなんとかかなと思うが、いきなり大人数 になると、この和泉で積み重ねてきたものが無くなってしまう不安がある。大きい再編は極力避けて欲しい。 全く再編しないというのは、これから先のことを考えると仕方ないと思う。	保育所等	2【再掲】
4 1学級の人数について	開催場所	関連分類項目
良い面もあれば悪い面もある。大きい学校では取り残される場合がある。小さいクラスなら協力して教えてあ げることができ、結びつきや先生の目が行き届くことにより、救われる場合がある。	中学校	
先生の友人がいるが、複式学級の方が教育をより高められるということで、複式学級を選んでいる人もいる。 複式学級だから駄目とか、たくさん子どもがいるから良いという訳ではないと思う。理想は1クラス10～2 0人の間が良く、再編で30～40人にはなっていて欲しい。複式学級でも良い。	地区	
子どもにとって近くに学校があるのが一番である。でも、子どもが1人や2人になったら学校は成り立たない と思う。子どもが少人数になれば、先生も子ども1人1人を把握できるとし、子どもも勉強がよく理解出 来ると思う。しかし、ある程度、人数がいらないと成り立たない教科もある。	地区	
5 通学について	開催場所	関連分類項目
冬に、JRが止まったり、バスも出なかったりする。そういう時、どうなるのか心配である。	中学校	
和泉小の複式学級は、他校と違い、中学校の先生がサポートしてくれている。中学校だけ再編された場合、複 式学級を担当する先生の配置を考慮してほしい。再編による通学の不安はある。中部縦貫自動車道が出来て、 安全かどうかを見極めさせてほしい。市街の再編は進めてもらい、和泉は後回しにしてほしい。	中学校	5
登校で各地区をバスが回る場合、最初に乗った生徒は時間が長い。	小学校	
通学に時間が掛かりすぎると子どもにも負担が掛かる。	保育所等	
小学校にまだ入学していないが、学校が遠くなったら、登下校が心配になる。	保育所等	
6 学校の規模について	開催場所	関連分類項目
小さい学校、大きい学校、どちらにも良さはある。学校再編には、いろいろな意見がある。完全に納得できる 方法は見つからないと思う。	保育所等	
子どもが少ないと集団的な行動は出来ないと思う。夏休みにバイトに来ていた高校生が「早く夏休みが終わっ て欲しい」と言った。それは早く、学校で友だちに会いたいためであった。家の隣り近所に友だちがいな いためであり、それを考えると学校はある程度の人数が欲しいと考えるが、小規模校の良さもあり、再編に対する 考えが行ったり来たりしている。	地区	
7 1学年の学級数について	開催場所	関連分類項目
和泉小の複式学級は、他校と違い、中学校の先生がサポートしてくれている。中学校だけ再編された場合、複 式学級を担当する先生の配置を考慮してほしい。再編による通学の不安はある。中部縦貫自動車道が出来て、 安全かどうかを見極めさせてほしい。市街の再編は進めてもらい、和泉は後回しにしてほしい。	中学校	5【再掲】
8 教職員について	開催場所	関連分類項目
少人数の学級では先生次第で教育が良くなったり、悪くなったりするので、先生の指導の向上をしてほしい。	小学校	
9 いじめや発達障害について	開催場所	関連分類項目
報道などでいじめが多く、自殺した後に原因が分かたりする。集団生活に苦手な人もいるが、どうしても学 校へ行かなければならない雰囲気がある。苦手なら学校へ行かなくても良いということを手厚くしてあげる必 要がある。	小学校	
学校に通えない子どもたちに対する環境整備や学校の取組みを考えてほしい。	小学校	1【再掲】
10 放課後について	開催場所	関連分類項目
再編すると学校は市街地の方になると思う。日中、阪谷から友だちの所へ遊びに行こうとしても仕事をして いるので送迎が出来ない。結局、遊ぶ友だちがいらない。	保育所等	
11 その他	開催場所	関連分類項目
ベストな環境とは何か、本当に分からない。極論、人口が減ることに合わせて学校を減らしていくと、大野全 体が小さくなってしまふ。大野自体が力がない、魅力がない感じになり、外へ出てしまふ人が増え、大野自体 がどんどん小さくなる気がして寂しい。	中学校	
意見を聞くのは大事だが、保護者や子どもから聞くより先生から聞いて、再編案を考えた方が良い。	中学校	
市街の学校で子どもに何かあった時に、保護者として30分以上かかる所へ急に迎えに行ったりできない。親	中学校	

が対処できるかどうかも再編で考えてほしい。		
まだ子どもが３歳で小さく、また家庭の事情で小学校入学時に大野にいるかどうか分からないため、学校再編を自分事として感じていない。	保育所等	
市外から引越ししてきたばかりで現状がよく分かっていない。周囲の人も学校再編について敏感でない感じである。他の人が再編についてどのように考えているか、真剣に考えているのか心配である。	保育所等	
再編計画を実施すると誰に負担が掛かると思うか。家族全員に負担が掛かるのではないか。子どもだけの負担ではない。そのようなことも考えて、計画を立てて欲しい。保護者の意見を聞くべきである。中学校１校、小学校２校にしていくと大野市は発展していかない。	団体	
まちなか循環バスの本数や街灯を増やして欲しい。	保育所等	
再編について、みんなが納得できる形になってくれれば良いと思う。	地区	

3. 大野市教育委員会たより



大野市教育委員会たより

令和元年6月6日発行 第1号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：5月28日（火）午後7時～午後9時	次第 ・教育長挨拶
場 所：開成中学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：開成中学校保護者（出席者数8人）	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎市の教育費18億、10%は、市全体の割合としては高いのか。
⇒ ■他市と比較すると、ほぼ同じ割合となっている。
- ◎学校の合併の話が出た一番の理由は何か。将来の子ども数が減っているからなのか。経費がかかっているからなのか。
⇒ ■1学級の人数が減ってきて、きちんとした教育を子どもたちにしてあげられないのではないかとという理由からである。
- ◎大学生で教員の資格を取ろうとしている子が、これから学校が合併になって先生が必要なくなるから大野市に戻ろうと思わないと言っている。小中学校を合併することは本当にいいのだろうかと思ってしまう。
- ◎学校の児童生徒数があまりにも少なすぎるのは良くないと思う。学校でいろいろな人に出会って、得られるものが大きいと思う。だから、ある程度の人数はほしい。
- ◎こんな人がいるんだ、こんな考え方があるんだ、たくさん知ること、こんな私でも、こんなことが出来るという心の成長をするためには、たくさんいるというのはすごく大事なことだと思う。
- ◎子どもが減り、1クラスの人数が少なくなりすぎてきた。もう少し多い方がいいのではないかと、1学年のクラス数が多い方がいいのではないかとという中で、学校再編の議論になったと思う。
⇒ ■文科省では小中学校において、1つの学校に12から18学級、つまり小学校では1学年2から3クラス、中学校で1学年4～6クラスを標準と位置付けている。
- ◎上庄中出身で、当時2クラスで65人だった。試験で頑張っても学校のレベルが高いため、開成で真ん中ぐらいの学力でも、上庄中では後ろから数えた方が早かった。勉強に関しては、学校が小さい、大きいに関係なく競争できると思う。ただ、個々の個性が突出している場合、その子を援護してあげられる環境ではなかった。高校に入り、クラスが増えた時に、こういう子たちがいるんだという個性を知ることができた。人数が多いという環境も大事なんだと思う。統合するのは悪いと思わないが、遠くに住んでいる子どもたちには負担になることが心配である。
- ◎小学校を支えているのは、じいちゃん、ばあちゃん。すごくパワフル。田舎の良さと思っている。
- ◎合併して登下校が大変だと思っても、パワフルなじいちゃん、ばあちゃんが助けてくれると感じる。
- ◎子どもが吹奏楽に入っている。開成が一番部員が多いが、それでも人数が少ないためパートのない楽器がある。他の学校はもっとないと思うので可哀想である。中学校が1つになると楽器も増え、合奏もできるが、競う学校もなくなるので可哀想だと思うので、間をとるのが一番いいかなと思う。
- ◎パートのない楽器があると、演奏する曲が限られてしまう。
- ◎全然部活がない。

- ⇒ ■ 合同で部活をやっている場合もあるが、一緒に練習することがなかなか出来ない。
- ◎ 子どもが野球をしているが、部活でやりたい部に入れないのは可哀想と思う。陽明の子たちは軟式野球部の人数が足りないため、硬式野球をやるしかない。
- ◎ 開成ではバレーボール部の人数が足りないため、福井市に出た子もいると聞く。
- ◎ 住んでいる地域で学校が決まっているのか。
- ⇒ ■ 校区がある。特別な措置で変更することはある。中学校を自由に選ぶことは出来ない。
- ◎ 子どもの可能性が広がるように、安心して集中して学べる環境をつくってほしい。
- ◎ ICTは学校に必要なのか。授業参観で見たが、先生が電子黒板に写したり、拡大したりしていたが、逆に気をとられてしまうのではないかと思った。なくても学習ができるのではないか。
- ⇒ ◎ 道徳を授業参観で見て、ICTで生の声や映像を聞いていたが、親の方が感動した。すごくいいと感じた。
- ⇒ ■ ICTだけでは駄目であり、黒板や紙媒体の授業も必要と感じている。教師が使いこなさなければいけない。
- ◎ 教師はいろいろと覚えなければならぬため、大変であると感じる。部活動を減らしても働きすぎと感じる。親の要求が多いのかも。
- ⇒ ■ 保護者から見て、教員は働きすぎか。
- ⇒ ◎ 部活はもっとやってほしい。青春はここ。自分たちが覚えているのは、部活で汗をかいて真っ黒になって頑張ったこと。熱い先生はかっこいい。
- ⇒ ◎ 保護者もバックアップしていくことが必要と思う。
- ⇒ ◎ 学校の先生は、まじめで一生懸命だと思う。
- ⇒ ◎ 家庭でしっかりしないといけない部分を学校に任せていると思う。
- ◎ 自分の息子が、先生をしている自分の妹の姿や大野の先生などを見て、教員になりたいと思うようになり素晴らしいと思った。大野の先生は努力してくれていると感じた。
- 今、全国的に問題になってきているのが、教員採用試験の倍率が下がってきていることである。教員になりたいと思う人が減ってきている。他県では倍率が1倍ない所もある。教員の仕事のイメージを変えてあげないと大変なことになる。
- ◎ 学校を再編しても、先生の数減らさなければいいのではないのか。
- ⇒ ■ 文科省は、子どもの数が減っても、学校に対する要求が増えているため、教員を減らさないように考えている。福井県では独自の施策で、40人1クラスの基準を下げて、子どもの学力や体力の向上を推進している。
- 学級数があるということは、それだけ教員がいる。魅力ある教員は複数いないと育たない。学年同士で、教師同士で、学び合いができる。1学年1学級だと教師同士の相談ができない。そういう意味での学校環境も考えていかないといけない。
- ◎ 学級数が多いとクラス替えができる。社会人になればいろいろな人と出会う。段階段階で、少しずついろいろな人と交わり、人間関係を築いていくことは必要だと思う。
- クラブ活動もでき、競争もでき、クラス替えもあり、学校が変わったときに他の学校の子と一緒にになれるのいいと感じた。
- ◎ クラブ活動の掛け持ちはできないのか。いい意味で世界が広がるのでは。
- ⇒ ◎ 開成では昨年、陸上の子がバレーの大会に出ていた。
- ◎ 学校が再編になっても、先生の数がある程度維持されて、子どもの能力を伸ばせる環境にあってほしい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年6月6日発行 第2号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまで一緒に考えていきたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：5月30日(木) 午後7時～午後9時	次第	・教育長挨拶
場所：陽明中学校多目的室		・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：陽明中学校保護者(出席者数9人)		・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまで意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎今日集まりが少ないのは、教育環境の現状といってもピンときていないのが現状なのかと感じている。興味を持ってもらうのはこれからだと思うが、中学校の保護者にとってみたら、再編が来年、再来年の話ではないため、うちの子の時は関係ないと感じている。具体的な計画が出てくれば、反対や賛成の意見を考えると思う。どんな計画が出ても堂々めぐりになる場合がある。陽明でさえ、野球部やサッカー部の人数が揃わなくなっており、ソフトも昨年廃部になった。部活が昔に比べてどんどん減っていて寂しさがある。有終西では各学年が1クラスで6年間一緒にいいこともあるが、トラブルがあった時にクラス替えができない。複式が悪いとは思わないが、もう少し大きい規模の方がいいと思う。

◎クラス替えはなくてもいい。姉が鹿谷(勝山市)にいて、学校に児童が10人ほどしかいないらしいが、すごく密な関係を持てている。嫌なこと、嫌な子がいると逃げられないこともあるが、卒業の時は良かったとまとまる。コミュニケーション能力が必要なら、どんな人ともとれることが必要。クラスに嫌な子がいるからクラス替えすればいいという考えはどうかと思うので、少人数のクラスを希望する。

⇒ ◎上庄や和泉のように、9年間同じコミュニティであれば、結びつきは強いと感じる。

⇒ ◎良い面もあれば悪い面もある。大きい学校では取り残される場合がある。小さいクラスなら協力して教えてあげることができ、結びつきや先生の目が行き届くことにより、救われる場合がある。

■何人ぐらいが理想と思うか。

⇒ ◎30人1クラスが理想と思っていたが、20人ぐらいで3クラスがいいと思っている。ある程度、小さいコミュニティの方がうまくいくと思う。

⇒ ◎学級編制基準は1クラス最大40人までである。その40人を勝手に10人で4クラスを作っても教員の配置がしてもらえない。ちなみに福井県は、小学校は1年生から4年生までは1クラス最大35人、5・6年生は最大36人、中学校は1年生は1クラス最大30人、2・3年生は最大32人で学級編制をしている。

◎教師の数は足りているのか。足りていないから中学校を5校から1校にするのか。

⇒ ■足りていないからではない。将来の子ども数を予想し計画した。子どもたちの教育環境が良くなるために、クラスは何人ぐらいがいいか、学年は何クラスぐらいがいいかという考えで計画している。

⇒ ◎再編すると遠い子たちはどのように通うのか、想像がつかない。また、比べる学校がないというの

はどうかと思う。子どもが卓球部に入っていて、開成を意識しながらやっている気がする。

⇒ ◎たくさんいるから競争するというものでもない。半分から下になると競争をあきらめてしまう場合がある。逆に30人ぐらいの小規模の方が、明確な競争相手が出来るという考えもある。たくさんいるといろんな個性の人間が集まってくるので、その子たちと触れ合う価値の方が大きいということもある。

◎以前、学校再編に関わらせていただいたが、その時と課題は変わっていない。財政ありきで物事を考えるのは反対であるが、再編は必要であると考えている。

◎中学校の再編は、部活が出来ないから人を集めないといけないというふうに聞こえた。部活をするためではなく、教育を受けるためにやるんだという考えが必要。通学に時間差ができ、結局、部活が出来ないこともある。和泉は通学に時間がかかり、部活ができなくなり、部活をするために住所を移さないといけない、そのようにつながっていくこともある。今の生活で教育をきちんと受けられる環境を行政は整備していかないといけない。平等に教育を受けられることに主眼を置いてほしい。西校にも子どもがいるが、1クラス20人ぐらいが、子どもも先生に見てもらっているという安心感がある。再編に反対ではない。現状に合わせて考えて変えていかなければならない。

◎小学校の間は、地域との結びつきが大事であると感じている。中学校はある程度、人数の多い方が競争し合えたり、いろいろな先生と関われるのでいいかと思う。校舎が使えなくなるから再編なのか。

⇒ ■校舎を長く持たせるような工事は可能である。既存校舎を使うこととなれば、そのような方法も検討していくことになる。

⇒ ◎中学校を1校にするとクラスがたくさん必要になる。既存の校舎では無理かと思う。ゆくゆくは人口が減っていくので、今の校舎を使っていけばいいと思う。

◎陽明の吹奏楽のコンサートに行ったが、吹奏楽部の人数が減り、前まであった楽器がなくなっていたので寂しい感じがした。教育の中で部活動がすべてではないと思う。中学校1校になると競争相手がいなくなると言っていたが、県内に競争相手がいるので、競う相手がなくなる訳ではないと思う。なるべく早く、再編して、修繕経費などの管理経費を他の教育に充ててほしい。

◎地域が衰退するので、少人数でも今の学校のままでいいと思う。

◎今の規模で考えると、中学校2校、小学校4校が適当でないかと思う。中学校は既存の陽明、開成を、小学校も既存の学校を当面使う。通学範囲を考えると小学校において心配な面はある。複式を持つ学校がいくつかあり、地域が衰退するから残して欲しいという考えがあるだろう。しかし、その学校において、何人になるまで残すんですかとなった時に、ゼロまでとなると最後に卒業する子どもの教育環境を考えると可哀想である。なるべく早く再編を進め、その後、様子を見て対応を考えるべきではないかと思う。

◎大野市は借金が多いが、これ以上増やすとますます苦しいのではないか。

⇒ ■市では全部の会計で毎年25億円弱の借金を返済している。基金は減少傾向にあるが、県内では借金は少ない方である。毎年支払わなければならない固定費である経常経費(※1)の割合が95%を超え、弾力性がない状況となっている。

⇒ ◎学校を新しく建てたら、税金があがるのではないかと心配している。

※1：行政サービスを維持していくために毎年決まって必要とする経費。人件費や物件費、維持補修経費、扶助費など。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年6月6日発行 第3号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：5月31日（金）午後7時～9時15分	次第 ・教育長挨拶
場 所：上庄中学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：上庄中学校保護者（出席者12人）	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎学校再編の時に一般の方が判断できるような材料を出して欲しい。2校だったらどれだけの経費がかかり、バスは何台必要だとかの材料を。クラブ活動は市で管理していると思うがどうなっているのか。

⇒ ■クラブ活動は、市で管理ではなく学校単位で行っている。上庄中では以前、ソフトボール部の人数が少なく、陽明中と合同で試合に出ていた。子どもたちに出来る限り部活動の経験を多くさせたいために、合同チームが認められるようになってきた。県中学校体育連盟の規定により認められるようになった。

⇒ ◎他の学校でソフトボールをしたい場合、市全体の形になると思うが、そのような構想はあるのか。

⇒ ■現在はない。市全体による大会参加は、県中学校体育連盟が認めていない。他の市町でもそのような現状になれば、連盟も考えると思う。民間の大会では、市外の中学校と合同で出場できる規定を設けている。

◎どういうふうに意見を集約していくのかが大切。住民投票で意見を集約するべきと思うがどうか。

⇒ ■学校数と再編時期、再編方法を見直すために、ご意見を伺うこととしている。

⇒ ◎意見交換による意見が少なかった場合、現行の再編計画で進める場合もあるのか。

⇒ ■再編計画は撤回した訳ではない。意見が少なかったから、同じ計画内容になるとは考えていない。

⇒ ◎私たちの案がちゃんと反映されるのか。反映するための部署が今の段階であるのか。

⇒ ■意見交換会で出された意見やアンケートでの意見は、ホームページなどで公開していきたいと考えている。検討する組織はまだ出来ていない。

◎上庄は、地区に学校を残して欲しいという人が多いと思う。その意見が採用されるのかどうかの不安がある。意見集約がどのような形で反映されるのか。いろいろなパターンをシュミレーションして、経費をしっかりと出して欲しい。

⇒ ■そのような意見をご提案としていただきたい。再編計画は、何年もかけて策定している。今は、立ち止まって、改めてどんな形がいいかを考えていくこととしている。

◎経費のことや部活のことがあるが、何のために再編をしていかなければいけないのか。

⇒ ■経費の説明は、他の市と同様に大野市も教育費にお金を掛けている現状を理解していただくために説明をしている。子どもたちの勉強や部活動など、どのような教育環境が望ましいのか、その姿がはっきりすれば、それに向かって学校の在り方があるのではないかとということで検討している。今の状態が決してベストな状態であるとは考えていない。

◎上庄、尚徳は陽明や開成の子と比較すると、おっとりしている。小規模校のため、大人の目が届きやすいなどのメリットがあるが、競争心がないとか、居心地が悪い子にはつらいと思う。小学校でクラブをやっている、中学校でその部活がないから、競技を断念するか、競技を続けるために福井などの学校へ行く子もいる。中学校1校となった時、行き場がない子は変わらない。2校ぐらいに分けるのが理想だと思う。

◎小学校は地域に残し、中学校は2校ぐらいで仕方がないと思う。

- ◎上庄に小学校を残してほしい。中学校は、ソフトボール部の人数が少なく他の部から借りてくることも考えている。部活の種類は、中学校で決めているのか。
 - ⇒ ■部活の原点は子どもの特技を伸ばすことにあり、自分の良さを見つける場だと思う。勝つことが目的になってしまっているケースがあるが、教育活動の1つと考えれば、合同チームで出ることが本当にはいいかは疑問である。
- ◎小学校は地元に残してほしい。地域と密着した活動が多い。子どもが小さいうちは、地域で育てるという考えは素晴らしいと思っている。中学校は、野球部がギリギリで成り立たない状況であり、合併を進めてほしい。市内で校風の違う学校が切磋琢磨して、意見を共有し合えるといいと思う。
- ◎再編は難しい。自分の子は友人を作れるタイプではなく、心配していた。みんなが受け入れてくれて、中学校まで同じメンバーだったので有難かった。高校では自分らしさを持ったまま通っている。子どものベストな環境は良く分からないが、1クラスの上庄で良かったと思っている。
 - ⇒ ■不登校にもいろいろな原因がある。学校の人数が多い、少ないは関係ないのかもしれない。
 - ⇒ ◎自信があるかないかは、この先で変わっていくと思う。自信を持てる環境で育ててあげたい。ベストな環境とは何か、本当に分からない。極論、人口が減ることに合わせて学校を減らしていくと、大野全体が小さくなってしまう。大野自体が力がない、魅力がない感じになり、外へ出てしまう人が増え、大野自体がどんどん小さくなる気がして寂しい。
- ◎中学校1校は行き過ぎだと思う。他の学校と競い合うのも必要。最終的に1校にする時期が来るかもしれないが。小学校は小さくなってきているが、各学校で頑張っている。小規模の学校を見ていると可哀想なので、早く進めてほしいと思う。ある友人からは、学年に1人だけだと比べる相手がなくてさみしいと子どもが言っていたと聞いた。
- ◎子どもたちの環境として一番望むのは、小学校の間だけは地元で育てたいと思うが、学校行事が成り立たなくなるような状況は望ましくないと思う。中学校については、最低2校は必要と考える。9年間安心した状況で過ごせることはいいことだが、新しい考え方が入って来ないことで、気付かないことがどんどん増え、高校に入ったとき、突然、不適應を起こすことがあるかもしれない。上庄という地域性は良いが、考えの多様性が失われる場合もあるので、新しい時代に必要な創造性や力がつけられない可能性もあるかと思っている。再編する場合は、子どもたちに負担がかからない形で考えてほしい。
- ◎中学校と小学校では、根本的に問題が違うと感じる。中学校が直面しているのは部活の問題。一緒に議論しているが、抱えている問題が違うので中学校を先行して考えるなどをしないと、先に進まないと思う。
- ◎学校再編については、いろいろな考えがあり、正解がない。現再編計画で評価している部分が1つある。再編のスタートラインをそろえたところである。行政が考える時間軸は30年、50年先を見据えたものだが、住民は5年、10年先を考えるため、ズレが生じている。上庄の9年間で良いと言う人もいれば、環境が変わらないことに不安を感じている人もいる。子どもの時の時間は大切に、稲郷と木本では登校や下校に要する時間が違う。再編するときは、この時間も考えてほしい。
- ◎上庄の縦のつながりの良さは、他の地区にはないと思う。地域密着で、上庄の団結心はすごい。再編で様々な心配や不安などを考えるとどれが正解か分からない。大野高校でも野球部の人数が揃わないこともあるので、再編し人数が多いから部活が成り立つとは限らない。実家は県外だが、子どもの目の輝きが違うので、もう一度子育てをすることになった場合、大野でしたいと思っている。
- ◎小学校は地域に残してほしい。自分の生活の一端をとられるような気がしている。再編計画が出たとき、子どもが上庄小学校がなくなることに対して寂しそうにしていた。中学校は部活の問題が一番であるが、選択肢が増えることでストレスになるのではないかとと思っている。部活だけを市全体でつくるのがいいのではと思っている。複式のある学校の再編は、その地域で進めていただき、上庄は別で考えてほしい。
- ◎小学校の再編で他の学校が賛成した場合、反対が1校になっても上庄を残したいと思うか。
 - ⇒ ◎残したいと思う。
 - ⇒ ◎小規模の学校のような人数になった場合は考えてしまう。その時になって慌てても遅いのではないか。
 - ⇒ ◎地区を存続させようと思ったら、学校がないと住む意味がなくなる。若い親世代は外に出てしまう。のんびりした環境で子育てできるということで人を呼び込むべきである。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年6月11日発行 第4号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：6月6日（木）午後7時～9時

次第 ・教育長挨拶

場 所：尚徳中学校体育館

・1部 説明「大野市の教育について」

対象者：尚徳中学校保護者（出席者15人）

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎尚徳中の現在の生徒数で運営していく中で、デメリットとして感じていることは何か。

⇒ ■音楽や技術などの専任教員を配置できないことや、部活動の選択肢が狭まっていることと感じている。

⇒ ◎再編により生徒数を確保し、教員の配置を考えてくれることはありがたいと思う。

⇒ ■教員の配置はクラス数で決まる。

⇒ ◎少ないからこそ友だちとの関係は密になる。大きい小学校に通っていた県外の友人の話では、隣のクラスの子は全然分からなくて、クラスの中だけの友人関係が大人まで続いているとのことである。学校全体で考えると今の規模はいいと思うが、教員数が確保できないのは短所である。

◎4年前に生徒にアンケートをとり、半数以上が陽明和尚徳が一緒になることに反対だった。今の環境で子どもは伸び伸び過ごしている。部活の選択肢は少ないが、健やかに育てられない環境ではない。大きい中学校を見ると、勉強やスポーツが出来ない子、素行が心配な子もいて、ケアが出来ていないのではないかと。尚徳や上庄は先生の目が行き届く規模だから、ケアが出来ていると感じる。

◎素案の時のアンケートでは反対の意見をした。その時は、子どもが小学生で富田小に通っており、すごく良かった。中学に上がり、大きい学校のデメリットが尚徳にはあまりないと思い、安心して通わせられると思っていた。ただ、今は早く統合してくれた方が良く感じている。現状の尚徳は、授業がうまくいかなかったり、いじめがあったりする。小さい学校でいじめがあった時、逃げ場がなくなると感じている。尚徳から大きい学校へ移った人から、メリットやデメリットはあるが、対応をしっかりとっていて、移って良かったと聞いている。部活では、小学校のときにやっていた競技がないため、入る部活がない。子どもの楽しみがない。陽明や開成の部活に行ける環境をつくってほしい。

⇒ ■部活にはいろいろな課題がある。合同で大会に出たりするが、練習時間が確保できないなど悩みがある。大きい学校でも部員数の確保などが悩みとなっている。部活は中学生活で大きな割合を占めているが、本来は教育活動の1つであり、合同チームで出場することが本来の形ではないと考えている。

◎理想の学校像をみんなが吐き出したら、教育環境は良くなるのか。意見を聞くのは大事だが、保護者や子どもから聞くより先生から聞いて、再編案を考えた方がよい。

⇒ ■学校数や再編時期を検討するために、皆さんの意見を聞いて、それを基に再編計画の見直しをしていきたいと考えている。

⇒ ◎再編はいずれしないといけない。スピードを上げて向かっていくしかない。一つ一つ戻って練り直していくのでは時間の無駄である。みんなが納得する資料を出してもらった方が意見交換になると思う。

⇒ ■今、いただいた意見が計画見直しの参考となる。現再編計画の内容がはっきりしていないということか。

⇒ ◎開成や陽明はどこに学校ができて、そんなに今と変わらない。尚徳や上庄は、再編後の学校が住んでいる所からどのくらいの距離になるのか分からない。

⇒ ■いずれかの時点で示していかなければならないと考えている。新築についてや学校数などについて見直し

ていくこととしている。保護者が自分の子どものことを考えた場合、学校をどうしたらいいかを聞かせてほしい。

◎阪谷小学校は現在29人しかいない。昔に比べると運動会の種目も少なくなった。でも、地域の特色を生かした活動、田植えやどろりんピックなどを行っている。人数が少なくなったのでどこかと一緒になりたい気持ちはある。今すぐにでも行きたい。阪谷に学校がなくなると人が住まなくなるかとも思っている。

◎通学の面で不安だったため、前は反対した。学校を建てる場所を提示してもらえるとイメージできる。

⇒ ■どこに建てるかや、既存の学校を使うかどうかなどの考えは、今は示せない。どこかの時点で見直しの案を提示できると思う。

◎街の中学と村部の中学では再編に対する関心が違う。ゴールがあって意見を出してくださいにしないと意見は出ない。

◎自分も複式育ちではあるが、なんとか生きていけると思っている。子どもは複式でも、1学年に1クラスでも、たくさん児童がいる中でも、その中の1人として、生きる術を学ぶと思う。再編のことや学校のことと言いたいことがあっても、田舎では知っている人ばかりで立場上話することができない。再編に関心のない人に、意見を聞いたり、アンケートを書いてもらっても浅い考えであり、右往左往するだけと思う。学校は地域のものとは基本的に思っている。子どもの頃から地域のいろいろな人を知っているのが当たり前と思っていた。地域の濃厚さは、校区が広がれば広がるほど薄れていく。音楽や美術などの教科の指導について、先生は専任ではないが一生懸命してくれると思うので、そんなに影響はないと感じている。部活については、全員が納得できる部に入れる訳ではない。子どもはやったことのないスポーツをやっているが、自分なりに頑張っているのが有難い。部活が一番思い出に残るかもしれないが、日々のいろいろな所で育っているのではないかなと思う。再編計画のたたき台があると意見が言いやすいというが、出す前に丁寧に意見を聞いてから出そうとしているのであって、後戻りしたとは思っていない。

◎子どもが尚徳に行くことになった時、生徒数が少なく不安があったが、「学校が楽しい」というので良かったと思っている。中学校1校、小学校2校になると子どもへの影響がどうなるかを考えてしまう。大人は見守るしかない。何も言えない。



◎適正規模や部活動などを考えると再編は仕方ないと思う。規模などは教育委員会に任せたい。子どもは富田小で里神楽を自分でやりたいと言ってやっていた。尚徳での修学旅行では、国会議事堂などいろいろな所を回らせてもらって、

子どもに「どこが一番楽しかったか」と聞いたら、「販売活動」と言った。やはり、地域ならではの活動が大事になってくると思う。再編後、地域とのつながりのある学習をどうしていくかなどを考えてほしい。地域に学校がなくても、そのようなつながりがあることで地域の人も違った見方をしてくれると思う。

◎本来の計画が実行されていれば、娘は陽明中に通っている予定だったので残念に思っている。いずれ大きい社会に出て行く子どもたちが、もっと多様で広い社会に触れておくことは大事であると思っているからである。先細りが見えている現状で統廃合は避けられない中、地域のための学校でなく子どものための学校であってほしい。地域が廃れるとよく聞くが、地域は行政機関に任せて、学校は子どもを育てることにもっと力を傾けて良いと思う。教育の明確なビジョンを出してほしい。例えば、全国の中でも先進的にICTを進め、全教室にプロジェクターを入れるとか、全員にタブレットを持たせて勉強させるなどして、空いた時間に子どもたちを見守ったり、体験活動に力を入れたりするなどである。こういう学校をつくるから中学校を1校または2校にするなどの説明をして意見を聞いてもらった方が良い。

◎今日は、現状を知るために参加した。学校の場所や校数の案を2～3案出してもらえると選択しやすい。陽明、開成ベースではなく、村部の学校の活用も考えていただきたい。部活については、子どもが選択できるのはありがたい。再編については前向きに考えている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年7月1日発行 第5号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：6月19日(水) 午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場 所：和泉小中学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：和泉小中学校保護者(出席者17人)	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎和泉の小中学校は元々人数が少ない中で、人間的に劣っている訳ではない。人数が多い学校で育っている人にも同じことが言える。学校の人数が多い、少ないによって、子どもの教育環境に影響が出るという考えの意図は。

10年後、20年後の教育費の割合を示してほしい。スクールバスが運行される中で、親の送迎の現状は。

⇒ ■日本の教育は学習指導要領により、大規模校や小規模校、どの規模、どの地域でも同じような教育を行おうとするものである。複式を持つ学校の場合、へき地複式校同士がどのような教育が良いかを研究している。これは市内レベル、県レベル、東海北陸レベル、全国レベルで研究されている。小規模校でも教育に差が出ないよう頑張っている。その中で、和泉小での教育における課題や現状を聞くために意見交換会を行っている。

⇒ ■市費の決算は毎年180億円前後で、その財源は市税などの自主財源が35%、残りは国や県の地方交付税や補助金などで補っている。国・県の予算が減れば、市の予算も減っていくことが予想される。全体の予算が小さくなる中で教育費10%の割合は維持していきたい。

⇒ ■親の送迎については、急用でない限り、ほとんどの子どもたちがスクールバスを利用している。

◎勝原地区の子どもたちはタクシーで登下校していると思うが、その利用状況は。その子どもたちは放課後子ども教室を利用しているか。

⇒ ■経費を補助している。下校は学校からタクシー会社に連絡し、スクールバスと同じ時刻に迎えにきてもらっている。(放課後子ども教室は保護者からの申込み制で現在は利用されていない。)

◎外国語教育やICT教育を進めているが特別すごい特色ではない。市外と違い、大野の教育の良いところは何か。

⇒ ■先日、千葉工業大の教育視察を開成中で受けたが、電子黒板の配置数や支援員の配置人数、ALT(外国人の先生)の人数などの充実にびっくりされていたとの報告を受けており、市として誇れる点だと思う。

⇒ ◎電子黒板やALTの配置が子どもたちの自信につながる重要なものなのか。

⇒ ■1つの手段であり、基本は学力を上げていくことを目的とし、安心して通える学校づくりに向けて取り組んでいる。学校教育は全員が平等で楽しい学校と感じ、明日も学校へ行こうと感ずることが基本だと思っている。そのためには、子どもに自信を育むことが重要と思っている。

◎最終的に学校再編はどうなるのか。

⇒ ■学校数や時期、方法など、再編計画の見直しを行おうとしているところである。

⇒ ◎中学校1校、小学校2校の再編計画は、白紙なのか。反対したらなくなるのか。

⇒ ■学校数や時期、方法などについて、この意見交換で皆さんの考えをお聞きし、今後検討することとしている。学校の再編は必要であるという方針は持ちながら進めている。

◎現在の教育環境は行き届いていると思う。生徒1人に先生1人がついているような形であり、大きい学校になり、周りに知っている友だちがいないなどの環境になった時に子どもが不安になるのではないかと心配だ。

◎大きい学校で授業などが荒れているということを知り、非常に心配だ。田舎の子は影響されやすい。

◎中学校2年の途中で統合になった場合、子どもの負担はあるか。

⇒ ■突然の再編はない。再編する前に子ども同士の交流を行ったり、教員も2、3年前から教育方針などについて考える。再編になったら、学校の校風や地域も変わるため、その準備期間は必ず必要となる。

◎再編した場合、和泉から市街地まで通学で約30分かかる。自宅から和泉小まで約15分かかる。子どもたちは

耐えられるのか。毎日のことであり、一番気になっている。

⇒ ◎通学中のバスの中で、お漏らししたり吐いたりするとトラウマになるのではと心配している。子どもは朝の支度に時間がかかる。学校の始業時刻を遅くするなどの対策をとってもらえるといい。

⇒ ◎冬に、ＪＲが止まったり、バスも出なかったりする。そういう時、どうなるのか心配である。

⇒ ◎通学で３０分かかる校区はあるのか。

⇒ ■小山地区の開成中の生徒は、冬期間にバスを使っているが約３０分かかっている。

◎今日配布されたアンケートの内容は、統合を前提としたものだと思う。結果をどのように使うのか。

⇒ ■１学年の学級数や１学級の人数も教育環境の１つである。再編計画見直しの貴重な資料にもなるし、参加されていない方に対して、学校再編及び教育環境の考え方を共有していただく目的も兼ねている。

⇒ ◎以前の再編計画のとき、地区の意見を聞いたということで進められた経緯があるので気になっている。

⇒ ■市全体で集約し結果を出す。自由記述欄における意見も参考にしていく。どこかの時点で、再編計画見直し案を示し、説明していく予定で、今は、皆さんから話を聞き、そこから見直し案を検討していきたい。

◎小学校はそのまま、中学校は人数を増やして学校生活を送らせてやりたい。全員平等という話があったが、中学校それぞれが特色の違う学校は難しいか。例えば、中学校を大野に１校、和泉１校とし、和泉ではウィンタースポーツや英語教育などに特化すれば、市街から和泉に来たいと思う子がいると思う。

⇒ ■今でも、それぞれの学校の特色を出しているが、それ以上に出していく事も必要と考える。

⇒ ◎平均を目指すのではなく、飛びぬけている所をもっと引っ張ってあげる学校があっても良い。

⇒ ■学校間の競争は必要と思う。ある程度の競い合いがないと人間は成長しないと思う。

⇒ ■学校に来れない子がいない、いじめ・差別がない、思いやりがあり、あったかい、これをベースにしたい。その上に学校の校風（特色）が出てくると思う。

◎市街の学校で子どもに何かあった時に、保護者として３０分以上かかる所へ急に迎えに行ったりできない。親が対処できるかどうかとも再編で考えてほしい。

⇒ ■現在、病院に連れていけないといけないう状況になった時、まずは保護者に連絡をし、養護教諭が付き添って病院へ行く。保護者には病院へ来ていただいている。ご心配はよく分かる。

◎現在の自分の子どもの状況を考えると、中学校の統合を望んでいる。校区が関係なくなり、市街からも和泉へ通う制度になるなら人数が増えるので、このまま小中一貫で残ってほしい。

◎移住を検討するとき、そこに学校があるか、保育園があるかを考えた。和泉なら特色もあり、子どもは成長してくれると感じた。地域と学校のつながりが深い。単に人数が少なくなってきただけで再編を考えるのは寂しい。インターネットを使ってグループワークなどをすれば、少人数をカバーできると思う。分校で残してほしい。

◎和泉のことを学ぶには、ここに学校がないと厳しいと思う。和泉昇竜太鼓、穴馬の紙すき、紅葉まつりの芋販売など地域にいるからこそ出来る学習がある。学校がないと良い伝統がなくなる。

◎子どもは、和泉小中学校だったから勉強ができるようになった。１０人を超えると先生の目が行き届かないと思う。子どもの人格が形成されるまでは少人数で温かく見守ってあげたい。生活圏に学校がないと保護者会や学校開放日など仕事を休まないと参加できなくなり、学校と保護者の距離が離れてしまう。出来れば分校でも残してほしい。

◎自分も和泉の環境で育ち、先生との関わりが良かった。少ない人数だから市街へ再編するのはどうかと思う。子どもは身体が弱い、先生の目が行き届きサポートしてくれているため、普通学級で過ごせている。

◎子ども自身が現状に満足している。学校外の交流に参加し、友だちがたくさんいる。保育園が学校内に入り、縦のつながりが強くなった。昼休みに、保育園児から中学生までと一緒に鬼ごっこをしている。

◎子どもがスキーをやっている。スキー大会で一週間学校を休むことがある。そのため、授業が遅れないよう、早めに進めてもらっている。校区外でも可能であるなら、和泉に来たいという中学生は来て欲しい。

◎体育祭などにおいて、大勢の人数の中でやっている姿を見たいと思っているが、子どもは現状に満足している。市街のサッカーチームに所属し、その中で頑張れるのは和泉に仲間がいるからである。

◎和泉小の複式学級は、他校と違い、中学校の先生がサポートしてくれている。中学校だけ再編された場合、複式学級を担当する先生の配置を考慮してほしい。再編による通学の不安はある。中部縦貫自動車道が出来て、安全かどうかを見極めさせてほしい。市街の再編は進めてもらい、和泉は後回しにしてほしい。アンケートの集約は、再編計画時のパブコメのように、まとめて回答する形はやめてほしい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年7月1日発行 第6号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：6月25日（火）午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場 所：有終南小学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：有終南小学校保護者（出席者11人）	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎ICT教育は、大野独自の教育なのか、国が進めていることなのか。

- ⇒ ■プログラミング教育を含めて、国全体で進めている教育である。自治体によって導入の差はある。来年1月に小学校のパソコン教室のパソコンをタブレット（各学校1学級分）に入れ換えて、パソコンの授業だけでなく他の教科での活用も図る予定である。また、教室に電子黒板を配置し、各授業で活用している。
- ⇒ ○授業参観で電子黒板を使った授業を見て、黒板より分かりやすいと感じた。デジタル化になるのは良いが、書いたり、定規を使ったり、自分で物を使うアナログ的な部分も社会に出たら必要となるので残して欲しい。
- ⇒ ■デジタルとアナログを融合しながら、教育を進めていかなければならないと感じている。

◎他の地域と違い、大野独自で力を入れている教育があれば教えてほしい。

- ⇒ ■ICT機器を配置した教育と人的配置である。教育委員会では、「確かな学力を育む学校づくり」として教師の授業力の向上を図っている、もう1つは「安心して通える学校づくり」として、いじめ・不登校を防止するために結の故郷教育支援員を、有終南では3名配置している。学校生活に慣れない子などを担任1人では負担がかかるため支援員が補佐している。他に結の故郷教育相談員も配置している。これらの人的配置は、他の市町より厚くなっている。またALT（外国人の先生）も3名配置し、週2回のすべての5、6年生の授業に入り、外国語教育を推進している。
- ⇒ ○大野に住む理由、大野の学校に通う理由がしっかりあるといいと思った。もっと大野らしさが明確になっていると良いと思う。
- ⇒ ■県教育委員会の施策で「地域とともに進める授業」を行っているが、この取組みよりも先に、大野は、子どもたちがふるさとに愛着と誇りを持つ「ふるさと教育」に力を入れている。
- ⇒ ■ICTや相談員、ALTの配置をしているが、基本はいじめや学校に来れない子がなく、差別がない、親が安心して子どもを預けられる学校であり、その上に学校の特色があると思っている。

◎学校が大規模化した時に、1つの分野に飛び抜けている・この教育を受けさせたいがために大野に残る・ひいては大野に移住するぐらいまでになれば再編のメリットはあると思った。教育委員会や先生だけでメリットをシェアするのではなく、外に向けてアピールしていくことが必要と思う。親の意識付けにもなるし、ひいては自信や誇りにつながる。先生たちが頑張っている姿を見ており、先生自身が誇りを持てる職場であってほしい。

◎自校給食は子どもたちの楽しみであり、残して欲しい。

- ⇒ ■学校給食に年1回、醤油カツ丼やのっぺい汁、里芋コロッケが出る。給食を楽しみにしている子どもはたくさんいる。

◎子どもが小さいうちは学力の差はあまりないが、高学年になれば差が出てくる。この差をどこまで学校がフォローしてくれるか。家庭でも、子どもに少しでも自信をつけさせたいと思ひ、親として支援できればと思っている。学校教育に求めるものは自立である。自分の将来を自分で決めていく力。この職業に就くには、どういう勉強をするといい、何のために勉強をしないといけないかなど方向性が分かる教育が必要と感じている。

- ⇒ ■小中学校では集団で学ぶことを学校教育でやっているが、学びというのは最後は1人でないかと思う。いろいろなことを1人で学んでいかないとはいけなくなる。その過程の一部分が家庭学習になっていると思う。家庭の役割と学校教育の役割を見分けていかないとはいけない。家庭学習（宿題）で分からない部分があ

ば、それは学校の役割と思っている。家庭学習での家庭の役割は、学習ができる環境づくり、頑張っている子どもを褒めるなどであると感じる。

⇒ ■中学校では、実際に大野で仕事をしている方から話を聞くキャリア教育を行っている。

⇒ ◎今の小学生はしっかりしており、自分の夢や将来になりたい職業を全員が語れる。

◎子どもが小さいため、自分が受けている教育が大野独自のものであるということが分からないと思う。成長した時、大野のことを教えてもらっていた、恵まれた環境で育っていたと感じられたら嬉しい。子どもは新しい環境にすぐに順応する。固まった環境だけでなく、いろいろな環境を感じさせられたらと思う。給食は匂いを感じたり、温かいものを食べられたりすることを希望するので自校式が良い。

◎校外学習をいろいろ取り入れてもらえている。親が連れていけない所、見せてあげられない所へ行っているのも、とても有難い。学校再編してもその取組みはやってほしい。

◎特別支援学級の子でも、いろいろな体験をさせてもらっている。先生にも手厚く見ていただいている。再編で中学校が1つになった場合、現在少ない人数でしっかり見ていただいているのがどうなるのか不安である。

⇒ ■特別支援学級は1学級8人が上限で9人になると2学級になる。通える学校づくりを強い決意を持って進めたいと思っている。市では他の学校の子とも交流することで見聞を広めている。

◎報道などでいじめが多く、自殺した後に原因が分かたりする。集団生活に苦手な人もいるが、どうしても学校へ行かなければならない雰囲気がある。苦手なら学校へ行かなくても良いということを手厚くしてあげる必要がある。

⇒ ■どの子にも居場所が必要である。不登校になると一番つらいのは子ども本人。居場所の一つとして、青少年教育センターにフレッシュハウスがあり、臨床心理士や相談員、スクールソーシャルワーカー（家庭支援員）が配置され、保護者の相談対応などいろいろな支援をしている。

◎有終南や西、東など市街の小学校の保護者は、再編に関心がないと思う。6月22日に防災キャンプが旧蕨生小学校で行われたが、とても良い学校で子どもを通わせたいと感じた。再編を考える場合、市街の子が郊外の学校に行くことも検討してほしい。

⇒ ■郊外の学校の保護者の中では、そのような意見もある。

⇒ ◎保護者が自由に学校を選べたらいいと思う。例えば、たくさん子どもがいる学校、子どもが少なく伸び伸びした学校、スポーツに特化した学校などがあっても良いと感じる。



◎再編への意見について、未就学児の保護者にも聞かないといけないと思う。

⇒ ■これから保育園・こども園の保護者にも話を聞くこととしている。

⇒ ◎子どもたちは再編について、どう感じているのか。これまで調べたことがあるか。

⇒ ■小学校6年生、中学校2年生にアンケートを実施し、学校についての意見を現在聞いている。（集計後、市ホームページに掲載予定）

◎上庄キッズ（バレーボールチーム）に入っている児童で、競技を続けたいため、バレー部がない開成中ではなく上庄中に行っている。子どもは、中学校がどうなるか分からない、先が見えない状況を不安に思っている。これは大人の責任だと思う。早く再編の方向性を決めた方が良い。中学校における部活動は大切で、たくさん部活があった方が良い。いろいろな絆が生まれる。中学校2校ぐらいにして、競い合った方が良い。働き方改革で部活の練習が減り、自主練習が行われている。部活の管理はどうなっているか。

⇒ ■部活は、現在平日で2時間、休日で3時間と決めており、質の高い練習を目指している。生徒任せの自主練習中に、事故があってはならない。部活のあり方について校長会と協議している。

◎再編のメリット、デメリットがビジョンとしてはっきり見えていない。再編をすることで、手厚い授業や特色ある授業が受けられる、校外学習を増やすことができるなど、再編のデメリットをカバーする内容が見えてくると話がしやすいと思う。

⇒ ■現再編計画の見直し案を今後、提示させていただくこととなる。その時に、また意見を聞きたいと思う。

◎中学校の部活で、他の中学校の部活をすることは難しいのか。

⇒ ■やってやれないことはないが、やりたい部活がある中学校へ練習に通う方法が難しい。中体連では、お互いの学校の人数が不足する場合は合同チームとして大会に出場できるが、片方だけの学校の人数が少ない場合の合同チームは大会の出場を認めてもらえないのが現状である。

◎再編の背景にはコストが関係していると感じている。子どものためにはコストをかけるという意識は忘れないでほしい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年7月3日発行 第7号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：6月27日（木）午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場 所：有終東小学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：有終東小学校保護者（出席者12人）	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎学校再編で小学校4校、中学校2校の案から、小学校2校、中学校1校になった理由は。

⇒ ■平成27年4月に、小学校6校、中学校2校の再編計画（素案）が策定され、段階的に再編していく計画であった。段階的に再編していくことで、子どもにとって環境が変わる、制服が変わる、校歌が変わる、いろいろなものが変わること負担が掛かると考え、令和5年（平成35年）に中学校1校、令和8年（平成38年）に小学校2校にする計画とした。

◎スクールバスで通学している学校では、夏休みにバスで学校のプールの送迎をしているのか。

⇒ ■プールがある日は、毎日1便（行き、帰り）を運行している。
⇒ ○再編した時も、そのようにスクールバスで送迎するのか。
⇒ ■再編計画の見直しにより、学校数や学校の場所が決まり次第、スクールバスの運行経路を検討していく予定である。プールの送迎では、学校が近い子、遠い子で不公平のないようにしていく必要がある。

◎この意見交換会は、何のために意見を聞くのか。出た意見が学校再編につながるのか。

⇒ ■再編計画の見直し案を作る前に、保護者の方がどういうことを求めているかをもう一度お聞きしたいという考えで意見交換会を開催している。
⇒ ○このような会は、また開催されるのか。今日の参加人数の意見で十分と考えているか。
⇒ ■見直し案を作成した時に、保護者や地域の方々に示したいと考えている。本当に一生懸命考えていただけた方が集まってくれたと思っている。集まっていただくために、案内などで努力している。

◎学校再編はいずれ必要な時がくると思う。これからの子どもたちが高齢者を支えていかなければならない。今、市内に車の整備士のなり手がいない。今の若い人は勉強は出来ると思うが、社会に通用しない。ちょっと怒ると会社を辞めてしまったり、すぐに休んだりする。子どもが大人になった時の社会に不安がある。勉強が出来る教育が本当に社会に出て役に立つのか疑問である。夏休みを減らして、通常の授業を1時間減らして、子どもが外で遊ぶ環境があったらいいと思っている。今の子どもは忙しすぎて、遊ぶ時間や交友関係を作る時間がない。いい先生に出会えた、いい学校を卒業できたという環境にしてほしい。

⇒ ○宿題が多すぎる。小学校1年生が夜遅くまで宿題をしている。友だちと遊ぶ時間がない。
⇒ ■家庭学習（宿題）の習慣化は必要。基本は「学年×10分」を理想として共通理解している。宿題の出し方などを学校と確認したい。
⇒ ○クラスによって、宿題の量が違うのではないか。
⇒ ○2年生に進級し、担任が変わったら宿題が少なくなった。先生によって宿題が違う現状を把握してほしい。
⇒ ■有終東校は1学年2クラスある。クラスで宿題に差がないようにしていかないといけない。市全体で再確認したい。

◎幼稚園では自由な感じだったが、小学校ではきまりや行事、宿題が多く、管理されている感じで時間に余裕がない。子どもは登下校でも疲れていて、遊ぶ時間がない。宿題の質も悪いと思う。勉強は主体的に学ぶものと思う。

⇒ ■これからは自らが考えていく教育をしていく必要がある。それが社会に出ていくための必要な力になると思う。

◎保護者全員にアンケートをして、その結果を基に意見を聞く方が良い。有終東校の校舎は耐震があるとはいえず40年以上建っている。地震が多発しているので不安である。学校再編で学校数が減った場合、学校は避難場所

となっているのでどうなのか。

⇒ ■学校のほとんどが避難所として指定されている。耐震されているので現在は大丈夫と考えているが、耐用年数が過ぎる学校は、コンクリート強度などを調べ、安全を確認しながら使っていかなければならないと考える。

◎学校再編をするのは、なぜか。子どもの人数が減ってきた理由からだけなのか。

⇒ ■学級によっては、少人数になっているところもある。子どもが子どもから学ぶためには、ある程度の人数による規模が必要であると基本的に考えている。地域性や地区の状況、経緯も考慮する必要がある。

⇒ ◎学校に係る経費は関係ないのか。

⇒ ■市全体の予算は毎年 180 億円前後で、その財源は市税などの自主財源が 35%、残りは国や県の地方交付税や補助金などで補っている。国・県の予算が減れば、市の予算も減っていくことが予想される。全体の予算が小さくなる中で教育費 10%の割合は維持していきたい。今、介護保険や国民健康保険などの福祉に係る経費（民生費）が増えており、教育費などの他の経費を圧迫する恐れはある。

⇒ ◎学校の数をこのままにしておく、予算が足りなくなるということはないのか。

⇒ ■学校数がこのままでも、予算を保つことは可能と考える。ただし、市全体の予算が減れば教育費も減るので、各学校の予算の配分は薄くなっていく。学校が再編されると、学校数が減るので予算を集中的に配分することが可能となる。

⇒ ◎学校を再編することで、各学校に予算が厚く配分できる場合、学校を何校ぐらいに絞らないと、子どもたちに対して良い環境を与えられないのがあると思う。教育委員会で再編の校数（案）に応じて、予算の配分や教育環境の状況を示してもらえると意見を出しやすい。

⇒ ■再編計画の見直し（案）をある時点で示して、意見を聞いていきたい。今は、その前の段階として、いろいろな意見をお聞きしている。



◎自分たちの子どもが結婚して子どもを持ち、大野で教育をさせたいと思わせるような学校再編をしてほしい。1つの学校に 600 人は多いと思うが、現在の小規模校ぐらいの人数では、しっかり勉強を教えてもらえるのかもしれないが、友だち関係や人間関係を形成していくにはどうかと思う。1クラス 20 人から 25 人がちょうどいいと思う。複式学級にならないような再編をしてほしい。今日、参加者が少ないのは再編が先延ばしになり、先が見えないからであると思う。早く再編してほしい。

◎少人数の学級では先生次第で教育が良くなったり、悪くなったりするので、先生の指導の向上をしてほしい。

⇒ ■働き方改革は、先生の仕事を楽にするためではなく、子どもと向き合う時間を増やすためや本来の教育に従事する時間を増やすために行っている。質の高い教育を持続させていきたいと思っている。そのためには、家庭教育と学校教育が同じ方向を向いていかないといけなく、保護者の協力もお願いしたい。

◎時代の流れとともに再編は仕方ないと思っている。放課後、子ども同士で遊ぶとき、友だちが遠くにいてそこまで自転車で行くことがあり、事故に遭う確立が増える。両親が市外で仕事をしている場合、学校に子どもを迎えにいけない。そのようなことも吟味して再編を検討してほしい。地域との連携も考えてほしい。

⇒ ■検討課題はたくさんあるが、しっかり考えていきたい。

◎意見交換会を行っている中で、学校再編に対して、賛成・反対どちらの声が多いか。

⇒ ■現在の再編計画をそのまま進めるのは難しいと感じる。学校再編において、ある人にとってのメリットは、ある人にとってのデメリットになると感じる。地域によって関心の高さの違いも感じる。

◎現在の市全体の中学生の人数は、自分の中学校時代の 1 校分である。当時通っていた中学校は 600 から 700 人で、1 学年に 1 クラス約 40 人で 6 クラスあった。今、スポーツなどで、やりたい子がやれない、選べない状況で、小学校でスポ少などの団体競技をしていても、中学校で個人競技に変わる子どもがいる。家庭環境・時代が変わり、子どもの教育について、学校に責任転嫁する保護者もいる。

⇒ ■子どもの本質は、昔も今も変わっていないと感じている。社会や大人が変わって、子どもがそれに応じて変わらざるえなくなっている。子どもらしさを保ってあげることが学校の役割であると考えている。子どもが今日一日、楽しかったと思う学校でなければいけないと思う。

◎中学校の部活は、なぜ運動部ばかりなのか。運動できない子はどうすればいいのか。

⇒ ■学校の規模が小さくなると教員も減るため、これまで通りの部活を維持することが困難になっている。現在、学校外のスポ少やスイミングなどで週何回か練習をしている場合、学校の部活に無理に入らなくても良い学校もある。学校だけで個別の対応が難しくなっていて、地域社会に頼らなければならない部分が出てきている。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年7月9日発行 第8号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax 0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまで一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月2日（火）午後7時～9時

次第 ・教育長挨拶

場 所：有終西小学校体育館

・1部 説明「大野市の教育について」

対象者：有終西小学校保護者（出席者8人）

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまで意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎意見交換会後の学校再編の取組みスケジュールは。

⇒ ■今年は11月末まで意見交換会を行い、各意見交換会での意見やアンケートの結果を年度内にとりまとめることとしている。令和2年度から学校数や再編時期、再編の方法などの検討を行い、学校再編計画の見直しの素案を作成する。素案が出来たときは、保護者や地域の方々に説明を行い、意見を伺う予定である。今年実施した結果は、検討するための補助的な資料として活用する。

◎市内の小規模校では、先生1人に対して児童1人の学級もある。子どもは学びやすいかもしれないが、常に1対1なので、学ぶ側（子ども）からしてみたらしんどくないのかと思う。現状のままでいいのか疑問であるが、市としての考えはどうか。

⇒ ■地区の保護者がどう考えているかがとても大事である。これまでに小規模校で意見交換会を行った際、保護者から、少人数なので先生がきめ細かに見てくれるのでありがたいという意見も聞いている。一方で、少人数を心配される保護者もおられる。総合的に意見を聞きながら学校再編を検討していきたい。

⇒ ◎主体的・対話的で深い学びづくりの説明をしてくれたが、複式学級で1人や2人の場合、どのようにやっているのか。複式学級のない学校は普通の授業で行えるが、複式学級のある学校の場合、特定の全校集会や他校との交流ができないため、不利益ではないかと思う。

⇒ ■有終西小学校の児童数は約160人と中規模校であるが、このような学校の場合、全校集会などをしたとき全員が発表できない。小規模校の場合は、全校での取組みを多くしながら、より主体的対話的な学習ができるように工夫をしていると感じている。

◎複式学級になってしまうぐらいの子ども的人数になると、学校としては小さすぎる規模だと思う。未就学児の保護者は、学校再編を早くしてほしいと思っているが、在校生の保護者は自分の子どもを地元の学校で卒業させてやりたいと思っている。学校再編をすると、在校生に何らかの負担がある。その時の子どもへのケアの方法を提示していくことが大事である。

◎自分の子どもが陽明中に上がる時、有終西の卒業生のほとんどが開成中へ行くことになり、たくさん人数のいる陽明中へ有終西の子どもが5人しか行かないことに不安があった。中学校が1校になると、さらにたくさん的人数となるので、非常に不安を感じている。

⇒ ■開成中でも有終南の子どもが大半を占める中、有終西の子どもが頑張っている姿を見ている。様子を見て限り、子どもは学校生活に慣れるのは早いと感じている。

⇒ ■小規模校の小学校の保護者のほとんどが、中学校に進級するとき不安を感じている。中学校の教員は、小規模校出身の子どもに対し配慮を心掛けている。子どもは学校生活に慣れるのが早い。それぞれが自分の居場所を見つけている。学校再編を行う際には、1年前から再編同士の学校の交流を行う。

⇒ ◎学校再編では、保護者の不安を取り除く取組みについて、十分に説明をして進めてほしい。

◎自分は市外に育ち、小学校は1学年5クラス、中学校は10クラスの中で育ってきた。有終西ではクラス数が少ないため、手厚く見てもらえると思ひ、安心して子どもを預けることが出来ている。しかし、子どもが少なくなり、これまで何年も継続してきたPTA活動などを見直そうという意見が出ている。仕方がないと思うが、子ど

ものために行うので、どのように持続させ伝統を守っていけるかを考えていきたい。1学年に1クラスしかないのでクラス替えが出来ない。良い、悪いがあるが、クラスで嫌なことがあった時、そのことを親や先生に言えない子にとってはつらいと思う。中学校1校、小学校2校の計画は、極端であると思った。地区に学校がないと過疎化すると思うので、市街から村部の学校へ通う再編もありかと思っている。また、子どもの教材（教科書が多く重い）の負担を減らしたり、タブレットなどのICT化を進めながら、楽しい学習を行えるようにしてほしい。

◎子どもは野球をやっているが、所属チームが昨年、有終東と合併し、来年は富田・有終南と合併する。人数が少なくやっていけないのは、学校も同じだと思う。再編では良い事も悪い事もあるが前進するために話をしないといけない。市街の保護者は再編に危機感を持っていない。

◎有終西は、子どもの数が多くも少なくもなく、ちょうど良い。中学校を考えると、再編計画は1校で600人で、多すぎると思った。部活ありきではない。その競技を継続したいのであれば部活でなくても良い。その中学校の人数で出来る部活をやれば良い。違う競技をやりたいのであれば、市外や県外に出ることも可能である。

⇒ ■再編計画（案）の説明の時は、有終西の保護者もたくさん集まった。現在の有終西の学校教育に満足されているのであれば学校として有難い。

◎子どもたちの良い教育環境とは、学校教育だけではないと思う。例えば、自分が住んでいる地区には小学生が3人だが、子ども神輿はやっている。育成会は休止している。地区の人が地区の子どもを育てていく環境（地区行事など）は止めてはいけなない。社会教育・生涯教育の面で、子どもが少なく育成会などが行政区ごとに出来ない状況であり、広い範囲による育成会の活動を支援する働きかけをしてほしい。育成会がなくなると、ラジオ体操や夏祭りなどがなくなり、寂しい大野になる気がする。地域住民がどうやって子どもを育てていくかの面にも、学校教育と同じぐらい光を当てていかないといけないと思う。

⇒ ■意見交換会は、小中学校や保育所・認定こども園などの保護者の後、地域にも回る。地域コミュニティと学校再編は関わりがある。学校が再編されても、その地域に子どもは居る。その地域をどのように活性化していくかも考えていく必要がある。

⇒ ◎最近いろいろな事件があり、子どもの安全安心の面で地域が果たす役割は大きい。そのために、生涯学習が果たす役割は重要になる。

⇒ ■公民館の果たす役割は大きいと思っている。各行政区において、区の活動ができる人が少なくなってきたり、行政区の統合も考えていく必要があると思う。学校再編の延長に、大野のまちづくりがある。市では、持続可能なまちを目指して、各施策に取り組んでいる。

◎学校は有終西校区、地区は小山地区である。小山地区の運動会に出るとしても、小山小の子どもばかりである。地区と校区の分け方を統一した方が地区になじみやすい。

◎学校再編に反対はしていないが、中学校1校、小学校2校の計画は急ぎすぎる感じがした。

⇒ ■平成27年4月に、小学校6校、中学校2校の再編計画（素案）を策定し、その後、段階的に再編を行い、小学校2校以内、中学校2校以内にする計画であった。段階的に再編を行うと、制服や校歌など、いろいろなものが変わり、子どもや保護者に負担が掛かると考え、小学校2校、中学校1校の計画とした。

⇒ ◎有終西に転校されてきた子がいて、新しいランドセルを買ったということがあった。声を掛けてもらったから、自分の子どものランドセルを譲ることができた。再編時には、そのような対応も考慮してほしい。

⇒ ■ズックや体操服、ランドセルなどが違っていても、それが使える物であれば、学校の判断によるが使い続けることは可能である。しかし、子ども自身が他の子どもと違う物を使うことを嫌がる場合がある。以前、他県から転校してきた子で保護者から相談を受けたことがある。

◎中学校を1校にして、スクールバスで通うことになった時、各地区を回ると約1時間乗っている場合もある。そうすると、福井の中学校に通わせる保護者も出てくるかもと考えられていた。再編の際は、通学時間が短くなるよう、バスのルートを検討してほしい。

⇒ ■子どもの通学の負担は減らしていきたい。現在の通学時間とあまり差がないように考えていきたい。学校再編計画の見直し（素案）では1つ1つ課題をクリアできるように検討していきたい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年7月11日発行 第9号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月4日（木）午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場 所：下庄小学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：下庄小学校保護者（出席者16人）	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎意見交換会で何を聞きたいのか分からない。いつごろ学校を再編をするのか。自分たちに関係あるのか。
 - ⇒ ■再編計画の見直し（案）を作る前に、保護者の意見を聞きたいために意見交換を行っている。再編を少しずつすべきとか、10年後に延ばすべきとか、校数の考え方を聞かせてもらえればと思っている。
 - ⇒ ◎再編計画がなくなるのは決定なのか。
 - ⇒ ■現在の計画は令和5年に中学校1校、令和8年に小学校2校とする内容である。この計画に対して、市長から再編校数や再編時期、方法について見直しの考えが示され、教育委員会で計画の見直しを決定した。
- ◎子どもの人数が少なくなっていくから、再編計画が出たと思う。昔と比べて今の子どもは違う。自分で進んでやるのではなく、与えられないと出来ない。少人数だから出来るのであり、先生の目が行き届かなくなると出来ない。1クラス40人にしてしまうのはどうかと思う。
 - ⇒ ◎1クラスの人数はあまり関係ないと思う。人とのコミュニケーションは、学校や友だちで培うものであるが、基本は保護者が示すべきと常に思っている。
- ◎市ホームページで意見交換会の内容を見たが、地元で学校がなくなると考えている地域は熱心である。和泉小が再編された場合、冬期間の通学では道が雪崩などで危ない。冬期間だけ分校にするなど、子どもの安全を考えてほしい。学校再編は仕方がないと思っている。
 - ⇒ ■子どものことを優先的に考えて進めていきたい。
- ◎2年半前の再編計画での説明やパブコメでは、計画に対する質問に対して答えになっていなかった。乾側小が下庄小に再編する話があったが、出来る所からなぜ再編をしないのか。
 - ⇒ ■そのような経緯も踏まえ、意見をお聞きしているので理解してほしい。再編に関係する当事者である保護者としては、非常に迷う決断であると考えている。教育委員会としては、慎重に丁寧に着実に進めていきたい。
 - ⇒ ◎2年半前は、意見を言ってもすべて検討中であった。見直し（案）では、再編する学校の場所やバスの運行などを明確にしてほしい。共働きの多いため、祖父母に子どもの送迎をお願いする場合がある。
- ◎中学校1校、小学校2校は少ないと思った。中学校2校、小学校3校ぐらいかと思っている。地理的問題もあるし、雪の問題もある。
- ◎再編計画のモデルケースはあるのか。まちづくりが成功するのか。
 - ⇒ ■大野として誇れる教育、特化した教育をした方がいいという意見がこれまでもあった。当初の計画における目指す学校のイメージはあったと考えている。今後は、具体的な案を示せるように努力する。その案を示す前の段階として、現在意見交換を行っている。
 - ⇒ ◎大野を出た時に、大野出身であるという誇りを持てる教育をしてほしい。そうすれば県外に出た時に自信を持てると思う。いずれ、大野が好きで戻ってくる。バス通学は部活動の時間などが制限されるためハンディである。部活の練習をしたくても切り上げないといけなかった。ハンディをなくす方法を検討してほしい。再編計画を立てる時に、大人数でないと出来ないこともあるので、良い面、悪い面の両面を示すことが必要である。
 - ⇒ ■大野では「ふるさと教育」に力を入れている。学校だけでなく地域と一緒に活動をしている。そのような

活動を通じて、大野の良さを感じられるようにしている。

◎市内に対戦するチームがないのは寂しい。競い合うことで自信がつくため、中学校1校はどうかと思う。

⇒ ◎自分の時代もライバル校があって成長した経験がある。競い合う学校は必要だと思う。

◎小学校が2校になった場合、児童館はどうなるのか。

⇒ ■児童センターは市内に4つある。現在は再編や廃止の計画はない。郊外の学校では公民館や旧幼稚園などを利用して放課後子ども教室を運営し、保護者の迎えがあるまで、そこで学習や遊びをして過ごしている。再編計画では、スクールバスで放課後子ども教室まで送迎することを説明している。

◎中学校を1校にするとライバルがなくなるので、中学校2校、小学校2校にした方がいいと思う。そうすれば、小学校全員がそのまま中学校に行ける。市内で練習試合や対抗意識があると良いと思う。

⇒ ■楽しみながら、適度な競争を意欲を持ってやることは、子どもにとって必要だと考える。

◎中学校2校、小学校3校かと思っている。通学が問題である。自分は市外に仕事へ行っており、高齢の親に子どもの送迎をお願いすることは、最近の高齢者の車の事故が多いことを考えると不安である。

⇒ ■5月開催の教育シンポジウムで実施したアンケート結果でも、再編で不安なことの中で一番多かったのが「通学距離」であった。

⇒ ◎中学校が減り、部活などで対戦する学校がなくなると、遠征に行く回数が増えるので保護者の負担が大きくなると思う。

◎再編する場合、学校の位置が問題となる。中学校は2校あった方がいい。新しく建てるのであれば、候補地を事前に説明した方が良い。

⇒ ■出来る限り、情報を公開していきたい。

◎何校にしていくかの案はないが、複式学級環境を解消するような再編をした方が良いと思う。下庄小の今の環境がちょうど良く守っていきたい。自分が家建てる時、近くに保育園や小中学校があるかを基準に選んだ。大野に来て感じたことは、地域の子供は地域で守ることをすごく感じている。再編で地域に学校がなくなると不安を感じている人は多いと思う。再編を一気に行うのは乱暴である。

◎学校に通えない子どもたちに対する環境整備や学校の取組みを考えてほしい。

◎自分は、集団登校をしながら、上の学年の子どもたちから交通マナーなどを学んだ。スクールバスで通うようになると、交通マナーを学ばなくなったり、体力がなくなったり、外で遊んだりしなくなると思う。自然があるのに、教育に生かしていない気がするし、校外学習が減っている感じがする。

⇒ ■学校としての校外学習はやっていると思う。しかし、外国語教育が始まり教科が増えている中、子どもの負担を減らすために行事の見直しを若干行っている点はある。他の市町は、保護者からお金を徴収して行っているが、大野はスクールバスを校外学習に利用しているので、比較的校外学習は多く行えている。帰宅してからの遊びは減っていると感じている。休み時間や昼休みは、たった10分でも外へ遊びに出ているが、それは友だちがいるからである。子どもの本質は変わっていない。変わったのは環境で、塾やスポ少などで自由な時間が制限されている。



◎これまで反対意見がクローズアップされていて、再編自体に反対が多いと思っていたが、学校再編に対して寄り添う意見があり、反対ばかりではないと感じた。すべての意見を取り入れるのは難しい。市外出身の方が、大野の良いところや再編ですべきことをはっきり言ってくれている。このような意見がこれまで入って来なかった。部活については、市が教育の一環として割り切るのであれば、中学校対抗にする必要があるのかと思う。競い合いたいのであれば、クラブチームに任せるなど、部活をどう捉えるかを示した方がいい。バスについては、下庄小の子どもも使っている。自分の子どもはぎりぎりバス通学ではないが、冬などの通学は心配で、バス通学にするためにはどのように声を上げればいいのか分からない。

⇒ ■下庄校区も広いので、通学は課題であると思う。冬になった場合は、バスを増便するなどの方法も検討する必要がある。クリアしないといけない課題はたくさんある。見直し（案）を作成した際には、抜け落ちている課題をお聞きするようにしていきたい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年7月17日発行 第10号

発行 大野市教育委員会教育総務課

〒912-0086 大野市天神町 1-1

電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110

E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月9日（火）午後7時～9時

次第 ・教育長挨拶

場 所：上庄小学校体育館

・1部 説明「大野市の教育について」

対象者：上庄小学校保護者（出席者23人）

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎今後、計画の素案を作成して説明会を行うのか。

⇒ ■その予定である。

⇒ ◎その説明会で素案に対して反対した場合、その意見を聞いてもらえるのか。

⇒ ■素案に対する意見を聞くために説明会を行う予定である。多くの皆さんに納得いただけるように、まずは皆さんの意見をたくさん聞いた上で素案を作成しようと思っている。これまで意見交換で回ってきた中で、学校再編で一番心配されていることは、通学の時間・距離に関してである。

◎小学校は小規模校で良く、中学校は1校の再編でも良いと思っている。地域から学校がなくなると過疎化が進むと思う。そこまで加味して考えてほしい。まちなかに学校を持っていくルールはないと思う。村部の学校は自然も多く、子どもたちにとっては良い環境だと思う。若い人たちが村部に残る理由にもなる。

◎移住のとき、子どもが歩ける範囲に学校があることで安心できた。移住希望者の相談では、絶対学校について聞かれる。しかし、小学校と中学校は要素が違う。中学校は部活のこともあるが、大きいコミュニティの中で成長してほしいので、小学校より先に再編を進めてほしい。小学校時代は地域で育てていきたい。

◎教育シンポジウムで、六呂師の方が六呂師小の再編について、今でも正解だったか悩んでいると言っていた。自分たちもそのような思いをしたくない。できれば小学校を残してほしい。今後、計画素案が出来たとき、もうひっくり返ることはないと思う。もし、ひっくり返したら、再編が進まなくなる。

⇒ ■みんなが納得できる方法がどこかにあると考えている。慎重に丁寧にやっていきたい。

⇒ ◎市街の人は切迫感がない。村部の子どもが市街に来ると思っている。和泉地区については、冬期間の道の危険性もあるのでよく考えてあげてほしい。

◎上庄中が別の中学校に再編された場合、校舎はどうなるのか。

⇒ ■再編された学校の跡地活用は、地区によってそれぞれである。六呂師小は民間団体が、森目小は福祉施設として活用されている。蔵生小はまだ市の施設となっている。他の市町では民間に譲渡したり、貸したりしている。地区で利用する意向があれば、それに沿った対応を検討することになる。

⇒ ◎上庄中をスクールバスの停留所として利用し、施設管理は市でやってもらう方法を意見したことがある。その際、維持管理経費が掛かるため、地区で活用方法を考えてほしいということだった。登校で各地区をバスが回る場合、最初に乗った生徒は時間が長い。

⇒ ■上庄中に集まってもらうのは1つの案と考える。もしくはバスを増便して、乗っている時間を短くする方法も考えられる。通学時間や距離をよく検討していきたい。

⇒ ◎市で廃校活用案を検討してほしい。

⇒ ■学校は避難所にもなっているので、再編後の跡地活用は検討していかないといけない。

◎子どもが減り、いずれは上庄小学校がなくなことは避けられないと思っている。良い教育を受けられれば問題ないと思っている。子どもが悪いことをした時でも受け止められる教育をしてくれればいいが、中学校1校の再

編はしてほしくない。近くにライバル校があった方が競争できる。1校だと大野で1番学力が低い者が露呈する。何をしても、大野で一番出来る者、一番出来ない者が分かってしまう。いじめにつながる場合もある。

⇒ ◎教育において順位付けをしない方向に変えられないのか。勝つためのスポーツ、勝つための勉強をしないといけないのか。

⇒ ■今の教育では、勉強できないから怒られるということはない。部活では勝利至上主義が薄れてきている。部活では、チームの総合力がなければ勝てないとともに、心技体が揃わないと勝てない。部活はそのような面を養う意味もあると思っている。

◎中学校が1校になると、県も高校を1校にするかもしれない。クラス替えができることは子どもたちにとって、気分転換にもなるし、友だちをたくさん作れる。大学などで県外へ出てしまえば帰って来ない中で、学校を再編することでどんどん帰って来ない状況にしてしまうのはどうかと思う。また、部活のために大規模の学校にしていくことに疑問を感じる。中学校1校、小学校2校には反対である。

⇒ ■どのくらいの校数を考えているか。

⇒ ◎小学校は今の校区で残して欲しい。上庄地区は小学校から中学校まで9年間同じなので、中学校では別れてもいいかなと思う。

⇒ ■上庄地区は保育園もあるので、人間関係がずっと同じである期間が長い。それは良い面も悪い面もある。

◎ずっと同じ学校で、自分は特に悪い面は感じなかった。卒業してから新しい学校なら良いが、途中で一緒になることに子どもは納得できるか。

⇒ ■途中からという場合の対応も、しっかり考えていきたい。

◎再編で一番心配したのが子どもの通学方法である。現在も家から車で送り、途中から歩いて通学している。みんなが平等な通学時間になるように計画してほしい。

⇒ ■勝原地区の子どもはタクシーで学校へ行っている。7時20分に出発して7時30分には富田小学校に到着している。スクールバスで各地区を回することで時間が掛かる場合は便数を増やしたり、少人数の場合はタクシーを利用したりするなどいろいろな方法が考えられると思う。

⇒ ◎大雪の時、特別支援学校のバスが運休し保護者が送迎する状況となった。そのため学校を何日か休んだことがある。再編でスクールバスになった場合、保護者の負担が増える状況になることを心配している。

⇒ ■共働き世帯が多いのは承知している。子育てに負担のないように考えていかなければならないと思う。

◎1、2年生の時は学校まで乗合バスで送迎してもらえたが、3年生からは徒歩通学となっている。時間が掛かるので7時前に家を出るため、6時前にはご飯を食べている。再編で学校が遠くなれば、どうなるのか不安である。小学校は地域の行事に参加して育ててもらえており、大事なことと思っている。小学校は人数が少なくても良い。中学校は部活や人間関係のことがあるので、多い人数の方が良い。中学校は1校ではなく、せめて2校だと思う。

◎複式学級でも良いと思う。上庄小で良い所は、子どもだけでなく、その保護者の顔も分かることである。悪い所は、子どもも先生も少なく、広い学校を掃除し維持していくのが大変である。再編では登下校が心配である。今は家を出るのが6時50分で集合が7時5分である。現在も、よく遅刻するのでスクールバス通学を心配している。親の送迎を必要とした場合、学校周辺が渋滞になることもある。

◎教育を考える上で夢を語っていかないといけない。子どもたちがこうあるべきだから、こうしてあげようというのが大人の責任だと思う。新しい人の出会いが自分の成長に結びついていると感じている。固定されたメンバーで上庄小、上庄中の9年間が続く中でどれだけの刺激があるのか。他の学校との交流や大きな集まりの中に参加するということで解決する場合もある。いろいろな人と交わって人間性を磨く機会を大人たちで与えてあげたい。

⇒ ■複式学級のある学校は、他の学校と積極的に交流を行っている。多くの人との交流が基本的に大切だと思っている。

◎考える力をつける環境が必要と考える。また、いろいろな体験ができることが必要。上庄は登下校で自然の四季を感じることができる。中学校は2から3校にして、出来る限り村部に配置してもらった方がいいと思う。部活は市全体で作って、練習場所へはスクールバスで送迎する方がいいと思う。

⇒ ■部活は市全体で取り組む形になっていくように思う。いろいろな種類の部活を求められても、学校だけでは不可能になっている。しかし、地域で誰が見てくれるかが問題である。

◎先般開催された青少年健全育成推進大会で発表した上庄小の児童の発表が素晴らしく感動した。自然を感じなが

ら地域の学校に通っている環境が背景にあると感じている。

◎市は学校再編を絶対必要と思っているのか。何校ぐらいが大野にとってふさわしいと現段階で考えているのか。

⇒ ■財政による適正規模は想定していない。再編校数については、多くの方々の意見を参考にしながら検討していく。市としては、子どもたちの教育を考えると学校再編は必要だと考えている。

⇒ ◎みんなが納得した形で進めていくということか。

⇒ ■全員が納得できる再編は難しいと思っているが、なるべく多くの方が納得できる形（校数、再編時期、方法など）を探していかなければならない。

◎学校がなくなると地域が疲弊するのは間違いない。市全体で考えた時に、それでいいかということになる。また、中学校と小学校で抱えている課題は違う。それぞれで考えていくべきである。

⇒ ■小学校は各地区にあり、中学校は校区が広いので、課題は違うと考えている。今、子どもは毎年 200 人ぐらい生まれており、1 年間で 5 人ずつぐらい出生数は減っている。市全体では過去 10 年間で毎年 500 人ずつ減っている。

◎再編によって、より勉強ができる環境になるのであれば行えばいいと思う。A I などの技術が進み、田舎でもなんでもできる世の中になるのであれば、逆に再編がいらないのではないかなと思う。

⇒ ■A I を扱う人間を育てていくために、学校の教育はこれからも必要であると考えている。文部科学省では、授業にも積極的にコンピュータやインターネットの技術を取り入れることとしている。現在は、子どもと先生が対面で授業をしているが、今後は離島などではテレビを使った授業が行われるのかもしれない。知識はテレビで学べるが、集団の中で人間性を築いたりすることはコンピュータでは出来ないと思う。

◎上庄は地域とのつながりを大事にしているので、それがなくなるのはどうかと思う。母校がなくなるのは寂しい。

◎2 クラスの上庄中で育ち、高校で大きい人数の所へ行ったが、不便に思ったことがない。1 クラスでクラス替えができないということは分かるが、子どもが少ないから再編することに対して「はい」とは言えない。六呂師小など再編した地域の方から、不便な所や悪い所を聞けると、保護者として再編の判断がしやすい。今、通っている中学生などからも再編に対して意見を聞いた方が良い。

⇒ ■市内の小学校 6 年生と中学校 2 年生すべてにアンケートを行っており、現在集計をしている。意見交換で一番不安に思われていることは、通学の心配である。

⇒ ◎スクールバスを利用した登校では、どこかの場所に一斉に集まるのか。

⇒ ■富田小では、各集落のポイントに集まり、スクールバスで登校している。運行ルートについては検討していくことになる。

◎上庄小の現在の人数はいい感じと思っている。自分は小学校を複式で育ったが、楽しい思い出しかない。大規模校を体験したことがないため、学級の人数が多くなった時、先生の目が届くのが心配である。子どもが一生懸命しているスポーツが上庄中の部活にないため、不びんに思っている。中学校生活で部活が占めるウエイトが大きいと思っているので、親として複雑な気持ちである。集団下校では、現在、上庄小では成り立っていない地域もある。遠くに行けば行くほど 1 人になるため、すごく不安である。また、スクールバスの場合、乗り遅れた場合どうなるのかなども心配である。

⇒ ■現在、下校では学校から家が遠くなればなるほど 1 人になる。その解決策は見出せていない。

◎人の多い所で、いろいろなコミュニケーションを養える環境が大事と思う。コンピュータなどでコミュニケーションはとれるが、相手の表情を見たり、目と目で向かいあったりすることが必要である。出来るだけ多い人数の中で教育を受けた方がいいと思っている。

⇒ ■多い人数で教育を受ける経験をいつするかだと思う。学年が 1 クラスの保護者の中には「人間関係がこじれたらどうしよう」、「6 年間ずっと一緒にいいのでしょうか」など不安に感じられる方もいた。特に低学年の保護者であった。どの段階で（小学校または中学校）複数学級があった方がいいのかは難しいところである。教員の立場では、1 学年で複数学級あった方が質の高い教育を行うことができると考えている。1 学年 1 学級だと教員 1 人がすべてをやらなければならないため、そのやり方が良いのかどうか、判



断に迷う部分がある。複数学級だと、教員同士がお互いの指導方法に対して、お互いにアドバイスできるため、教育の質は上がる。

◎部活などの問題がなければ、少人数の方が良いと思う。自分は分校から本校に移ったとき、上下の学年と遊ばなくなり、同学年のみとなった。学校が大規模になった場合、いろいろな学年の交流による、より良い人間形成を築いていくためには、かなり工夫が必要だと思う。ねらいとしている多様な交流は難しくなる。大規模になったから、より良い人間形成が出来たという事例があると納得する。文部科学省は、海外に出て日本のために活躍する人材を育てようとしている。大野は、大野のために活躍してくれる人材を育てていくことを考えればいいかと思うと、校数は減らさない方がいいと思う。

⇒ ■上庄小の規模で良い所は、1・2年、3・4年、5・6年でそれぞれ2学年で何かをやっている所である。委員会活動も4年生以上で行っている。1学年2学級以上がある学校では、このような取組みは難しい。

◎この地域にずっと生活していかないとけない。学校がなくなり人がいなくなることで、地域が疲弊することを考えると、里山を守るために草刈りをしたり、農道を整備したり、集落排水を維持したりすることが出来なくなる恐れがあり心配だ。行政サービスを効率化するために、コンパクトシティを目指すことを聞いているが、まちの将来像として本当にいいのか疑問である。先日、青少年健全育成推進大会があり、各中学校の生徒の特色が出ていてすごく良かった。中学校が1つになると、そのような人材がいなくなるのが心配だ。

⇒ ■コンパクトシティは、生活の質を維持していくために、ある程度、まちを集約していかないと経済的に維持することは難しいという考えである。経済成長する中で、便利な社会、住みやすい社会を目指してきたが、人口減少の局面を迎えて、今までの生活の質を維持していくための方法として国が示している。私たちは、どういう社会を創っていくかを決断しなければならない。

⇒ ■国が示している学級人数は40人である。福井県で示している学級人数は、小学校では1年生から4年生までは1学級最大35人である。36人になると2学級となり、1学級18人となる。5・6年生は1学級最大36人である。中学校では、中1ギャップを考慮し1年生は1学級最大30人で、2・3年生は1学級最大32人である。

◎先生の考えを尊重したい。先生たちが1学年何クラスがベター、1クラス何人がベターであるかを聞いて、その平均値に対する良い点、悪い点を知りたい。地域が廃れていくという話は、地域ごとで考えていくしかない。先生がやりがいを持って教育していただかないと子どものためにならない。そのために保護者側は支えられるような環境を作っていけたらと思う。

⇒ ■働き方改革は先生を楽させるためではなく、質の高い教育を持続させていくために取り組んでいる。

◎中学校を2校にする場合、開成・陽明校区の生徒が上庄中に来るという考え方もあるのか。

⇒ ■長所、短所を吟味し、総合的に判断していく必要がある。各学校の規模なども考慮していかなければならない。

◎学校と地域を切り離して考えていかないとけない。地域の事情は大人の事情でもある。今の子どもたちが犠牲になるのは可哀想だ。学校再編は、子どもの教育環境を中心に議論していったほしい。現状として再編は必要だと考える。市外でも学校再編の議論を進めている地域がある。

⇒ ■地域コミュニティと学校は別で考えていく必要もあるかと思っている。地域コミュニティの核となっているのは公民館である。蕨生小と富田小を再編した後、蕨生地区の里神楽を富田小に通う子どもたちが蕨生地区の子どもたちに学びながら、一緒にやっている。

◎地域が廃れないように、地域が頑張るしかないと言うが、市がそういう施策をしてこなかったから、人が出ていって帰って来ないという現状を招いている。学校再編は市全体で考える必要がある。近年、子どもに関するいろいろな事件が発生している。学校で心の教育をないがしろにしてきた。基本的な部分も教育してほしい。

⇒ ■心の教育は大事にしたい。子どもに自信をつけさせてやりたいこともその1つである。加えて、安心して通える学校に力をいれている。

■意見交換会にまちづくりもテーマに入れると焦点がぼやける。まちづくり担当部署と連携して取り組んでいきたい。

ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年7月19日発行 第11号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月11日（木）午後7時～9時15分 次第 ・教育長挨拶
場 所：小山小学校体育館 ・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：小山小学校保護者（出席者9人） ・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎小規模の小学校から大規模の中学校へ入学する子どものケアはどうか。

- ⇒ ■中学校のクラス分けの時に、小学校の担任と中学校の担任がしっかり話をし配慮しながら決めている。子どもたちは、すぐに環境に慣れ、友だちを作っている。
- ⇒ ◎中学校へ行く前のケアはないのか。
- ⇒ ■奥越の複式学級を持つ学校同士が、4年生の時に夏休みに交歓会を行い、体験活動や交流を通じて多人数での経験を積んでいる。県ではスカイプ（パソコン等を利用したインターネット電話サービス、相手の顔を見ながら話ができる）を導入し、他の子どもたちと話をしている。小規模校の課題は、クラスでの話し合いが成り立ちにくい。そこで全校での話し合いをするなどしてカバーしている。
- ⇒ ◎交歓会は一度だけなのか。
- ⇒ ■一度だけである。市の連合音楽会や連合体育大会などは、全学校が集まるので、いろいろな子どもたちと知り合う機会となっている。小山小では、有終南と一緒に勉強する機会を設けている。

◎以前の再編計画の時は絶対反対と思っていた。今年4月に子どもが開成中に入り、大規模校の中学校のイメージが変わった。競争相手がいて、仲間がいて、いろいろなことを一緒に分かち合え、切磋琢磨していくことを体験できている。担任の力や友だちの影響によると思う。そういうことがあり、再編について賛成に変わってきている。小規模校にも良さがある。中学校で積極的に授業で発言できているのは、小山小で培った力だと感じている。小山小では、子ども1人の清掃範囲は広いが、みんなモクモクと一生懸命やっている。それが当たり前だったが、開成中ではトイレ掃除を3人でやることに最初は驚いていた。また、周りの影響でトイレ掃除を一生懸命にならなくてきているみたいである。大規模の小学校で育つと、そのような純粋さが薄れるのではないかなと思う。

◎大人数のクラスでの切磋琢磨はすごく良いと思う。人間として成長させてくれる。いろいろな人の意見を聞いて、それに対して発言することは必要なことだと思う。しかし、先生の目が行き届かない。再編は必要だと思っている。出来れば、1クラスの人数を多くして欲しくない。20人までにしたい。30人のクラスだと埋もれる子がいる。小山小の子に発言力があるのは、少人数の環境で育ててもらったからだ。もし、30人のクラスになるのであっても、20人と同じケアができる方策を考えて欲しい。

- ⇒ ■開成中は、1クラスが約25人である。県の施策である「元気福井っ子笑顔プラン」により、中学校1年生は1クラス30人（法令上では40人）で、2・3年生は32人としている。小学校1年から4年生までは1クラス35人、5年から6年生までは36人としている。市では、30人以上のクラスに結の故郷教育支援員を各学校に配置して、授業中に1人1人の状況に応じて支援をしている。

◎自分は、小学校の時よりも大きい中学校に行った時の方が、いろいろな人に出会えて楽しかった。子どもは、自分の時よりも少ない人数のクラスにいたので、開成中に入學した時に、人数の多い環境になじめるかどうか不安がある。複式学級のある学校だけの取組みには、どのようなことがあるか。

- ⇒ ■4年生は、大野と勝山のへき地・複式学級のある学校が夏休みに集まって交歓会を実施している。小山小が有終南に出かけているのは全児童で取り組んでいる。これは開成中で一緒になるので事前交流を兼ねている。そこでは、小山小では出来ない体験、例えばクラブ活動（手芸クラブやスポーツクラブ、百人一首クラブなど）をしたり、多くの人数で授業を行ったりしている。
- ⇒ ◎自分が小学校高学年の時に全学校参加でスキー合宿があったが、今はないのか。
- ⇒ ■生涯学習の一環で実施したり、子ども会連合会で実施したりはしている。民間による小学生を対象とした夏休みの体験企画はいくつかある。退職した教員が小学校3年生を対象に「ふるさとクラブ」を行い、学校同士の交流を推進している。

◎自分の子どもも先日、有終南で交流をしてきて、久しぶりに保育園の時の友だちに会えて「楽しかった」と言っていた。1・2年生の時は、有終南との交流を年1回ではなく、たくさんして欲しい。複式学級は個人的には不安である。授業の半分が他の学年に使われていて、先生の教える範囲が狭まると考える。

⇒ ■複式学級は、単純に1学年に教える時間は半分となる。1・2年、3・4年・5・6年の複式は学習内容がよく似ているので教えやすいが、2・3年、4・5年などの変則的な複式では教えるのが非常に難しい面はある。そのために、支援する教員を増員している。

◎再編計画は白紙にしたのか。

⇒ ■計画はまだある。再編計画の学校数と再編時期、再編方法を見直す取組みをしている。

⇒ ◎子どもはどれぐらいまで減るのか。

⇒ ■平成27年の再編計画（素案）時のデータでは、平成元年の出生数は420人で、平成25年では227人である。令和8年から12年の間は年間143人、令和18年から22年の間は年間118人と推測している。現在は年間200人ぐらいの出生があり、1年間に5人ずつぐらい減るが、ずっと減るのではなく、下げ止まりがあると予想されている。市全体の人口は1年間に500人ずつ減っている。



◎計画の見直しでは、何クラス作る予定なのか。

⇒ ■現在は見直しの案がない状況で、皆さんから意見を聞いてから、素案を作っていく予定である。国が示す適正規模は、小学校で1学年2から3クラス、中学校で1学年4から6クラスである。平成29年1月策定の再編計画では、中学校は1学年7から8クラス、1クラス30人とし、小学校は1学年3から4クラス、1クラス35人前後と想定していた。令和8年の再編時から、子どもがさらに減っていくことを見越して計画していた。段階的に再編をすると、校歌や通学路、ランドセルなどいろいろ変わり、子どもにも保護者にも負担が掛かると考えていた。

⇒ ■1人で1学年見るのは大変である。複式学級だと2学年であり、もっと大変になる。どこが大変であるかというと、教員は相談する相手がいないことである。2学級あると学年主任がつき、教員は主任と相談しながら授業を組み立てたり、先輩教員の良い教材をもらったりすることができる。1人で悩まずに相談しながら良い教育を進めることができる。

◎新しく学校を建てた場合、税金が増えて負担が掛かると思う。途中から再編されると、体操服やランドセルなど、新しい物をすべて揃えないといけなくなり、その負担もある。

⇒ ■税金は標準税率である程度決まっており、国への申請や議会の承認が必要となる。市のすべての学校の制服は一緒である。体操服の購入は、保護者に負担が掛からないように考えていきたい。再編をする場合は、必ず準備期間を設け、いいスタートが切れるようにする。

◎再編により、新築整備による負債、廃校及び新校舎の維持管理経費が掛かる。財政を切り詰めた中で、教育が今より充実していればいいが、教育環境にしわ寄せがくるのではないかと心配している。学校再編をして教育の質が落ちたのでは意味がない。

⇒ ■新築の整備経費は、半分を国の補助金で、残り半分を借金し、数年で少しずつ返す予定としていた。学校再編で管理経費が下がった分、教育に係る予算を再編した学校に集中して手厚く配分し、良い教育を進めることが出来ると考えている。廃校となる校舎の維持管理は、活用方法にもよるが必要となる。

◎バスの運行をどのように考えているか。地区を回る順番や、バスの台数、乗車時間などが気になる。

⇒ ■アンケートでも、一番不安に思われていることは通学距離と時間である。バスの運行にはいろいろなパターンがあると思うので、しっかり考えていきたい。現在、上庄小の一部の子どもたちは乗合タクシーで、富田小の勝原地区の子どもたちはタクシーで登校している。

⇒ ◎放課後子ども教室へ行くシステムも一緒に考えてほしい。

◎このような意見交換会を1回ではなく、回数を重ねてほしい。

⇒ ■小山地区対象で意見交換会を開催するので、来ていただきたい。

◎今の小山小の教育に不満もなく、安心している。放課後子ども教室でも、地域の方にしっかり見てもらい、相談にも乗ってくれている。子どもはいろいろな人のおかげで育っていて有難い。現在のような地域の関わりのある形を残してほしい。

◎少人数の小学校に子どもが入学することに最初は不安があった。入った後、上の学年の子どもたちなどが子どもを受け入れてくれて安心した。大人しい性格の子どもが授業で積極的に発言している姿を見て嬉しく感じた。複式学級の授業を見たことがあるが、内容にもよるのだろうが、集中出来ないような雰囲気だったので、少し不安を感じた。今日はたくさん聞いてもらって嬉しかった。来なかった友人にも伝えたい。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年7月19日発行 第12号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月16日（火）午後7時～9時

次第 ・教育長挨拶

場 所：阪谷小学校体育館

・1部 説明「大野市の教育について」

対象者：阪谷小学校保護者（出席者8人）

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎以前の給食試食会の時のご飯もおかずも美味しくなかった。民間に委託しているということだが、給食を配達しているからなのか。

⇒ ■全小学校の給食は民間に委託しているが、配達ではなく業務委託であり、各学校の給食室で調理し提供している。中学校は市で調理師を雇用し、各中学校で給食を作り提供している。野菜は各地区の生産者から仕入れたりしている。

⇒ ◎学校の栄養士には、その時の給食のことを伝えた。市保育園の給食は非常に美味しい。

⇒ ■以前、学校訪問で阪谷小の給食を食べたが、その時は美味しかった。学校に伝えていきたい。大野の学校は昔から、自校式の給食で温かく美味しい給食を提供してきている。

◎学校再編におけるスクールバスの送迎はどのように考えているか。どこか1箇所に集合して送迎するのか。

⇒ ■アンケートでは、再編で不安に感じることで一番多いのが、登下校の時間や距離、スクールバスや放課後こども教室など、子育てに関係することである。スクールバスの運行計画案は現在はないが、再編計画の素案を示す時は、登下校の便数やバスの台数、運行経路も示し、意見を聞きながら進めたい。

◎学校再編はいつごろを予定しているか。早くやってほしい。子どもは複式学級にいるが、学校は勉強するだけではなく、社会性を教わる場所と考える。これから、子どもが中学、高校、社会に出たとき、人付き合いに苦労するのではないかと心配している。

⇒ ■中学校1校、小学校2校の再編計画は急ぎすぎではないかななどの意見が多かった。今年は、しっかり意見を聞くことに努め、出来る限り早く、見直しをした計画案を示していきたい。

⇒ ◎尚徳中の部活は何があるのか。部活を選択することができない環境は可哀想である。

⇒ ■再編にはいろいろな意見があり難しい。大規模な学校で社会性を身につけさせたいという方もいれば、小規模で先生の目が届く学校で子どもを育てたいという方もいる。先行再編をしようという校区もあったが、いざ、再編となると保護者全員がまとまらずに出来なかったケースもある。市の再編計画を待たずに、阪谷小保護者がまとまり、先行再編していく方法もある。

⇒ ■複式学級など児童が少ない学校での課題は、たくさんの意見交換が出来ないことである。その課題を解決するために、全校で話し合いをしたりしている。

◎学校再編を行うなら早い方がいい。再編計画策定の時と今の現状が同じであれば、じっくり進めてもいいが、大野の子どもが増加が見込めない中、運動会やクラブ活動などができない状況である。子どもがたくさんいる環境が良いと思っている。教育環境と並行して、大野の人口を増やすことも考えていかないといけない。中部縦貫自動車道の開通に合わせて、企業を誘致し労働人口を増やしていかないと、どんどん大野から人が出て行く。

⇒ ■企業誘致をした際に、人材を集められるかという懸念が今の時代はあるようだ。

◎学校を再編しないといけないのか。校区は何のためにあるのか。なぜ、自分の子どもは阪谷小しかいけないのか。登下校の送迎を保護者がやることを前提に、富田小へ行くことはできないのか。好きな学校へ行かせてもらえばいいと思う。再編が難しいのであれば、校区を撤廃すればいいのではないのか。

⇒ ■旧2町6ヶ村のエリアが今も校区に引き継がれている。

■再編の場合は、登下校などで各世帯に不公平が出ないようにしたい。校区を撤廃した場合、子どもが行きたい学校があっても、登下校で送迎出来る世帯、出来ない世帯で差が生じることになる。

- ⇒ ◎今の教育環境は良い状況ではない。阪谷小の子どもたちにも、有終西などと同じ環境を与えて欲しい。
- ⇒ ■決めるときは、スピード感を持ってやっていきたい。
- ◎スクールカウンセラーを学校に常駐してほしい。大規模校でも小規模校でも、自分から助けてと言えない子どもはいる。長期的に助けを必要とする子どもはいる。
- ⇒ ■市では、結の故郷教育相談員や支援員を常駐に近い状態で学校へ配置しサポートに入っている。
- ⇒ ◎相談員や支援員は決まった時間しかいない。突発的に助けを必要とする子どももいる。
- ◎保育園の時に、富田小へ行きたいと希望したが小学校入学前に「校区が違うから駄目だ」と言われた。今の状況は子どもにとって可哀想であり、早く再編をしてほしい。運動会でも徒競走や二人三脚などがなく競技が少ないし、チームもせめて3色あってほしい。修学旅行も人数が少なくても可哀想である。
- ⇒ ■1学級何人ぐらいがいいと思うか。
- ⇒ ◎先生が目が行き届く20人ぐらいかと思う。小学校が一気に大きくならなくても良い。富田小と阪谷小が早く一緒になってほしい。
- ◎六呂師小や森目小、蕨生小が再編した時に、市が事前交流などで子どものフォローをしてくれているが、保護者のフォローも必要である。
- ◎1クラスの人数は20から25人で良いが、1学年にクラスが複数ある方が良いと思う。クラス対抗などの競争の機会を与えたい。中学校1校、小学校1校でもいいと思っている。
- ◎小規模校と大規模校における学習面の能力の差は把握しているのか。
- ⇒ ■各学校の数値は序列化につながるため、公表していない。複式学級だから学力が低いということはない。年度によって差はあるが、大規模校だから常に学力が高いという訳ではない。どこの学校でも必要な学力をつけられるよう、大野市の教員全員が取り組んでいる。
- ⇒ ◎1人1人に先生が教えるのではなく、1人1人が失敗して気付いていく過程を阪谷の子どもは小さい時から踏んでいる。子どもの力や良さ、弱みを見ていくには、少人数でないと難しい。再編で小規模校の子どもを潰すのであれば再編をやめて欲しい。競争も大事だが、学習に向かっていく力をつけて欲しい。その子に合わせた学習や声掛けがなくなってしまうのであれば再編は怖いと思っている。
- ⇒ ■競争するために再編するのではない。学習指導要領では、主体的な学びを意識している。困難なことにも立ち向かっていける子どもの育成を大事にしている。保育園では、遊びから失敗して学びにつなげていく力を時間をかけて養っているが、その力を小学校の教員も理解し、つなげていこうとしている。
- ◎六呂師小が阪谷小に再編される時は3人だった。その時の学校の様子は可哀想だった。自分も複式学級で育ち、授業の半分が自習で半分が学習だったが、中学校に上がったとき学習の面で困ったことはなかった。何年も先の子ども的人数が推測されているのであれば、それに合わせて中学校の再編を進めて欲しい。中学校で1クラスが成り立たない状況ではどうしようもない。
- ◎再編計画がある程度決まった時、当事者である子どもの意見を聞くのか。
- ⇒ ■小学校6年生と中学校2年生にアンケートを行ったところである。小学校6年生は小学校を振り返ることができるし、中学校のことも見えるだろうとの考えである。中学校2年生は、中学校を1年間過ごしたことで、部活やクラスのことを理解できるとの考えで、対象を選んでいる。
- ◎再編には賛成であり、進めてほしい。
- 六呂師小が阪谷小に再編されたことにより、六呂師地区では地域が寂しくなった、地域に活気がなくなったという感じはあるか。
- ⇒ ◎それはある。小学校があったから地区の運動会や地域の集まりがあった。(今はない)そこで交流があり、子どもの顔や名前を把握していた。
- ⇒ ◎阪谷地区の17行政区のうち、六呂師以外の地区が六呂師小へ来れば良いと思った。阪谷地区の1つの行政区として判断されたため、阪谷小への再編となった。
- ⇒ ■再編の時、児童が3人とのことだが、再編しなければ学校として続いていたのか。
- ⇒ ◎人数が少ないため学校としての運動会はなかった。地区の運動会と一緒にやっていた。学校として続けるのは難しい状況であった。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年7月23日発行 第13号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月18日（木）午後7時～9時	次第 ・教育長挨拶
場 所：富田小学校体育館	・1部 説明「大野市の教育について」
対象者：富田小学校保護者（出席者10人）	・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎子どもは毎日学校が楽しいと言っている。再編した後、新しい学校が嫌だと言われない教育環境にしてほしい。
今の環境は自分たちの時よりも、子どもと先生・大人との距離感が近いと思う。現状の環境を出来る限り変えないようにしてほしい。
⇒ ■大人との距離感が近いのは有難い。信頼関係があるからだと思う。
⇒ ◎集団登校では、大人が結構一緒に歩いている。
- ◎富田小や尚徳中では、子どもの顔を見たら保護者の顔が浮かび、先生も学校に行くと子どもの状況を教えてくれる。大きい学校でもこのような環境が保たれるのか心配である。再編すると校区が広がり、保護者の顔が分からないため、保護者から子どもの情報を聞けない心配がある。中学校では部活を選べないので可哀想である。市全体で部活が選べるような形を考えて欲しい。他の学校の子どもと交わる機会にもなる。
⇒ ■中学校の部活は全体的に減ってきている。開成中や陽明中でも減っている。いずれは市全体で部活を行うような流れになるかもしれない。中体連では、合同チームによる出場について議論を進めているが、現在は、民間のクラブなどに助けてもらっている状況である。
⇒ ◎競技にもよるが、部活も民間のクラブもうまく行っていないと思う。競技がうまい子どもだけが民間のクラブに行くような現状である。学校と部活動の問題は別と考える。以前、文部科学省で部活動について教えてもらい、部活動の問題は学校と切り離して、地域や教育委員会で考えなければいけないと聞いた。
⇒ ◎部活が出来ないから再編するのではなく、勉強面で支障が出るから再編する方向で考え、部活動は部活動で考えないといけない。尚徳中では吹奏楽部もない。
⇒ ■みんスポクラブでは、今年から音楽（吹奏楽）も立ち上げて、有終西小で活動を行っている。中体連への中学校合同チームの参加については、県教育委員会も中体連に働きかけをしている。県内の自治体によっては、中学校の部活動の人数に支障がないところもあり、県全体での調整が難しい面もある。
- ◎学校関係経費が抑えられるから、学校を再編するのか。
⇒ ■学校の経費を抑えるために再編をするのではない。学校数が減れば経費が少し抑えられるのは事実である。教育委員会では再編が進んでも、現在の市費全体における教育費の割合を確保しながら、再編後の学校に対して重点的に予算を配分し、きめ細かな修繕を行ったり、今年度コンピュータに替えてタブレットを各小中学校に1クラス分導入するが2クラス分導入したりするなど、教育環境を充実していきたいと考えている。
⇒ ◎富田小は良い環境である。一番心配なのは、住んでいる地域に学校がなくなることによって過疎化することである。自分の地区には移住されてきた人がいるが、近くに学校があるのも理由かと思っている。学校がなかったら選んでもらえなかったかもしれない。中部縦貫自動車道が開通すれば、中京地区から移住してくる人もいと期待する。もしかしたら、子どもが増えるかもしれない。
⇒ ◎市では人口を増やす努力をしているので、小学校はもう少しこのままであって欲しい。中学校の現状は可哀想である。運動会などが寂しい。
⇒ ■再編における小学校と中学校の考え方は少し変えないといけない。移住される方は、大野の自然を求めて来られると思う。上庄地区でも農業を行いたいということで移住されたが、そこには小学校もあったから安心したとのことであった。

- ◎子どもが学校で「富田の宝」を勉強している。地元のことを勉強できるのは、地域に学校があるからだと思う。子どもも「富田って良い所やな」と言っているので、富田小はいいなと感じている。
 - ⇒ ■富田小の3年生は15人であるが、尚徳中も含めてクラスの人数について心配なことはないか。
 - ⇒ ◎1年生の時は13人と少なく驚いたが、先生の目が行き届き、他の学年とも仲が良い。学年を超えて遊べるのが良い。中学校はもう少し大きい規模の広い世界で過ごさせてやりたい。
- ◎中学校では少し競争が必要である。ずっと1学年1クラスで寂しい。
 - ⇒ ◎競争心がなくても勉強は出来ると思っている。
 - ⇒ ■競争ではなく、社会性が学べると思う。自分の立ち位置が分かる。
 - ⇒ ◎中学校での部活の選択肢があまりにも少なく可哀想である。
 - ⇒ ◎尚徳中にない部活は他の中学校の部活に行けるような方法もあればいいと思う。
 - ⇒ ■練習は認められるが、大会に出場できるかが現在課題となっている。
- ◎以前の学校説明会で中学生が「部員が少ない人数だから試合に出られた。多かったら出られなかった。」と発言していたので、小さい学校では、そういう長所もあると理解した。
 - ⇒ ■最近では、卓球やバドミントンなど団体戦以外に個人戦がある競技に人気がある。
- ◎小学校は基礎的な部分であり地域にあれば良いが、中学校は人数が少ないので、部活や競争の点から再編した方が良い。小規模の小学校は、地域の理解を得ながら、地域ごとに少しずつ再編した方が良い。
- ◎何年も先を見据えて話をしていないといけないのは分かっているが、子どもが減っていくことを前提に話をしていくのかどうかと思う。自分たちの世代が高校を卒業し、地元で一生を送るということを夢見ることが出来れば、このような状況にはならなかった。ショッピングセンターなどの民間施設は授乳室などのサービスを早い時期からしていたが、文化会館などの公共施設にはそのような機能がない。放課後子ども教室も夏季休業中は、やっていないが、児童館はやっている。(子どもを育てる環境が整っていない。)
 - ⇒ ■児童館が責任を持って預かる学年は、小学校1年生から3年生となっている。児童が多すぎて目が行き届かない状況となっている。
 - ⇒ ◎夏休み中、子どもを見る者が家にいないため悩んだ。
 - ⇒ ◎富田小の放課後子ども教室では、誰もが登録しているため人数が多くなっている。家で祖父母に見てもらうのも大事なことと思う。
 - ⇒ ■子どもにとって、児童館に1日居るのはつらいことである。午前中は家で勉強し、午後は外に遊びに行くのが子どもにとって幸せなことと思っている。社会全体で受入れを考えていくことが必要である。
 - ⇒ ◎今の子どもたちが、一生地元で過ごしてくれる社会を考えてくれると良い。
- ◎中学校へ行って友だちが増えないのが不安と自分の子どもから聞いた。自分も小中高と定期的に世界が広がり、その中で自分の居場所を作った経験があり、子どもがその経験を出来ないのが残念だ。富田小が下庄小や有終東小の分校となり、小学校の間から交流ができ、中学校で一緒に学べるような環境が良いと思っている。
- ◎大野で育っていないため、大野に対する執着心はあまりない。大きい学校で育ち、その場その場でいろいろな出会いがあり、揉まれてきた。子どもに対して、大野で暮らしてほしいという気持ちはない。大野で育ったことを大事にして、どこでもやっていける子どもに育てほしい。再編では地元のいろいろな小さいことが問題となり、全く進まなくなっている。それよりも、これから先は世界と自由につながる社会になる。大野で教育を受けたことで、どこに行っても通用し、幸せで自分らしく生きる子どもに育てほしい。
 - ⇒ ■教育委員会が子どもに「自信」をつけさせたいと思っているのは、どこに行っても通用する子どもを育てたいという意味もある。
- ◎中学校は競争できるよう、2校ぐらいあった方が良い。
- ◎まだ子どもがいなくて、これから子育てをする人たちが学校再編の議論に加わっていないのがどうかと思う。
 - ⇒ ■今後、保育所やこども園の保護者、地区の方々を対象に意見交換を行うこととしている。



◎ お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年7月25日発行 第14号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：7月23日（火）午後7時～9時30分
場 所：乾側小学校体育館
対象者：乾側小学校保護者（出席者6人）
次 第 ・教育長挨拶
・1部 説明 「大野市の教育について」
・2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎小学校に在学している保護者の意見も大事だが、学校再編で一番心配しているのは、未就学児の保護者である。なぜ、一緒に意見を聞かないのか。

⇒ ■意見交換会は、小中学校・保育所・認定こども園の保護者、各地区の方々を対象に行うこととしており、それぞれの立場で意見を聞くこととしている。

⇒ ◎未就学児の保護者と小学校の保護者では、学校再編に対してかなり意見が違う。認識が甘いのではないか。

⇒ ■未就学児の保護者と一緒に話をしていきたいと要望があれば、合同の意見交換会を開催していきたい。まずは、学校に通わせている保護者が教育環境について、どういう思いでいるかを把握したいと思っている。

⇒ ◎乾側小の内情を理解しているのではあれば、未就学児と小学校の保護者を一緒にして意見交換会をすべきであった。

◎最近、乾側地区に住んでいる人で下庄小や有終西小へ入学する子どもが多い。いつから選択制になったのか。

⇒ ■指定学校を変わるための基準がある。変更基準には、いろいろあるが、自宅から学校までの通学距離も含まれている。保護者からの申請に基づき、基準に沿って許可している。広報おのの10月号にも指定学校の基準を掲載し周知している。

⇒ ◎来年入学を予定している子どもは、いつまでに学校が決まるのか。

⇒ ■就学を予定している学校の通知（入学通知書）は毎年2月に送付している。基準は4月1日時点の住所となり、その住所がある学校に行くことになる。3月31日でも学校を変更すること

は可能である。乾側小だけでなく、他の学校においても指定学校の変更申請は提出されているが、変更基準に合わないために、学校を変更していない子どもはたくさんいる。簡単に学校を変更することはしていない。それよりも何故、保護者が学校を変更したいのかを考えないといけない。

⇒ ◎小さい学校は駄目であるという考えが未就学児の保護者にある。

⇒ ■保護者それぞれの考え方が違う。その違いを地域が認めていくこと、一緒に考えていくことが必要と思う。

◎教育委員会が理想とする教育を実現するためには、学校があまり大きすぎても駄目であると思った。自分が遠距離通学をしていたため、子どもには学校へ歩いて通わせたかった。最初は同級生が少なく不安だったが、地域との連携により、自分の意見を言える子どもに育った。

⇒ ■話す出番などは小さい学校の方がたくさんある。

⇒ ◎小さい学校では、どんなときでも自分が前に立たないといけない。それが自信につながっている。先生がきめ細かに見てくれるので学習が遅れることはない。小さすぎるのは良くないとは思っている。

⇒ ■学校再編は慎重に丁寧にやっていきたい。

◎少人数がいいのか、大人数がいいのかは分からない。友だちの数を考えた時、大きい学校の方が良いと考えたが、実際、乾側小に通わせることで良い学校であると感じた。丁寧に学習を見てもらえる。上の学年の子どもたちが世話をしてくれる。

入学時に、同じ保育園に通っていた同じ校区の友だちが下庄小へ校区変更で入学することになり、子どもが寂しそうにしていた。入学する子どもが0人になれば学校がなくなるのではないかと心配している。

出来る限り、学校を残してほしい。未就学児の保護者では、乾側小に行かないという方が多く寂しい気持ちである。

◎乾側小の教育に不満はない。1人1人が先生から見てもらっている。他の学校にはない経験やスキルを学ばせてもらっている。下庄小などの子どもが乾側小へ入れるようなパターンがあるのではないかなと思う。未就学児の保護者と在校生の保護者の意見は、平行線であると感じている。今日の意見交換会に来れなかった保護者の意見を聞く方法を考えて欲しい。

⇒ ■今後、乾側地区の方々を対象に意見交換会を行うため、来れなかった保護者の方は来ていただきたい。来れなかった保護者の方で話をしたいということであれば、再度意見交換会を開催する。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。
紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。
本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年8月21日発行 第15号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：8月5日（月）午後2時～4時

場 所：学びの里「めいりん」講堂・ランチルーム

対象者：各小中学校教職員（出席者112人）

次第 ・教育長挨拶

・1部 説明「大野市の教育について」

・2部 意見交換「大野市の教育環境について」 ※15グループに分かれて意見交換

議題①私たちが考える大野の教育について（力を入れたい教育、1学年のクラス数や1クラスの人数について、複式学級について、部活動について）

②学校再編について ③その他

※「2部 意見交換」では、出席いただいた教職員の方々に15のグループに分かれていただき、各グループで各議題に沿って意見交換を行いました。

※以下は、各グループの意見を議題ごとに分類し、集約した内容を掲載しています。

【力を入れたい教育について】

- ・思いやりを持ち、他人とうまく関わっていける。良好な人間関係を築いていける子どもを育てる。
- ・学校が安全な場所であり、誰もが安心して生活する場になるように相互を尊重する教育。
- ・学校としての特色・強みがある教育。
- ・ふるさとを愛する子どもを育てる。
- ・学力でアピール。学力向上に力を入れ、県外市外にアピール。
- ・誰がどこへ（学校）赴任しても同じ指導が提供できる環境づくり。
- ・子ども1人1人に力をつけられる教育を目指したい。
- ・自然の中で伸び伸びした教育を。
- ・子どもの心に寄り添えるような教育にしていきたい。
- ・知・徳・体の総合的な学力を養う教育。
- ・生育環境や国籍、文化などの差異を認められる生徒の育成。
- ・これからの社会で生きていける力をつける教育。
- ・どんな環境でも折れない心、人とうまくやっていくコミュニケーション力、人を思いやれる人間性。
- ・自然・交通の便・教育でアピールし、大野に住んでもらえる環境づくり。
- ・大野市の活性化に寄与するためのA I社会を生き抜く教育、20歳で起業を目指す教育。
- ・生徒同士、生徒・教員間の関わりが多くある現場。出来れば地域とも。
- ・主体的で深い学びを通して、自分で考えて行動できる子どもを育てる。
- ・大野の良さが十分に分かる人を育てる。グローバル化にも目を向けられる。
- ・子どもたちが自分の考えを出し合い、発展させていく学習ができる環境が深まる教育。
- ・多様な人間が意見を交わしながら物事を追求していく。（教育の多様性が必要）
- ・学級活動や児童会・生徒会の機能強化、児童会・生徒会主催のイベントの充実及び活性化。
- ・地域への働きかけをしながら、地域の特色や良さについて学ぶ地域教育の推進。
- ・英語教育において、小学校は表現力、中学校は表現力や文法、読解力などを育成する必要がある。
- ・プレゼン能力を高める教育が必要。そのために、基礎、基本の力の定着が必要である。



- ・個に合わせて、それぞれのペースで見てあげながら自信を深められる教育の推進。

【現在の教育環境について】

- ・中学校で免許のある専門教員がいないことは大きな問題。資料では美術、音楽、技術、家庭が取り上げられているが、それらの教科の方がむしろ必要。小学校でも音楽、体育の専門家は必要。
- ・保護者の希望に答えるのは大変である。
- ・学校の設備的なものが古くなり、費用面が心配。
- ・大規模校では教育環境が整っている。
- ・生徒同士の高め合いが不十分であるが、クラス替え等で対応が可能かも。
- ・部活動での問題（人数不足で大会等に参加が出来ない）が年々大きくなっている。
- ・教員にとって余裕が生まれてこない状況に陥っている。
- ・スクールバスは時間繰りが苦しい時がある。
- ・自校式の給食が美味しい。
- ・部活動で技術面などを指導出来る教員は良いが、出来ない教員は厳しい所がある。指導できる人が異動した場合、プレッシャーとなる部分がある。



【学校再編について】

- ・新しい施設ができることは魅力である。
- ・統合された地区で残したい行事をどうするか。
- ・送迎の駐車場が課題である。
- ・学校任せにせず、地域の資源でコミュニティ作りを考えられないか。
- ・今ある施設も有効に出来る再編。
- ・先生と子ども達の距離が近い関係が保たれた学校。
- ・個に応じたきめ細かな対応をするためには少人数が適正。
- ・学校がなくなると子どもがいなくなり、地域全体が衰退してしまう。（かつての大高移転→七間通りの衰退）
- ・再編は必要である。児童数が減少していく学校で勤務経験があるが、複式学級は良いが8人を切ると学び合いの質が低くなる。
- ・中学校でクラス数が少ないと免許外で指導する教諭がおり、生徒に専門的な指導をできない精神的なつらさがある。
- ・再編されて校数が中学校1、小学校2などとなったら子育て世代の教員はどこにも勤められない人が出てくる。（現在のルールでは親子が同じ学校にいられない）子育てで忙しいのに遠い勤務地になれば、家族が犠牲になり生活が充実しない。
- ・自尊感情を高め達成感を養うには様々な教育活動や部活も含めた諸活動が必要であり、それを支える教員の人材確保が必要。
- ・それぞれの学校でこれだけは大切にしたいものを持ち寄って再編を考える。
- ・子どもたちの目線で考えたい。小規模校はせめて中規模校に。子どもたちは多くの人と関わり合いたいはず。
- ・それぞれの学校の目に見えにくい隠れたカリキュラムに留意する。
- ・まちづくりと学校再編はセットで考えるべきである。学校再編をまちづくりの起爆剤とする。
- ・上庄地区の保育園、小学校、中学校の15年一貫教育を大野の特色とする。
- ・和泉地区で思い切ったカリキュラムを組み、今の学校になじめない児童生徒の受入などを行う。
- ・教育環境をという以前にまちづくりを考えなくては、大野は人がいなくなる。なぜ子どもが減るのか、減るから再編、再編では益々減っていく。
- ・小学校がなくなると地区はなくなる。行政区分の見直しが必要である。
- ・校舎を新築して、他市からも転入して来るほどの教育環境の現状をアップした学校を作りたい。
- ・再編するとスクールバスの運行が複雑になり対応が難しくなる。どこまで、どのような時、どのような行事まで。
- ・教員数減について明言していなかったが我々はどこへ行くのか。
- ・学校の規模ではなく、自然豊かなところに学校を置くことも検討すべき。
- ・再編後も給食は自校方式を検討すべき。
- ・校区に小学校がないというのは、住もうという人も減ることにつながっていく。

- ・理想は1地域に1学校が必要。じゃないと過疎化が止まらない。
- ・教員の数が減るのは大野にとって大きな損。今の子どもたちにとっても、将来大人になる子どもにとってもメリットは少ない。
- ・再編により児童同士の関わりが増える。
- ・中学校2、小学校4を基本に検討するべきである。
- ・学校の位置は中心市街地である必要はない。
- ・和泉小中はあまりにも遠すぎる。
- ・学校は新築しなくてよい。
- ・学校の前に市全体で若い世代を増やす手立てをしないとよい。
- ・バスルートを具体的に示し、実際何台程度必要になるのかを明らかにする必要がある。細かなルートで小さいバスも何台も配置すべきである。
- ・多くがバス通学になり遠距離になった時に、病気などで保護者の迎えが心配である。
- ・特別に支援が必要な児童生徒のクラスには支援員配置が必要。(本当は教員の増員が必要であるが)
- ・児童数が極端に少ない学校を残すことが果たして地元に求められているのか、あえて問いたい。
- ・音楽・体育・美術などの専門性のある教員を各学校に必ず配置すべき。
- ・現行の小規模校で良い教育が行われているのは当然。小規模でなくても良い教育は行われている。どちらが良いかという問題ではない。
- ・中学校は3校で、1校200人規模が良い。
- ・1校50～100人規模で学校数の維持をしてほしい。
- ・中学校は2校で和泉は別扱い。小学校は再編せずに、地域の衰退を進めないよう、地域と相談した上で決める。
- ・小学校は基本、徒歩圏内で地域にあってほしい。
- ・200～300人の学校に。
- ・不登校など様々な困難な状況に置かれても対応できる環境。そのためには教員数が適切に確保されていることが必要。
- ・子どもたちが切磋琢磨できる環境がどの程度の規模なのか、大野に合わせた考察が必要で、再編は必要である。
- ・出来るだけ通学距離は短く、バランスのとれた距離で。
- ・段階的に再編を進めて欲しい。
- ・再編時期は地域ごとの通学手段が確保できてからが良い。
- ・中学校は部活動の練習試合等を考えると2校はあった方が良い。小学校5、6校が望ましいと思う。
- ・大規模校、小規模校のそれぞれの持つ課題が違う。再編後の職員数はどうなるのか。
- ・1クラス2人担任制など子ども1人1人に細かく目配りが出来るようにして欲しい。
- ・再編後の児童生徒のケアが大切である。
- ・再編によって地域のつながりが薄くならないように地域の人々が地域の子どもを見守る、地域の行事などを伝えていくことは出来ないようにしてほしい。
- ・スクールバスであっても小学校1、2年に登下校の負担はある。
- ・教職員の数は1校、30人までが良い。多すぎるとまとまらない。先生の多忙化解消のため人員は手厚くしてほしい。
- ・中学校の再編は早期に。
- ・小規模校の意見として早く再編してほしい。
- ・大人の都合で再編でもめてる時間が長く子どもが可哀想である。
- ・中学校1校にすると魅力がなくなる。
- ・児童の安全安心を確保するための見守りボランティアの協力は今後も必要であり、公民館と連携していく必要がある。
- ・地域学習(ふるさと学習)を継続するために、公民館との連携が必要である。
- ・大野のスポーツを守るなど特色ある学校づくりが必要である。
- ・再編された後も各地域の行事、伝統が生かせる場合は必須である。
- ・再編でクラス数や教員が減るだけなら何も変わらない。教員数はそのまま手厚い指導をすることで大野の教育の魅力が高まる。
- ・スキー、クロスカントリー、駅伝など得意とする学校や文化系に力を入れる学校など特色ある学校があっても良い。
- ・子どもたちと教職員が共に安心して学び合える環境にしてほしい。



- ・教職員も子どもも学び合いに必要な人数の確保をしてほしい。
- ・中学校 2 校、小学校 3 校が良い。
- ・地域から学校がなくなることは、今後、その地域に住みたいという若い人がいなくなっていくのではないか。人口が減っている現状は分かるが何とか少しでも多く残していけないものかと思う。大野市として学校再編の前に少子化対策はどう考えているのだろう。
- ・部活動では離れた地域への配慮が必要である。
- ・スクールバス登校になったら少しでも遅刻すると多くの人に迷惑になり、通うのが苦になる場合がある。
- ・スクールバスは子どもの負担が大きく、時間の調整が大変である。
- ・中学校は全教科、専門教員が指導することが望ましい。小中学校は日々の状態をとらえての継続的な指導が大切である。よって、中学校は 2 校が適切でないか考える。開成中、陽明中の校舎を利用すれば十分と考える。
- ・学校を減らすだけでなく、義務教育学校などいろいろな発想を考えて欲しい。
- ・遠隔システムを活用すべきである。
- ・遠い地域の子どもはバスになるだろうが、遅れたりしないか心配である。
- ・学校の適正規模と今後の子どもの人数、市の財政事情などいろいろな判断材料の基に再編を考えていくことが大切である。
- ・再編は避けられないと思う。中学校が 1 校になっても各学年 300 人はいないのではないか。
- ・早めに、今、複式学級の学校が近くの学校と統合すべきと思う。
- ・すでにクラスで 1 人などの小規模校は再編を急ぐべきである。
- ・再編は議論を重ね、時間をかける必要がある。
- ・小学校と中学校の再編の時期をずらして、計画を策定してもよいのではないか。
- ・放課後に輝く子どもをどうするかが課題である。
- ・地域に 1 つは学校を残しておくべきである。
- ・中規模の学校なら専門の先生方も配置できる。
- ・大規模になることへの弊害として、子ども 1 人 1 人に役割を与えずらく埋没する可能性がある。不登校などの生徒指導上の問題がある。
- ・乾側小の低学年の複式学級が各学年 1 人の状況を見ると再編も視野に入った。しかし再編の規模までは不明。

【1 学年のクラス数と 1 クラスの人数について】

- ・小学校は 1 クラス 20 人位で学年で 40 人位（2 クラス）。
- ・学年当たり 2 クラス以上にし担任の負担軽減を図る。授業準備にかけられる時間の確保を。
- ・1 クラスの人数は 20～25 人ぐらいが望ましい。少なすぎても多様な意見交流にならないし、30 人を超えると発言する一部の児童に頼りがちになる。
- ・1 学年 2 クラス以上は設けた方がよい。複数教員で業務を分担したり、教育方針を相談し合える。これから若い先生が増えていくが 1 人で学年を担当するのは大変。
- ・児童同士で磨き合っていける人数。
- ・自分の考え、友だちとの伝え合い、多様な考えの中で考えを深められるような児童の数。
- ・30 人を超えると担任 1 人では厳しいため、1 クラス 30 名弱が良い。
- ・生徒理解、学力向上、活躍の場を考えると少人数の良さはあり、1 クラス 20 名前後が良い。
- ・小学校は 1 クラス 20 人くらい、中学校は 25 人くらいで 1 学年 3～4 クラス。
- ・多様な子どもが集まるので担任+アルファの人数がいると良い。特に小学校は必要である。
- ・中学校は 1 学級 25 人程度で、1 学年 5～7 クラスが良い。専門教員が 2 人以上いると有難い。
- ・1 学年のクラス数は複数ある方が望ましい。教員もいろいろと相談できるし、教員数が増えることで校務分掌の負担が減り、研究体制も整う。



- ・ 小学校は2～3クラスで中学校は4～5クラスが良い。
- ・ 1クラスの人数は20～30人の間でベストは24人。いろいろなグループが組めるし、体育でサッカーも出来る。
- ・ 1学年複数クラスで、1クラス20人ぐらいの方が、話し合いもでき仲間も作れる。
- ・ 高校や社会を見据えるとともに、コミュニケーション能力を育成するために中学校は2クラス以上が良い。
- ・ 1学年複数あった方が教員で学年の仕事を分担できる。教員において男と女、若手とベテランの組合せを作ることができる。
- ・ 人と人がつながる力をつけるには少人数では成り立たない。
- ・ 12から13人の少人数授業の方が1人1人のきめ細かな教育が学習面で支援できる。
- ・ 16から28人が良い。複式学級は駄目である。
- ・ 複式学級はメリットもあるが、1学年1人での学びは難しい。
- ・ クラス数と1学年の人数は時と場で違う。1人1人への支援は10人以下で良いが、話し合いをする時は20人程度が必要である。
- ・ 1クラスの人数は大きな問題ではない。
- ・ 気がかりな児童生徒に配慮するために1クラスは少人数が良い。
- ・ 保護者のニーズが多様化しており、少人数を好まれている方もいる。
- ・ 1クラスの人数は20から30人までと考える。最近、個別対応を必要と感じる子どもが増えているように思う。30人以上になるとかなり対応が厳しいと思う。20人以上というのは、行事や体育、学級集団を考えている。
- ・ 今の基準である30人より少ないのでちょうど良い。10人未満とかは未経験でちょっと分からない。
- ・ 中学校はクラス数を多くして教科の教員が多い方が良い。
- ・ 小学校は1クラスで、中学校は2クラスぐらい。
- ・ 小中学校とも1クラスだとクラス替えができず不便。3クラスより多いと学年で動きづらい。
- ・ 中学校は5から6クラスが良い。
- ・ 小学校は3クラスくらい、中学校は4クラスまで。
- ・ 小学校は2クラス以上、中学校は4クラス以上が良い。
- ・ 2クラス以上が望ましいが1クラスでも担任によっては問題ないと思う。新採用が1人では大変なので、そのようにならないように配置するなどの配慮は必要である。
- ・ 学級数が減って教員などの定数が減ることになるが、市独自の教員、講師、支援員をこれまで以上に配置してほしい。



【複式学級について】

- ・ 複式学級には支援員を配置するべきである。
- ・ 複式は学力の心配が大きくなる。個別学習も増える。
- ・ 複式が解消できるぐらい（1クラス10人以上）の環境であれば、今の大野市の教育環境はとても良い。
- ・ 複式学級は教員がついて教える時間が半分になるので単式学級が良いと思う。
- ・ 少人数のクラスは子どもの様子がよく分かりますが学び合う時の意見があまり出ない。
- ・ 複式学級は意見に広がりが出ないので解消すべきである。
- ・ 複式学級は出来ればない方が良い。子どもがリーダーを努めることで伸びる側面もあるが少なくなるとリーダーにもなれなくなる。また教員の負担が大きい。
- ・ 複式学級よりも小中一貫校を検討した方が良い。学習内容のA年度B年度採用は子どもが可哀想。

【部活について】

- ・ 部活動の適正な規模が必要。中学校2校。
- ・ 部活動は社会教育に任せて気にしない。
- ・ 部活動指導員の積極的な活用を行い、中学校教員の負担を軽減。
- ・ 中学校2校にし部活を男女で分ける。例：A中学校は男バスケ、女バレー、男卓球、女バトミントン、B中学校に女バ

スケ、男バレー、女卓球、男バドミントンなど。

- ・学社融合も含めた部活動指導の柔軟化が必要である。
- ・ある程度、子どもたちが選択できるぐらいの数があると良い。教員は2人以上の体制で。
- ・部活動は必要だが外部に任すことができる種目については、外部に任せていく。
- ・機能しなくなるので中学校の人数が少ないこと考えないといけないが部活動だけで統廃合は決められないと思う。
- ・再編で人数が増えたら、部活、金管クラブなどの指導が大変になるのでは。
- ・みんスポのような市全体で取り組める部活動にして、移動はスクールバスを利用する。
- ・部活動で選択肢の幅があまりにも少ないのは駄目である。複数校で合同でというのも移動時間の制約が出てやりにくい。
- ・大野市の中学校の枠を解いて部活動を運営するシステムを新しく作る。
- ・選べた方が良くと思うがそこまでしたいものがあれば、校区外通学をするべきで、基本は学校人数でクラブ数を決める。
- ・大野市で管理し、種目を多くする。
- ・部の数はなるべくたくさん作り、大人数だからこそ出来るものを。
- ・部活にこだわらず、校外でもやりたい活動が出来る環境が整うと良いと思う。
- ・教員以外も含んで指導者の専門性を向上し、子どもに部活動の選択の幅を広げてほしい。
- ・部活動の学校の枠を解くとともに、中体連の運営の見直しを図る。
- ・学校単位でなく地区の活動として取り組む方が良い。
- ・部活動については考えなくて良い。
- ・部活動と生徒指導はイコールではない。
- ・集団での部活が大事である。

【不登校対策について】

- ・中学校において専門教員1名、支援員3名以上の確保が必要である。
- ・不登校児童・生徒に対応できる教室環境が必要である。
- ・不登校に対応できるハードとスタッフの増員が必要である。
- ・不登校に対応できるクラスが各学年に必要。例えば通級指導クラスなど。教員も増員が必要。
- ・不登校になっている子、なりそうな子が近場だと家庭訪問が出来る。地域に根ざした支援員がいると良い。
- ・学校を残しておきながら、センター校的な所への交流はできないか。

【その他】

- ・大野市として子どもを増やす施策を。
- ・各学年にタブレット配置とかテレビ配置と言っても学年1クラスならずずっと使えるが、複数クラスなら1週間交替など決めないと使えなく、この差は大きい。
- ・自分はこの先、何年後、どこで働いているのかな。
- ・A I等の発展に追いつき対応できるまちづくりをして欲しい。A Iがあれば田舎でも出来ることはある。A Iで出来ない部分を大切に作る町や教育をしてほしい。
- ・おいしく飲める水、安心して住める環境を生かしてほしい。
- ・我が子を大野で育てさせていただきありがたく嬉しく思っている。しかし、3人とも大野に現在いない。理由は働く場が少ないからである。学校が少なくなると益々住む人が減るのではないのでしょうか。
- ・初任者が少ない分、全員が市教委の方の指導を受けられるのは有難い。
- ・去年よりも学習会や水泳教室がなくなっているので、働き方改革の流れが少しは見受けられた。

【自由意見】

※多くの教職員の方々にご参加いただき、1人1人から直接ご意見をお聞き出来ませんでしたので、同日に実施しました「将来の教育環境に関するアンケート」の問12：自由意見欄の抽出した意見を掲載いたします。

- ・学校関係者は概要が決まってからが、やらねばならないことがたくさんある。学校、地域、行政と十分な検討、



協議をして、円滑に学校をスタートさせるための時間が確保されなければならないと思う。

- ・教員の異動はどうなるのか。新しい学校の伝統はない、特色はない、地域もない、人がいない、でも子どもだけ多い、地域の協力は無いということにならないか。
- ・今日のは教員同士の意見交換会。これは組合がすべきこと。教育委員会と教員の意見交換の場を設けてほしい。
- ・児童センターの利用がしやすい、子ども園の給食化など、子育てに安心できる制度がとてもありがたい、という大野の良さをさらに発達させて、それをアピールしてはどうか。
- ・再編の理念（考え方）を定めるべきだと思います。（例）「地域を愛する人を育成するための再編」など大前提の考え方をはっきりさせた方が考えやすいのではないか。
- ・学校教育予算を増やして、職員数が減らないよう市で人を確保してほしい。
- ・若い世代が安心して住み、子どもを通わせたいと思う学校にしていきたい。
- ・学校再編は当初の計画通り進めてほしい（他の市町に比べて実行が遅い）。今、小中学校の子どもを抱える親の立場として宙ぶらりんの状態である。
- ・私は、外部から新採用で和泉に来ました。和泉での地域と深く密着した教育にとってもびっくりすると同時に、とても素晴らしいものだと感じた。この温かさがなくなってしまうといいなあと思う。
- ・小学校は地域に残してほしい。
- ・大野の良さは何か、大野の教育の良さ、特徴は何かを考えると、地域とのつながり、少人数での手厚い指導ではないかと思う。それをなくさないようにしないと、人口減少、少子化は変わらないと思う。魅力ある大野の教育を大切にしてほしい。
- ・目新しさや、よその時事・流行に惑わされず、目指すべき将来を目指してほしい。
- ・再編による教職員の定数減により、市外へ異動しなくてはいけないような状況になるべく少なくしてほしい。
- ・大野市型の教育を考え、広い視野・視点で考えていかななくてはいけないと感じた。
- ・大野市の教員（若い方々）の思い（不安）を解消してあげてほしい。教員数が減れば教育の質は下がる（落ちる）。
- ・人口減少は避けられないので、住んでもらえる努力が必要である。
- ・せめて、中学校では免許外を教える必要がないように教員を配置したり、小学校にも外国語教師を配置したりを望みます。
- ・いろいろな立場の人達から様々な意見を集められて、本当にご苦労様です。ただ、そこから、どうやってなるべくみんなが納得できるような案にしぼるのか…。
- ・市は様々な視点で考えて提案していると思う。もっと肯定的に話を聞いてはどうか。目の前の子どもたちの今はどんどん過ぎてしまっている。
- ・とにかく早く再編をやってほしい。
- ・教育環境とともに人の住みやすい町づくりが必要である。大野の人は自分が満足していれば興味をもたない？動かないような気がする。大野の全年代の全業種の人をまきこんだ議論を！

業務等でお忙しい中、ご参加いただきました教職員の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年8月28日発行 第16号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：8月22日（木）午後7時～8時20分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：亀山保育園 ・2部 意見交換
対象者：亀山保育園保護者（16人）・保育士（14人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎再編後の学校を建てる場所は決まっているのか。

⇒ ■決まっていない。中学校1校、小学校2校とする再編計画の時も、建てる場所は決まっていなかった。再編計画の見直しでは、現在の校舎を利用していくことも含まれている。現時点では、どの小中学校を残すかなどは決まっていない。

◎再編計画自体が白紙になることはないのか。

- ⇒ ■教育委員会では、学校の再編は必要であると考えている。複式学級を保有している学校の児童数が非常に少ない、また中学校では部活の選択肢が少なくなり、生徒が選べないなどの状況となっている。子どもの教育環境をある程度、整えていかなければならないと考えている。
- ⇒ ◎部活が少ないから嫌だとか、複式学級だから嫌だとかを子ども自身が思っていることなのか。大人が可哀想だと思っているのか。
- ⇒ ■意見交換会と並行して、小学校6年生と中学校2年生にアンケートを行い、子どもたちの考えを聞いているところである。

◎小中学校は、今のままの状態では駄目なのか。

⇒ ■市の人口が毎年500人ずつ減っていて、子どもも毎年5人ずつぐらい出生数が減っている。長い期間で見た場合を考えると、教育委員会としては、現状のままでは駄目であると考えている。子どもたちが社会に出てたくましく育っていける教育環境を今のうちから考えていく必要がある。

◎中学校1校、小学校2校になると範囲が広くなり、学校まで歩いていけない距離の子どもが増える。スクールバスで行くのか、保護者が送迎することになるのか。

⇒ ■再編により通学距離が長くなる子どもに対しては、スクールバスを用意することを考えている。再編計画では、スクールバスの通学時間を30分以内と考えていた。スクールバスのルートについては、それぞれの家を回るのは無理であるが、集落の出口付近などをバス停としたいと考えている。運行は、登校1便、下校2便が想定される。

⇒ ◎スクールバスは何台も出すのか。

⇒ ■再編の規模にもよるが、1校で何台も出すことになると思う。

◎学校は地域コミュニティの拠点の役目を果たしているため、高齢者から学校再編に対して、かなりの反対がある。どのように対応していくのか。また、学校は防災拠点などの役割を果たしているが、学校の地域の中での役割をどう考えているか。

⇒ ■学校が地域の活性化の役目を果たしていると思う。すでに開催した意見交換会で、再編を行った六呂師地区の方などからは、学校がなくなったことで、地区の運動会などがなくなるなど地区の集まりが減ったとか、子どもが少し遠くなったと聞いている。しかし、再編で学校がなくなった場合、学校に代わる地域を活性化させる拠点、



例えば公民館の活用など、違う方策を考えていく必要がある。まずは、子どもたちの教育環境を整えていかなければならないと考えている。防災については、現在、小中学校は避難施設に指定されており、市の防災関係部署と調整しながら再編を検討していきたい。

◎ある程度人数のいる下庄小と児童が 20 人いない乾側小では学校再編の必要性が違う。人数の少ない学校から段階的に再編していくことが難しいのであれば、校区にしばられない、住所を変えなくても保護者の希望で行きたい学校へ行けるような制度も考えてほしい。

◎再編になった場合、制服やランドセル、体操服はどうなるのか。

⇒ ■再編を行うと決まった時は、準備期間を最低 1 年は必ず設ける。その期間に、保護者だけでなく地域の方々も含めながら、学校に關係することを相談しながら決めていくこととなる。再編の対象となる子どもたちそれぞれが不利にならないようにしていきたい。

◎中学校では、夏休みにスクールバスは出ないのか？夏休みにも部活の朝練などがあると思う。

⇒ ■夏休みでも部活のためにスクールバスを運行している。小学校でも夏休みのプール開放日のためにスクールバスを運行している。

⇒ ◎再編でスクールバス通学になった場合、朝練があるとスクールバスの時間帯が合わないため、保護者が送迎しないといけなくなると思うが。

⇒ ■現在は、教員の働き方改革や子どもの体力的な部分を考慮し、朝練は原則しないこととしている。

◎再編計画の中学校 1 校、小学校 2 校とする場合、1 校の人数はどれぐらいか。

⇒ ■再編計画時の想定では、中学校 1 校で 688 人、1 学年当たり 7～8 クラス、1 クラス 25～30 人としていた。小学校は 2 校であるが、1 校で 500～600 人、1 学年 3 クラス、1 クラス 25～30 人としていた。

⇒ ◎数字を聞いて、1 校の人数が多いと感じた。小学校は 4 校ぐらいが良いと思う。中学校は子どものことを考えると 2 校あっても良いと感じる。再編の校数は変わる可能性はあるのか。

⇒ ■現在、再編の校数も含めて見直しに取り組んでおり、変わる可能性はある。

◎意見交換会に来ていない保護者に対して、アンケートなどをして意見集約をしないのか。

⇒ ■現在、意見交換会を小中学校、保育所・認定こども園、各地区で行い、同時にアンケートをとっており、他に小学校 6 年生・中学校 2 年生へのアンケート、5 月 12 日に実施した教育シンポジウムでのアンケートを行い、これらすべてをとりまとめて集計する予定である。意見交換会に参加できなかった方々で再度、意見交換会の開催の要望があれば対応させていただきたい。

◎校区の見直しは考えていないのか。

⇒ ■再編が行われることになれば、その時点で校区の見直しとなる。校区だけの見直しは再編より難しい状況と考えている。今までの再編は地域に 1 つずつ学校が残ったため、ある程度スムーズに進んだ。これからの再編は地域をまたぐ再編となり、質が違う。

◎再編を行い、いろいろな子どもたちと触れ合ったり、いろいろな先生と出会ったりして、子どもたちは学ぶことが多いと思うし、部活面でも良いことがあると思うが、中学校 1 校、小学校 2 校は少なすぎる。中学校 1 校だと、小学校でうまくいかなかった場合、中学校でも同メンバーとなり、逃げ道がなくなる。再編を行い、生徒の人数が増えた場合、教員の数はどうなるのか。

⇒ ■教員数は、基本はクラス数分、配置され、クラス数が多いと追加される。国の定数は 1 クラス 40 人であるが、福井県は独自定数で 1 クラスの人数が少ない。1 学年 1 クラスになると、いじめなどがあるとクラス替えができない難しさがある。2 クラス以上あれば、子どもにとって良い環境を整えることができる。

◎再編されると児童館も 1 つになるのか。

⇒ ■市では公共施設再編計画を定めているが、その計画では児童館を再編する予定は現在はない。村部では、放課後こども教室の体制を継続しながら、子どもを見ていくこととしている。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年9月5日発行 第17号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：8月27日（火）午後7時～8時40分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：上庄保育園 ・2部 意見交換
対象者：上庄保育園保護者（16人）・保育士（9人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎小学校と中学校では再編の意味が違ふと思っている。小学校は地域とのつながりを覚えていく時期で、中学校は自分を高めていきたいという時期だと思ふ。小学校は歩いていける範囲にあった方がいいと思っている。

⇒ ■小学校と中学校の使命は違ふと思っており、区別していく必要はあると感じている。

◎現再編計画では、地域との関わりが薄くなり、寂しくなると思ふ。地域と子どもの間を埋める代替案、公民館を使うなど、地域との関係を保っていけるような方法があればと思っている。同じ状況になっている地域の成功例があればいい。

⇒ ■竹田小は、子どもの人数が減り、再編をすることで地域コミュニティを盛り上げていった地区と思っている。小学校では複式学級などが課題であり、中学校は専門教科教員の不足や部活動の種類の不足が課題と考へている。

◎再編後の学校の跡地利用は、どのように考へているか。

⇒ ■学校は防災の避難施設に指定されている所がほとんどであるが、その主は体育館になると思ふ。地区で公民館以外に、社会的な活動をするために教室などを使いたいということであれば検討していく必要がある。現在は、学校の跡地についての具体的な活用方法はまだ決まっていない。

⇒ ◎福祉施設など、他の団体に学校を譲っていく考へはあるか。

⇒ ■そういう場合もあると思ふ。企業や団体が学校を使いたいという要望があれば検討していくことになる。

⇒ ◎防災に活用するだけでは、その施設には、常に誰かがいる状態ではないと思ふ。誰かに使ってもらう方が良く思ふ。

◎近所にスーパーもないし、バスも通らない。学校もなくなったら人がどんどん減っていくのではないか。小学校で運動会があると路上駐車であらっぱいになる。再編したら、その学校は、学校行事などで保護者の駐車場はさらになくなくなると思ふ。

◎現在でも遠い地区の子どもたちはバスを使っている。再編でさらに学校が遠くなると、通学の際に、小さい子どもは通学で時間的、体力的なことを考へると非常に無理が掛かるのではないか。

⇒ ■スクールバスの通学時間は、30分以内で考へていかなければならないと思っている。30分程度で通える学校の配置が理想かと考へている。

⇒ ◎昔の上庄地区では分校という形で学校があつた。出来るなら、分校の形で上庄小を残せないかと思っている。

◎スクールバス通学になると子どもの体力が落ちると思う。行き帰りの道草の学習など上庄だから出来る子育てがあると思う。小学校の間は少人数で学習しても良い。中学校では、大きな所でもまれて社会に出る準備をしなければならない。上庄には独自のコミュニティがあり、安心感がある。地域みんなが見てくれる中で、のびのび育って欲しいと思っている。

◎2,600 人の池田町でも学校があり、地域が成り立っている。上庄地区は4,000 人いるので小学校は残って欲しい。

◎中学校だけの再編で良いと思う。小学校は各地区にあった方が良い。中学校は部活のことを考えると人数は多い方が良く、2校ぐらいが良いと思っている。上庄中には専門の音楽の先生がいらないらしく、週1日だけ学校に来て、各学年を教えていると聞いている。

⇒ ■学力は決して5教科だけではない。音楽や美術も専門の教員に指導してもらった方が力がつくと思っている。

■1学年の学級数が減ることは、教員にとってあまり良くない。複数学級あった方が同じ学年で教員がお互い指導内容や方法を確認でき、教員の質が上がり、教育の質も上がる。

⇒ ◎1学年1クラスでも問題はないと思っている。

⇒ ■現在の池田小や池田中では、どの学年も20から30人はいると思うが、これから10年、20年先、現在の児童生徒数を維持していけるかを考えていかなければいけない。市の1年間の出生数は200人を切っている。

⇒ ◎池田地区の子どもの数は減っていない。市街地の子どもの数が減っていると思う。

◎池田は、保育園、小学校、中学校と一緒に良い所も悪い所もある。部活が寂しいということで中学校の再編は良いかなと思う。小学校は子どもが減って寂しいと思うが、市が別の面で頑張ってもらい、若い人が戻ってこれる大野になって欲しい。自分の子どもに対して、仕事がない大野に「帰っておいで」と胸を張って言えない。

⇒ ■企業誘致も頑張っている。働く場所と言えば、奥越地区は有効求人倍率は2倍である。問題なのは、自分の行きたい職場がないというミスマッチがあり、なかなか解決出来ない状況である。企業も大野に進出する場合、働き手の確保が出来るかを不安に思っている。



◎再編で教員の数はどうなるのか。子どもの人数が多くなると野放しになるので、教員の配置の充実を図るべきである。学校では勉強だけではなく、いろいろな芸術を学んだり、教員といろいろな話をしたりすることで、学校は楽しいと感じる。そのような隙間を埋める教員の配置を考えてほしい。

⇒ ■1学級に1人が基準である。学級数が増えると県の基準で教務主任（副担任）が配置される。複式学級では、教務主任が担任をするし、プラスアルファの教員も配置されない。

◎教育長や事務局長が市内のすべてのスクールバスに乗ってもらったと聞いて、とても感動している。保護者の小さい不安は尽きない。市で現場を確認してもらい、再編を進めて欲しい。もう少し時間をかけて、いろいろなことをみんなが納得できるまで話を聞いて集計して欲しい。

⇒ ■この意見交換会は、教育委員会が直接目を見て、耳で聴いて、心で感じて、しっかり考えるためにお願いしている。学校再編は慎重に丁寧に、一步一步進めていきたいと考えているが、ある時期には、再編計画の見直し案を示していかなければいけないと思っている。その時には、見直し案に対して、いろいろな意見を聞いていきたい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年9月25日発行 第18号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：9月17日（火）午後7時～8時50分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：開成こども園 ・2部 意見交換
対象者：開成こども園保護者（9人）・保育士（9人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- 有終東小の今年の夏休みの宿題がすごく少なく、この方法がうまくいったら広げていくと聞いた。宿題を少なくするメリットはあるのか。
 - ⇒ ■家庭学習の習慣が大事であると思ひている。生涯を通じて学習していく場合、勉強するのは自分である。学校は学習内容を教えるのではなく、学習の仕方を教える所と考える。高校入試や大学入試、専門的な資格を取る時は自らで勉強しないとイケない。そのようなことから、家庭学習は生涯学習の基本になっていると思う。一律に出していた宿題を個の状況に応じて出すべきではないかと今年度、校長会を通じて話をしている。有終東小の夏休みの宿題は非常に少ない訳ではない。基本の宿題はあるが、それ以外は進んでやれる子はやろうということである。自由研究は理科だけでなく、家族旅行を通じた研究などもある。有終東小の校長は、夏休みの宿題の出し方について教職員で協議して、保護者への便りの中に学習の事例を数多く挙げている。「親が宿題を手伝う」から、「親子が一緒になって学習していく」ことに変わってきている。
 - ⇒ ○有終東小の保護者には、その意図は伝わっているのか。
 - ⇒ ■校長が便りを保護者に出して説明している。
- 有終南小の夏休みの宿題は、結構多いと感じた。分厚い「夏休みの友」の他にプリントなどがあり、それを全校登校日に回収するとか、どれだけ進んでいるかの先生のチェックが入っていた。勉強が嫌にならないかと考えている。夏休みの自由研究は、1年生は強制ではなかったが自主的に出した。それが「一番楽しかった」と言っていた。子どもは何のために勉強するのか分からない。学校がもっと楽しくなるように導いて欲しい。
 - ⇒ ■夏休みだからこそ出来ることがある。絵を1つ描くにしても、授業では時間が限られているが、夏休みでは1日かけて思いっきり描ける。自分の得意なものを思いっきりやってみる機会があり、それが自信につながっていくと考えている。
- 子どもが学校でプログラミングの授業をして欲しいと言っていた。AI（人工知能）のその先にあることを見据えた教育をして欲しい。その他に、グラウンドの周りにトロッコ列車を走らせて欲しいと言っていた。
 - ⇒ ■来年度、小学校でプログラミング教育を行う予定となっている。5・6年生を中心に行い、本年度の3学期に導入予定のタブレットも使いながらの授業となる。学校によっては、パソコンクラブがあり、そのクラブで行う場合もある。まだ、教員自身がプログラミング教育の勉強段階であり、徐々に行う予定としている。この秋に、教員のプログラミング教育の研修会を行う。
 - ⇒ ■プログラミング教育と聞いて、家にパソコンがないとか、子どもはついていけるだろうかとか不安になるかもしれないが、パソコンを使ってプログラムを組むというのではなく、「ここから、あっちへ行くにはどういう行き方があるか」などの考え方を学ぶのが基本となるので、心配しないで欲しい。
- 子どもがAIに関するニュースを見て「30年後にお母さんやお父さんの今の仕事はあるの？」と聞いてきた。私たちが経験したことのない速度で世の中が変わり、将来どのようなようになるのかは、子どもには全く描けない。学校では、自分たちの時と違って、みんなで考えたり、発表したり、見学したりしている。人と連携する力、自分の意見を伝える力がすごく大事になってくる中で、小学校ではそのような機会をたくさん作ってもらっていると思う。
 - ⇒ ■AIが飛躍的に進化してくると、今の職業の在り方が大きく変わるのではないかと途中で、人工知能に勝るのは、「考え、判断し、話し合ってアイデアを出す」ことであると言われている。学校では、友だちと話をしながら、自分の考えを深めていく授業に取り組んでおり、これが生きる力になっていくと考えている。

◎学校再編では、今、どんなことをやっているのか。

⇒ ■中学校1校、小学校2校に再編していくとする学校再編計画を平成29年1月に策定したが、平成29年3月議会で再編計画を進めるための事業予算が認められなかった。その後、市長が代わり、再編計画における学校の校数、再編する時期、再編の方法の見直しを指示された。今年は、見直しの取り組みとして、5月に結の故郷教育シンポジウムを開催し、学校再編に対するディスカッションを行った。5月28日からは中学校を皮切りに意見交換を行っている。その他、小中学生に学校についてのアンケートを行い、もうすぐ集計結果を公表する予定である。来年は、意見交換会での意見やアンケート結果を基に、再編計画見直しの案を作成し、再度、その内容について皆さんから意見を聞く予定としている。

◎運動会では子どもと弁当と一緒に食べていたと思うが、今は、教室で敷物を引いて給食を食べると聞いている。いつからそうなったのか。

⇒ ■有終西小では保護者と弁当を食べている。運動会に保護者が来れないとか、友だちと一緒に食べたいなどの配慮も必要である。また、平日開催と休日開催を隔年でしている小学校もある。平日開催では給食対応が多く、雨天で運動会が順延しやすい。土日の場合は給食の対応が難しいので、弁当にしている。

⇒ ◎いろいろ事情はあると思うが、寂しいと感じた。

⇒ ■以前、有終南小の保護者からは、弁当を作るのが大変であるという声がたくさんあったため、現在の対応になっていると思う。



◎再編計画が策定された時、学校を建てる候補地は決まっていたのか。将来、家を建てる予定であり、子どもが学校に通いやすい場所などを考えてしまう。

⇒ ■場所は決まっていない。本当は今日、場所などの案を示せば良かったのだが、今年いっぱい再編計画の見直し案を作るために、いろいろな意見を聞いているので理解して欲しい。

⇒ ◎希望であるが、夏休みの宿題を各学校、各学年で統一して欲しい。例えば、有終西小だけ1年生から読書感想文が宿題となっている。

⇒ ■学年に応じた課題は必要であると考え。それぞれの学校に特色があるため、すべての学校で同じような課題(宿題)は難しい。上庄中はNIEの研究指定校になっており、新聞作りに力を入れている。

※NIE(Newspaper in Education)は、学校などで新聞を教材として活用すること。

⇒ ◎再編と両立させていくのは難しいと思うが、学校の特色を残していくのは大事であると思う。

◎夏休みの宿題を減らすばかりが良いと思わない。やらせることで、子どもにとっては多少なりとも力になっていると思うので、ある程度は必要と思う。

⇒ ■学習の基礎的な部分は、繰り返しが必要と考えている。

⇒ ◎宿題は量が減ったら減っただけしかやらないと思う。減った分の時間をどのように使うかだと思うが、家庭で対応するのは難しい。勉強が嫌にならないようにしてあげたい。

⇒ ■有終東小では、夏休みの自主的な学習の例示を30ほど挙げていた。宿題などについては市全体で検討していきたい。

◎1・2年生の時の担任と3年生の担任の力量の差がすごくあることを感じている。1学年1クラスによる1人担任はアットホームで良いと感じていた。しかし、(複数担任と違い、教育指導などで教職員同士で)協力が出来ないというデメリットがあることを聞いていて、今はそれを痛感している。保護者はどうすればいいのか困っている。指導方法は、いろいろあると思うが、これからは教え方が変わらなかつたらどうすればいいか。

⇒ ■教職員の力の差は当然あると考えている。それぞれの力を引き上げていくのが教育委員会の使命だと思っている。また、学校全体の使命だと思っている。1つの方法として、保護者は校長や教頭などの管理職に相談することも考えられる。いじめなども同じである。学校の管理職や担任、教育相談者など、みんなが知恵を出しながら、対応を考えていかなければならない。

◎帰宅後、宿題が終わってから自分の好きなことをするよう言っているが、いつもマイペースである。いつになったら宿題を自分で進んで出来るようになるのか。どう導いていけばいいのか。

⇒ ■学年によって、手をかけなければならない時期はあるが、個人差は絶対ある。いっぱい愛情をかけて損をすることはない。どこで突き放すのかではなく、子どもはいずれ親離れしていく時期がある。最初は手がかかるが、出来たことを褒めて伸ばしていくべきである。手をかけた子どもの方が中学校へ行って伸びると思っている。

⇒ ■難しいことを考えず、一緒に子どもと何かをしてあげることが必要である。一緒にテレビを見る、一緒にゲームをする、一緒に宿題をする、一緒にお風呂に入るなど、出来る限り一緒に過ごしてあげることが大切であるとは言っても、なかなか難しいですね。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月1日発行 第19号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：9月19日（木）午後7時～8時45分	次第	・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：篠座こども園		・2部 意見交換
対象者：篠座こども園保護者（16人）・保育士（13人）		

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎子育て講演を聞いて、保護者と子ども、教職員と児童、教職員と保護者、それぞれのコミュニケーションが大事であると感じた。保護者は教職員にいろいろ聞いたりしているのか。
 - ⇒ ■教職員は、保護者との距離が近くないと信頼してもらえないと思う。出来る限り、話が出来るようにPTA活動や学級懇談会なども行っている。
 - ⇒ ■保護者はいろいろな悩みを持っている。特に、自分の子どもを周りの子どもと比べてしまう場合が多い。学校では、その子どもの良さを引き出すための方法を考へている。それを家庭でも一緒にやっていくことを勧めている。学校での子どもの様子、家庭での子どもの様子をお互いに思いや願ひを聞きながら教育していくことが必要である。
- ◎発達障害の子どもが進学するに当たり、「子どもはこういう所が難しいので、こういう所を配慮してください。」など、子ども1人のために学校へお願いすることがあってもいいのか。
 - ⇒ ■教育環境で良くなっている部分は1クラスの人数である。現在、小学校1年生から4年生の1クラスの人数は最大で35人である。今は20数人の学級が多いので、1人1人をしっかり見ることが出来る。支援が必要な場合は専門の教職員もいる。また、特別支援学級1クラスの人数は8人以下となっている。加えて、教育委員会で結の故郷教育支援員も配置している。遠慮せず、相談していただければ良い。
 - ⇒ ■小中学校に配置している結の故郷教育支援員は、学校の教職員ではない。例えば、子どもが授業中にパニックになったり、友だちとトラブルになったりして教室から飛び出した場合、教育支援員が寄り添う。子どもが落ち着いたら、教室に戻したりする。発達障害の診断がある子どもについては、保護者の同意のもとで、保育所や認定こども園から小学校へ必要な支援の内容について情報が入り、出来る限りの支援をしている。小学校に入る前の年長の時だけでなく、年中の時とかにも園へ必要な支援を相談してもらえば良い。
- ◎中学校における専門の教職員の配置状況はどのようになっているのか。
 - ⇒ ■教職員の配置数は、学級数が基本となっている。開成中や陽明中は学級数が多いため、十分な教職員が配置されている。上庄中や尚徳中は1学年がほぼ1学級である。国語、社会、数学、理科、英語の教職員は配置されるが、音楽や技術、家庭などの専門の教職員は配置されていない。研修を受けた教職員が教えている。
- ◎要望として、地域と密着した教育をこれからも行い、子どもに地元の良さをもっと発信し、将来地元へ帰って来ようと思う子どもが1人でも増えると良い。また、今の若い人は結婚に価値観を見出していない人が多い。結婚することのメリットを伝える取組みをして欲しい。
 - ⇒ ■ここ10年ぐらひは、各学校でふるさと教育に力を入れている。故郷のことを知らずに大人になるのではなく、故郷の良さを知り、自分も体験することで帰って来ようとするきっかけの1つになればと考えている。
- ◎小学校に上がったとき、集落で自分の子どもが1人であるため、集団登校がどうなるのか。恐らく隣の集落と一緒にいると思っているが、隣の集落も子どもがいない状況である。
 - ⇒ ■集団登校から学ぶことは多く、大切である。学校と相談していただきたい。集落のおじいちゃんやおばあちゃんなどの見守りサポーターに甘えさせてもらうのも1つの方法である。
- ◎子どものことで心配ごとがあり学校へ電話をかけたいが何時ごろまでなら大丈夫か。
 - ⇒ ■働き方改革が推進され、現在、小学校は夜7時まで、中学校は夜8時までには学校を出るように取り組んでいる。教職員の基本の勤務時間は午前8時から午後4時30分となっている。緊急の場合は連絡してい

ただければ良い。話をしないといけない時はしないといけない。夜7時過ぎに電話をしても大丈夫である。

- ◎中学校や高校でのスマートフォンなどを利用したSNSの取扱いなどについて、市教委では何か対応をしているのか。
- ⇒ ■「ふくいスマートルール」などにより、9時以降はやらないでおきましょうなど、利用時間や利用方法などに関する指針が基本的に決められているが、実際は個人や家庭での約束事になり、十分には機能していないのが実情である。LINE（ライン）などによる誹謗中傷はあり、非常に悩ましいと考えている。
 - ⇒ ◎学校へスマホなどを持っていくことは禁止していないのか。
 - ⇒ ■基本的には持ってくることは駄目である。
 - ⇒ ◎親の立場としては、犯罪などに巻き込まれないようスマホを学校に持っていった方が安心であるが、その半面、誹謗中傷などのトラブルも起きる可能性があることを考えると心配である。
 - ⇒ ■全国的にスマホなどを持ち込んでもいい学校は増えてきている。災害の時などに連絡を取れるようにするためである。しかし基本的には学校へのスマホなどの持ち込みはしないこととなっている。小中学校ともに発達段階に合わせてSNSの啓発を行っている。またPTA連合会でも、スマホの犯罪抑止を兼ねた啓発講演会などを実施している。
- ◎再編で小学校が2校に絞られたとして、現在、各学校で行われている地域密着の授業は出来るのか。学校を絞れば絞るほど、地域密着は出来ないのではないか。
- ⇒ ■校数が少なくなればなるほど難しくなると思う。富田小と蕨生小が再編されたが、蕨生小の「子ども里神楽」を富田小の児童と一緒に学校のクラブで行っていたりする。これからは地域の伝統は学校だけで守っていくものではないと思う。地域の中で傳承していく仕組みも合わせて、再編を考えていく必要がある。
- ◎スクールバスの現状や課題、部活などの対応はどうなっているか。
- ⇒ ■阪谷小のスクールバスは登校1便（碓を7:30出発）、下校2便（学校を14:55と15:50出発）、尚徳中のスクールバスも登校1便（南六呂師を7:15出発）、下校2便（学校を17:00と18:40出発／後発が部活対応）が出ている。他にも市内には富田小に2台、開成中に1台のバスが配置されている。
 - ⇒ ■現在、部活の時間に合わせてバスの時刻を変更している。その変更時刻が保護者に正確に伝わるようにしている。
 - ⇒ ◎バスに一番先に乗る子どもの乗車時間が長くなる。小学校1年生だと体力がないので疲れてしまう。たまには、ルートを逆回りするなどは考えられないか。
 - ⇒ ■ルートについては学校で検討しているので、保護者と相談しながら対応することとなる。基本は30分以内で学校に着くように検討していきたい。再編における保護者の一番の不安は登下校であるため、十分検討していきたい。
- ◎指定校区ではない学校へ行っている子どもはいるのか。
- ⇒ ■指定学校を変更できる条件がある。広報10月号にもその内容が掲載される予定である。例えば、共働きで昼留守家庭になるなど、条件を満たした場合に学校を変更することが出来る。
 - ⇒ ◎学校を変更した場合、地域活動はどうするのか。
 - ⇒ ■夏休みのラジオ体操は、自分の住んでいる校区で仲良く行っている。
- ◎今年の有終東小の夏休みの宿題がなかったと聞いているが、これから、そのような方向になるのか。
- ⇒ ■有終東小の今年の夏休みの宿題は確かに減っている。基礎的な宿題が出され、それ以外は夏休みだからこそ出来ることをとことんやってくださいとして、校長から、保護者と一緒に出来る学習事例を30ほど挙げている。教育委員会と全学校が十分連携して、夏休みの宿題だけでなく家庭学習も含めて、これまで一律で出していたものを個に応じた宿題へと見直しを検討していくこととしている。有終東小も今回の夏休みの宿題の結果を基に検証している。
- ◎こども園を卒業して小学校1年生になると何が不安かを保護者に聞くと、「学校が終わった後、子どもを預ける場所がないから不安である」と聞く。小山地区には放課後こども教室があるが、他の地区にもあるのか。
- ⇒ ■放課後こども教室は公民館で行っており、小山、上庄、富田、阪谷、乾側の各地区にあり、午後6時まで預かっている。市街地は児童館を利用させていただくこととなる。
 - ⇒ ◎希望を出せば、誰でも利用できるのか。
 - ⇒ ■そうである。各学校の入学説明会で、児童館や放課後こども教室について説明があると思うので参考にさせていただきたい。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月2日発行 第20号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：9月24日（火）午後7時～8時35分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：誓念寺こども園 ・2部 意見交換
対象者：誓念寺こども園保護者（6人）・保育士（13人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎第1次ベビーブーム時代と今とを比較し、学校の教育や環境はどのように変わったか。

- ⇒ ■昔は40人学級だったが、現在は小学校1年生から4年生までは最大で35人学級である。ほとんどの学校では20人台の学級が多い。1クラスの人数が減り、1人1人に目が行き届きやすくなっている。中学校では1年生は最大で30人、2・3年生は32人である。また、総合的な学習の時間ができ、ふるさと学習に力を入れている。これにより、学校の垣根が低くなったと感じている。地域の方や保護者、一般の方に学校へ入っていただき、教職員と一緒に子どもを育てている。それに合わせて、子どもたちが自分たちで考え、自分たちの想いを発言していく授業に変わってきている。
- ⇒ ◎今年の有終東小の夏休みの宿題が3つ（夏休みの友、作文、ポスター、その他自由研究）しかなく驚いたが、逆にいろいろなことにチャレンジさせることが出来て良かった。校長の方針なのか。
- ⇒ ■そうである。教育委員会では、子どもには個性があり、能力の違いがあるため、夏休みの宿題も含めて、普段の家庭学習のあり方を見直していくこととしている。有終東小では夏休みに、子どもがとことん取り組んでいきたいことを保護者と一緒に楽しみながら学習していく方法を取り入れ、現在、その結果を検証している。
- ⇒ ■有終東小の校長は、自由研究の事例を30ほど挙げて保護者に説明している。
- ⇒ ◎自分の学校教育などに対する考えが30年前でストップしていて、今の子どもの教育に当てはめることが出来ないと強く思った。

◎人口減少の中で学校再編はやむをえないと考えるが、先生になりたいという人の間口が狭くなるのではないのか。大野に住まない人が増えるのではないのか。

- ⇒ ■教職員は学級数を基準に、加えて、校長や教頭、養護教諭などが配置される。中学校では、音楽や美術、技術などの専門教職員も配置されることになるが、上庄中や尚徳中、和泉中では学級数が少ないため、専門教職員が配置されない教科もある。学校再編により、総数では配置される教職員は少なくなるが、現在、本市では市外出身の教職員も配置されている。市外の学校に配置されている大野市出身の教職員もいる。教職員の配置数や市出身の教職員の配置などを県に要望していかなければならないと考えている。
- ⇒ ◎教職員になりたいという希望者の状況はどうか。
- ⇒ ■今年は約3倍であり、毎年少なくなっている。
（この後、学校再編の平成16年からの取り組み経過を補足説明する。）

◎学校再編で、中学校1校、小学校2校に減らしていくのか。

- ⇒ ■学校数については、現在は白紙の状態である。今年1年、意見交換会などの結果を基に、学校数や再編する時期、再編の方法について来年検討していきたい。なんらかの再編は必要と考えている。
- ⇒ ◎小学校で苦手な友だちがいて、中学校で別々になれることで気が楽になったので、中学校1校はどうかと思う。スクールバス通学になることで、歩かなくなる。また、登校は良いが下校はどうなるのか。
- ⇒ ■校数が減ってもクラス数が増えれば、多少は解消できるという考えもある。スクールバスの通学では、家の前での乗車ではなく、集合場所まで歩いてきてもらうことになると思う。歩く必要性も念頭に入れながら、バスルートなどを検討していきたい。下校は低学年と高学年に分けて2便を出せるようにしたい。学校が終わったら、児童館や放課後子ども教室への送迎を考えている。
- ⇒ ■意見交換会時の意見やアンケートにおいて、再編の不安事項で最も多いのが登下校に関することである。

慎重に考えていきたい。

◎ 周りから「あの学校は荒れている」、「放課後子ども教室でトラブルがある」などの噂が入り不安である。

⇒ ■ 小学校はこども園と比べて、保護者同士のつながりが薄いのではないかとされている。小学校にはPTA活動があり、懇談会や行事を行っているため、積極的に参加いただき保護者同士のつながりを深めて欲しい。心配な点については、どの小学校でも、いじめを対象とした保護者宛のアンケートを行っている。その時に、不安なことなどを書いて欲しい。また、学校公開日を設けているため、参加をいただき、担任や校長・教頭などと話をし不安を取り除いていただきたい。

⇒ ◎ 小学校のPTA役員の仕事は、こども園と同じ感じか。

⇒ ■ 学校の規模によって役員数などは違う。学年行事や懇談会を学年委員が行っている。

⇒ ◎ 児童館へ子どもが行っており、いじめなどに遭わないか心配していたが、子ども同士のコミュニティがあり、自浄作用が起き、自然とバランスが取れていくようになる。

⇒ ◎ そのようなトラブルで、児童館などに行かなくなる子どもはいるのか。

⇒ ◎ 子どもに任せていた。

⇒ ■ 児童館などは途中で辞めることは出来る。児童館に預けるから学校が関与しないということではない。学校も児童館と連携を取りながら、いじめなどの対応をしている。

◎ 不登校の子どもがすごく増えていると思うが、学校はどのように対応しているか。中学校では昔、部活に必ず入らなければならなかったが、今は校外のクラブでも大丈夫と聞いている。

⇒ ■ 国では、暴力やいじめは問題行動であるが、不登校はそうではないとしている。不登校の防止体制では、青少年教育センターにスクールソーシャルワーカーと臨床心理士という専門職員を1名ずつ配置している。学校には教育相談員がいる。この3人が協力しながら、対応をしている。学校では常に子どもに目や声を掛けながら未然防止に取り組んでいるが不登校になった時、無理に学校へ行かせるようなことは現在していない。学校に行くことだけでなく、社会に出たときに目標を持てるような自立支援を意識したサポートを行っている。また、青少年教育センターでは勉強を教えたり、相談を受けたりする教職員のOBなどがいて、不登校の子どもが次のステップに進める居場所を作っている。

⇒ ■ 部活動では、学校の種目が限られているため、サッカーやスイミング、トランポリンなど自分がやりたい種目に集中できるよう、校外のクラブにも範囲を広げている。

⇒ ◎ なぜ、不登校になるのか。

⇒ ■ 主な要因は2つである。1つは勉強についていけなくなる学力に対する不安である。もう1つは友だち関係である。

⇒ ◎ 教職員は、不登校になりそうな子どもが分かるのか。

⇒ ■ 1つの目安として、小学校で不登校が長期化する子は年間で5日間以上、学校を休んでいる場合が多い。定期的に休む子は注意している。中学校で不登校になる子の約8割が、小学校で定期的に休んでいる。理由が分からないまま不登校になる子も何人かいる。

⇒ ◎ そういう時、保護者はどうしたらいいのか。

⇒ ■ 青少年教育センターに配置している臨床心理士は、子どもと相談するだけではなく、保護者や教職員の相談を受けることが多い。突然、不登校になる子の主な原因は家庭環境にあることが多い。ずっとこらえていたものが思春期に爆発し、不登校になった子もいる。不登校の要因は子どもによって違うため、その子にあった適切な対応を慎重にしていけることが大事になる。



◎ 発達障害の子どもを学校はどこまで受け入れるのか。近年、発達障害という言葉が使われるようになり、細かく分類されている。学習についていけないから発達障害となるのか。

⇒ ■ 昔は、落ち着きがない子は、親のしつけが悪いなどされていた。よく考えると、それは発達障害だったのかもしれない。発達障害にはいろいろな種類がある。学校では慎重に子どもの様子を見ながら、学校に配置されている特別支援コーディネーターが保護者とよく話をしながら、発達障害の恐れがある場合は病院での診察を進めている。その診断結果を受けて、その子に応じた教育を行っている。

⇒ ■ 大野の学校には結の故郷教育支援員を配置し、子どもに寄り添いながら、学習のサポートをしている。

◎ 意見を言えるこのような機会は有難い。学校再編については、十分に住民の意見を聞いていただきたい。



お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年10月3日発行 第21号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：9月26日（木）午後7時～8時40分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：誓念寺中野こども園 ・2部 意見交換
対象者：誓念寺中野こども園保護者（4人）・保育士（18人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎まだ子どもが3歳で小さく、また家庭の事情で小学校入学時に大野にいるかどうか分からないため、学校再編を自分事として感じていない。
- ◎市外から引越ししてきたばかりで現状がよく分かっていない。周囲の人も学校再編について敏感でない感じである。他の人が再編についてどのように考えているか、真剣に考えているのか心配である。登校で、親が車で集合場所まで送迎し、そこから学校へ行っていると聞いたが、毎朝そのようにしなければならないのか。
⇒ ■基本は集団登校となっている。その良さは1人で歩くより、集団の方が車が気付きやすい。また、高学年が1年生の時の経験を基に、ゆっくり歩くなど低学年の面倒を見るという学びが出来ている。下校は、昔は個々だったが、大阪の事件を受け集団下校に変わっている。児童数が減ってきており、1地区で集団を組めないため、地区を合わせて集団登校する場合もある。集団登校については、学校で責任を持って登校の方法を検討する。1月下旬頃に行われる入学説明会の時に、相談いただければと思う。
- ◎子どもが病弱で特別支援学級で個別対応を受け助かっている。再編された場合、現在の特別支援学級のような人数で対応してもらえるのか。
⇒ ■特別支援学級1クラスの人数は最大8人となっている。（9人になれば2クラスに）障害の種別でクラス編成をしている。また、個々に応じて市が支援員を特別につける場合もある。普通学級には、結の故郷教育支援員や相談員を配置している。再編を行っても同様の支援をしていく。県でも障害を持った児童への支援をしっかりと行っていく方針を出している。
- ◎県外から転入してきたばかりだが、どういう理由で学校再編に至ったのか。どういう理由で見直しになったのか。
⇒ ■平成16年から再編は始まっているが、その理由は子どもの数が減ってきたためである。昔の有終南小は1学年に200人（40人学級、5クラス）いたが、現在は市全体の出生数が200人となっている。学校の小規模化が進んだため、ある程度の規模で学校教育を受けさせたいという考えである。（平成16年度から今年度までの再編の取組み経過を説明）
平成29年1月に策定した学校再編計画については、昨年就任した市長の公約通り、学校の校数、再編時期、再編方法を見直すこととしており、今年から、教育シンポジウムや意見交換会など、多くの方々から意見を聞く取り組みを進めている。来年度は、見直し案の検討を行い、その案を皆さんに説明させていただく予定である。
⇒ ◎教育委員会では、ある程度の数にまとめた方がいいという考えなのか。
⇒ ■一定規模の学校が必要だと思っている。どのくらいの規模が適正かなどを意見交換で聞いている状況である。（各小中学校の学級数、中学校の部活動や専門教職員の配置状況を説明）
- ◎小規模の小学校に子どもが在学しているが、入学するとき不安は1つもなかった。子どもも学校へ行きたくない

という日は1日もなかった。小学校で大事に丁寧に育てられてきた分、中学校での生活を心配している。中学校の文化祭を見たが、大きさとたくさんの生徒に圧倒された。現在の小学校で再編の話があった時は、教育上、少人数では難しいのかと感じた。地域でも再編に対して意見が割れてしまい、再編は早い段階で決められれば、みんなが不安になることはないと思った。

⇒ ■自分の子どもも小規模の小学校から大規模の中学校に入学し不安だったが、大丈夫だった。子どもからは「楽やわ、自分と相性の合う子とあればいいから」と言われた。また、中学校では、それまで経験していなかったバスケットボールを始め、3年間続けた。親は心配したが、子どもは大丈夫だと感じた。再編については、教育委員会が様々なことを考え、しっかり決めていかなければならないと感じている。

◎自分は小学生の時、再編を体験している。小規模の小学校から大規模の中学校に入学するとき、非常に不安だった。すごく中学校が大きく見えたが、入学後、いろいろな世界を見せてもらい、一番輝けたと思っている。

◎今日は、学校のことがよく分からなくて参加させてもらった。

◎子どもは成人しているが、結婚はしていなく孫もいないため、再編を自分事と感じていない。幼児教育と小学校教育の相互理解が必要と考えている。小学校の先生もこども園に足を運んでいただき、遊びの中の学びや感動を見ていただきたい。遊びが小学校の学習につながっていることを感じて欲しい。

⇒ ■幼・保・小・中の連続的な流れは必要である。つながっていることを教職員に伝えていきたい。



◎小学校が2校になると、市の中心部に学校が建てられると思い、村部は過疎化すると思った。村部は人が少なくなるという不安感があり、寂しいと感じた。

⇒ ■地域のこと、子どものこと、それぞれを考えると視点が違うため難しい課題であると考えている。

◎こども園の卒園児のことを思うと再編は常に気になっている。卒園児が小学校などで活躍しているとすごく嬉しい。幼・保・小の連携はさらに一歩踏み込んで進めて欲しい。

⇒ ■幼・保・小・中の連携は絶対必要である。国も連携を進めている。

◎子どもは小学校入学前に、学校への体験などがある。保護者も入学前にそういう場（体験）があれば安心すると思う。

⇒ ■小学校には学校開放日というのがあるが、未就学児の保護者も参加できれば、学校を実際に見て、感じてもらえ不安が解消されると思うので考えていきたい。

◎学校とこども園の交流ということで、普段の保育士の様子を教職員に見ていただく日があっても良いかと思う。季節ごとに遊びや学びごとは変わる。

⇒ ■逆に、保育士が小学校を見ていただく日があっても良いと思う。

⇒ ◎保育士と教職員が行き来する日があっても良い。教える者同士のやりとりが出来ていないと駄目である。

◎生まれは市外である。そこでは中学校1校（1学年8クラス）、小学校3校（1学年5クラス）であった。大野に来たとき、小中学校が多いと感じた。大規模の方が子どもは刺激があって楽しいのではないかなと思うが、今と昔の子どもは違うと思う。手を掛けた方がいいと感じている。再編により、子どもに目が行き届かなくなるのではないかと心配している。

⇒ ■子どものために、どういう形がいいのかをしっかりと考えていきたい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月4日発行 第22号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、出席しました「わく湧くお届け講座」の結果概要について、お知らせします。

主催：菖蒲池結サロン 開催内容：わく湧くお届け講座（小中学校再編計画について）
開催日：8月25日（日）午前9時30分～11時 場所：菖蒲池結和館
出席者：菖蒲池結サロン会員（15人）、教育委員会（2人）
説明内容：（1）教育長の願ひ、（2）学校再編の取組みの経過、（3）学校再編計画の内容、（4）大野市の学校施設の現状、（5）大野市の学校教育の現状

※以下は、「質疑応答」の主な内容です。

※菖蒲池結サロン会員からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎議員が再編計画に反対していた理由は何か。

⇒■議員だけでなく市民の方も考えていたことではないかと思うが、再編計画（素案）の時よりも学校数が減っていたことと、再編が急すぎるというのが大きな理由と思っている。

⇒◎私たちの時は人口が増える一方だった。だから学校も増やした。人口減少は初めての経験である。スクールバスを手配してもらうなどをしてもらえば再編には賛成である。

◎学校単位で公民館があると思うが、再編されるとその構成（配置）も変わるのか。

⇒■これまでは各地区に学校を残しながらの再編であったが、これからは地区をまたいでの学校再編になると思う。地区ごとに公民館は残ると思うので、今後は公民館を核としてのまちづくりが進めていけたらと思っている。

◎市は子ども中心にまちづくりを考えているが、大人を中心にしたまちを作り、こどもを育てることを考えるべきである。

◎小学校5・6年生で英語を教えると説明があったが、アメリカに行って仕事をしなさいと言っているようなものではないか。

◎全校舎の耐用年数はどうなっているか。

⇒■耐用年数は約50年と判断している。現在、各校舎の状況について調査を行っている状況である。結果を踏まえて再編計画に反映していきたいと考えている。

◎複数学級が望ましいと思うが、大野市では1学年1クラスで良い。複式学級は子どものために避けて欲しい。

⇒■市内には複式学級の小学校は4校ある。子どもにとって複式学級で十分な教育を受けられるかという疑問である。複数学級は、クラスでいじめなどがあつた場合などクラス替えが出来るなどの利点がある。

◎再編計画を実施すると誰に負担が掛かると思うか。家族全員に負担が掛かるのではないか。子どもだけの負担ではない。そのようなことも考えて、計画を立てて欲しい。保護者の意見を聞くべきである。中学校1校、小学校2校にしていくと大野市は発展していかない。

⇒■現在、小中学校や保育所、認定こども園の保護者と意見交換会をしながら、意見を聞いているところである。その意見を十分に参考しながら、計画の見直しを検討していきたいと考えている。

◎1クラスにある程度の人数がいないと、子どもは、社会に出た時にカルチャーショックを受けやすいのではないか。子どもの時から、ある程度の人数の中での競争は必要であると考え。

⇒■福井県は国の基準より1クラスの人数を抑えた基準にしている。教員も1クラスの人数が多いと目が行き届きにくくなる場合もある。このような状況も考慮し、検討していきたい。

お忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本たよりは、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月4日発行 第23号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまで一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、出席しました「まちづくり懇談会」の結果概要について、お知らせします。

主催：大野地区第1地区区長会

開催内容：まちづくり懇談会（小中学校再編計画について）

開催日：9月27日（金）午後7時～8時35分 場 所：秋葉集会所

出席者：大野地区第1地区区民（50人）、教育委員会（4人）

説明内容：（1）教育長の願ひ、（2）学校再編の取組みの経過、（3）学校再編計画の内容など

※以下は、「まちづくり懇談会」の主な概要です。

※区民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

（1）開会挨拶（大野地区第1地区区長会会長）

本日は、学校再編を主題にして、まちづくり懇談会を開催した。学校再編について、忌憚のない意見ををしていただきたい。

（2）教育長挨拶

平成29年1月に教育委員会で策定した小中学校再編計画については、学校の校数や再編する時期、再編後の学校を新築にするかどうかの方法を見直しすることとしている。そのための取組みとして、今年は、5月に「教育シンポジウム」を開催し、その後、小中学校や保育所・こども園・各地区にて「教育環境に関する意見交換会」を順次行っている。また、小中学生にも学校についてのアンケートを行っている。教育については、ある程度の規模が必要と考えており、何らかの形で学校を再編していかなければならないと考えている。

（3）説明概要

- ・教育長の願ひ、目指している教育について
- ・平成16年度から今年度までにおける学校再編の取組みの経過について
- ・平成29年1月に策定した小中学校再編計画の概要について
- ・事前質問に対する回答について

（4）説明後の質疑応答

- ◎なぜ、再編をするのか。情報公開で公開文書を黒塗りにしたのはなぜか。統廃合すると教育環境は良くなるのか。
- ⇒■子どもたちが社会生活を営んでいく上で、ある程度の大きさの集団は必要である。これからの時代は、自分の考えをしっかりとって行動する、周りの人と話し合って結論を出していく、このような力がプラスで求められる社会となる。そのため、教育において、ある一定程度の集団が必要だと考えている。公開文書を黒くしていたのは、学校教育審議会の委員がどのような意見を言っていたのかが公になると、その委員に迷惑が掛かるのではないかと配慮をしたからである。
- ⇒■教育環境を良くするために、再編は必要と考えている。小学校では、現在、それぞれの規模が違う。特に複式学級を持つ学校では、音楽で合唱や輪唱が出来ない、体育で団体競技が出来ない状況である。また友達も

限られた数でしか作ることが出来ない。どの子どもにも同じ教育の環境を作ってあげるべきではないかと思う。中学校では部活動の選択の幅が限られている。また、音楽や美術、技術などの専任教員がいない学校もある。このような環境を良くしていくために、再編は必要と考えている。

⇒◎部活動ができないから、人数を集めるのに統廃合をするなんて私は考えたことがない。競争するために人を集めるのか。学年が違って、兄弟でも切磋琢磨は出来る。人数を集めることで教育環境が良くなるとは理解できない。複式学級でも悪くない。普通の大人になれる。「合唱や輪唱が出来ない」は極端な例である。1人だったら独唱は出来る。統合するのが前提にあって、それに理由をこじつけているようにしか聞こえない。言いくるめようとしている感じに聞こえる。学校を建てるというが、どこに建てるのか。勝山市は、再編で中高一貫というビジョンを持っている。大野市の再編はビジョンが見えない。どこに建てて何がしたいのか。自信を持たせる、いじめをなくすということは、統廃合に関係ない。

⇒■平成29年1月の学校再編計画に学校教育ビジョンを定めていたが、勝山市のようなビジョンではない。現在、小中学校から順に意見交換会に回っているが、複式学級はそのまま良いとか、中学校を早く再編して欲しいなど様々な意見をお聞きしている。それぞれの意見を基に、再編計画の見直しを進めていくこととしている。今の意見も1つの意見としてお聞きし、良い教育環境を検討していきたい。

◎富田小に藤生や森目の子どもがスクールバスで通っている。一番早くバスに乗る子どもは何時に乗って、何時ごろに学校へ着くのか。バスに乗る時間が長くなり、学校に着く頃に子どもは疲れてしまうと考える。再編すると、現状よりも長く乗らないといけなくなり、状況が悪くなるのではないか。

⇒■今年、市内のスクールバスすべてに乗車した。富田小のバスは、最長で12～13分で学校に着いている。阪谷小では六呂師や松丸から各1台を利用し、勝原からは4人がタクシーで富田小へ、上庄小は路線バスであるジャンボタクシーを利用している。意見交換会やアンケート結果を見ると、登下校のことを一番心配されている。現在のような時間で学校へ着けると良いと思っている。通学時間については、コースやバスの台数、停留所などについて丁寧に検討していく必要があると考えている。

◎児童生徒の人数の変遷が分からない。人数が減れば統合は当たり前と思っている。中学校1校にする際の人数の変遷を説明した方が説得力がある。

⇒■再編計画時の想定人数は、中学校は平成28年の870人の生徒数が令和5年度に688人で、約200人減ると想定していた。小学校は平成28年の1,554人の児童数が令和8年度に1,153人で、約400人減ると想定していた。

⇒◎688人は1つの学校で対応できるのか。

⇒■1学年約210～250人と想定し、1学級の定数が1学年30人、2・3学年32人であるため1学年の学級数は7～8となる。小学校は、1学級の定数が1～4学年35人、5・6学年36人であるため、各学年の学級数は3～4となる。

⇒◎8学級は多い。マンモス校ではないか。4学級で良い。

⇒■その想定人数から10年後はさらに減り、中学校では500人を切っていく推計となっていたため、このような計画となった。

⇒◎子どもの数の推移を見て納得した。配付資料に推移データを掲載し説明した方が良いと思う。



◎県内では、高志高校が中高一貫を行っているが、大野市ではその考えはないのか。今、大野高校の校舎は空いている。そのスペースを利用して中高一貫を行えば、新校舎を建てなくてよくなり、無駄なお金を使わなくて済むと思う。

⇒■そういう発想もあると思う。勝山市はそのような方向性を出している。高校は県立、中学校は市立であり、調整がかなり必要ではないかと思う。仮に、開成中と大野高校を一緒にした場合、技術系の高校へ行きたい生徒はどうするかなどの課題はある。学校の形については、今後検討することとなるが、いずれにしても子ども達が行きたいと思う学校、保護者が安心して送り出せる学校、これが根本にあると思っている。

◎9月議会の一般質問で、乾側小学校が構造上問題があるということで、旧蕨生小へ移転するとのことだが、教育委員会の考えが分からない。平成16年の計画では、平成19年に乾側小を有終西小に分校に、5・6年生は有終西小へ通うとされている。

⇒■子ども達の安全安心を最優先した。平成19年の再編では地区との話がまとまらず、その後、子どもの人数がさらに減ったため、平成25年から再度再編の議論が始まり、平成29年再編計画を策定し、再編を進めようとしたが進まなかった現状がある。このような経過の中で校舎の耐震化がそのままとなった。耐震性のない校舎であるため、一刻も早く安全を確保したいとの思いである。

⇒◎なぜ近くの有終西小へ行かせないのか。旧蕨生小まで通学が大変である。

⇒■乾側小の保護者の考え方も様々である。私たちは、乾側小の保護者や未就学児の保護者、地区の方々と話し合いをしてきた。出来る限り早く、旧蕨生小から戻してあげたいと思っている。

⇒◎子どもの安全を第一に考えてやって欲しい。

◎各学校を何億もかけて耐震をしているのに、なぜ新築をしなければならないのか。なぜ後世に借金を残さないといけないのか。

⇒■平成29年1月に策定した計画では、3校とも新築としている。現在、新築することも見直しの対象となっている。新築するのか、現在の校舎を活用できないかなどを今後検討する。

⇒◎新築することになった場合にも、みんなに諮ってもらえるのか。いつの間にか新築することになったとにならないように。見直ししたけど、やっぱり元のままというのも見直しである。ごまかすのを止めて欲しい。市民が選んだ議員が納得するように議会で説明して欲しい。

⇒■検討がどのように進んでいるかなど、情報公開をしっかり行っていきたい。本日の意見結果についても班回覧で情報共有できるようにしていく。

◎具体的な案がない。何のために今日、開催したのか分からない。小学校は地域に根付いた文化や伝統が大きく関わっている。2校になった時、地域にあった文化や伝統はどうなるのか。広い目で学校再編を考えて欲しい。

⇒■今年度は、いろいろな意見を聞いて回っている。「中学校2校、小学校4校ぐらいがいいのではないか」、「今の校数のままで良い」、「再編計画のまま進めて欲しい」、「小学校と中学校の役割が違うのではないか」など様々な意見を聞いている。出来るだけ早く、具体的な案を皆さんに示し、意見を伺う予定である。



(3) 閉会挨拶（大野地区第1地区区長会副会長）

活発な意見や質問があった。市議会議員や全区長出席の元でまちづくり懇談会を開催することができた。学校再編計画はこれからの計画である。みなさんの意見をまとめていきたいので今後の協力をお願いする。

お忙しい中、ご出席いただきました区民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月8日発行 第24号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax 0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月1日（火）午後7時～8時50分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：いとよ保育園 ・2部 意見交換
対象者：いとよ保育園保護者（10人）・保育士（11人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎このような意見交換会は以前も行っていたのか。学校に問題があったから意見交換を行っているのか。昔と今で、教育環境はかなり違うのか。
 - ⇒ ■（平成16年度から30年度までの学校再編の取組みの経過を説明）平成29年度1月に策定した再編計画見直しのために、今年度は小中学校・保育所・こども園・地区の方々などから意見を聞く意見交換会を行っている。
 - ⇒ ■昔と違い、学校教育の内容が変わってきている。例えば、福井県は2年前から国より先行して、小学校5・6年生で外国語科を設定し英語教育を行っている。道徳も教科となり、以前は副読本で授業をしていたが、今は教科書を利用している。その他、総合的な学習を現在も行っている。例えば地域の方を講師として迎え、いろいろな仕事や文化、伝統を教えてもらっている。学校の垣根が低くなってきている。様々な人が学校へ入ってこられるようになり、地域全体で子どもを育てる環境になっている。
- ◎小学校のクラブ活動の状況はどうか。
 - ⇒ ■小学校4年生以上が隔週で1回活動している。自分たちのやりたいことを主に行っている。例えば、家庭クラブで縫い物や調理をしたり、スポーツクラブで運動をしたりしている。4年生から6年生までが一緒に、やりたい子どもが中心となっている。授業の中に組み込んで行っている小学校が多い。
- ◎中学校1校になると連合体育大会（現在、中学校の連合体育大会は実施していない）はどうなるのか。中学校は2校以上が良い。
 - ⇒ ■今、中学校1校、小学校2校とする再編計画はストップしている。そのような課題も含めながら、学校数を見直していきたいと考えている。
 - ⇒ ◎高校に入ってから、別の中学校の友だちを知る楽しみもある。
 - ⇒ ◎学校数について、どこでコンセンサスを図るのか。住民投票でも良いので、再編計画を決めるプロセスをしっかりとってくれた方が良い。
 - ⇒ ■何校にしていこうという案は現在はない。今年5月に実施した教育シンポジウムでのアンケートや小中学生に実施したアンケート、意見交換会で直接お聞きした意見・アンケートをすべて取りまとめて、それを基に来年度、学校数などの方向性を検討していきたいと考えている。住民投票までは考えていない。
 - ⇒ ◎これまでに、何校という意見が多いか。
 - ⇒ ■具体的な校数までは、あまり意見として出されていないが、小学校は地域にあった方が良いという意見をもらっている。中学校は専門教科の教職員の確保や部活動の選択肢を増やすという点から再編をした方が良いという意見がある。
 - ⇒ ◎市議会の承認がないと学校再編はできないのか。
 - ⇒ ■学校再編計画の策定は議会の議決を必要としない。再編計画は教育委員会で策定したが、その計画を実行していくための予算が議会で承認を得られなかったため、間接的に再編計画は認めないという意思決定が議会でなされたことになる。
 - ⇒ ◎議会はいろいろな意見を持っているため、まとまらないと思う。これからの子ども達のために真剣に考えてあげないといけないと思う。
 - ⇒ ■小学校6年生と中学校2年生全員に学校のことについてアンケートを行い、とりまとめた所である。
 - ⇒ ◎今年、意見を集めて来年再編計画が決まったとした場合、どのくらいのスピード感で再編は進むのか。
 - ⇒ ■再編が決まり、次の年に実行することは無理である。再編になった場合、学校同士の交流が必要となる。小浜市では、4つの学校を再編し1つの新しい学校になっているが、2年以上かけて事前に準備している。
- ◎子どもの数が減ってきたから学校を減らすのか。校舎が古いから学校を減らすのか。学校再編では市街地と村部との温度差があると思う。学校が新しくなっても、市街地に出来ると周りは考えている。
 - ⇒ ■一番の理由は、子どもの数が減ってきて学校の規模がどんどん小さくなってきているからである。ある程度の人数を確保した中で、教育をしてあげないといけないと考えている。

- ⇒ ◎通学時間が掛かりすぎると子どもにも負担が掛かる。
- ⇒ ■（児童生徒数の推移、各小学校の学級数、各中学校の部活数や専門教職員の配置状況を説明）子ども達にとってどんな環境がいいかを皆さんの意見を聞きながら、しっかり考えていきたいと思っている。
- ⇒ ◎先生の人数も足りていないのか。
- ⇒ ■学級数が基本となって教職員が配置される。複式学級では教務主任を担当が兼ねる。1学年の学級数が多いと担任以外の教職員が配置される。
- ◎中学校は部活が少ないから再編をしていくことは分かる。小学校の複式学級は、良くないのか。
 - ⇒ ■複式学級において、教科の学習面では支障はないと思うが、体育での団体スポーツをするときに支障が出たりする。また、これからはA Iの時代と言われ、このA Iに勝るものは人間の思考力、話し合いによって高めていく力とされている。多様な考えを聞くという場合は人数が多い方が良い。
 - ⇒ ◎話し合いなどが必要な機会の時だけ、学校同士が一緒になって出来ないのか。
 - ⇒ ■複式学級を持つ学校が、別の学校へ交流に行ったり、クラブ活動を体験したりしているが、常に出来ることではない。複式学級を持つ学校では工夫しながら教育を行っている。
- ◎放課後児童クラブは、子どもを朝何時から夕方何時まで預けることが出来るのか。中学校での携帯ルールはどうなっているか。
 - ⇒ ■放課後児童クラブは「家族全員が勤めていて、また近隣に面倒を見る人のいない、小学校に在学する昼留守家庭の児童」が対象となり、学校がある月曜日から金曜日までの下校時から午後6時まで無料で預けることが出来る。夏休みなどの長期休業期間は、月曜日から土曜日まで午前8時から午後6時まで開設していて、1日200円が掛かる。両方の利用とも申込みが必要で12月から1月まで受付をしている。就学児健康診断や学校説明会の時にも、放課後児童クラブについて説明を行う予定である。
 - ⇒ ■携帯については、小中学校とも基本は禁止である。SNSなどによるいじめは非常に見えにくい状況にある。学校はもとより市PTA連合会などでは、スマホの犯罪抑止を兼ねた啓発講演会などの研修も実施している。
- ◎自分たちの小中学校時代と状況が違うと感じた。今の教育環境は悪くないと思うが、この状況を維持するために再編するのか。
 - ⇒ ■子ども達のことを一番中心に学校を考えていきたい。今の教育環境の状態が落ちず、維持できるように頑張っていく。1学級の人数が少なくなってくると、音楽での合唱や体育でのチームプレーが出来なくなる。授業でも、子ども同士で話し合いをしたり、自己表現をしたり、グループでまとめたことを発表したりすることに変わってきており、学級の規模があまり小さいと、このような授業がしにくくなる。だから、ある程度の規模を確保していきたいと考えている。
- ◎子どもが小学校にいた時、いろいろあり、雰囲気が良くなかった。担任や校長に言っても駄目で、教育委員会に言おうとしたら、やめて欲しいと言われた。学校に何か思いを伝えたい時、意見を言える場所はあるのか。校区が決まっているので学校を選べない。様々な先生がいるが、平等に子どもを見ていただける先生にあたらなかった場合、どうすればいいか。
 - ⇒ ■管理職である校長は、昔のイメージとはかなり違ってきていると思う。今は、授業や給食を見回り、子どもと触れ合ったり、教職員の状況を見たりしている。
 - ⇒ ◎学校に疑念があった時、誰に言えばいいのか。
 - ⇒ ■教育委員会に言ってきて欲しい。
 - ⇒ ◎保護者が悪いのか、学校が悪いのか、中立的な立場で判断してくれる第3者がいると良い。保護者から見れば、担任も校長も一蓮托生である。校長は部下である教職員をかばうと思う。
 - ⇒ ■第3者的な組織については、今後勉強させて欲しいが、市には常設の組織はない。国や県では、スクールロイヤーという弁護士の導入を検討している。また、青少年教育センターへメールなどで相談することも可能である。
- ◎毎年、担任が変わっている。保護者懇談会では冷たい対応の担任もいた。
 - ⇒ ■概ね1・2年、3・4年、5・6年で担任は変わる場合がある。
 - ⇒ ◎担任が変わると学習面でも差が出来るし、落ち着きもなくなる場合がある。担任は誰が決めるのか。担任によって、子どもが本当に変わってしまう。
 - ⇒ ■担任は校長が決める。担任が変わるのには、いろいろな理由がある。校長の最終判断で決められている。ベテラン教職員と若手教職員ではどうしても差が出来る。教職員の授業力をつけるために校長会でも様々なことに取り組んでいる。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月11日発行 第25号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実に努めることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月2日（水）午後7時～9時

場所：文化会館 名水の間

対象者：大野の未来を考える会会員（9人）

※以下は、「意見交換」で会員の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

◆教育長あいさつ

学校再編については、いろいろな方々と話をし意見を伺いながら、良い形にしていきたいと思ひている。今日は、未来の学校をどのようにしていけばいいかを考える機会にさせていただければと思ひます。

再編計画を見直ししているというが、意見を聞くと、結局、平成29年1月に策定した再編計画に戻るのではないかと指摘を受けるが、結論から言えば、それはないと思ひます。市長も再編計画の見直しを公約に掲げている。教育委員会も決議しているため、原案に戻ることはないと思ひます。

しかし、私たちは何らかの方法で再編は必要であると考えている。ある程度の規模で教育を展開していく必要はある。学校数（中学校1校、小学校2校）、再編時期（令和5年度に中学校、令和8年度に小学校を再編）、再編の方法（学校を新築する）を見直ししていくこととしており、現時点ではこの3点については白紙である。

また、再編計画見直しの取組みでは、意見交換会で約40箇所を回る。意見交換会を回った、意見を聞いたという実績を作っているだけではないかと指摘される方がいる。意見交換会ではいろいろな方々と会い、いろいろな意見を聞き、私たちの想いも聞いていただく絶好の機会と考えている。これを最大限活用しながら、再編計画を作っていきたいと考えている。

情報公開については、いきなり計画を出すことは避けなければならないと考えている。どのような経緯や経過に基づいて結論に至ったかを可能な限りお知らせしながら、進めていくのが理想であると考えている。市民にいろいろな情報を伝え、一緒に考えていただくというのが市長の思いでもあり、私たちの思いでもある。丁寧に進めていきたい。

◆山本代表あいさつ

本会は、再編計画（案）が策定された時、保護者などが不安に感じる中、大野の将来を真剣に考えていかなければならないと思ひる方々で出来た。再編すべてに反対という訳ではない。最終的な形が、大野の将来に向け良い方向に進めばと思ひている。それぞれの地域の形が違ふ中で、大野にとって本当に良い形を考えなければならない。身の回りで、子どもが激減していることは感じており、今の学校の状態が長く続くとは思ひていない。慎重な形で、後悔しないような学校再編をして欲しい。

◆意見交換された主な内容（会員からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表記）

◎情報公開について、市長も教育長も大野市情報公開条例第7条第5号（行政における内部的な審議、検討又は協議が円滑に行われることを確保する観点から非公開情報と定めたもの）については、ケースによって適

切に行くと市議会で言っていた。裁判の決定では、会議が非公開であったとしても、会議終了後は非公開に当たらないとしているので、今後の情報公開はもっと踏み込んだものにして欲しい。教育委員会は情報公開制度を一から勉強するべきである。県は教育大綱を議論する総合教育会議で知事が、今までは学力向上を進めていたが、今後は児童生徒の個性を伸ばす、過疎地域の教育を充実させると言っていた。県教育大綱の指針に沿って、大野市の教育大綱も策定していかないといけない。

⇒ ■情報公開については、どのような経緯で結論に至ったかをお知らせしていく必要がある。各回の概要や決定したことを分かってもらえるように丁寧に説明していきたい。

市の教育大綱について、学力向上は今後も目指していく。個性は最も大切なものであり、今までそうであったが、より焦点を当てていきたい。例として、宿題はこれまで一律に出していたが、今後は個別に興味や関心、進み具合などを配慮した出し方を検証している。過疎地域については、自分も分校で育った。精一杯大切にしていきたい気持ちは変わらない。

◎敦賀市では、東浦小中学校が地区の求めに応じて特認校として開校する予定で、校区もはずされ、全国からも応募している。出来れば、和泉小中学校を特認校として残して欲しい。

⇒ ■先般、和泉小中学校で意見交換会を行った。参加された方の地区を想う気持ちを受け止めたし、授業などで子ども同士が十分に意見交換できない不安も聞いた。地域の中で子ども達をちゃんと育てていきたいと思いも受け取った。特認校としての方向性も考えていく必要があると思う。和泉も含めて市内のスクールバスすべてに乗りし体感した。通学などを含め1つ1つ丁寧に進めていきたい。

◎教育委員会の傍聴を毎回してきた。以前の教育委員会は公開が多かったが、今は非公開が多い。

⇒ ◎今は、会議資料もホームページで公開されている。以前は公開されていなかった。

⇒ ■資料も議事録も現在は公開している。その点では、情報公開を進めていると思っている。

⇒ ◎定例教育委員会での非公開が多いという意味である。

⇒ ■委員を選ぶ人事議案や指定校変更などは非公開としている。また、市議会の承認が必要なものは、承認を得てからホームページで公開している。情報公開は積極的に行いたいと思っているが、そのような印象をもたれていることを受け止めてさせていただく。

◎平成30年11月14日の裁判判決後の教育委員会のホームページにおいて、判決文が別紙のとおりとなっていて、公開されていない。

⇒ ■ある時点から教育委員会での提出資料も公開している。一度確認する。

⇒ ◎県議会では傍聴者にも資料を出しているもので、今後、教育委員会でもそうして欲しい。

◎今年は再編計画見直しで意見交換会を行い、次の段階では学校教育審議会を開いて協議をしていくのか。

⇒ ■なんらかの組織を設置し、検討していく必要があると考えている。

⇒ ◎学校再編に無関心な人が委員となり、多数決で決まるのではどうしようもない。意見交換会は参加者は少ないが、そこで出た意見を大切にしたい。学校再編の第一は、子どもの幸せである。学校再編すれば、地域の良い伝統や文化を衰退させる。地域の要望を大切にしたい再編の見直しであって欲しい。地域の実情を無視した形であってはならない。

⇒ ■市内の小学校6年生と中学校2年生全員にアンケートを行い、考えを聞いている。それぞれの分野の方々から意見を聞いていきたい。

◎いつごろ、計画案が出来て、いつごろ私たちに説明されるのか。

⇒ ■来年度には、なんらかの組織で検討し、計画見直し（案）の説明に回る予定としている。パブリックコメントも行うこととしている。

⇒ ◎学校教育は、人間のベースをアップさせることである。子どもの時、幸せだったと感じられるのが必要である。生涯学習で地域に立つと、そこに学校があると良いと実感している。

⇒ ◎検討する組織のメンバーで、各団体の代表にすると60～70歳の人が集まる気がする。この年齢の方々が斬新な考えが果たして出てくるのか疑問である。日中の会議では若い人は集まらない。子どもがいる方がメンバーに入らないといけない。私たちが納得するメンバーで検討して欲しい。よく区長が選ばれているが、大野について話することが出来るのか。その区長が地元に戻って区民に話をするのではない。

⇒ ■お年寄りの意見も大切であると思っている。最終的には、自分の子どもに保護者がどのような教育を受けさせたいかだと思う。その学校に保護者は自分の子どもを行かせようと思うかである。



◎教員OBである。小規模校も大規模校も経験してきた。小規模校ほど地域の人が学校を大事にする。学校がなくなると地域の人が集える場所がなくなる。小規模校だから教育ができない訳ではない。ITを使えば、お互いに意見を言い合える。中学校で好きな部活が出来ないというが、これは子どもが部活をしている保護者が言うことである。部活をしている子を持つ保護者はたくさんいるのか。働き方改革と言われ、教職員が土日を使ってまで部活をする時代ではない。中学校を1つにするのではなく、大野市で指導者を雇って、スポーツ少年団のようにやれば良い。子どもの要望に合わせられる。

⇒ ■その考えは、自分たちも思っているが、段階を踏んでやっていかないといけない。出来る所からやっていかないとと思っている。

⇒ ◎大規模校、小規模校それぞれにメリット、デメリットがある。現在の各学校は、それぞれに特徴がある。学校が1つや2つになると画一的な子どもしか出来ない。特色ある教育が出来るように学校はいくつかあった方が良い。

◎現在行っているアンケートの内容について、子どもに対して具体的な数字で問いかける内容に対し腑に落ちない。誘導しているようにしか思えない。アンケート結果は今後どうするのか。

⇒ ■小中学生のアンケート結果は市ホームページに掲載している。各学校の結果と全体の結果を出している。小中学生やその保護者、保育所や認定こども園の保護者、教職員、地区の方々など幅広くアンケートを取り、その結果を再編を検討する資料として取り扱っていく。

⇒ ◎自分もアンケートの内容に不安を感じていた。以前の教育委員会は文部科学省の適正規模人数を前面に出してきた。学校は2クラスないといけない、1学年2学級以上ないといけない、そんな必要はない。どのような状況であれ、子どもが一生懸命学習できるのが教育環境である。不足があれば学校で考えれば良い。

◎乾側小の校舎の耐震はどのように計画しているのか。計画がまとまったら、議会や市民にどのように説明するのか。

⇒ ■ 12月から旧蕨生小で授業をしてもらうこととしている。学校再編とは別に、子ども達の命を最優先に考えた結果である。計画については12月議会で示していく予定である。今、計画の方向について、地域の方や保護者と話し合っている所である。乾側小の再編や耐震化については、その時その時の方々が一生懸命考えて、今に至っていると思っている。

◎ 学校の適正規模とは、教職員の能力だと思う。10人しか見る事が出来ない人や50人を見る事が出来る人がいると思う。1つのクラスに対して、教職員が何人の子どもに目が行き届くかということだと思うので、教職員それぞれに自分がクラスを持つなら何人がいいかを聞くと良いと思った。

⇒ ■ 文部科学省の適正規模を意識してのアンケートではない。再編計画見直しの検討の中で、クラス数や1学級の人数は多くの方々から聞いておく必要があると考えた。自由記述欄の意見を大事にしていきたい。

⇒ ◎ 最終的に、中学校何校、小学校何校が良いという正解は誰も持っていない。どんな形にしても、良い所、悪い所が出てくる。地域や保護者の意見を継続して聞いていただきたい。

◎ 地域の人と話より、子どもを主体とした再編をして欲しいという意見があったが、学校の存在は地域にとって大きなことである。また、不登校や発達障害の子どもたちが行きやすい学校にならないといけないと思う。その子どもたちのためにも、地域に学校を残していくべきと考える。

⇒ ■ 今まで再編は地域に学校が1つずつ残った。これからの再編は地域を越える。その時に、子どもなのか地域なのかの議論になる。学校は誰のためにあるのかの基本を押さえておかないといけないと思う。非常に難しい問題である。

⇒ ◎ 平成16年度の再編時に、当時の教育委員会は「これで地域に学校が1つずつになった」と言った。そのための子どもの人数合わせをしていたのかと感じた。

◎ 大野の人口を増やすような、そんな子どもたちが欲しい。良い所だけを残して、少しでも長く楽しくみんなで暮らせる大野、そんな学校をどんな形で作っていくかを相談させて欲しい。自分の子どもは、小学校にいたとき、全校生徒全員の名前を知っていた。こんな素晴らしいことはない。教育委員会で、今年、いろいろな意見を聞いて、こういう教育環境が良いとどのように市民に伝えられるのか、どのようにまとめられるのか、どのように展開されるのか。

⇒ ■ 今の段階で教育環境についての方針は言えるほど整理出来ている訳ではない。現在の学校は1クラス20人台が多く、その環境は良いと感じている。これまでの学校における当たり前を、改めて見直ししながら、再編を考えていきたい。

⇒ ■ これまで教職員として経験し感じてきたことを大事にしていきたい。加えて、現在行っている意見交換会で、直接聞いて、感じたことに基づいて自信を持って今後提案していきたい。

◎ 大規模校が良いのか、小規模校が良いのかは、それぞれ体験したものしか分からない。学校再編については無関心な方が多い。特に市街地に住んでいる方はそうである。大野高校のPTA活動に参加した時、大野へ帰って来たいと望んでいる生徒が多いのを感じた。地域は自分たちで何とかするしかないという立場になった時、住民はすごい力を発揮する。大野らしい、大野の良い所が伸びていくような学校になると良いと感じている。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月11日発行 第26号

発行 大野市教育委員会教育総務課

〒912-0086 大野市天神町 1-1

電話 0779-64-4827 Fax 0779-69-9110

E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月3日（木）午後7時～8時45分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：いなほこども園（いなやまこども園・いなほこども園合同） ・2部 意見交換
対象者：こども園保護者（5人）・保育士（20人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎計画の見直しにより、令和5年度に中学校、令和8年度に小学校を再編するというスタート時期も変わるのか。
 - ⇒ ■変わる可能性はある。時期も含めて見直しをしていく。
 - ⇒ ◎見直しによる新しい再編計画が出来たとして、令和5年度にスタートできるのか。自分の子どもが小学校に在学中に再編が関係するのか気になる。
 - ⇒ ■再編する校数と再編時期、新築にするかどうかの方法を見直ししていきたい。子どもの数が減少していることで、なんらかの再編は必要であると考えている。ある程度の人数による教育環境を整えていきたい。
- ◎学校が1つになると通学時間が気になる。朝早く起きて準備をするのが大変である。再編により、学校の始まる時間などは変わらないのか。帰りの時刻はどれくらいか。
 - ⇒ ■小学校は8時頃から朝の会を行っている。帰りの時刻は低学年（1・2年生）は5時間目が終わると午後3時頃、3年生以上は6時間目まで授業を行い、午後4時頃となる。
 - ⇒ ■始業時間を遅らせることの検討も必要かもしれないが、まずは学校と家との距離やバスの送迎・便数なども含めて、慎重に計画していかなければならない。
- ◎生まれてくる子どもの数が本当に少ないので、学校には人数がある程度いた方がいいと思う。小規模の学校の良さを知らないが、個人的にそう思っている。
 - ⇒ ■大きい学校で過ごされたのか。
 - ⇒ ◎小学校は30人、3クラス、中学校は30～40人、6クラス、高校は40人、9クラスだった。複式学級や1学年1クラスという環境ではなかった。1人1人のつながりはなかった。学校を維持していくためには、学校が1つや2つになっていくことは仕方ないと思っている。
 - ⇒ ■市内の小学校は、昔は1学年3学級が多かったが、現在は2学級の小学校は3校、1学級の小学校は3校、複式学級の小学校は4校である。市内の学校同士、子ども同士の交流をしながら教育を行っている。予想以上に子どもが減っている。
- ◎小学校にまだ入学していないが、学校が遠くなったら、登下校が心配になる。
 - ⇒ ■小学校で最も長い距離を歩いている子どもでは、上庄小を例にすると3～4キロは歩いていると思う。冬に子ども達が歩いて登校してくると、汗をかき、その汗が凍り、太陽の光を浴びキラキラ輝いている。雨の日の集団登校では、上級生は自分が濡れながらも下級生が濡れないように傘を差してあげている。また、集団で歩いているため、車の運転手が気が付きやすい。スクールバスになった場合も乗車マナーや譲り合いなどの心のマナーを教育をしていく必要がある。
- ◎通学のルートや集合場所などの話は、再編が進む中でどのタイミングで検討されるのか。
 - ⇒ ■今年は意見の聞き取りを中心に取り組み、とりまとめていくこととしている。来年度では再編計画の見直し（案）を作っていく。その際に、スクールバスの便数やルート、地域の関係性など詳細な部分までは決められないが、ある程度の案を示すことになると思う。計画を策定した後、さらに内容を具体的に検討していく組織を設置していくこととなる。
- ◎小学校を複式学級で受けていた子どもが、大きい中学校に入った時の状況はどうか。また勉強面でも小規模校の子どもはどうか。地域に学校がないとますます過疎化すると感じている。大規模校、小規模校のメリット、デメリットはどうか。
 - ⇒ ■小さい小学校から大きい中学校へ来た子ども達については、全教職員が配慮している。クラス分けでは1人ではなく、2～3人を同じクラスにしている。子ども本人は大きい中学校にスムーズに順応していると感じている。
 - ⇒ ■これまでの意見交換会における保護者の意見では、小規模校の子ども達は発表する機会が多いため、中学校に来て物怖じすることなく意見を言っているとのことである。
 - ⇒ ■1学年に2学級以上ある小学校のメリットの1つとして、クラス替えがある。折り合いがうまくいかない

友だちとクラス替えにより、関係性が一旦リセットできたり、友だちの層が広がったりする。またクラス同士の競争が出てくる。その他、1学年に教職員が2人となるため、お互いに授業の進め方や教材研究などで相談や情報共有ができ、教職員同士が能力を高め合うことができる。複式学級では、それぞれの子どもが必ず発表する機会などがあるが、団体で何かをしようとする時は支障が出るなどの課題がある。

- ◎学校再編は通学の問題などデメリットが多いため、反対される人が多い。再編になった時の学校のメリットは。
- ⇒ ■通学に時間が掛かってしまう子ども達には負担をかけてしまうことになり、しっかり考えていかなければならない。現在の学校の授業は変わってきている。高度成長時代は、まじめでコツコツと一生懸命やる人材が求められてきた。今後もそのような人材は必要であるが、これからは、自分の考えをしっかり持ち、話し合いで他の人の意見も聞きながら、自分の考えを発言し、結論を導いていく力もさらに必要となってくる。学校の授業もこのような能力を養えるように変わってきている。
- ◎昨年、一昨年の出生数が200人を切り、こども園から小学校へ子どもを送り出していくことを考えると少子化は本当に悩ましい問題である。10年後、高校も奥越地区に1つでいいという状況になりかねない。危機意識を持たないといけない。大野市は環境が良いと感情的に言うのではなく、客観的に問題をつかみながら意見を言う必要があると思っている。
- ◎自分は中学校で吹奏楽部だった。尚徳中の吹奏楽部がなくなり、上庄中の吹奏楽部が小さくなり、夏休みに行われる「真夏の吹奏楽祭」が今年からなくなった。部活動を一生懸命してきたので寂しい。中学校では陽明中と吹奏楽で競い合っていたので、学校再編で中学校が1つになると競争が出来なくなり、今後学校がどうなるのか不安である。自分が楽しいと思っていたことを子どもにもさせていきたい。
- ⇒ ■陽明中でもサッカー部や野球部が成り立たない状況である。部活動が選べない状況となり、学校だけでニーズを満たせなくなっている。野球やトランポリン、スイミング、空手、柔道など学校外のクラブや教室で、自分のやりたいことをしてもらおうようになってきている。陽明中では週3回以上、学校外のクラブなどに通う場合は、学校の部活動に所属しなくても良いとしている。
- ⇒ ■意見交換会でも部活動で競争する学校がなくなるので、中学校は複数あった方が良いという意見があった。他にも、これからは市をまたいだ交流や競争の時代であるという意見もあった。
- ⇒ ■小学校の各種のスポーツ少年団も子どもが少ないため1つの学校で成り立たない状況となっている。学校単位でなく市全体で、スポーツや文化活動が出来る環境を考えていかなければならない状況となっている。
- ◎他の市町で行っている学校再編の事例を参考に大野市で行おうとしているのか。学校再編で大野で生活することを心配し、市外へ出ようかと考えている者もいる。市外へ引越ししようとする者も出てくると想定した上での計画なのか。再編することで、人口減少にどこまで影響するかを把握しているのか。
- ⇒ ■中学校1校、小学校2校となる計画に対して、そのように不安を持っている方が少なくないと感じている。ある程度の規模による教育環境を整えていきたい。再編することで、情報化時代に対応した教育環境の整備が可能となるなどの理由から再編計画が検討された。他の市町で行っている学校再編の方法を見てきているが、地域の実情に合わせ、いろいろなパターンがある。どこかの再編パターンを大野へ単純に持ち込むことは出来ない。あくまで参考としている。大野の学校再編は、大野に住む者が一生懸命考えるしかない。今日の意見交換会も市のホームページに掲載したり、こども園の方には紙媒体で配布する。情報公開しながら、みんなで考えられるようにしていきたい。(平成16年度からの再編計画の取組み経過を説明する。)
- ◎子どもが小学校にいますが、少人数の中で見てもらっている。また放課後子ども教室で地域の方が見てくれて感謝している。市街地に学校が再編されると村部に誰も住みたくなくなると思う。住みたくないようにして欲しい。
- ⇒ ■再編を行った場合、学校に代わる活動の拠点は考えていかなければならない。またIターン・Uターンからの呼び込みも考えなければならない。
- ⇒ ■子ども達にとってより良い環境で、学校生活を幸せに送れることをまずは考えていきたい。
- ◎昔は、幼保小の連携を一生懸命行っていた。しかし、今年に入り、幼保小の交流活動が1つ減り、学校の教職員の保育体験もなくなった。学校側からは「忙しい」という理由をはっきり言われた。これまでモデル園として積み上げてきた連携がなくなり、寂しく感じている。年々、気がかりな子は増えている。小学校への受け渡しをどうすれば良いかととても悩んでいる。小学校の授業開放日に参加した時、落ち着きがない、先生の話听不懂が多いことにびっくりした。学校の教職員は忙しくて時間がないのは理解できるが、幼保小の連携が崩れてきている感じがする。学校は、義務でやっている感がある。
- ⇒ ■20年前から、幼保小の連携が必要であるとして取り組んできた。今は国がこの連携を制度化しており、大変心強く思っている。現状をしっかり把握し対応していきたい。



お忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月11日発行 第27号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax 0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月8日（火）午後7時～9時 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：大野幼稚園 ・2部 意見交換
対象者：大野幼稚園保護者（10人）・保育教諭（8人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎昔、中学校では部活に入ることは強制だったが今はどうか。子どもが少なくなり部活動が選択できなくなっていると聞いているが現状はどうか。
⇒■中学校の部活は、入りたい部活がなくてもどこかに無理して入らないといけなかった。例えば、ある中学校では学校外の硬式野球部やサッカークラブに所属している生徒は、学校の陸上部などに所属していたが無理がかかっている状況であった。結果、週2～3日、学校外のクラブを一生懸命頑張るということであれば、学校の部活動に入らなくてもよいこととしている。トランポリンやスイミング、野球、サッカーなど学校外のクラブで頑張っている生徒がいる。開成中や陽明中では、ある程度部活の種類はあるが、他の中学校は少ない状況である。とにかく、どこかに所属し、何か（スポーツや文化など）に打ち込む体制は崩していない。
- ◎子どもが小学校で意地悪してくる子がいるため、学校へ行きたくないという状況である。最低限、安心して過ごせる学校になって欲しい。また、同じ内容を繰り返すような宿題など分量が多いため、子どもにゆとりがなく遊ぶ時間がない。
⇒■子どもに対して心配なことがある場合は、担任だけでなく、校長や教頭にも相談していただきたい。教育委員会では個性を大事にしていくことを方針にしている。1人1人の個性と能力があるため、それを担任が見極め、宿題の出し方を変えていこうという検討を行っている。
⇒◎今年の夏休みの宿題は良かった。自分の好きなことを突き詰めることが出来た。
⇒■小学校低学年の時は、機械的な記憶が発達しているため、繰り返し行う音読や計算などの宿題が必要となっているが、今後、宿題の出し方も学校と検討していきたい。
- ◎再編計画を見直ししているとのことだが、何か案があるのか。
⇒■現在、案はない。小中学校の校数、再編時期、再編の方法について、皆さんから意見交換会などで意見を聞いて、案を作り上げていくこととしている。
⇒◎人口が減っている中、意見を聞くなど、いつまでもやっているべきではないと思う。
⇒■意見交換会は、保育所やこども園の後、各地区を回り11月下旬に終わる予定である。その後、意見交換会での意見やアンケート、教育シンポジウムや小中学生対象に行ったアンケートを取りまとめ、来年度以降、検討する組織を設置し、再編計画の見直し案を作っていく予定である。
⇒■児童数は昭和50年と比較すると現在は約4割になっている。出生数も去年は200人を割っている。この状況において、教育委員会では何らかの再編は必要であると考えている。これからの時代は、学校の授業でも行っているが、自分で考えて、グループで相談し、みんなに提案するなどのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が必要とされるため、ある程度の規模は必要と考えている。
- ◎再編後の登下校はどのような感じか。周りからは集団登校の集合場所まで、車で送迎していると聞いている。登下校の時間は何時ごろか。また学校には、話せない子、目立つ子、普通の子がいるが、最終的には全体の子どもをどういう所へ持っていこうと思っているか。例えば、桜丘中学校（東京都世田谷区）のような学校（校則を全廃するなど様々な子どもに合わせた柔軟な教育に挑戦している）には、自分の子どもを通わせたいと思うほど、取組みに共感している。日本人の気質である「出る杭は打たれる」のように、「変わろうとしている、自分の道を見つけ始めている」時に、「みんなと同じじゃないといじめられる、先生に注意される」とならないようになって欲しい。
⇒■桜ヶ丘中学校の取組みは知っている。開成中に赴任していた時、服装規程を取り払う取組みを生徒と一緒に考え、「中学生らしい服装（頭髪や靴下など）」とした。この取り決めの過程を知っている生徒たちから後輩に、うまく歴史が繋がれば良いが、10年ぐらい経つと、規定が守られにくくなる経験をした。
⇒■集団登校は地区ごとに行っているが、子どもの数が少なくなり、集団が形成されない場合は、地区をまたいで登下校の班を作る場合もある。下校時刻は、1年生から3年生までは午後3時ぐらい、4年生から6年生までは午後4時ぐらいであり（4年生は時間割によって午後3時の時もある）、集団で下校している。

- ⇒■今は授業で間違った発言をしても、その間違いについて何故間違いなのかを追求することによって変わってきており、1人1人の個性を認めながら集団で学んでいく学校づくりをしている。
- ◎学校再編は、教育委員会だけで考えているのか。市役所のどのような課が学校再編に取り組んでいるのか。
- ⇒■学校再編は、教育委員会が中心となり考えている。ただし、市長部局と総合教育会議を行いながら情報や課題を共有している。地域から学校がなくなった場合の活性化策などについては、市長部局の関係課が中心となっている。しっかり連携して取り組んでいく。
- ⇒◎学校の維持費はどのように抑えていくのか。
- ⇒■過去10年間の教育費の平均は、市費全体の約10%（約18億円）である。教育費には、学校教育だけでなく生涯学習、スポーツ、文化関係の経費も含まれている。小中学校の維持管理経費の10年間の平均経費は6億5千万円である。学校数が減れば、維持管理経費は少なくなるが、教育委員会としては抑えられた経費をさらに学校教育の充実に充てられるよう、予算確保をしていきたいと考えている。
- ◎今年の夏休みの宿題で、有終東小は非常に少なく、有終南小はすごく多かったと聞き、学校によって宿題の量にバラつきがあることに衝撃を受けた。自分のしたいことを自主的に出来ることは良いことだと思った。
- ⇒■有終東小では夏休み後に児童と保護者に対し、夏休みの宿題について意見を聞いた。ほとんどがプラスの意見であったが、子どもの中には「何をして良いか分からなかった」、保護者の中には「もう少し増やしてもらわないと怠けてしまう」という意見も少しあった。この結果を基に、校長会や教頭会を通じて総合的に検証していく。
- ◎今年のプールは何回入れたのか。猛暑が続く、プールに入れないのであればプールは必要か。
- ⇒■猛暑で中止した学校で一番多いのが7回である。学校の立地場所によって中止回数は違う。郊外の学校ほど中止が少ない。8月に入るとプールを利用する子どもも少ないため、猛暑も含めてプール開放を検討していく必要がある。国の基準により、小学校では体育でプールの授業をしなくはいけない。小さい学校では夏休みに入っても泳ぎの苦手な子を指導している。体育連盟でも2日間かけて泳ぎを指導している。
- ◎県外から転校してきた時、猛暑で暑いため紅白帽子を被って登校したら（県外では常だった）友だちにからかわれたり、先生から止められ、非常に違和感を感じた。また、平成28年度の大雪の時に学校が休業にならず、子どもを通わせなければならなかった。怒りを超えて悲しかった。
- ⇒■大雪の時はギリギリの判断をした。しっかり、心に留めておく。
- ◎小学校から英語の授業が始まると聞いたが、小学校1年から習うのか。
- ⇒■国の基準では、来年度から小学校5・6年生で正式に英語の授業を行うこととなる。福井県では先行的に実施されており、今年で2年目となる。小学校3・4年生では外国語活動を行っており、ALT（国際理解教育推進員、市教育委員会で雇用している外国人）と一緒に外国の文化を学んだり、英語の歌を歌ったり、ゲームをしたりしている。
- ⇒■高校や大学の入試に英語のスピーキングが入ってきている。読み、書き、聞く、話すの力をバランスよくつけなければならない。小学校は楽しみながら学ぶことが中心である。
- ◎中学校の時、友だちが1人、学校に来なくなった。教育委員会としてはどのように対応しているのか。
- ⇒■保護者もつらい思いをする。今は、つらかったら無理して学校へ行かなくて良いという考え方になってきている。そのような子どもたちのために、青少年教育センター（大野市中野57-6-1）内にフレッシュハウスを設置し、一緒にゲームをしたり、勉強を教えたり、子どもの状況に応じて学習をしたりして、学校への復帰支援をしている。
- ◎幼児期においても教育環境や家庭環境は一番大事な時期である。大野幼稚園では週2回（火・木）、子育て支援として未就園児の保護者の子育ての悩みなどの相談に乗っている。他にも卒園児の保護者の相談も電話などで受けている。先般も卒園児の保護者から子どもが2学期に入り、友だち関係がうまくいけなくなり、学校へ行きたくない日が続いたなどの相談を受けた。教職員によっては、子どもに対する言葉の掛け方や関わり方などにズレがある場合がある。幼稚園でも精一杯、子どもたちに安心の場を作っているが、近年、学校に入ってから、そのギャップがあるように強く感じている。27年度から保幼小の接続が始まっているが、小学校の教職員と温度差を感じている。もっと深まっていけないといけないと思う。子どもたちのためにもっと歩み寄っていきたい。
- ⇒■卒園児の保護者の方には、必ず学校へ相談して欲しいと伝えて欲しい。教職員にも1人1人力の差がある。子どもが辛い思いをしているので、チームで対応していきたい。教育委員会も中に入り、一緒に対応を考えていく。
- ⇒■20年前に幼保小中の連携に取組み、それが進むことが願いであった。教職員同士の大人のつながりをしっかりやっていかなければならない。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月17日発行 第28号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月10日（木）午後7時～8時35分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：荒島保育園 ・2部 意見交換
対象者：保護者（7人）・保育士（8人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- 自分の周囲の保護者は、学校再編に対しての意見を持っていない。再編が絶対嫌だという意識はなく、なるようになるという感じである。逆に早く再編をしてほしいと思っているのではないかなと思う。
 - ⇒○出生率は確実に減っているので、再編は免れない。阪谷小のようにクラスの数が多いにも少ないと授業も成り立たない。体育も出来ない。子どものことを考えるとある程度の人数があった方がよいと思う。地域に学校を残したいという気持ちも分かってはいるが、子どもは広い社会に出て行くので、そこそこ学校に人数がいる環境が良い。
 - ⇒■教育委員会でも、再編は必要であると考えている。中学校1校、小学校2校で本当にいいのかを、もう一度見直すこととしている。
 - ⇒○大人数で行う経験をさせられないのが寂しい。
 - ⇒■1学年2学級以上の小学校は3つだけであり、他は1学級しかないため「1年1組の○○さん」とか「1年2組の△△さん」との呼び方を知っている子どもは少ないかもしれない。中学校でも同じような現状である。
- 学業に関しては先生に任せたい。放課後や夏休みなどの長期休業の時、家庭での見守り方を充実させて欲しい。富田小では夏休みにプールへ行く時、スクールバスに乗って行けるが、バスが出発するまでの時間に、家に子どもを1人で残しておくことが心配である。

夏休みは放課後子ども教室がないので、西部児童館か東部児童館に登録して、保護者が送迎をしないといけな。希望する児童館に空きがなければ入ることも出来ない。1日200円が掛かるのであれば、シルバー人材センターなどから人を派遣してもらい、地域で子どもを見てもらえる環境を作って欲しい。その際、学校や公民館を無料で開放するようなことを考えて欲しい。

夏休み中でも学校に先生が来ているので、プールが終わった後、学校の先生に見てもらえると有難い。

児童館に登録した場合、他校の児童が学校のプールに入れるようにして欲しい。（例：富田小児童が西部児童館に登録し、有終西小のプールに入るなど）

学校が再編で遠くなると、子どもを預ける方法が不安である。

 - ⇒■児童館の所管は福祉こども課で、放課後子ども教室の所管は生涯学習課になる。現在、どこの児童館も定員一杯であり、空いているのは西部児童館ぐらいであると聞いている。児童館では安全管理のため、遊びに制限があり、プールも計画的に入るとのことである。子どもの見守りなども含めて、小学校に入ってから課題はとても多い。
 - ⇒■今年の夏休みから、子どもや高齢者のためにエキサイト広場を開放することとしたが、体育館は使用料を支払って利用する団体がいるため、休館日（水曜日）のみであった。それ以外の和室やロビーは平日でも使用することが出来た。あまりたくさんの利用者はいなかったが、今年の冬や来年以降も開放することが出来ないかを検討している。少しずつ、保護者と子どもが雨が降った時でも施設内で遊ぶことが出来るように考えている。
 - ⇒○仕事をしている時に、小学校低学年の子どもが家に1人で居るのが不安である。そのため、仕事場の近くで、何かあった時に迎えに行ける距離の預ける場所を探している。
 - ⇒○村部に行けば行くほど、友だちとの家の距離が遠くなる。昔は家からちょっとの距離に友だちが居た。近所に同性の友だちがいないため、車で送迎しないといけな状況である。子どもたちだけでも集合できるような安全な場所があれば安心である。
 - ⇒○夏休みになると遊びに行く家がないため、公民館などの1部屋を開放してもらえると嬉しい。

- ⇒■富田小が再編になった場合、学校とか公民館とかに子どもの集まる場所があればいいのか。
- ⇒◎あまり遠くなくて、安全に居られる場所があればいい。
- ◎和泉地区からスクールバスで来る場合、その子どもの中に自閉症や落ち着かない子などがいたら、誰が対応するのか。
- ⇒■市では各学校に結の故郷教育支援員や就学支援員を配置し、落ち着かない子などの対応をしている。将来的には、支援員などを活用することを検討していかなければならないかも知れない。
- ◎ランドセルは、色など自由であると言われているが、ナップサックを使用しないといけないのか。
- ⇒■ランドセルは各学校で決めている。再編を行った時に再度見直しをしていく必要があるかも知れない。ナップサック形式の方が安くて長持ちするという声もある。各学校で保護者の意見を聞きながら、変えていくことはできると思う。
- ⇒◎他の場所での意見交換会で、再編後、学用品は他の子どもと違っていても子どもは気にしないだろうと言っていたが、自分は気になる。途中で買い直す予算はない。大野市の学校すべてで学用品（体操服やズックなど）を統一すれば、後の問題はなくなると思う。
- ⇒■再編の校数によると思う。すべて同じ体操服だと、どこの学校か分からない場合がある。体操服でどの学校かが分かる良さもある。制服だけはどの学校も同じである。
- ⇒■蕨生小と富田小が平成24年度に再編された時、制服や体操服、ナップサック、ズック、帽子などの購入に係る補助を市が行っている。
- ◎小学校が2校になったら、どこが候補地になるのか。
- ⇒■候補地は全く決まっていない。今年は、再編などについていろいろな意見をお聞きし、来年度見直し案を作りたい。そして、その案に対して、また多くの方から意見を聞いていきたい。
- ⇒◎候補地などがはっきり決まった方が助かる。具体的に説明してくれた方が安心する。
- ◎まちなか循環バスの本数や街灯を増やして欲しい。
- ⇒■再編に関連する検討事項はたくさんある。
- ◎再編は早くして欲しい。誰がどう反対しているのか。再編したら、またそこから課題が見つかると思う。小さい学校から大きい学校に再編となった時の子どもたちのケアはどうしているのか気になる。
- ⇒■クラス編制で、1人ずつにすると心細くなるので2～3人を同じクラスにしている。最初は子どもも戸惑うことがあるが、すぐになじんでいく。教職員は常に小さい学校から来た子どもたちに対して気を張っている。
- ⇒■蕨生小と富田小が再編した時、蕨生小の教職員を富田小に異動させて子どもを安心させた。一番は子どもが不安になってはいけないと考えている。
- ◎再編は賛成だったのだが、何が理由でストップしたのか。
- ⇒◎自分が感じたことは、再編を反対していたのは高齢の方で、学校がなくなると地域がなくなると強く言っていた。個人的には、地域の衰退と学校は別の話だと思っている。反対の声の方が大きい。賛成の人はだまっていた。そんな雰囲気だった。
- ⇒◎学校は避難所となっているが、再編した後はどうなるのか。
- ⇒■地域には災害の避難所を残していかないといけない。校舎を壊して体育館を残すとか、別の場所を避難所にするなど、再編と併せて考えていかなければならない。
- ◎スクールバスの運行は、順々に子どもを乗せていくのか。自分の子どもは、学校が近いので7時25分に集合して集団登校する。バス通学で出発時刻が早くなると、家事なども早くしないといけなくなる。
- ⇒◎自分の子どもは6時50分に家を出る。
- ⇒■意見交換会でのアンケートにおける保護者の一番の不安は登下校についてである。再編でスクールバスを何台も用意できるか、どのようなコースがいいのかをしっかりと考えていかなければならない。スクールバスによる登下校も含めて、再編計画の見直しについては、慎重に、丁寧に、一歩ずつ進めていく必要がある。



お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年10月24日発行 第29号

発行 大野市教育委員会教育総務課

〒912-0086 大野市天神町 1-1

電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110

E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月15日（火）午後7時～8時40分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：あかね保育園 ・2部 意見交換
対象者：保護者（11人）・保育士（11人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎子どもは保育園で自由にさせてもらっているため、小学校に上がり、時間など型にはまることでうまく学校に慣れるか不安である。

⇒■国の基準で、国語や算数などの授業を1年間に何時間しないといけないという決まりがある。規定された時間を行わないと未履修となり、法令違反になる。そのために時間割を決めて授業を行っている。子どもが小1プロブレムになるのは、その時間割にしばられ、慣れないという点もある。

学校の担任は、いろいろな保育園から集まる子どもたちで学級集団を作ることに苦労しているが、保幼小（保育園・認定こども園・幼稚園・小学校）の連携を行っていることで、学級として成り立っていくのが早い。園児も小学校生活に慣れるのが早くなっている。

⇒■あかね保育園では下庄小1年と交流をしている。学校に入る前には、学校見学会も年2、3回行っている。

⇒○年長になった時に交流を行っている。その他、小学校1年と交流する「遊ぼう会」も行っており、小学校と保育園に垣根がないように取り組んでいる。他にも小学校6年生が毎年、保育体験をするために保育園に来ている。

⇒■7、8年ぐらい前から国が制度化し、幼保小の接続に取り組んでいる。

◎自分の時は1クラス20人で、先生に見てもらっていたという安心感があつたし、友だちと交流できた。阪谷小に入学予定であるが、複式学級のようにクラスの人数が少なくなると友だちの輪が狭くなる。出来れば1クラス10人から20人の間が良い。交流も出来るし、先生の目が行き届く。また、スクールバスで送迎されるとしても、最後は家まで1人で歩いて帰ることになり、家族の誰かが迎えにいけない状況で、送り迎えに不安がある。

⇒■現在、再編計画の見直しについてどうするかを意見交換会で聞いているが、皆さんが一番心配されるのは登下校の距離と時間とその方法である。このことは特に慎重に考えていかなければならないと思っている。

⇒○小学校2校は減らしすぎである。最初は小規模でも良いので、どこかと再編し、徐々に再編していくのが良いと思う。中学校では部活動の選択にかなり制限があると聞いているが、どうしても入らないといけないのか。中学校1校となった場合、大会などで遠征があり、親の送迎などで負担が増えると思う。

⇒■下校について話をする。郊外では、公民館が主体で放課後子ども教室を行っており、平日は午後6時まで子どもを見てもらえる。阪谷小は現在29人の複式学級であり、体育や音楽、図工などは2つの学年が合同で行っている。また、2学級以上ある他の学校と交流も行いながら、小規模校の課題の克服に取り組んでいる。小規模校の良さは、子ども1人1人に発表の機会が多いなどがある。

⇒■部活動については、現在の陽明中では、校外のスポーツクラブで週3日以上、一生懸命頑張っている場合は必ず学校の部活に入る必要はないようになっている。例えば、硬式野球やサッカー、トランポリン、スイミングなどである。これからは、このような体制が加速していくと思う。

⇒■放課後については、市街地の学校は放課後児童クラブ、郊外の学校は放課後子ども教室へ学校が終わった後、児童は行っている。最初30分ぐらいは宿題をして、その後は遊んだりして、保護者に6時までに迎えに来てもらっている。子ども教室では、地元の方などによる安全管理員とシルバー人材センターからの派遣職員で子どもを見守っている。また、夏休みなどの長期休業中には、子ども教室はやっておらず、児童クラブを利用されている方もいる。

⇒○学校が再編されると、放課後児童クラブはたくさんの子どもの受け入れられるのか。

⇒■スクールバスで地元地区の放課後子ども教室まで送迎するなどの検討をしていく必要がある。

⇒○子どもが、まちなか循環バスなどの利用も出来れば良いと思う。

◎小中学校が再編されると、現在の学校は撤去されるのか。それとも、放課後児童クラブのように、人が集える場

所とするのか。

⇒■現在の学校は、避難所に指定されている。防災計画上、体育館や校舎の一部を残していくことになると思うが、すべての学校を残していくかは考えていかなければならない。避難所以外に地域での活用があるかなども含めて検討していく必要がある。森目小は民間に売却し、福祉施設となっている。

◎中学校に荒れている子はいないのか。陽明中と開成中が交互に学校が荒れていると聞いている。

⇒◎昨年、陽明中では学級が崩壊していると聞いた。

⇒■生徒たちだけの責任ではない。

⇒◎荒れている子だけを集めるのは難しいのか。

⇒■無理である。当時の陽明中の生徒については、夏休みにラジオ体操に参加したり、しっかり挨拶をしたりしていると周りの地域の方々から聞いていた。中学生は、大人を斜めに見る年頃であるが、1人1人はとても良い所があり、それを地域の方々が認め、家族も見守っていた。当時の教職員も一生懸命対応していた。

◎ゆとり世代、さとり世代というが、今は、どういう教育方針なのか。子どもの芽をつぶさないように自信を育ててあげるということは分かるが、ざっくりして目指すところが見えない。

⇒■ゆとり教育の時は授業時数も少なかったが、今は多い。多くなっている1つに、来年から5・6年生に外国語科が、3・4年生に外国語活動が入ってきている。時代に合った教育を国が打ち出している。これからはAIの時代に入り、自分たちで考え、作り出す教育が必要となってきた。そのため、1人1人が自分の意見をどんどん言って、意見を言い合うことで議論を深め、人間性を高めていく教育に変わってきている。

◎保育園では送迎で先生と直接会えて話ができる。学校は子どもたちが伝えてくれないと状況が分からない。学校のたよりだけでは伝わらないことがあり、不満がある。もう少し、学校の先生と保護者の情報交換が出来ないか。学期末ぐらいしか先生と話が出来なく、いろいろ聞きたいけど時間が限られている。

⇒◎保育園では、さらに連絡帳で連絡し合っている。

⇒■小学校にも連絡帳はある。情報交換は教職員の力量による所もある。学校公開日などでもっと情報交換できないかを学校に提案してもらえばよい。

⇒◎小学校で連絡帳を書いても返事もなく、スルーされる。

⇒■教職員は、朝や休み時間に連絡帳を見たり、返事を書いたりしている。返事で戸惑った場合は管理職に相談している。



◎学校と保護者との連絡手段で、メールやLINE（ライン）を利用している学校は、県内や全国にないのか。

⇒■緊急連絡などを学校からメールで配信することはある。

⇒◎1人の保護者が気になることは、他の保護者も気になることである。1対1のメールのやりとりより、LINEでのグループの方が効率的ではないか。

⇒■個人的には良いと思うが、LINEに入れない保護者もいると思う。

⇒◎ネットやスマホをもっとうまく活用して欲しい。

⇒■学校の欠席の連絡をメールでもらおうかという、県教育委員会の提案があるが、学校現場では保護者と直接話をした方が良いということで反対している。アナログとデジタルでは、良い所と課題がそれぞれある。今後検証していく必要がある。

◎学校教育もすごく変わってきたと実感している。授業参観で、教科書を使わず、先生が出した主題について5、6人のグループがホワイトボードを使って、意見を出し合い発表し合っている。大人しい子には、意見を出したり発表したりしないといけなくて苦痛だろうと感じた。

⇒■来年の1月には、各小学校へ1クラス分のタブレットを導入する。話すことが苦手でも、タブレットで意見を言うことが出来るようになる。さらに教育現場は変わってきている。

⇒■発言することばかりが良いことではない。「他人の話をちゃんと聞いて、自分の中で考える」、「他人の話を聞いて、自分の考えを書く」ということも大切である。

◎学校再編は、地域の問題と学校教育がごっちゃになっている気がするので、分けて欲しい。子どものために、本当に良い教育環境はどのようなものかを最優先に考えて欲しい。例えば、プログラミング教育が始まるのであれば、その専門の先生が配置されるような環境づくりを考えて欲しい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月24日発行 第30号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax 0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に對する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月17日（木）午後7時～8時45分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：阪谷保育園 ・2部 意見交換
対象者：保護者（9人）・保育士（6人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- 再編で友だちが増えることはいいことであるが、地区から学校がなくなること、地区との関連性が薄れるのがどうか。阪谷地区はどんどん人が減っている。
 - ⇒■これまでも学校再編はあったが、その時は各地区に学校があり、現在もある。これから、何らかの再編をしていこうとすれば、地区から学校がなくなることが起こり、これまでの再編と質が違ふため、非常に難しい。
 - ⇒○地区体協主催の運動会などには学校の子供も参加してもらっているが、尻すぼみになり、他の地区行事も実施が困難になるかもしれない。地区の交流がどんどん減っていくのかと思っている。
 - ⇒■地区も大事であるが、子どもの数は減り続けており、教育に支障が出てきている。教育委員会としては、何らかの再編は必要だと考えている。
 - ⇒○大きい学校になれば、友だちが多くでき、部活動も選べ、団体競技も出来て、自分のやりたいことが広がる。そういうことは子供にとって大切なことだと思う。
 - ⇒■地区から学校がなくなると、子供はいなくなる訳ではないが、子供も地区とのふれあいは減ると感じる。その代わりに公民館が軸となって、子供も地区と一緒に運動会やレクリエーションなどを続けていけるように、これから考えていく必要がある。学校に代わる拠点をつくり、地区の活気が維持できるよう、行政は考えていかなければならないし、地区の方々も一緒に組織づくりについて考えていただきたい。
- 再編は賛成である。学校の人数が少ないとPTAなどの役員を2つも3つも掛け持ちしないといけなひので大変である。だが、再編で学校が少なくなりすぎるのは嫌である。富田小と阪谷小で1つなど、小学校は4校か5校ぐらいだと思う。学校数は多すぎても少なすぎても駄目だと思う。その中間がいい。それであれば、再編は来年でも再来年でも行うことは良い。阪谷小が富田小と再編するのではあれば明日からでもOKである。
 - ⇒○県外出身だが、小学校は1,800人のマンモス校で修学旅行はバス15台で行っていた。大野は子供が少ないから可哀想であると感じている。再編はしないといけなひと思う。
- 再編計画通りに進んだ場合、小学校が再編する令和8年度では、子供も小学校6年生になっている。現在子供も少ない学校にいて、いざ再編で大人数の学校に行くとなった場合、とても不安がある。子供も集団の中に入っていけるのか心配である。学校へは楽しく行って欲しい。
 - ⇒○勉強よりも人間関係がうまくいけるかが心配である。学校が小規模であれば、先生に手厚く見てもらえるという良さもあるが、クラスの人数が極端に少ないと勉強で立ち位置が決まってしまう、それが6年間ずっと同じになり、劣等感を抱いてしまう。褒めても褒めても立ち位置は変わらないため自信がつかない。人数が多ければ、友だちから教えてもらうことも多いと思う。小学校の再編は令和8年度ではなく、もっと早くても良い。週末は、遊ぶ同世代の友だちが近所にいない。
 - ⇒■1クラスの人数が極端に少ないと、勉強などでの立ち位置はなかなか逆転できないことがある。20人程度の人数のクラスであれば、小学校6年間で友だち関係が変わったり、1人1人の自信も変わる。小学校の6年間は中学や高校と比べて、子供の成長は著しい。
 - ⇒■再編する場合は、1年から2年の準備期間を設けてスムーズに再編できるようにしていく。子供も保護者同士の事前の交流を行う。その他、体操服やズックなどの準備期間も設ける。
- 再編すると学校は市街地の方になると思う。日中、阪谷から友だちの所へ遊びに行こうとしても仕事をしているので送迎が出来ない。結局、遊ぶ友だちがいない。
 - ⇒■子供たちは、学校の休み時間などで友達とたくさん遊んでいる。学期中は、学校で遊びや勉強がたくさん出来るが、夏休みなどの長期休業中に課題がある。再編していない現在でも課題となっている。子供もだけ

では、自転車で遠くへ行けない。地域コミュニティをどのように作るか、小学生だけでなく中学生も一緒に
なってコミュニティをつくるなどを考えていかなければならない。

⇒◎そのコミュニティとは、小中一貫となった建物でということか。

⇒■和泉小中学校は建物是一緒であるが、一貫校と違う。本来の小中一貫校は教育課程などにおいて、例えば9
年間を初等部、中等部、高等部の3つに分けたりすることが出来る。教育課程を3つに分けたとしても、一
緒に遊んだり、給食を一緒に食べたりすることは出来る。また、先生同士が交流を行い、中学校の先生が小
学校で教えたりもしている。

◎なぜ、学校へ行かないといけないのか。子どもによく聞かれ、「義務教育だから行かないといけないんや」と言っ
て無理に行かせていた。学校の先生はこういう時、どのように答えているか。

⇒■「なぜ、勉強しないといけないの」という問いも、子どもからよくある。いろいろなことを知り、いろい
ろな体験をしながら大人になっていくことが大事であると思っている。AIやインターネットが発達しても学
校はなくならないと思っている。いろいろな学習教材があるので自宅のパソコンで勉強をやりようと思えば出
来るが、そこになぜ学校があるのか。人間は1人では生きていけない。社会は共生社会であり、みんなと力
を合わせ、助けたり、助けてもらったりすることで人間は生きていける。そこには喜びや悲しみ、嬉しさ
がある。その縮小された社会が学校である。そのような内容を
子どもに伝えている。

⇒■村上春樹氏の本には、学校で三角関数やベクトル、歴史、漢
文、古文を習うが社会に出てほとんど使うことはないが、社
会に出て、人の前で話をしたり、車の営業をしたり、コミュ
ニケーションを取ったり、社会を生きていく上で物事を理屈
立てて考える訓練を学校でしていると書かれていた。



◎再編は基本的に反対である。阪谷小と富田小が一緒になるなら良
い。急に大きい学校に行くことも心配であるが、一番は先生の質
である。小学校や中学校で高い学力をつけて欲しいとは思わない。
再編するのであれば、先生1人1人の質や心を育てて欲しい。教
育長の子育て講演を、学校の先生にしてもらいたい。先生がしっかりしていたら再編はうまくいくと思う。

⇒■子どもは教職員が好きだと、その教科を好きになる場合がある。教職員であれ、保育士であれ、医者であれ、
それぞれの仕事にプロ意識をもってやっていかないといけないと思う。技術も必要だが、人間性が大事であ
る。

⇒◎子どもに大きい声を出してやらせるのは、誰でも出来る。

⇒■校長会や教頭会では、教育に対する教育長の想いや校長・教頭のそれぞれの想いを出し合い、一緒に学校を
つくっていかようと考えている。子どもを本当に大事に思う教職員づくりにも取り組んでいるところである。
教職員にはプロ意識を持ってもらうとともに、子どもとともにずっと学び続ける教職員であって欲しいと考
えている。

◎県外出身であるが、自分が小学校6年生の時、学校が再編されたが、それでも全校生徒は約50人で、高校も9
0人ぐらいであった。少人数の学校を不自由に感じてはいない。先生に手厚く見てもらえたという実感がある。
小さい学校で出来ることはある。大きい学校のメリットを知らないの、再編はやってみないと分からない。中
学校1校、小学校2校になった場合、今の高校生や大学生が大野へ帰ってこようと決断するか。帰ってきたいと
思う大野にして欲しい。

◎旧荒島保育園が富田幼稚園へ統合になった時、保育士も一緒に富田幼稚園に異動となり、同じメンバーであった
がそれでもバタバタした。学校が再編された時、国の基準による教職員の配置だけでは恐らくバタバタすると思
うので、教職員の手厚い加配を考えて欲しい。多忙すぎると子どもを見たくても見れない状況となり、心に余裕
がなくなる。教職員も子どもも健康で居て欲しい。あと、再編する学校の場合は、災害のない場所で考えて欲し
い。

⇒■教職員の加配や配置についてはしっかり考えていきたい。再編については丁寧に考えていきたい。

◎子どもがスポーツ少年団に入り、野球をしている。現在、いくつかの学校のスポーツ少年団が統合されてチーム
を作っているがいろいろな面で大変なことがある。学校再編も同じだと思うので、しっかり
準備期間を設け、しっかりアフターフォローもして欲しい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係
上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲
載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月28日発行 第31号

発行 大野市教育委員会教育総務課

〒912-0086 大野市天神町 1-1

電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110

E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実に図ることができるようするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月21日（月）午後7時～8時50分	次第 ・ 1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：和泉保育園	・ 2部 意見交換
対象者：保護者（5人）・保育士（4人）	

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎和泉小にこれから入る子どもの数を考えると、学校が成り立つのか。

- ⇒■複式学級でも教育はできるが、和泉小では正直なところ、小学校だけでは大変であると聞いている。しかし、和泉小は中学校と同じ施設で連携があるため、学校行事などが成り立っている状況だろう。
- ⇒◎成り立っているように見えるが、友だちはどうしても限られている。友だちと合わなかったり、喧嘩したりすると、逃げ場がない。再編してほしいような、してほしくないようなどうしていいかわからない。
- ⇒■再編で一番不安とされているのが、通学距離や通学時間である。小さい子どもにとっては、20分や30分の通学でも心配とされている。
- ⇒◎それは分かるが、少ない人数による学校生活の方が心配だ。
- ⇒■現状の道路では40～50分掛かると思うので、早急な再編は難しい。
- ⇒◎最初の計画では、陽明中に和泉中が再編されるようになっていて嫌だと思ったが、その後の計画では中学校を1校にするということで良いと思った。中学生全員が改めて1つになるという方が良いと思った。
- ⇒■これまで行ってきた再編は、大きい学校に小さい学校を再編してきた。（平成18年度から平成24年度までの再編経過を説明）富田小、森目小、蕨生小の再編は、3つの学校の力が合わさって、すごく良い学校になっている。連合体育大会などではすごい力を発揮している。これからは地区から学校がなくなってしまう再編となる。慎重に考えていかないといけない。

◎学校再編に対しては、賛成反対半々の気持ちである。和泉小中は、小学校、中学校の壁を乗り越えて結団力があり、体育大会や音楽会などを立派に行っている。絆の深さを見ていると大きい学校になってしまうのはもったいないと思う。再編を行うのであれば、小さい学校同士の再編ならなんとかかなと思うが、いきなり大人数になると、この和泉で積み重ねてきたものが無くなってしまう不安がある。大きい再編は極力避けて欲しい。全く再編しないというのは、これから先のことを考えると仕方ないと思う。

⇒■音楽会では、人数は負けているが声では負けていない。保護者も教職員もみんな頑張ってくれている。

◎以前の和泉小中の校長先生が、少ない人数でも社会性は育っていると断言していた。少ない人数だから人と関われないという心配はない。少ないからこそ、人とうまくやっていかないと生きていけないことがある。この場所は、森目小が富田小へ再編とか、蕨生小が富田小へ再編というレベルではなく、とても遠い地域である。高校生の子どもが市街の高校まで毎日車で通っているが、高校生でもしんどい感じである。和泉小は複式学級だが、前後の学年に子どもがいれば、教室で1人きりになることはない。中学校は単式学級なので、少人数による教育環境は厳しい。高校に上がった我が子が初めてたくさんの人数で合唱を行い、「合唱ってこんなに楽しいんだ。もっと早く出会いたかった」と言っていた。中学校の生徒数は現在7人であり、中学校の再編はちょっと早くしないとと思う。

⇒■中学校だけを再編すると、小学校だけが残る、学校内の人数も減ってしまうことになる。

⇒◎それは非常に寂しくなる。どうしたらいいのか。和泉小中に魅力があり、人が呼べれば子どもの数が増えて良いのだが。冬はスキーなど。

⇒■今年、各学校のスクールバスに乗ったが、乗車時間が多少あっても、バスの中には同学年の友だちや先輩、後輩と一緒に乗っているので、しゃべりながら通え、気が紛れるところはあると感じた。奥越特別支援学校

のスクールバスは、約1時間かけて勝山の学校へ行っていた。子どもはそんなに疲れている様子ではなかったが、トイレにいけないので可哀想と感じた。

⇒◎冬になると、通学時間はもう少し掛かると思う。

⇒■通学のことは、保護者の一番の不安なことであると認識している。

■再編などでどんな感じになると嬉しいか。

⇒◎和泉で人が増えるなどの補助体制が欲しい。和泉に興味を持って住みたいと思っても、住む場所（アパートや住める空き家）がない。住むための受け皿があれば、和泉に留まると思う。伝統芸能や人数が少ないことによる子育て・教育環境に興味を持って、ここに来れない。この地区には移住してきている人が何人もいて、受け入れる土壌があるため、来やすい場所であると思う。

⇒■和泉地区だけでなく、阪谷地区などにも同じような地域はあり、すべてに補助するのは難しい。

⇒◎市街の方が補助は受けやすいし、補助メニューもたくさんある。和泉には売りがいっぱいある。

⇒■中部縦貫自動車道が完成することで交通の便が良くなり、市街に通いやすくなるので、和泉地区の方が人を増やすための戦略を市に提案していくことも大事かと思う。

⇒◎和泉地区だけ税金が安くなれば人が来ると思う。

■他の場所での意見交換会では、再編で学校が遠くなると子どもが急病になった時に、すぐに駆け付けられない心配をされている保護者もいる。その場合、タクシーで病院へ送迎するなどの手段をとることを説明している。核家族化が進み、親と同居していない家庭が多くなっており、夏休みなどの長期休業中に子どもを見る大人がいない状況となっている。

⇒◎夏休みにプールが児童館から離れているため、行くことができない。

⇒■市街の児童館でも、たくさんの子どもが来るため、児童館の職員が少なく、なかなかプールへ連れて行くことが出来ない状況と聞いている。



◎学校再編は進めてもらえば良い。自分も和泉中の時、少ない人数の中学校でなくても良いと思っていたし、大野高校に入学した時、(たくさん人数がいるので人間関係などで)「楽だ」と思った。子どもがずっと小さい学校にいない必要はないと思っている。もっと視野をどんどん広げて欲しい。どうしても子どもは今いる世界がすべてと感じている。子どもがサッカースクールで、初めて会った子と数十分でなじんでいたのも、再編は心配していない。すぐになじめない子は助けてあげれば良い。市街への再編になっても、子どもが通学などですごく大変になるとは感じていない。小さい子どもの体力面には不安があるが、勉強については心配していない。ある程度の人数的中で育ててくれた方が子どものためになると思う。

◎1度住んでいる地域から出ること、自分が育った地域の良さが分かる。和泉中を卒業後、高校に入った時、初めてのことが多すぎた。中学では剣道部と陸上部だけだったため「吹奏楽部って何？」という衝撃を受けた。文化系の部があることも知らなかった。中学生であれば市街へ通える年齢でもあるので、再編により、部活動の選択も友だち関係も広がると思うし、将来の進路や夢が広がるのではないかと考えた。

◎小さい学校、大きい学校、どちらにも良さはある。学校再編には、いろいろな意見がある。完全に納得できる方法は見つからないと思う。保育園に関しては、少人数の方が子どもをしっかり見ることができるし、大きい保育園の子どもに決して劣っていない。発表会もしっかり出来ている。

⇒◎小さい学校では、小さい学年の子どもに運動会などで負担が掛かっているかもしれない。

⇒■連合音楽会でも、人数が少ないので1人1人がズルをすることが出来ない。

⇒◎和泉は、保育園・小学校・中学校が同じ施設であり、子どもに一体感がある。運動会などでも中学生が保育園児をしっかり受け止めてくれる。競争意識はないが、アットホーム感はある。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年10月30日発行 第32号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月24日（木）午後7時～8時30分 場所：五箇公民館
対象者：五箇地区住民（出席者数7人）
次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎学校は最低1学年2クラスは必要と思っている。年頃になると気の合わない友だちが出来たりするので、クラス替えが出来ることが必要と思う。音楽、美術、技術、家庭などの教科に専任の教職員が配置できるような人数の規模にして欲しい。部活動に関しても子どもが自分たちのやりたいことを見つけられる規模にして欲しい。再編計画を進める中で「地区の核がなくなる」、「母校がなくなるから再編は嫌だ」などの反対意見が出ていたが、第一に考えて欲しいのは子どものことである。このことをこれまで以上に強く言って欲しい。再編はもっとスピード感を持ってやって欲しい。みんなが自分の子どもは関係ないと言っていたのでは、これからの小中学生のためにならないので、早めにやった方が良い。

⇒■今年は再編の見直しについて、小中学校や保育所・認定こども園の保護者、地域の方々がどう思っているのかをしっかりと聞いていかなければならない1年と思っている。来年からは、計画の内容や再編の日程についてしっかりと考えていきたい。

◎部活動は、全国的に外部講師に頼んでいる状況と聞いている。大野市では、野球のスポーツ少年団やみんスポなどの取組みはいいなと思っている。そのような場所で、普段学校が一緒でない子と会えるのが良いと思っている。そのため、部活動はそれほど重要と思っていない。乾側小を仮校舎で建てることになった経緯は何か。建てる仮校舎の耐用年数は、乾側小が再編になったら、その校舎はどうなるのか。

⇒■乾側小は木造校舎で、市内の小学校ではこの校舎だけ耐震工事をしていない。これまで乾側地区では、学校の耐震や学校再編について、その時、その時で保護者や地区の方々が一生懸命考え、今に至っている。今、学校再編計画の見直しに取り組んでいるので、通常の校舎を建てるつもりはない。乾側地区では、現校舎を耐震工事でほしいという要望もあったが、工事後に教育環境として使い勝手が悪くなるため、リースで軽量鉄骨校舎を建てることをできないかを検討している。このことについては、まだ議会には認められてはいない。今、再編計画の見直しに取り組んでおり、来年以降計画の検討に入るため、再編が進むまでのここ数年は乾側地区の子どもたちは乾側小に籍を置くことになる。耐震性のない現校舎で過ごさせるのは、非常に心配であり、何らかの形で安全を確保してやりたいと思っている。

⇒◎以前の計画では、乾側小の5・6年生が有終西小へ通うという説明を聞いて驚いている。

⇒■部活動については、陽明中では週3日以上、校外のクラブで一生懸命頑張っていれば、学校の部活に入らなくて良いことにしている。硬式野球やサッカー、トランポリンなどをしたいという時、学校で対応できない。

⇒◎野球やサッカーは人数を必要とするため、1つの学校では対応できないと思う。学校の先生は部活動を教えることで給料をもらっているのか。

⇒■給料はもらっていない。土日は少しであるが手当が付いている。

⇒◎乾側小は、下庄小や有終西小と一緒に勉強するという選択はなかったのか。

⇒■その方法についても検討した。下庄小は空き教室がなく、有終西小は無理すれば入れる状況である。年度途中で、他の学校に移動することは難しいと考えた。また、乾側小の独立性がなくなり、移動先の学校で肩身の狭い思いをさせたくないと考えた。旧蔵生小であれば、今の乾側小の形を残したまま、子どもたちは過ごせるといった。とにかく、子どもたちの安全安心を一番に考えて取り組んでいる。

◎学校の校区は決まっていると思うが、親が別の校区へ行きたいと考えた場合、選択が出来るのか。

⇒■違う学校に通いたい場合は理由が必要である。つまり、違う学校に通わなければならない理由が必要となる。例えば、有終南小校区の子どもの両親が働いており、昼間は家が留守になるため、学校が終わった後、有終西小校区の祖父母宅に預かってもらう時など、条件はいろいろある。校区を変更できる条件や手続きについては、市報10月号に掲載している。

⇒◎学校の人数が少ないから、人数の多い学校に通わせることは可能なのか。

⇒■条件が合えば通うことは可能である。今の規程では、そういう理由では校区を変更することは出来ない。学校の自由選択へは踏み切っていない。

◎市内の学校は相当年数が経っている感じである。校舎の耐用年数は何年ぐらいと考えているか。

⇒■国の減価償却を基準にすると、鉄筋コンクリートで約60年と示されている。耐用年数が近づいている校舎については、躯体の強度を調べ、長寿命化工事を行うなどの選択も含めて検討しなければならない。国では、長寿命化工事が可能である建物を築45年ぐらいを目処としている。新築工事の約7割の経費が必要と考えられている。



◎中学校の美術や技術、家庭などの教科における免許所有教員の配置状況の説明があったが、問題ないのか。

⇒■基本的には良くないことである。法的に良くないということではないが、英語の免許を持つ教職員が美術を教えるような場合があり、美術の得意な子どもたちにとっては専門の教職員に教えてもらった方が良いと思っている。

⇒◎音楽や美術、技術、家庭が義務でないのであればいいが、教科としてあるのに、免許を持っていない教職員がいないのは問題ではないか。

⇒■県教育委員会の講習を受けて、その教科を教える許可をもらっている。クラス数によって、教職員の配置人数が決まるため、開成中や陽明中のクラス数でぎりぎり9教科の教職員が揃う状況である。

⇒◎昔の勝原小では、校長と先生2人が交代ですべての教科を教えていた。1年生から3年生で1クラス、4年生から6年生で1クラスの2クラスだった。

⇒◎上打波小は、1・2年生、3・4年生、5・6年生の3クラスだった。

⇒◎多様な社会に未来を切り拓いていく子どもたちにとっては、学校は、音楽や美術などの分野に進む入口でもある。そうであれば、ちゃんとした入口にして欲しい。音楽の道に進む場合でも、その前に学校でその気付きがある。であれば、専門の免許を持っている教職員が配置されていないのは問題である。

◎中部縦貫自動車道が開通した後の人口推移は、どのように考えているか。

⇒■中部縦貫自動車道が開通することで、人口が目に見えて増えるという予測はしていない。市では、観光客である「ふれあい交流人口」と「定住人口」を合わせて、3万7千～8千人の規模が維持できるという考え方をしている。自動車道が開通し、道の駅が開駅し、産業団地も整備される中、その相乗効果で人口が増えれば良いが確かな数字は持っていない。

⇒◎増加も減少もなく、変わらないという考えか。

⇒■市が立てている人口の見込みは、国立社会保障・人口問題研究所という機関が見込んでいる数字を基にして

いる。自動車道や道の駅などによる効果は見込んでいない。基本は出生数と市外に出る人数、死亡者数で予測している。

◎全国的に少子高齢化になっている。子どもが少なくなり、学校も老朽化している。学校の分散による経費ロスが出ている。税収は増えない。再編は絶対すべきである。母校を残すべきだと言う人もいるが、五箇地区にも昔はたくさんの学校があった。市の財政を考えたら、早く取り掛からないといけない問題である。県内の他市でも学校再編は行っている。反対で再編がストップしているのは大野ぐらいではないのか。

⇒■昨年度、学校再編に取り組んでいる県外の市町を視察したが、どこの地域も10年ぐらいかけて再編を進めていた。これまでの再編は、地区に1つずつ学校が残ったが、これからは地区をまたいだ再編となっていくので、慎重にならないといけないと考えている。

⇒◎五箇地区には学校がないが、タクシーの送迎で学校へ行っているので安心である。

⇒■再編で、保護者の一番心配なことは通学である。

◎学校再編において、物理的な要因はみんなが理解している。中学校1校、小学校2校が時期尚早と思う者、校区と自治活動をイコールと考える者などがあったため、再編計画が反対された。児童生徒の考えも合わせて説明すれば、地区には理解されると思う。

◎小学校区と中学校区が違いため、小学校の同級生が中学校で別々になる。そのため、当時の自分の子どもも敏感であったため、可哀想だった。中学校が1つになればということもなくなると思う。

◎再編計画の見直し計画を作り、その計画に基づいて再編したとしても、再び再編しなければならない状況となる場合がある。教育費の大半はハード整備に係る経費だと思う。再び再編する状況となれば、整備した施設は無駄になる。人口予測を見ながら、中学校1校、小学校2校の再編方法についても再度検討して欲しい。

⇒■早急に見直し案を検討しないといけないと考えている。それぞれの方向性について、メリット、デメリットを説明しながら、提案していきたい。

⇒◎賛成や反対の両方の意見を聞いて、その間を取って再編計画を策定すると、絶対後で、また見直しをしないといけなくなる。学校を無くすなどと言っている人の意見を聞きながら、教育のレベルをある程度、担保する計画案はいい案ではない。本当にいい計画案を選んで欲しい。

⇒■計画案をしっかりと検討し、説明できるようにしていきたい。この意見交換会は延べ40箇所を回る。多くの方々の意見をしっかりと受け止め、計画を検討していきたい。

⇒◎今年度で計画が出来るのか。

⇒■意見交換会は11月末に終わる予定である。その後、すべての意見と小中学生のアンケート結果なども含めて総合的に取りまとめる。来年度には、検討するための組織を立ち上げ、計画案を作り、再度、説明に回る予定としている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年11月5日発行 第33号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月29日（火）午後7時～9時 場所：和泉小学校体育館
対象者：和泉地区住民（出席者数22人）
次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎教育長は情報公開をしていくと明言していたが、裁判（行政文書部分開示決定処分取消等請求事件（学校教育審議会の会議録開示））の判決文（H30.11.15福井地裁）を先月、原告から開示するように要求し、ようやくホームページで開示された。教育委員会職員の情報開示に問題があると思うがどうか。

先日、県の教育大綱が策定され、個性を重視する教育をしていくとしている。併せて、へき地教育についても、県教育振興基本計画に基づいて来年度から策定に入ると聞いている。それについて、県教育長は各市町の教育長と話をを行うとしている。へき地教育について、どのように考えているか。

⇒■裁判の判決文の情報公開については、今後期待に沿えるように努めていきたい。意見交換会の意見などについても、どこの地区でどのような意見が出たかということも多くの方に分かっていただけであることを基本的なスタンスとして取り組んでいる。へき地教育については、市町教育長会議などで話をしていくことになると思う。県ではインターネットなどを利用した授業を行うことで、離れている学校でも十分な授業ができるのではないかと検討している。市でも、そのような方法の利用について検討していきたい。教育委員会としては、ある程度の人間関係の中での教育が必要と考えている。どのような形が子どもたちにとって良いのか、各地区で意見を聞きながら考えていきたい。

◎和泉の教育環境に対して自信をもっている。和泉の各地区では空き家を利用して、地区外から人を呼び込んでいる。定住された人には、「こういう地域だから、こういう教育環境だから移住した」という理由の人もある。

市街の学校に再編となった場合、家から学校までの通学が片道1時間は掛かる。小学校1年生が毎日通うのは、体力的に無理ではないかと判断している。

1番の問題は地域が元気でなければならない。そこに住む人や子どもも元気でなければならない。1つでも無くなったら地域は衰退する。よって、この地域に学校は絶対残すべきだ。

⇒■和泉の小中学校や保育園の保護者からも、空き家に住み、この地域や学校での子育てがしやすいと聞いている。

⇒◎思いっきり特色ある学校づくりを行い、地域の目玉にするのも1つの方法だと思う。特認校や山村留学制度など、いろいろな方法はある。この地域にしかない学校づくりを考えていくべきである。

⇒■先般、和泉小中学生が利用しているバスに乗せてもらい、通学を体感した。意見交換会での保護者の一番の心配は、通学の距離や時間である。

⇒◎中部縦貫自動車道が開通すれば、インター間は20分でいけるかもしれないが、インターに乗るまでの時間やインターを下りてからの時間も必要である。また、冬道による危険性もある。

⇒■登下校については、慎重に考えていかないとけない。

◎和泉の学校にいた先生の和泉の教育環境に対する意見を聞きたい。

⇒■自然がいっぱいの中で、子どもたちと1対1で学習をした。地域の方とのつながりもたくさんあり、自分も教職員として育ててもらった。和泉村の時に、中竜鉾山が閉山となり、朝日中と大納中が統合し、中学校が1校となった際は、それまで実施していた小中学校合同の陸上記録会がなくなった。そのため、小学生の陸上の力を維持していくために、大野市連合体育大会への参加の働きかけをした。このように、へき地の学校としては、市街の学校との交流を行うなど、小規模校の教育では足りない何かを補っていかなければならない。

和泉小学校を特認校として広く募集をかけたとしても、児童はなかなか集まらないと思う。教育委員会と地域の方が一緒に働きかけを行い、連携しながらこの良さを出していかないといけない。

⇒■和泉中に5年間、赴任していた。ここで育った子どもたちの人間性やあったかさを感じ、この地区の素晴らしさは間違いないと思っている。今、いろいろな学校の授業を見て感じることは、子ども同士の学びを大事にしたいということである。将来、子どもがいろいろな職業に就きたいと思った時、人と話をして計画を練り上げ、実践していくことが求められてくると思う。現在の和泉小中学校の教職員は頑張っており、子どもを1人1人見守ることが出来ている。子ども同士については、今よりもう少し人数（10人ぐらい）がいれば大分違うと一番感じている。ある程度の人数がいて、このあったかい地域で教育ができたと思っている。現状の子どもの人数を見ていると不安である。

◎子どもの数が減るということは地域にも寂しいが、大野市にとっても不安な要素である。大分県豊後高田市のような子育て施策を展開し、1人や2人にならないよう施策を行うことが大事である。

子どもの数が少ないため、専門教科の先生が配置できないのは分かるが、A L Tのように市で雇用して配置する施策が必要である。

今、市の教職員は何人いるか。再編することで、教職員1人に対する子どもの数が多くなり、負担になる。子どもに接する時間も減るので教職員の数は大事である。

義務教育は、基礎・基本を学ぶ場である。子どもが教職員とどれだけ密接に関わるかであり、少人数教育は非常に大事な教育環境である。

⇒■市では、子どもが生まれた方への商品券や高校を卒業し市内に就職された方への奨励金など、これまで子育て施策に取り組んできた。今、令和2年度に向けて、子育て世帯を応援する施策を検討している。また、IターンやJターンなど大野への移住の呼び込みにも取り組んでいるが、市外を出られる人数が市内へ入られる人数より多くなっている。もっと効果的な策を行っていくことについて、市の部局全体で考えているところである。

⇒◎豊後高田市では、市が主催で無料塾も行っている。

⇒◎全国に、このような取組みを行っているところがある。大野も思いきった施策をしないと大野の魅力は伝わらないし、人は来ない。

⇒■教職員数は、小中学校合わせて218人である。実際に教壇に立っている教職員は157人である。市内には和泉小以外にも複式学級の学校があり、市や県の講師を配置している。また、へき地複式のやり方の研究会が奥越・県・東海北陸・全国とそれぞれにあり、教職員が参加し、複式の授業のやり方を学んでいる。

◎学校で子どもたちに自信を持たせることは大事である。福井駅で和泉中の生徒がある人から「どこから来たのか」と聞かれたとき、大きい声で「和泉から来た」とはっきり答えたのを聞いて嬉しかった。教職員だけでなく、地域の方が協力して学校とともにいろいろな取組みをしてきたからだと思う。今、若い人は働く場所がないから帰って来れない。

保護者が通学について心配であるのは当然である。中部縦貫自動車道を利用すれば15分で通えるというが、実際にバスを走らせてみないと立証できない。自動車道が完成した後、実際に走らせてから再編の協議をしてもらいたい。市民一体となって再編を考えていかないと駄目である。

⇒■登下校については、意見交換会のどの場所でも一番心配されていることであり、慎重に考えていきたい。

⇒◎実際に出来てから、立証できれば安心感がある。ここを残すということより、ここから安心して通うということが大事である。

- ◎現在の和泉小中学校の先生は、とても一生懸命やっている。先般、和泉小では上庄小と合同運動会をやり、そこで子どもが1番を取り、誇らしげに帰ってきた。とてももののびと育っている。他の学校と交流する方法はいろいろあると思う。
- ⇒◎先日、子どもが上庄小で一日交流学习をしてきた。大勢の中で楽しく過ごし、また会えることを楽しみにしている。これからこまめに交流していけば、再編した時、スムーズに入っていけると思うので、他の学校との交流をいっぱいして欲しい。
- ⇒■いろいろな世界を知ることが大事だと思うので、交流はどんどん進めたい。
- ◎子どもが和泉中の時、尚徳中で授業を受け、他の子どものいろいろな考え方を学んできた。和泉の教育環境は良いが、子どもはいろいろな人と出会っていきたいと思っている。以前、中学生の子どもが学校再編について、一番大変なのは体力のない小学校の子どもであると言っていた。
- ⇒■現在子どもがいる保護者の方も、この学校で育てたいと思う一方、もう少し早くいろいろな世界を見せたいという気持ちもあると思う。
- ◎学校再編について、普段子どもを見ている先生はどのように考えているか。
- ⇒■教職員との意見交換会は、夏休み中に行った。学校再編に対する意見は多種多様で、まとめきれないのが現状である。現在、校長会で各小中学校の教職員にアンケートを取り、その結果を基に、校長会と教育委員会で意見交換会を来年1月に行う計画をしている。
- ◎子どもが心配していることは、いじめとからかいである。特に小学校高学年と中学生が一番心配している。大野市では親の虐待の事案があるか。
- ⇒■事案はある。市長部局の担当課と教育委員会が連携しながら対応をしているところである。教育委員会ではスクールソーシャルワーカーの家庭訪問などを通して、見守っている。
- ⇒■いじめは一番心配していることである。いじめは実際に分かりにくいのが現状である。SNSやLINE（ライン）などのいじめもあり、非常に悩ましい。周りの大人がしっかり気を張っていかなければいけない。今の学校は、昔と比べて教職員と子どもの距離が近くなっていると感じている。
- ◎再編計画の見直し（案）がまとまり次第、この意見交換会のように説明会を行うと説明されたが、見直し（案）はいくつかの案を示すのか。また、見直し（案）がまとまる前の段階で、市民が意見を言うことは出来るのか。
- ⇒■検討にあまり時間をかけるのは良くないと思っている。素案を作成し、意見を聞く場は必要と考えているが、現在検討スケジュールなどは決まっていない。
- ⇒◎再編について、こういう形、方法があるんだと説明してもらった方が判断できると思う。
- ⇒■丁寧に進めていきたいと考えている。
- ⇒◎学校教育審議会で議論をするのか。
- ⇒■見直し（案）を検討するための組織は必要と考えている。
- ◎平成28年度の再編計画（案）に対するパブリックコメントで、和泉に移住された方が「和泉の子どもたちに出会って非常に衝撃と感動を受けた。和泉の子は生き活きと子どもらしく、素晴らしい。助け合って個性が光っている。」とコメントしていた。地域と家庭、学校の連携がうまくいっているからだと思っている。再編では、特色ある学校を市内に1校作ってはどうかと思う。和泉小は子どもの力を伸ばす環境が揃っている。校舎も新しい。
- ⇒◎和泉はあまり良くないイメージがある。地域に人が来てもらえない。
- ⇒■中部縦貫自動車道が出来れば、イメージは変わると思う。
- ⇒■市街も同じような問題がある。有効求人倍率は1.9倍あるが、希望する職種や給料ではないため、市外へ働きに出てしまう状況である。企業誘致に取り組んでいるが、企業からは大野で雇用を確保できるかと聞かれ



る。

⇒◎地域おこし協力隊などの制度を使って、市へ人を呼び込んでどうか。

⇒■活用をしていきたいが、どの自治体もこの制度に取り組み始めている。

⇒◎和泉に2人が定住している。こういう人がどんどん入ってくれば違った力が発揮される。

◎いじめは教育委員会が抑え、保護者がおおやけにしないと分からないイメージがある。教師間でもいじめがあるが、どう思っているか。

⇒■教師間のいじめがあったことは、ショックを感じた。もちろん互いに意見の対立などはある。

⇒■市内で1学年2学級ある小学校は3校で、その他は1学級や複式学級である。そのような中で、教職員同士でいじめをしている状況があったら、学校の教育は保たれない。教職員同士の同僚性を高め、お互いの技術を公表しながら、お互いの学習指導に生かしていこうとお願いしている。これまでは1つの学校で行っていた研究は、その学校だけのものであった。今は、いろいろな学校が他の学校の良い所を取り入れながら、教育を行っている。

いじめについては、現在、ちょっとしたいじめ（悪口やからかい）でもしっかり見ていくこととし、教育委員会に報告をしてもらっている。いじめの解消は、いじめがなくなってから3ヶ月間様子を見て、その後、被害を受けた子どもや保護者などから大丈夫であると確認をとるまでの期間を要している。

◎児童生徒のより良い教育環境を目指して学校再編を謳っていると思うが、本当は現在の学校数を維持していくのに経費が掛かりすぎるとい理由があるのではないか。

⇒■大野市の予算は、税金やその他収入でまかなえるのが約3割で、その他は国の地方交付税や補助金、県の補助金などでまかなっている。今後、人口が減少する中、国の地方交付税などがどれくらい市へ入ってくるのか分からない状況である。よって、市の予算規模がどうなるのか予想できないが、大きく増えることはなく、現状維持か少しずつ下がっていくと考える。教育委員会としては、全体の予算規模が小さくなったとしても、教育費10%の割合は確保していきたいと思っている。教育費の予算を縮小するために学校再編を進めている訳ではない。しかし、この先10年、20年、この学校数を維持し続けていくことは厳しいと考えている。教育については、1学年に1人、2人という学校が子どものために本当に、より良い教育環境なのかということを考えているところである。

⇒◎校区は簡単に見直しが出来るのか。

⇒■校区を審議する組織がある。

⇒◎学校を維持するために、子どもの数が均等になるように校区を見直すことは可能か。

⇒■可能性はあるが、現在の校区にはこれまでの歴史や経緯があり、人数調整のためだけの（部分的な）校区変更は難しいかもしれない。

◎以前、子どもが友だちを好きで関わっていたのに、先生に呼び出されてしまい、それ以来、対人恐怖症となった。先生はよく状況を把握し、いじめの判断や指導をして欲しい。

⇒■いじめの背景をしっかりと見極めていく必要があるので、学校と一緒に考えていきたい。

◎クラブ活動に必要な道具などを購入する学校への予算は、どのような配分になっているのか。

⇒■学級数や児童生徒数の規模に応じて学校への予算額を決めて、配当している。

⇒◎以前、和泉中学校が生徒数が少ないから、予算が少なく、スキー部や剣道部の道具を買えないと言っていた。そこで、空き缶などの資源回収による資金で道具を買った。小さい学校への予算の配慮をお願いしたい。

◎学校教育への要望に、学校で集金するお金が高いというアンケート結果がある。教材費や部活費、修学旅行費など年間を通すと相当なお金になる。市は無償に近づけていく努力が求められる。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年 11月7日発行 第34号

発行 大野市教育委員会教育総務課

〒912-0086 大野市天神町 1-1

電話 0779-64-4827 Fax 0779-69-9110

E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実に努めることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月31日（木）午後7時～9時

場所：乾側小学校体育館

対象者：乾側地区住民（出席者数14人）

次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎学校再編は必要と思ひている。その時期も遅くない方がよい。乾側小は他の学校と比べて、子どもの人数が最も少ない。大きい学校で学ばせてあげたい。再編の方法や時期の構想が現時点であれば、教えて欲しい。
⇒■今年は、約40箇所意見交換会を行い、いろいろな方々から意見を伺うこととしている。来年度から、再編計画を検討していくこととしている。現時点で、再編の構想は持っていない。
- ◎乾側小の子ども的人数はあまりにも少なすぎる。学校を単独で残せる人数ではない。大きい学校の方が小さい学校より、メリットが多いと思ひます。平成23年頃にも再編の話があったが、未だにこのような状況になっているのは遅いと思ひます。孫が12月から旧蔵生小へ移転で行くことを楽しみにしていたが、その理由は他の学校の子と一緒になれると思ひていたからであった。一緒になれることが分かったとがっかりしていた。一刻も早く、いい方向に持っていて欲しい。
⇒■教育委員会では、ある程度的人数で子どもたちを教育していく環境が必要であると考えている。学び合いを通じた友だちとの関係はとても大切なことだと思ひている。
- ◎学校が再編されると地域が崩壊する。乾側小をなんらかの形、例えば特認校方式などで残して欲しい。子どもと地域とのつながりの場所を残していきたい。地域が崩壊したら、地域行事などでの助け合いがなくなる。子どもを大きい学校で学ばせたいと思ひますが、そうしなければならぬのであれば、地域の活性化策を考えて欲しい。
⇒■昔から学校は地域の人が集う所であったと思ひますが、学校がもともと何のためにあるのかを考えれば、それは子どものためである。子どもが学校でしっかり生活できているかや、保護者が我が子にどのような教育を求めているかを確認していきたい。
⇒◎英語などによる特認校を目指すなどの検討をして欲しい。市外からも入学してくる子どもがいるかもしれない。児童を増やせる方法を考えて欲しい。
- ◎学校は教育の場である。保護者が中心になって学校をどうしたいのかを考え、それから、地域ではどうかと下りてくるのがよい。その後、地域でバックアップすることがあるのか、もし学校がなくなるのであれば、地域をどうすればいいのかは、後で考えればいいことである。学校関係者がどういう思いなのかを知りたい。
⇒■子育てのしやすい町でないと駄目だと思ひます。その面で、安心して通わせられる学校を作っていかなければと思ひます。
⇒◎地域は保護者の考えについていくしかない。
- ◎和泉地区の意見交換会では、どのような意見が出たか。
⇒■和泉地区だけではなく、保護者の一番の心配は登下校の距離と時間、方法である。
⇒■子どもの数が少ないので大きい学校で学ばせたい気持ちがある一方、通学に対する不安を持っている。また、学校がなくなると地区が寂れてしまうのではないかと考えている方もいる。
- ◎学校再編は全国で検討されているが、ある程度学校の人数を希望している意見が大半であると思ひます。
⇒■ある場所の意見交換会で「保護者の心配は小さいがいっぱいある。それを丁寧に聞いて欲しい」と言われた。「大きい学校へ行きたいけど、小学校1・2年生だと心配である」なども言われている。
⇒◎地区では孫がいない世帯が多いため、学校再編に関心がない。学校が地域にないと寂しいなという程度である。
- ◎複式学級で困っていることは特段ない。大規模校では得られない経験をしていると思ひます。乾側小の子は鍛えられているので、いきなり大規模校に入ったとしてもやっていける力は十分に備わっている。

◎再編で地域がギクシャクしているのがネックである。再編に反対、賛成というよりも地域のために学校を残して欲しい。乾側小で6年間満足に学校生活を送らせることが出来た。以前は、大きい中学校へ上がることによって不安だったが、今は大丈夫であると思っている。自分の仕事の立場から考えると、たくさん子どもの中で競争しながら備わっていく力とか、子どもが主体的に行っていく力も大きいと最近は思うようになった。子どもにとって、小規模校、大規模校、どちらがいいかは言えない。子どもにとってどちらがいいかを考えた時、保護者だけでは難しいので、地域の人も一緒にもう一度最初から考えていった方が良いと思う。

⇒■小中学生のアンケートでは、自分が生活している学校に満足していると答える子がいる。その要因の1つとして、子どもは現在生活している学校の世界（1学年のクラス数やクラスの人数など）しか知らないためであることが挙げられる。

◎先生の友人がいるが、複式学級の方が教育をより高められるということで、複式学級を選んでいる人もいる。複式学級だから駄目とか、たくさん子どもがいるから良いという訳ではないと思う。理想は1クラス10～20人の間が良く、再編で30～40人にはなって欲しくない。複式学級でも良い。乾側小をどうするかということではなく、市全体として小学校の規模を考えて欲しい。乾側小で力を入れている教育は、市全体の宝でもあると思うので、継承して欲しい。4、5年かけて、段階を踏みながら再編をして欲しい。乾側小では特徴的な教育をしているので、特認校として残るのが理想と思っている。そうすれば、福井市などから学校へ入学したいと思う子もいると考える。

⇒■昔の学級人数は40～45人だった。国の基準は1学級40人だが、福井県は独自施策で、小学校1～4年生は最大35人、5・6年生は36人、中学校は1年生は30人、2・3年生は32人としている。これを受け、市の学校は20人台の学級が多い。昔より、教職員の目が行き届く教育が出来ている。各学校では、それぞれに応じた教育をしている。15年前からは、教職員だけでなく地域の方と連携した学習も展開している。



◎再編について、みんなが納得できる形になってくれれば良いと思う。

◎孫がもうすぐ小学校に上がるので、早く再編して欲しいと思っている。一番心配なのは、小規模校から大規模校へ行くと不登校になったり、小規模校出身の子が社会人になって引きこもりになったりすることである。大人の社会でも競争があるので、小さい時からの競争は必要である。乾側小が再編せずに、今後もずっと継続したとしても、孫は大きい学校へ入学させると思う。

◎昔、「保育園の時は友だちがたくさんいたのに、なぜ人数が少ない乾側小に行かないといけいいのか、行きたくない」という話を聞いたことがあるので、子どもを中心に考えたら再編した方が良いと思う。

◎小学校で小規模校だった子どもの中学校や高校における不登校の割合は、大野では多いのか。

⇒■そのような統計は取っていない。不登校にはいろいろな要因がある。一概に小規模校が原因であるとは言えない。要因で一番多いのは友人関係である。

◎今後、学校再編はどのように進めるつもりか。

⇒■来年度に、再編計画の見直しの検討を始めたいと思う。見直し（案）を作り、各地区などへ説明に回る予定としている。

◎今日の意見交換会では区民全員が来ていない。今後、アンケートを区民に取る予定はあるか。

⇒■区民全員に取る予定はしていない。意見交換会で直接意見を伺うとともに、言えなかったことや言いにくいことをアンケートで書いていただくこととしている。

⇒◎乾側幼稚園の休園の時は、アンケートを全員に取ったことがある。

⇒■私たちは、何らかの形で直接ご意見をお聞きしたいと考え、意見交換会を開催している。

⇒◎みんなが納得いくようにして欲しい。

⇒■市民全員にアンケートを取る計画はしていない。その代わり、きめ細かに意見交換会を行うこととしている。

◎これから子どもの入学を予定している保護者が、校区を変更したいと思った場合、どうするのか。無条件で校区を変更することは出来ないのか。

⇒■無条件で校区は変更できない。昼留守家庭や通学距離など変更できる条件がある。

⇒◎乾側地区の保護者で無条件で校区を変更できるのであれば、市街の学校へ変更したい保護者はいると思う。

⇒■一般的に公立学校は校区が決まっていて、人数を把握しながら運営している。

⇒◎合併することを前提に、近い学校（下庄小や有終西小）へ無条件で行けたら良いと思った。

⇒■今後検討しながら考えていかなければならないと思う。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年11月11日発行 第35号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月5日（火）午後7時～9時5分

場所：小山小学校体育館

対象者：小山地区住民（出席者数16人）

次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎以前の学校再編計画は、なぜそんなに急いだか。丁寧さがなく、計画の進め方が分からなかった。

⇒■平成29年1月に策定した学校再編計画は、平成25年から多くの方々の意見を聞くことから着手している。

平成27年2月に計画素案を作成し、段階的に再編する案としていたが、子どもの数が将来的にさらに減っていく想定と、段階的に再編することで学校を何回も変わったり、学用品を買い換えたりなど、保護者や児童生徒に負担をかけてしまうと考へた。そのため、中学校1校、小学校2校と段階を踏まずに計画したこと

で、多くの方が再編を急いだと感じられたと考へている。

⇒◎急いだ理由に、学校の新築に係る補助金を受けられる期限などは関係なかったのか。

⇒■関係ない。今後も学校を新築する場合、国の補助制度はある。

◎中学校1校になると、小山地区の地域性がなくなる。市総体などの運営に影響があるのではないかと考へている。

⇒■校区が1つになることによる地域の結びつきへの影響は難しい問題であると思ふ。学校は、誰のためにあるのかを考へないといけなひ。子どものためではあるが、地域の中心であるのも間違ひない。どちらを選ぶかとなった場合、子どもの幸せを優先したいと考へている。

⇒◎せめて、中学校は2校だと思ふ。

⇒■中学校の現状は、美術や技術、家庭などの専門教科の教職員がすべての中学校に配置できなかつたり、部活の選択ができなかつたりしている。

◎子どもの数が少ないと何が悪いのか。多いと何が良ひなのか。先般、市文化祭があり、各小学校の作品が出品されていた。小山小の作品は、他の学校と比べて素晴らしかった。大きい学校の子供も全てが絵が上手なのか、走るのが速ひなのか。今年の小学校の陸上競技では、小山小の子供もが1番だった。人数だけで物事を片付けようとしなひで、小さい学校だから出来ることもある。大きい学校と合同でやれば出来ることもある。

⇒■日本は島国であり、へき地・複式の学校がたくさんある。そのような学校で、個人競技を集中して頑張っている子供はたくさんいる。大規模校、小規模校それぞれに課題はある。今は、家に居ても国語や算数などの勉強が出来る時代であるが、学校はなくならなひと思ふ。学校では、勉強以外に集団で生活しながら、社会性を学んでいる。極端に子どもの数が少ないと、この社会性を学ぶことが出来なひと考へる。これからの時代を生きていくために、社会性は必要なことだと考へている。

⇒◎子どもが少ないと集団的な行動は出来なひと思ふ。夏休みにバイトに来ていた高校生が「早く夏休みが終わって欲しい」と言った。それは早く、学校で友だちに会いたいためであった。家の隣り近所に友だちがいなひためであり、それを考へると学校はある程度の人数が欲しいと考へるが、小規模校の良さもあり、再編に対する考へが行ったり来たりしている。

- ◎今は、昔なかったような思いもよらない事件が起きている。その要因が教育にあると感じている。一番考えていかなければならないのは、心の問題である。子どもたちがどうやって育っていくのかを考えたら、果たして数字だけで学校を小さくしたり、大きくしたりしていいのか。どうしたらいいかの結論はない。中学校1校、小学校2校の再編の時、教育委員会はスクールバスを出すと行ったが子どもを荷物みたいに運ぶ感じで、乱暴だと思った。再編による細かい問題は分からないが、子どもの心を育てて欲しい。
- ⇒■この意見交換会は、大野の教育環境をどうしたらいいかについて意見を聞くために行っている。その中の一つに再編がある。子どもたちのために原点に戻って考えていくことは必要だと思っている。
- ◎大野の地形から考えて、中学校2校、小学校4校が理想と思っている。人数的なことを考えると厳しいかと思っている。1学年100人ぐらい、もしくは1学年最低2クラスあれば良いと思っている。今後、子どもが減っても、この規模であれば20年ぐらいは学校としてやっていけると思う。
- ◎複式学級の子どもと、それ以外の子どもの学力テストの分析結果はあるのか。複式学級である小山小の子どもは先生と接する時間が大きい学校より多い。なので、一つも劣っているとは思っていない。小山小は優秀なのに、なぜこの地区に住んでいて、有終南小へ通学している子どもがいるのか。校区割はないのか。
- ⇒■校区は決まっている。
- ⇒◎小山小の校区の領域を広げてもらえれば、小山小の人数を確保できるのではないか。校区を変更することは難しいのか。
- ⇒■校区は昔からのつながりがあり、急に校区を変更することは難しい。校区を変更したから、有終南小の子どもが多いという訳ではなく、時代の変化で有終南小校区に人が多く住むようになったからである。
- ⇒◎時代の変化で学校の人数がいびつになっているのを容認しているのか。時代の変化に合わせて校区を変更をすればいいのではないか。
- ⇒◎新庄区や鉾掛区なども以前は小山小の校区だった。いつごろから校区が変わったのか。
- ⇒◎昭和40年代だと思う。当時、校区変更について小山地区で説明をした時、地区住民は誰も反対しなかったと聞いている。これだけ人口が減り、少子化になってきている中、学校再編は避けて通れないと思っている。地区にとっては、小学校・公民館・農協の支店が地域コミュニティの拠点である。これが1つ欠け、2つ欠けという状況が見えてきた時、どのように受け入れ、どのように対応していくかが課題である。
- ⇒◎教育だけを視野に入れては駄目である。コミュニティ全体を考えて動かないといけない。市の他の部署と連携をとってもらいたい。有終南小の子どもの数は、多すぎて問題であるということはないのか。
- ⇒■有終南小でも、教室は空いてきている。
- ⇒◎義務教育なので、文部科学省のマニュアルから逸脱しては駄目なのか。大野らしい教育をやったらどうか。
- ⇒■国の基準をもとに、大野の強みを出しながら教育をしていくことは必要だと思う。
- ⇒■昭和40年代の有終南小は1学年200人（1クラス40人の5クラス）がいた。現在の大野市の出生数は年間200人である。1学年100人の小学校にしようとするれば、必然的に2校となる。小学校4校とするれば1学年50人になる。今後も子どもは減っていく状況である。
- ⇒◎文部科学省から統廃合の指針は出ているのか。
- ⇒■国が示している標準学級数は、小中学校とも12～18学級である。小学校では1学年2～3学級、中学校では1学年4～6学級を標準としている。
- ◎家から有終南小まで3.9キロである。再編した場合、学校から4キロ以内でもスクールバスを出して欲しい。また、学校が終わった後、子どもを預かる場所を確保して欲しい。子どもの両親は共働きで、60歳を過ぎた祖父母も働きに出る時代である。児童クラブや放課後子ども教室もいっぱい状況と聞いている。
- ⇒■児童クラブの所管は、福祉こども課であり、地域コミュニティは総務課や生涯学習課が関係する。学校再編は教育委員会だけの話ではないため、関係課と連携しながら、いろいろな課題を考えていきたい。
- ⇒■小学校から家まで4キロ以上の場合はスクールバスで対応するということは、再編計画素案の時に示している。スクールバスについては、意見交換会を実施したどの場所でも不安なことであるため、十分に考えていかなければと思っている。

◎学校再編ではいろいろなことが課題になると思う。ある程度、変更ありきの案を出して欲しい。

◎いじめや不登校があった場合、中学校1校では逃げ場がなくなる。

義務教育が終わった高校生に小中学校に対する意見（どのような学校だったかなど）を求めているかどうか。

親として、小さい小学校から大きい中学校へ入学する子どもが心配であるが、カウンセリングなどのフォローがあれば心配なくて済む。

中学校1校の再編は、不安要素を大きくしている。長い時間をかけて、たくさんの意見を聞いて欲しい。大きいクラスになると、英語の授業などで先生の話を聞いていない子どももいると思う。少人数クラスに編成するか、先生をもう1人配置し、全員が授業に集中できる環境づくりをして欲しい。

⇒■教職員が子ども同士をどのように学習させるかの技術を上げていかなければならないと思っている。今の学校では、車座形式（子どもが向かい合って輪になる）で意見を出し合う授業も行っている。お互いが相手の意見を聞き、それに対して自分の意見を言うなど、子ども同士の学び合いを行っている。

◎小山小の放課後子ども教室では、上の学年が1、2年生の面倒を見ていて仲が良い。再編しても、このような小規模校の良さを残して欲しい。

⇒■教育委員会でも考えなければならないことだが、地域の良さを地域の方々は、どのようにすれば残していけると思うか。鉄踊りや地域の運動会をどのように残していくかを教育委員会だけで考えるのではなく、地域住民や市関係部署などと一緒に考えていかなければならない。

⇒◎再編後の放課後子ども教室の運営方法なども含めた素案を示してもらえれば、保護者や地域住民の安定材料になると思う。

⇒■例えば、再編した場合、放課後子ども教室を小山地区で継続的に運営する場合、地域の方は協力してもらえるかなど、地域の方も一緒になって考えていただければ、小山小の良さを残していけると思う。

⇒◎地区の体育大会があるとき、中学校の行事や部活を休みにしてもらい、生徒が参加してくれている。小学校が再編された場合、そのようなことも継続して欲しい。



◎中学校の部活が少なく、やりたい部活がない生徒が多いと思う。中学校が2校に再編された場合、2校で1つの部活を作るなどの検討もして欲しい。

⇒■他の中学校の部活に入って大会に出たり、2つの中学校が合同チームを作って大会に出たりすることは現在も行っているが、練習がなかなか一緒に出来ない。

⇒◎部活に規制はないのか。子どもの要望に応じていろいろな部活を作っていたら、子どもも先生もいくら人数がいっても足りないと思う。

⇒■陽明中では、校外のクラブチームで一生懸命頑張っていれば、学校の部活に所属しなくても良くなっている。再編しても、みんなを満足させる部活は出来ないと考える。地域のクラブに頼っていくことになっていくと考えている。

⇒◎どうしても部活をしないといけないのであれば、学校では勝敗にこだわらない同好会みたいな部活とし、勝敗にこだわる場合は校外のクラブチームに所属してもらうなどにしてはどうか。また、季節によって、1人が野球部とバドミントン部などいくつも所属できるようにするなど学校の部活の運営を考えていくべきと思う。

⇒■部活のあり方は間違いなく、これから変わっていくと思う。

◎中学校は、部活のことが原因で再編を検討しているが、現在、校外のクラブチームの所属などで対応しているのであれば、部活を絡めない再編の考えが出てきてもいいのではないかな。

⇒■部活以外にも、小規模の中学校では主要 5 教科の教職員は配置してもらえるが、美術や技術、家庭、体育などの教科に対して専門の教職員が配置されないことも課題となっている。

◎出生数が年間 200 人ぐらいと聞き、再編せざる得ないと感じた。子どもが小山小に入学するとき、人数が少ないことに対する不安があった。周りからは「目が届くからいいね」と言われたが目が行き届きすぎる不安があった。入学後、6 年生の子が下級生の子に対して絵本を読んであげていたのを見て、小規模校も良いと思った。大きい学校では見られない光景だと思った。しかし、少ない人数の学級で担任の先生と相性が合えばいいが、合わなかったら辛い思いをすると感じている。1 学年に少人数の学級が複数あると良いと思う。

◎教育でグローバル化をすればするほど、ローカルが重要になってくる。小規模が重要になってくる。今は、個人が重要で才能や個性を伸ばす時代になっている。学級は少なすぎても駄目だが、目の届きやすい人数であることは必要だと思う。国の基準ではなく、現場の視線でその規模（基準）を作って欲しい。学校再編は、PTA の意見を最優先しなければならない。地域はサポートする立場に回らないといけないと思っている。

⇒■子どもを持つ保護者がどう思うかが重要だと考えている。大野に住む自分たちで大野の教育を創っていくしかないと思っている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年11月12日発行 第36号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月7日（木）午後7時～8時50分 場所：阪谷小学校体育館
対象者：阪谷地区住民（出席者数8人）
次 第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎他の地区では、学校再編がどのくらいまで進んでいるのか。

⇒■現再編計画に基づいて、再編を進めている地区や学校は現在はない。（小中学校再編計画を策定した平成29年1月から、今年度の再編計画の見直しの取り組みまでの経過を説明）

⇒◎再編計画を見直すというのは、ゼロからのスタートではないということか。

⇒■教育委員会では、ある程度の規模の教育環境を作っていくために学校再編は必要であると考えている。学校の校数や再編時期、再編の方法を中心に見直しを進める。

⇒◎再編ありきで話をしていくということか。いずれは再編しないといけないと思っている。再編のやり方が重要だ。保護者の意見をどれだけ聞いてもらえるかが大切だと思う。

⇒■再編に向かって進みたいと思っている。そのために、意見交換会を開催し、多くの方から意見を聞いている。阪谷小をどうしたらいいかを聞きたい。

◎再編計画を見直した計画が議会で反対されたら、どうするのか。反対されたら、再編は全く進まないことになる。住民投票で決定するなどしたらどうか。

⇒■議会の承認を得られるように努力していきたい。再編計画は、議会の議決事項ではないが、進め方は議会に説明しながら策定していくこととなる。再編計画に関連する予算については、議会で議決していただくことになる。

◎中学校の音楽や美術、家庭などの専門教科の先生の人数は、どのように配置されるのか。

⇒■教職員は各学校の学級数によって人数が配置される。よって、学級数が多い学校では、専門教科の先生を配置すること出来る。

⇒◎働き方改革で、国の1学級の人数の基準に変更はないのか。

⇒■国が1学級40人を20人に基準を変更すれば、1学級を2学級にすることが出来て、教職員も1学年2人で授業を行える。このことは、教職員の要望であるが、国では別の点で働き方改革をして欲しいという方針を出している。

◎このような時代であり、再編は仕方がないと思う。今年、小浜市では小学校4校が1校に再編された。遠い地域の校区同士が再編されている。あわら市などでも再編を行っている。

⇒■小浜市でも再編を行うために、何年も時間をかけている。小浜市では再編でスクールバス6台の運行と路線バス1台を利用している。

⇒◎小浜市の再編と比べれば、大野の再編は距離が短い（範囲が狭い）と思う。

◎阪谷地区では以前、区長会で阪谷小の再編の話が行われ、その結果について新聞で報道された。その後、保護者から区長会に対して、事前の話し合いなしで再編を進めないで欲しいと言われたので、区長会で勝手に決める訳にはいかない。

⇒◎本心では、子どもが1人でもいる限り学校を続けて欲しい。しかし、子どものためを思うとそういう訳にはいかない。子どもが少ないと、しっかり先生から勉強を教えてもらえると思うが、スポーツは出来ないと思うので悩ましい所である。

⇒◎子どものことを考えれば、もう少し多い方が良い。中学校では大人数の方が部活が出来る。

⇒■尚徳中では、外部講師が教えている部活もある。野球部では、阪谷小の教頭先生に協力してもらい、教えてもらっている。部活をやっている以上、子どもたちにしっかりした技術を学んでもらいたいと思う。

⇒◎平日の部活は保護者が迎えにいけるが、土日の部活については、仕事がある保護者もいるのでスクールバスの送迎などをお願いしたい。

⇒■今は、働き方改革と併せて、子どもの体力にも配慮し、部活を平日は概ね月曜日を休みに、土日はどちらかを休みにしている。大会前の土日に練習した場合は、大会後の土日を休みにしたりしている。

◎平成29年1月に策定された再編計画の変更点は、この3つ（学校の校数、再編時期、再編方法）だけか。

⇒■3つを中心に見直しを行うこととしている。

⇒◎再編計画では、3つ以外のことについても方向性などが示されていたが、それらは見直しをしないということか。例えば、スクールバスなどのことについてである。見直した再編計画が策定された後、各地区でスクールバスのルートなどの細かいことについて決めていくための意見交換会や説明会などを開催するのか。

⇒■既存の学校を利用して再編する場合は、学校の場所が明確であるため、スクールバスの想定ルートなどは計画の中で示すことはできると思う。学校を新築する場合は、計画策定後に建設箇所の選定をするため、バスの想定ルートなどを示すことは出来ないと考える。今回見直す再編計画では、出来る限り具体的な内容を示していきたい。

⇒◎学校を新築するなら、この阪谷地区でも良い。この地域は環境も良い。

⇒◎既存の学校を使うかもと言っていたが、どの学校も古く、安心して教育ができるのか。

⇒■どの学校も30年、40年を経ているが、国では学校の長寿命化の方針も出している。施設のコンクリートがある程度強度が保たれていれば、補強工事を行うことで、施設の耐用年数を延ばすことが出来るとしている。

⇒◎乾側小以外は、耐震があるのか。

⇒■そうである。耐震基準を満たしている。

◎現再編計画に沿った場合、小学校は令和8年度に再編となっているが、それまでの間に例えば阪谷小が全校児童5人となり、令和8年度以前に富田小などへ先行して再編するということはあるのか。

⇒■それはある。保護者及び地区の方が、再編計画より早く再編すること（先行再編）を要望されれば、再編に向けて教育委員会も準備をしていく。

⇒◎阪谷地区の若い方には、子どもの教育を考え、地区を出て阪谷小以外の学校へ入学させる人もいる。

⇒◎30人ぐらいの小学校から、いきなり大きな中学校へ入学することに対する不安がある。中学生になる頃には、物心や分別もついている。成長過程に従って、徐々に学校の規模が大きくなっていくのであればいいのだが。小学校の時期は転校があっても対応できる年頃と思っている。

⇒■学校でフォローしていかなければならないと思っている。

⇒◎再編は早くして欲しい。中学校が1校になっても、市外に出れば他校と練習試合などが出来る。現在、校外の部活に所属している生徒もいるが、自分は校内の部活をするべきと思っている。

⇒■部活動は学校で大切な位置付けである。しかし、現在部活の数は減る一方で、生徒にはいろいろなニーズがある。そのため、校外のクラブで頑張ってもらえば良いと考えている。時代の流れで、校外のクラブへの移行が進んでいるが、学校から部活動がなくなることはないと思う。

⇒◎学校から部活動がなくなったらどうなるか。

⇒■生徒のニーズに対応できるだけの校外のクラブの受け皿がないと思う。クラブを教えている民間の方はボランティアで行っている。

◎再編については、1つ1つ順番に決めていった方が良い。

⇒■学校数や再編時期など、整理しながら進めていきたい。意見交換会でいろいろな場所を回っていると、保護者の一番の心配は通学で、学校までの距離と時間である。

⇒◎阪谷地区で冬の寒い時期に、小学生がスクールバスを1人で待っている姿を見ると可哀想である。保護者も仕事があるため、バスの停留所で子どもを降ろして会社へ向かってしまう。



◎校数のパターンが決まらなないと、再編は前に進まないと思う。

⇒■再編の議論は段階を踏んで進めていきたいと思うが、あまり時間をかけ過ぎるのも良くないと思っている。

⇒◎再編に対して、周りの雰囲気はどうなのか。ほぼ再編に賛成ではないのか。

⇒■再編については、いろいろな意見がある。地区によっても違うが、保護者と年配の方でも違う。

⇒◎再編については、それなりに速度を速めた方が良い。間延びすると、現在の保護者がどうでも良いと感じてしまう。

◎この先、阪谷小が少なくなると先行して富田小と再編する可能性はあると言ったが、乾側小でも、先に下庄小へ再編するという話はなかったのか。

⇒■先行再編は、保護者や地区の方がしっかりまとまってもらわないといけない。教育委員会から再編計画より先行して再編することについては、保護者や地区に言うことは出来ない。乾側地区でも先行再編で一度まとめたが、その後、出来ないとの意思表示をされている。

⇒◎阪谷小についても、阪谷地区から先行再編の要望を出さない限り、教育委員会で先行再編を切り出さないということか。

⇒■そうである。

⇒◎阪谷地区の一部の保護者が、入学時から富田小へ行くことは絶対出来ないのか。

⇒■大きい学校へ行かせたいという理由で、指定された学校以外の学校へ入学することは出来ない。学校を変更する基準に合えば、希望する学校へ入学することが出来る。(指定学校の変更に関する基準は、広報おおの10月号に掲載)

◎学校が近くにあると、子どもの声が聞こえるので楽しみである。

⇒◎各世帯に子どもがいなくなっているから、学校再編に対して関心がない感じである。

⇒◎意見交換会では、どの開催場所も再編に対する意見が違うのか。

⇒■保育所や認定こども園の保護者からは、学校への入学前の子どもがいるため、学校の教育内容についての意見が多い。このような意見も再編計画を見直ししていく上で非常に参考となる。

⇒◎小学校は中学校区ぐらいの数で良いと思う。早急に再編の形を示して欲しい。それに対して意見をもらった方が良い。

◎市内の学校で、いじめはないのか。

⇒■いじめがないとは言えない。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございます。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年11月20日発行 第37号

発行 大野市教育委員会教育総務課

〒912-0086 大野市天神町 1-1

電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110

E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月12日（火）午後7時～8時40分

場所：富田小学校体育館

対象者：富田地区住民（出席者数20人）

次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎乾側小が旧蔵生小へ移転し授業を行うことはやむを得ないと思うが、校舎を新しくすることに対してはどうか。
富田地区の森目小や蔵生小も富田小と再編を行った。少なくとも、1学年2学級は必要であると思うし、1学級でも20人ぐらひは必要である。そのような人間関係の中で勉強するのがもっとも良いと思っている。また、阪谷小も子どもが減り、厳しい環境だと思ひるので、富田小と一緒に、尚徳小になると良いと思っている。保護者が子どものことを思い、しっかり考えていくべきである。乾側小の耐震対策に係る報道内容が説明不足であるなら、広報おおので説明をしていくべきではないか。
- ⇒■保護者が自分の子どもにどのような教育を受けさせたいのかということが大事である。意見交換会を回っていると、子どもや地域のことなどを心配される方がそれぞれおられる中、子どもを中心に考えていかなければと思っている。
乾側小については、平成31年4月に下庄小へ先行再編する旨の要望書が2年前に出され、教育委員会で準備をしていたが、その後、保護者会から要望が取り下げられ再編が進まず、先行再編を希望していた平成31年4月が過ぎてしまった。再編計画によるビジョンがあれば、乾側地区や保護者の方に、乾側小の再編について教育委員会から願ひすることはできる。しかし、現在、再編計画見直しへの取り組みを行っている最中であり、計画がない状態である。今後、乾側地区が先行再編について、再度まとまるのであれば、教育委員会は準備などで動いていきたい。また、今回の対応はあくまで耐震のためであり、児童・教職員の安全を最優先に考えている。
- ⇒■乾側小の耐震対策では、中古の部材（外壁や屋根など）を利用しリースで校舎を準備していくことを検討しているが、現在は決まっていなひ。決まったら、広報おおのでお知らせしていきたい。
- ⇒◎乾側地区で意見交換会は開催されたのか。開催している場合、再編についてどんな意見が出ているか。
- ⇒■開催している。再編に対する意見は、賛否両論いただいている。教育委員会では、なんらかの形で再編をしていく必要があると考えている。
- ◎富田小は、1学年1学級で20人ぐらひを維持して、先生の目が行き届く範囲でちょうど良い。慌てて再編をする必要はない。何故、再編を考えているのか。
- ⇒■再編計画見直しの1つの意見としてお聞きしておきたい。富田小は現在109人で、1学級15人から20人である。
- ⇒◎これから子どもは減っていくかもしれないが、市で人口減少対策をしているのだから悲観的にならなくて良いと思ひ。富田小は今が適正な人数である。クラブ活動のために再編する必要はない。
- ⇒■子どもが増えていけば良いが、複式学級になったりしたら考えなければと思っている。
- ⇒■国の機関である人口問題研究所では、富田地区は現在2,700～2,800人であるが、20年後には1,850人ぐらひになると予測されている。市では、移住定住の施策や観光客が増える仕掛けなどを行っているが、人口が減るのを止めることは難しい状況である。
- ◎中学校は1学年4クラスが理想だが、最低1学年2クラスは必要である。校数は2つは欲しい。
- ◎再編は、いずれしないといけなひ状況であると多くの人が考えていると思ひ。その中で、子どもを学校へ送り出す時にバスだけでうまくいか、登下校で保護者の送迎が前提条件ではないかなどの不安が多々あると思ひるので、そのカバーをしっかりしなければならなひ。
- ⇒■保護者の一番の不安は登下校である。その他、放課後の子どもの過ごし方などがあり、この不安な点は丁寧に検討していく必要がある。
- ⇒◎スクールバスを利用する場合、低学年と高学年で同じ時間帯に授業が終わることが出来るのかなどを踏まえて運行しないと、単に建前でバスを2便出すだけでは保護者は納得しないと思ひ。
- ⇒■富田小のスクールバスは、登校は1便だが、下校は低学年と高学年に分けて時間をずらして運行している。

- ⇒◎下校時、バスに乗車する子どもをちゃんとチェックしているのか。
- ⇒■学校でしっかりチェックしてバスに乗せている。中学校でも帰りのバスが出る時刻までに、部活は終わっている。
- ⇒◎学校単位で部活をするのではなく、市全体で部活をしてはどうか。
- ⇒■すべての部活を学校が抱えられる時代ではない。
- ⇒◎部活を学校単位で行わず、学校のエリアごとに行えば良い。
- ⇒■そのような考え方も1つあると思う。中体連などの大会では、種目によって2つの中学校が合同チームを作って出場したりもしているが、勝ち進んだ場合、上位の大会へ出場できない規定となっている。
- ⇒◎その規定などを構築し直した方が良い。
- ⇒◎勝山市では、バドミントンの指導者が地域におり、その指導者が学校の子どもたちを指導している。地域で育てる部活があれば良いと思う。
- ⇒■大野では、相撲連盟が小中学生対象に相撲教室を開催し、大会に出場している。他にも校外の硬式野球部（大野ボーイズ）などのクラブに所属している場合は、必ずしも学校の部活動に加入しなくても良いとしている中学校もある。しかし、社会体育にすべてを受け入れてもらうことは難しい。仕事をしながら指導してもらっているため、やはり教職員に頼らざるを得ない部分もある。両者がうまく連携していかなければならないと考えている。
- ◎子どもが富田小、尚徳中を卒業した。1学年1学級だったが生徒会や部活動をしっかり出来た。家庭、地域、学校がしっかりタッグを組めば、学校の大きい、小さいは関係ないと思う。再編では、少ない小学校が大きい小学校へ行く必要はない。東西南北4つで小学校を残せば良いと思っている。
- ◎子どもが少なくなることがかなり前から推測できた中で、学校再編に係る国のサポート（助言や指導など）はあったのか。小中学校の再編を同時に決めるのか。再編の決定はどのような手順を考えているか。
- ⇒■再編計画の見直し（案）は来年度に作っていかねばならないと思っている。組織を作りながら検討していきたいと考えているが、現在は取り組みに対する具体的なものはない。
- ⇒■学校設置者は市町になっている。よって、学校数など学校をどうしていくかは市町で考えることであり、国の特別な支援はない。
- ⇒◎再編の中心は子どもだと思いが、先生が働きやすく、教えやすいという環境も大事である。また、地域で子どもを育てているということも考慮して欲しい。
- ◎小中一貫校で、3つぐらいにするという発想はないのか。
- ⇒■再編で教育の質がどのように高められるかであり、小中一貫校もその方法の1つとして考えられると思う。
- ◎すでに再編の取り組みは、以前から行っている。再編は早くしていかないといけない。地区の子どもの出生数はここ数年、本当に少ない。人口減少は進んでいる。
- ⇒■かけるべき時間はかけなければと思うが、出来る限りスピード感を持って、再編を進めていきたい。
- ⇒◎再編をしなければならない学校から徐々にやっていくべきと思う。
- ◎子どもは地域で育て、みんなで協力して育てるのが一番だと思う。勝山市は、未だに各地域に小学校1校ある。地域の中で学校がいろいろな行事をしている。我が子が複式でのびのび育ち、先生の目がすぐ届いていた。低学年の子を良く世話をするとか、忘れ物をしない、校庭のゴミを拾うなどそのようなことをすごく先生が大切にしてくれた。小学校ではこういうことが大切だと思う。小さい子どもへの教育にはもっとお金をかけて欲しい。
- ⇒■大野でもふるさと教育に力を入れている。富田小では、内川での掃除や真名川クラブとの交流、夏祭りの参加、蕨生里神楽の体験などを家庭、地域と連携しながら行っている。
- ◎再編は絶対必要と思うが、数合わせの再編はやめて欲しい。各地区の地域性を考慮しながら再編を進めて欲しい。
- ⇒■小学校は地域との結びつきが大きいと思う。
- ◎再編計画での小学校2校の校区割はどうなっているのか。
- ⇒■中学校校区を単位として、開成中・上庄中・和泉中の校区と、陽明中・尚徳中の校区の2つに分ける計画であった。
- ◎子どもの視力はかなり低下しているのか。
- ⇒■福井県全体で視力と虫歯の治癒率が低い状況となっている。大野の小中学校では、朝にビジョントレーニング（目を休めるトレーニング）を取り入れ、視力低下を防ぐ取り組みをしている。虫歯については6月検診の他に、9月頃に虫歯の発生率が高い1年生と4年生を対象に検診を行っている。
- お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年11月25日発行 第38号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまで一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月14日（木）午後7時～9時

場所：上庄小学校体育館

対象者：上庄地区住民（出席者数25人）

次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまで意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎再編計画の見直しを行っているが、その計画はないという考えでいいのか。

⇒■現再編計画の見直しをしているが、すべてを白紙に戻した訳ではない。なんらかの形で再編は必要であるという考えは変えていない。学校の校数、再編時期、再編方法の3点を基本に見直しを進めていきたい。皆さんの意見をお聞きして、見直し案をしっかりと作っていききたい。

◎上庄小は地域に残して欲しい。限界集落になる。中学校の再編は仕方ないと思っている。陽明中と開成中を残す2校案が良い。

⇒■意見交換では中学校と小学校は使命が違うのではないかと意見される方もいるため、考慮しながら十分考えていきたい。

◎小学校を2校にするという計画だが、どこに建つのか。

⇒■現再編計画においても建てる場所は決まっていなかった。現在も建てる場所の案はない。

⇒◎平成38年に小学校を2校に再編することを目標にしているが、計画がまとまらなかったらどうするのか。

⇒■この再編計画は一度は決定したが、内容を見直す取り組みを現在行っている。

⇒◎仮に、10年後に小学校を再編し、スクールバスで運行するとしても、子どもを迎えにいかないといけない場合がある。自分たちの年齢を考えると孫を迎えに行くことが出来なくなると思ふ。出来れば、上庄小と上庄中は今の場所にあった方が良い。

⇒■保護者の心配は通学の距離と時間、バスの運行方法などである。慎重に検討していかなければと思っている。

◎学校を再編することで、子どもの将来が確約されるという主張が先生から出てこない。再編は、市の財政を考え、経費が掛かるからという理由が柱になっていると思ふ。どこの地域の学校も1クラス5人ぐらいになったら、他の学校との再編を考えるのが自然であると思ふ。子ども中心に学校再編を考えないといけない。教育にはお金を掛けないといけない。上庄小が地域からなくなると、子どもの姿が見えなくなるので寂しい。子どもの姿が地域で見れることは癒しである。

⇒■子どもがいかに学校で健全に真っ直ぐ育っていくかであると思ふ。最初から再編ありきや子どもの数合わせではなく、何を目標して大野は再編を進めていくのかであると思ふ。子どもみんなを良い子に育ててやりたい。

⇒■再編は経費のことではなく、一番は子どもの姿である。これからの時代に立ち向かっていく力を小学校から培っていく必要があると思っている。今の教育は、子どもたちが自分たちで話し合って進めていく内容になっている。そのため、あまりにもクラスの人数が少ないと話し合いが成り立たなくなる。今年は意見交換会以外に、小学校6年生と中学校2年生全員からアンケートを取って意見を聞いている。他にも教職員からもアンケートなどで意見を聞いている。

⇒◎福井県は学力が優秀である。今の教育は間違っていない。この結果を継続しながら、再編が出来たら良い。

⇒■学力をつけていくことも必要だが、いじめや差別が出ない学校にしていきたい。

◎上庄小と上庄中の現在の人数は何人か。

⇒■上庄小は全校児童121人で、5年生は25人、6年生は24人で、一番少ないクラスは16人である。上庄中は全校生徒86人で、1年生24人、2年生26人、3年生36人である。

⇒◎上庄小の将来の児童数の予想はされているか。

⇒■上庄地区の人口は、10年前は4,100人だったが、現在は約3,500人、2040年には約2,400人になると予想されている。これを基に、20年後は上庄小は121人から約80人に、上庄中は86人から約60人になると考えられる。

◎上庄中の学校を利用して、小中一貫校にして欲しい。子どもが夏祭りで活躍してくれているので、再編で市街の学校へ通うようになった子どもが地区の行事に参加してくれるか不安である。再編で上庄小や上庄中が空き校舎になった場合、校舎はどうするのか。

⇒■校舎を教育と違う用途にする場合、国の承認が必要となる。旧六呂師小は民間に貸しており、旧森目小は民間の福祉団体に売却している。

◎子どもにとって近くに学校があるのが一番である。でも、子どもが1人や2人になったら学校は成り立たないと思う。子どもが少人数になれば、先生も子ども1人1人を把握できると思うし、子どもも勉強がよく理解出来ると思う。しかし、ある程度、人数がいないと成り立たない教科もある。そういう教科は、複数の学校で学年ごとに集めて教えるとかが出来ないか。クラブ活動も1つの学校でやるのではなく、複数校で1つのチームを作って行うことは出来ないのか。

⇒■小規模校の良い所は、丁寧に教えることが出来たり、子どもの発表の機会が増えたりすることである。しかし、ドッジボールや合唱などは人数の多い方が良い。現在、小規模校同士でテレビ会議を通して学習したり、和泉小と上庄小の子ども同士が交流学習をしたりして、小規模校の子どもたちがいろいろな環境の中での学習を体験している。このように、一定部分において合同で教育を行っているが、すべての部分で合同で行う場合は再編の形になってしまうと考える。その他、複数校で交流している連合行事には、連合体育大会や連合音楽会があり、お互いがふれあっている。他にも小学校体育振興連盟で水泳教室を開催したり、6年生全員による球技交歓会を行ったりして、小規模校が不足する部分を補っている。

⇒◎全国的に少子化になっているので、今までの教育を見直して、連合で教育する部分、小規模校が単独で教育を行う部分が出来れば良いと思う。20年先には、ひょっとしたら大野と勝山で小学校1校という発想が出てくるかもしれない。少人数で出来る教育、団体の場合は合同で行う教育を行うなど、発想を変えて教育の仕方を変えることが出来ないかと思う。

⇒■子どもの数だけでいくと、奥越で小学校1校、中学校1校という考え方になると思うが、この形は教育の目指すものではない。小規模校、大規模校、それぞれに良い所、悪い所がある。バランスが大事であると思う。

◎小学校が地区にあると地域の絆が深まる。年配者はこの絆を大事にしたいと思うから、再編に反対となる。上庄地区には小学校を残して欲しい。子どもがどれくらいの人数になると複式学級になるのか。

⇒■2つの学年合わせて16人以下（1年生を含む場合8人以下）で複式学級になる。

⇒◎複式学級では、45分の授業で教えてもらえるのは、普通学級の半分になるのか。

⇒■複式学級の授業の進め方は、例えば1・2年生では45分の授業で、最初、下の学年から授業に入り、5分ごとまたは10分ごとに教職員が動きながら、1年生と2年生を交互に教えている。教職員がついていない間の児童は、教職員が児童から離れる前に指示を出して学習をさせている。教職員も非常に忙しい感じで各教科を教えている。

⇒◎上庄小を残しておいて欲しいといっても、人数が少なくなれば複式は避けられないということか。

⇒■そうである。

⇒◎人数が少なくなると、きめの細かい授業を受けられないということか。

⇒■人数が少なくても、今年の3学期から導入するタブレットなどで学習をすることができる。その他、人間関係を養うために、学校同士の交流を行っている。

⇒◎その交流を今まで以上に検討し、活用しないと、再編しか方策がない状況になる。

⇒◎学校間の交流でアイデアがある。例えば、大野市の全小学校5年生をシャッフルして、結の故郷小学校5年

1組という想定したクラスを作り、その構成は、上庄小2人、有終南小5人、有終東小5人などとする。その子たちは、地元の学校に通いながら、1年間随時、想定のクラスで授業をして、触れ合ったりするのはどうかと思う。

⇒■学級数で教職員が配置されるため、その方法を取ると新しい学校としての位置付けになり、教職員も足りなく1年間行うことが難しいと考える。学校同士の交流については、内容やあり方を考えていかなければと思う。再編に関する教育のビジョンについては、しっかり考えていきたい。

◎どの地区でも、学校を残して欲しいという意見があるのではないかと思うが、そういう要望を教育委員会は汲むのか。

⇒■そのような要望をお聞きするために、意見交換会を行っている。

⇒◎聞いただけでは、以前の再編計画と同じになる。なんらかの形で聞いていただかないと、意見交換会を開いている意味がない。

⇒■小中学校の保護者や保育所、こども園の保護者など、皆さんの意見は様々であり、1つにまとめることはないと考えている。意見は再編計画の見直しの参考としていきたい。



◎来年度に計画案を立てるということだが、案を立てる決定機関はどこか。立てた案をいつ発表してくれるのか。発表した計画を地域で説明してくれるのか。

⇒■具体的に、どのような組織で検討し、いつ発表するかは決まっていないため申し上げられないが、計画案をなんらかの形で説明に回すことはしていきたいと思っている。

⇒◎検討する組織のメンバーがしっかり発表されて、みんなが納得するメンバーであれば良いが、再編計画のように誰が決めたのかも分からない、どのような経緯で議論が進められたのかも分からないようだったら、透明性がないため、誰も納得いかないと思う。

⇒■情報公開はよく考えていきたい。

◎保育園や小中学校それぞれの過程で、こういったことをメインに教えていくべきであるかという指針はあるのか。成長の時期によって、教えるべきことがあると思う。

⇒■小学校と中学校ではミッションが違っていると考える。子育てでは、赤ちゃんの頃は「しっかり抱いて 肌を離さず」、小学校に上がる頃には「肌を離して 手を離さず」、中学校・高校では「手を離して 目を離さず」、大学や就職時には「目を離して 心を離さず」といい、学校教育にも当てはまるとしている。

⇒■昔は学校だけによる教育だったが、今は家庭や地域と連絡した教育が重要となっている。幼児期は家庭との結びつき、小学校になると地域と一緒に、中学校では地域に参画するという部分に焦点を当てながら教育に取り組んでいる。

◎体罰について、どのような見解を持っているか。「修学旅行で早く寝なさい」と注意して、寝なかったから先生が子どもを叩いたのは体罰になるのか。他にも明らかに生徒に問題があると思われることに、先生が体罰と思われるので何もしなくなったと感じている。これは保護者にも原因があると思っている。我が子を先生に育てて欲しいとは思わない。育てるのは親だと思う。学校はみんなという時に、基本的なことを学ぶためのものだと思う。

スポーツとゲーム・インターネットはどちらが良いか、悪いかの差はあるか。スポーツで活躍できる子は一握りだと思う。A Iやグローバル化の時代を迎え、ゲームやインターネットを使いこなせることで、自分たちでも知らない情報を子どもはたくさん仕入れている。その大事さを最近感じている。学校では、ゲームやインターネットをする時間が制限されている。教育では、スポーツが出来ることが優れていると考えられているのか。

⇒■体罰は法律的に禁止されている。大切なのは、信頼関係だと思う。家庭でも、子どもを叩いたら虐待と言われてしまう時代である。教職員は、夏休みなどを除けば、保護者より子どもと一緒にいる時間が長い。そのような中で信頼関係がしっかり築かれていれば、体罰はなくなると考えている。

A Iの時代を迎え、学校でもタブレットを導入した学習が始まるが、それだけでは子どもの力はつかない。黒板などのアナログとデジタルをうまく使い分けて、子どもに考えさせないといけない。大野市が目指しているのは、確かな学力を育むことであるが、それ以外に、自分の好きなことを徹底的にやれる環境づくりも

目指している。絵が好きな子は絵を、ものづくりが好きな子はものづくりなど、自分が得意とすることを十分やることで身につけていくと考えている。個性を大事していくことも目指している。

⇒■県では小中学生に対して、インターネットの利用は2時間にしようなどのルールを決めているが、実際は自己責任になる。

◎上庄と和泉だけが、小学校からそのまま中学校にあがるので、小中一貫校として上庄を残して欲しい。

⇒■和泉は小中併設校という位置付けである。校長は1人で、教頭は小学校1人、中学校1人の配置となっている。

⇒■現在、上庄中の3年生は2クラスあるが、今後は小学校から中学校まですべて1クラスになる。そうになると9年間、ずっと同じクラスになる。良い所もあれば、心配な所もある。

⇒◎だから、学校間の合同の場を増やしていかないといけない。スポーツだけでなく、勉強でも、様々な学校での組合せによる交流学习を行い、友だちを増やし、人間関係を増やしていかないといけない。9年間ずっと同じクラスという固定観念をはずして、もっと柔らかい頭で、合同でやることや単独でやることを、子どものために考えて欲しい。

⇒■緩やかな連携を考えていきたい。

⇒◎大野市独自の再編を考えていかないといけない。

⇒■どの形が子どものために良いかを考えていきたい。

◎教職員の意見交換会があったと思うが、全体的に再編をしていかないといけないという意見が多かったのか。

⇒■教職員は自分たちの学校に誇りを持ちながら意見を言っていた。上庄地区のような、幼・保・小・中でずっとメンバーが一緒の方が良いという考えの教職員もいたが、意見にはバラつきがあった。校長会でもう一度、各学校に独自のアンケートを取り、その回答を基に、教育委員会と校長会で意見交換会を行う予定としている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年11月29日発行 第39号

発行 大野市教育委員会教育総務課

〒912-0086 大野市天神町 1-1

電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110

E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月19日（火）午後7時～8時50分

場所：下庄小学校多目的ホール

対象者：下庄地区住民（出席者数22人）

次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎乾側小の校舎を建てることについては、再編に関係なく、耐震のためにするというこゝでよいか。

⇒■再編計画を見直ししているところであり、現在は計画がない状況である。耐震性がない校舎の対策として、リースで軽量鉄骨による校舎を建てることを検討している。

◎再編計画で小学校2校、中学校1校になると聞いた時はびっくりした。下庄小がなくなることにはショックだった。また、子どもたちと公民館が一体となった素晴らしい施設である有終西小（学びの里「めいりん」）がなくなることについても寂しく感じた。地域とつながりを大切にする教育を進めるとしているのに、地域から子どもたちがいなくなるのは矛盾していると思う。

⇒■めいりんは他にはない施設と思ひている。今は、再編や教育環境について皆さんがどのように思ひているかをお聞きし、その意見を計画の見直しに反映していきたいと考えている。めいりんをどのようにしていくかの考えは現在はない。

⇒◎まちなかが寂しくなるのはデメリットだと思ひう。

◎学校は必要があつて作られるものである。子どもが多かつた昔は、家庭科室なども教室にしたし、プレハブの校舎もあつた。学校が維持できなくなった場合は再編せざる得ないと思ひう。再編計画で3校を新築するとしていたが、市の財政が大丈夫なのか心配している。耐震した学校もたくさんある。再編後、空き校舎をどうするのかも疑問である。また、高齢者、子育て世代、子ども自身それぞれがどう考えているかを腹を割って話をしていくべきと考える。

⇒■再編は、子どもたちに質の高い教育環境を提供することを考えていくべきと思ひている。子どもたちの意見としては、今年、小学校6年生と中学校2年生にアンケートを行っている。総合的に多くの方から意見を聞きながら、教育の質の維持を最優先に考えてやっていきたい。

⇒■再編計画では、小学校2校、中学校1校の計3校を105億円をかけて新築していく内容だった。経費の支出内訳を大まかに説明すると、経費の半分は国・県の補助金を、残りの半分の90%は市債（借金）、10%は市が該当年度に支出する方法となる。市債（借金）は10年ぐらひかけて、支払うことになる。

◎教育とは、クラスに弱い子、体力がある子などいろいろな子どもが集まり、その環境に子どもたちを置くことによつて、弱い子にはいたわる、優しい気持ちを持つなどグループの中で学ぶことである。いろいろな子が集まらないと教えられることがある。クラブ活動では上下関係を学ぶ。小さい学校だと塾と同じである。良いことや悪いことは事例がないと先生も教えられる。同じ年代の遊びで覚えたこともある。これまでの教育現場の経験

に基づき、少子化の中で教育はこうしていくべきだと信念を持って語ってほしい。

⇒■ そのとおりだと思う。市民の方々からいろいろなことをお聞きする部分と、この部分からは教育関係者として、このように考えるんだと色分けをしないと駄目だと思っている。計画をまとめる時は、理由と説明、構想を示していくことになると思う。陽明中でお世話になった時も、学校をどうしたいのかを真剣に考えながらやってきた。再編は、大野の教育がこうあるべきだと追求していく取り組みだと思う。この取り組みに対して国や県からのアドバイスはないので、頑張ってやっていきたい。

◎ めいりんは、昼は学校、夜は生涯学習施設になる画期的な施設である。福井市でも子どもが減っている中、福井市順化小と順化公民館をめいりんのような施設の方法を取り入れて整備しようとしている。

◎ 教育シンポジウムが開催され、講師の松木先生が斬新な学校再編の方法を提示されたと思うが、そのような方法を取り入れる考えは持っているか。

⇒■ めいりんのような複合施設や、学校施設にコンビニを入れたり、近くに病院があったりなど、学校単体ということではなく、いろいろな方が集まれるセンター的な機能を備える方法もあるという話であったと思う。これからは、そのような機能が求められてくると思う。

⇒■ 小中学校では、家庭と特に地域との連携ということで、公民館を核にダイナミックな学習を展開している。再編で地区から学校がなくなった場合、核となるのは地域コミュニティだという話も松木先生はされていた。そのようなことも考慮しながら再編を考えていく必要があると思っている。

◎ 2年前に中学校1校、小学校2校の案が出た時、日本に黒船が来た時に右往左往していた状況と同じように感じた。学校を3つに絞るという衝撃は今も残っている。六呂師小が阪谷小に再編された時期に、複合施設としてめいりんが整備された。子どもはどんな環境でも学ぼうとしてくれると思う。

⇒■ どのような教育環境を目指すかをしっかり定めていきたいと思う。

◎ 平成16年から再編が始まっていると説明があったが、それは教育委員会の中だけである。なぜ学校へ来て勉強するかというと、人のために役に立つためであると思う。学校再編は教育の再生ぐらいの気持ちでやらないといけない。学校は人間のベースアップセンターにならないといけない。学校は現在の数とは言わないが、ある程度の学校の数にして欲しい。

⇒■ 人の役に立つということも大事であるが、集団の中で、お互いに助け合ったり、自分の弱い所を出したり、間違ったことを学んだりしながら、共生社会で生きていく人間を作っていくのが学校教育であると考えている。

◎ ある規模の学校にしないといけないのは分かる。家族や校区の住民、地域の協調社会の中で子どもは育っていくべきと思う。それを踏まえて、学校の適正な規模を考えていかないといけない。以前は、子どもを育てることに對して効率主義を前面に出していたと思う。それぞれの地域で育てることを見失ってはいけない。

⇒■ 人間味豊かに地域で育つことが大野の良い所だと思う。再編すると校区が広がり、地域との関係が薄くなることについては、他の意見交換会でも言われている。

⇒◎ 乾側小が旧蕨生小へ行くことになったが、近くの有終西小へ行けなかったのか。

⇒■ そのことは、教育委員会でも考えた。違う文化や歴史を持った学校が1つの学び舎の中にあるということになると、小さい学校の独自性が失われてしまうと考えた。小さい学校でも小さい学校として、乾側小の姿をしっかり確保してあげたいと思った。悩みながら保護者の方と話をした。

◎ 子どもの頃、小学校の登下校での道草は思い出になっている。再編するとスクールバスで通うことになる。歩いて通うことで体力を養ったり、友だちと話しながら歩く登下校の楽しみなどがなくなったりする。また、校庭に

バスが入ってくると危険である。小学校は散らばって何校かあった方がよい。中学校はたくさんの人数がいたので、とても楽しかった。年代によって再編を考えて欲しい。

⇒■小学校の再編内容が具体的に決まっていないため、スクールバスのルートや台数なども示せていないので、ご不満に思われていることは感じている。バスへの不安は、これまでの意見交換会でもお聞きしている。通学環境については配慮していきたい。

⇒■小学校と中学校の使命は子どもの成長の度合いなどもあるため違うと感じている。

⇒◎現在運行しているスクールバスは、各集落を回るルートとなっていて、登下校の環境としては悪いと思う。朝、5分でも10分でも早く家を出ることは負担になるので、遠いところの子どもに対しては、特別のダイヤにするなど、学校生活へのしわ寄せがないように便数には十分配慮した方がよい。

⇒■保護者の不安の一番は、登下校の時間と方法である。

◎小規模校にも、大規模校にもそれぞれメリット、デメリットがある。学校ではいろいろな子ども同士での出会い、教師との出会いがある。教員をしていた時、複式学級は人数が少なく難しいと感じていた。地域のつながりがあると思うが、人数を増やすために、校区の編成を変えていく考えはないのか。

⇒■校区の編成を変えていくことも1つの方法であると思う。

⇒◎小さい学校が大きい学校へ行くばかりが再編ではないと思う。大きい所から小さい所へ行くのも1つのやり方と思う。

⇒◎行政区と校区については、いきさつや歴史があるため、すぐに断ち切れるものではない。子どもにとって学校とは何かの原点を見失わないようにしていかないと、再編の問題は非常に解決しにくくなる。

⇒■地域か子どもかという選択の問題ではないと思う。

⇒◎再編はスピード感を持ってやるべきと思う。あまり遅いと小さい子どもを持つ保護者は大野に見切りをつけて福井市などへ移ってしまい、子育て世代がどんどん減っていくと思う。

⇒■保育所やこども園の保護者からも同じような意見をいただいている。

◎どうしても新しい学校を建てないといけないう。十分に活用できる学校が残っている。村部の学校は、都会から人を呼び込むことが出来る教育を展開できる施設であると感じる。それぞれの学校が特色ある教育をされたらどうかと思う。

⇒■小規模教育特認校のような可能性もあると思う。

◎校区を変えることについては、そんな簡単に変わることが出来ないことを学校の保護者の時に体験した。再編は1回で済まないと思う。段階を踏んで、大野に合った形にしていくことが必要と思う。

お仕事等で忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。





大野市教育委員会たより

令和元年12月2日発行 第40号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月21日（木）午後7時～9時40分	場所：結とぴあ多目的ホール
対象者：大野地区住民（出席者数37人）	
次 第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」	

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎ICT教育を進めるとのことだがレベルが低いと思う。石川県加賀市のICT教育は全国トップレベルであり、地域によって差がある。大野市もタブレットを導入するとのことだが、満足せずに高い意識をもってやって欲しい。

⇒■今年の3学期から全ての小学校において、1クラス分のタブレットを導入する。国が定める学習指導要領において、プログラミング教育の実施が掲げられており、大野市の教職員も10月に研修を行い、温度で感知したり、タイマーで感知したりして電気が点く仕組みなどを学習しているところである。来年度からはプログラミング的な体験をするとともに、プログラミング的思考をつける取り組みを進めていく予定である。タブレットなどの機器を使いながら、子どもたちの思考力を高めていきたいと考えている。

⇒◎今年6月に、文部科学省が「新たな情報通信技術戦略」の工程表を発表しているが知っているか。

⇒■把握していない。

⇒◎国がタブレットやパソコンなどを学校に取り入れていくことを示した工程である。情報技術は教育においてこれからもっと大切になる。ボランティアで子どもたちに勉強を教えている学生が切実に訴えたことは、現代社会において貧困から抜け出すには教育しかないと言っている。今の社会において、教育の大切さは計り知れない。これから本当に厳しい時代が来るので、教育委員会は教育に対して真剣に考えて欲しい。小さい時から1人1台のパソコンやタブレットを付与して教育させていかないといけない。教育環境はそういう所からやっていくべきである。

⇒■先般、福井県視聴覚研究会が大野市で開催され、大野高校、開成中、有終西小に県内の教職員が集まった。開成中ではタブレットを使った公開授業が行われ、市外の教職員から称賛をいただいた。これからはAIの時代であり、タブレットなどを使った授業を展開していかないといけない。数年前からは、小学校5・6年生と中学校全学年のクラスに大型電子黒板とタブレットを導入し授業を展開している。授業中、電子機器だけを使うのではなく、AIには出来ない思考錯誤できる時間も取り入れながら、教育を進めていきたいと考えている。

⇒◎AIは進化し、現在子どもたち1人1人の力に合わせた課題を出し、それを評価し、さらに次の課題をどうするかをすでに行っていることを忘れないで欲しい。

◎小中学校で耐震補強されている学校はどこか。

⇒■耐震基準を満たしていない学校の耐震補強を行っている。小学校では、有終南小や有終東小は校舎と体育館を、富田小や乾側小は体育館のみを、中学校では、開成中や陽明中、尚徳中で校舎と体育館をそれぞれ耐震補強している。

- ⇒◎再編は、耐震補強している学校へ徐々に行っていった方が良いと思う。少しずつ、段階的に移行しながら、学校を減らした方がベストだと思う。
- ⇒■現再編計画は段階的な計画であったが、何回も子どもたちが学校を移らなければならない負担などを考慮し、最終形を選んだと考えている。
- ⇒◎地域の方は、移動するのを嫌がると思う。再編については、しっかり舵をきらないと前に進まないと思う。
- ⇒■保護者との意見交換会で一番多い不安は、通学の距離と時間、方法である。どのような通学方法を保証してあげるかなどを丁寧に検討していかなければならないと考えている。

◎再編は地区住民からのボトムアップ形式で進められるのが良い。地区住民の利害関係や考え方はいろいろあると思うが、基本は地区住民がどのようなことを望むかを大切にされた方が良い。学校数を決める際には、10年先ぐらいまでの各校区の子どもの数の推移を基に検討すべきである。

- ⇒■来年度以降、そのようなデータを示しながら検討を進めていきたい。

◎現市長は、再編計画を見直すと言っていたが、どのように見直すのか。前の計画を引きずっているようでおかしいのではないかと。

- ⇒■再編計画を見直していく考えは変わっていない。また、なんらかの形で学校を再編していかなければならないとも考えている。来年度、見直し案の検討に入るが、今年1年は再編について多くの方々がどのような考えを持っているかをお聞きすることとしている。

- ⇒◎計画を見直すのであれば、この場に議会や関係機関と調整をした計画見直しの原案を持ってきて意見を聞くべきである。

- ⇒■今年は、意見を聞くために時間をかけているが、来年度以降はスピード感を持ってやっていきたい。見直し案が出来た時は、各地区や関係団体に説明に回る予定としている。

◎ここにいる方々が、子どものことを本当に考えているのかと思う。小学校時代に続けてきたクラブ（スポーツ）が中学校にないので困っていると聞いている。子どものやりたい部活が出来るようにしてやりたい。また、保育園の時に同級生にいじめられていて、小学校、中学校は1クラスでクラス替えがなく、ようやく高校で離れることが出来たという話もある。

乾側小が下庄小や有終西小へ入っても学級数は変わらないと思う。通学距離は変わると思うが、さみだれ式に再編をしていけば、建物を建てなくてもよくなると思う。もう少し、時間をかければいいのではないかと。

- ⇒■中学校の部活動の選択が少ないことや、技術や家庭、音楽などの専門教科の教職員が配置できていないことから、中学校の再編は急がないといけなさと考えている。小規模校及び大規模校、それぞれにメリット、デメリットがあり、良い所をしっかりと伸ばしていきたい。

再編計画があれば、教育委員会では、乾側地区や乾側小の保護者に対して再編を行っていく説明を出来るが、現在は計画はない状況である。また、地区から先行再編の要望が出され、その後、取り下げられている。地区全体で方向性がしっかりとまとまっている状況ではないため、教育委員会が一方的に再編を進める訳にはいかないと考えている。

◎今日の意見交換会に参加しびっくりしている。参加者数が少なく、若い人も少ない。関心がないから少ないと考えているのか、開催の時間設定を間違っていると考えているのか。10年、20年先の話をするのだから、親子参加による意見交換会を開催するなどやり方を考えて欲しい。

教育にダンスが含まれたと思うが、先生がダンスを教えられないので、校外のスキルを持っている人に習っている子どもがいる。部活動では野球、ソフトボール、バレーボール、水泳など学校の先生では教えられるレベルは限られてしまっているため、部活動の時間帯は親に責任を持ってやらせ、先生は部活動をしないで授業、放課後などだけを見てもらうだけで良い。

- ⇒■今日の意見交換会は地域の方々を対象に開催させていただいたが、小中学校の保護者や未就学児の保護者を対象にした意見交換会は別で開催している。
- ⇒◎それは知っているが、以前の再編計画の説明会では、危機感を持って多くの人が集まっている。その波が引いてしまっていることに対して愕然としている。新しい計画案を出したとしても同じことを繰り返し、いつまで経っても計画は決まらないと思う。若い人は、学校がどうなるか分からないため、家を建てられないと言っている。長いビジョンで構えるのはいいが、出さなければならない点は明確に出さないといけない。
- ⇒■計画の進め方については承知した。部活については、学校からなくなることはない。部活動を通じて子どもたちと生活していくことは大切なことだと考えている。学校の部活だけで子どものニーズを満たすことが出来ないのは理解している。陽明中では校外のクラブに所属し一生懸命頑張っていれば、部活動としては認められないが、学校の部活には入らなくて良いこととしている。

◎来年度の検討を行う人選については、若い人も含めて幅広いメンバーで組織して欲しい。また、パブコメを行った後も計画に少なからず反映を検討して欲しい。

- ⇒■年配の知恵も必要であるし、小中学校の保護者や未就学児の保護者の意見も大切であると考えている。人選には若い方や男女の比率なども考えていきたい。見直し案を作った後は、皆さんに説明を行い、意見を伺うステップは必要と考えている。

◎大野地区は、再編を受け入れる側と考えているため関心がないと思う。今年4月に小浜市で4つの小学校を1つに再編しているが、参考としているか。複式学級に子どもを預けている保護者は教育環境について、どのように思っているか。

- ⇒■複式学級という形は特例だと思っており、普通学級にしてあげたいと考えている。保護者には、小さくて家庭的で良いと考えている方もいれば、人間関係がこじれた時どうするのか、立ち位置が決まってしまうと思っている方もいる。

⇒◎競争社会で生きてきたため、ある程度競争心が芽生えさせるような教育が必要ではないかと考えている。そう考えると、複式学級の学校については、希望者だけ近くの小学校へ行くことが出来るように考えてはどうかと思う。

- ⇒■学校は、それぞれの校区が決まっている。校区は昔から地域の方々の思いなどがあるため、簡単に変更することが出来ない。再編の見直しで校区が変わっていくと考えている。

◎先日、陽明中学校たよりを見ていたら、陽明中の生徒が乾側小の運動会の運営に協力したとの掲載があったが、少ない人数の乾側小で学校を運営していくことはどうかと思う。複式学級の授業風景もテレビで見たが、家庭教師に教えてもらうような感じに近かった。

- ⇒◎子どもの意見や希望をある程度取り入れるような学校再編を考えるべきである。再編をすると空き校舎が増えるので、機械的に小さい学校を大きい学校へ再編をするのではなく、希望が持てる再編をすべきである。

⇒◎再編は賛成である。大野市だけを見ているが、教育委員会は、市外の再編の例も出していただき、空き校舎をどのように利用しているかなどを資料として出して欲しい。来年度、再編計画見直しの検討をするということだが、しっかりスケジュールを決めて進めて欲しい。

- ⇒■市外、県外における再編の取り組みはいろいろであり、10年、15年積み上げて進めているところもある。大野の実情に合わせた再編を一生懸命考えていくしかないと思っている。

◎大野の過疎には驚いており、人の減り方はすごい。これだけ子どもの数が減っている中、学校を残すのはナンセンスである。各地域の意見交換会では、地域づくりや文化を大切にしたいから学校を残して欲しいという意見が



多いが、それは公民館機能を有効にしていけば良い。再編は、中学校2校、小学校4校が妥当であり、令和5年ぐらいが良いと思う。また、1950年代は大学進学は4人に1人だったが、現在は短大も含めて80%近くである。よって、中高一貫で教育を考えるべきと思う。中学・高校の6年間は人格形成を行う大切な時期であり、自分を知る時期である。

◎少人数である乾側小の保護者も再編などでまとめることが出来ないのに、市全体の再編をまとめることは出来るのか。

⇒■再編計画があれば、その内容に沿って地区や保護者と話を進められる。先行再編については、保護者と地区の方が1つにまとまっていただかないとうまく進まないことである。

⇒◎それであれば、市全体の再編はなお、出来ないと思う。乾側小の軽量鉄骨校舎の建設は、少人数の教育を良いとして行うのか。

⇒■少人数の教育が決して良いという考えではない。再編計画があれば、教育委員会から地区や保護者に対して再編を働きかけできるが、計画がない状況で、一方的に再編を進めることは出来ないと考えている。今回の対応はあくまでも、児童と教職員の安全を守るための耐震対策である。

◎この会は、中学校1校、小学校2校で進める感じにしかとれない。この内容を変えることは出来るのか。現再編計画を進めるために、時間稼ぎをしている感じにとれる。

⇒■中学校1校、小学校2校を見直すために意見交換会で各地区を回っている。見直し案は来年度に作成する。皆さんに理解いただける内容を示していければと思っている。

⇒◎見直し案はいつごろまでに示すのか。2年後、3年後では許されないと考える。

⇒■来年度中に示せるようにしていきたい。

◎今は、保護者の望む学校に子どもを入学できるのではないか。

⇒■校区が決まっているため、行きたいという理由だけでは校区を変更することは出来ない。条件が合えば校区の変更を認めている。

⇒◎保護者が大人数の学校で子どもを学ばせたいという理由で、校区を変更することは出来ないのか。

⇒■現在は出来ない。市が有終西小の校区を全市域として定めていれば、どこの地区からでも有終西小へ入学させることが出来るが、現在はそのような校区を設定していない。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。



大野市教育委員会たより

令和元年12月9日発行 第41号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思ひます。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月28日（木）午後6時～7時45分	場所：学びの里「めいりん」洋室（中）
対象者：大野市政懇話会（出席者数5人）	
次 第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」	

※以下は、「2部 意見交換」で会員の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※会員からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎教育委員会では部活をどう捉えているか。学校教育の中での部活はあやふやな位置付けであると思う。部活を通じて校外の子どもなどいろいろな人と触れ合うのは大きいことであり、他校と競い合うのも必要なことではあるが、部活動を学校単位で行わなくても良いと思う。部活は学校教育とは別で、社会教育の分野であり、再編になぜ持ち込んでくるのか。再編とわざと関連付けている。

⇒■中学校において、主要5教科以外の音楽や美術、技術などの専門教科の教職員すべてが学校に配置されることが第一と考えている。部活動が学校教育に果たしてきた役割は大きいと思っている。現在は、校外のクラブチームへの移行が進んでいる状況である。しかし、校外のクラブチームの指導者はボランティアであり、今すぐに学校の部活動を依頼するのは難しいと考えている。陽明中では、硬式野球やサッカー、トランポリン、水泳などをやりたい子どもたちが増え、そのニーズに学校が応えられない時代になっている。そのため、校外のクラブチームで一生懸命頑張るのであれば、必ずしも学校の部活に入らなくても良いこととしている。学校再編を行う理由の中心が部活であることはない。

⇒○そこをちゃんと説明しないと、保護者は昔と比較して部活動の数が少なくて、子どもが可哀そうだから再編を進めないといけなひと考える。

⇒■再編の要因の一つであるとは考えている。現在、教員の働き方改革で部活数を教員数の半分にするように、県から働きかけがある。部活動を2人で担当すれば、交代で指導することができるからである。しかし、保護者からは、小学校で一生懸命してきたスポーツが中学校の部活にないため、増やして欲しいという要望もある。徐々に保護者の理解を得ながら、部活動の数などを検討していく必要がある。

◎新聞の再編に係る記事では、教育環境を優先するのか、地域を優先するのかなどの内容や、少人数が教育環境にあたかも悪いと取られる内容も掲載されている。

乾側小の校舎の耐震対策で、軽量鉄骨校舎建設を12月補正予算に計上しているが、議会で認められなかったら、どうしていくのか。旧蔵生小に移転したままか、再編を早く進めるのか。

⇒■12月議会で認められるように丁寧に説明していきたい。

⇒■再編で質の高い教育環境を作っていく必要があると考えている。意見交換会で、小規模校の保護者からは子どもを丁寧に見てもらえるとか、集団での活動が寂しいとか、良い点、心配点の両面から意見が出されている。再編では総括的に考え、子どもの教育環境を第一に考えていきたい。

◎乾側小の校舎を木造で新築した場合の試算はしているのか。

⇒■しっかりと設計はしていないが、現状の校舎を参考に平米単価は出している。

⇒◎国の補助を受けて新築する場合と、リースで軽量鉄骨校舎を建てる場合の財政的比較はしているか。

⇒■新築の場合、国の補助は受けることが出来る。仮定ではあるが、今後、乾側小が再編となった場合、再編後の空き校舎の活用をどうするか課題がある。また校舎が残れば、維持管理に係る経費が必要となる。現在、再編計画を見直ししているところであり、乾側小が今後どうなるかがはっきりしていない状況である。リース期間終了後も乾側小が存続するのであれば、リース期間を更新し、乾側小の再編が進むのであれば建物を返していきたいと考えている。

◎グローバル社会に対応するための人間を育てることを学校再編の理由にしていることは、とんでもない話である。高校なら分かるが、小中学校の義務教育に必要とは思わない。義務教育は、基礎基本を身につける場である。中学校で専門教科の教職員が配置できないのであれば、市の経費で配置しようと思えば出来る。義務教育で一番大切なことは何なのか、考え方が違うと思う。

⇒■教育環境については、皆さん、いろいろな考えを持っておられる。いただいたご意見は検討の場で伝えていきたい。

◎大野市議会議員選挙の時に、共産党で市民アンケートを実施した。学校再編に対する意見もたくさんあり、その1つに「今どき、新校舎を建ててまで中学校を1つにしなくても良い。週2、3回各学校から子どもが1つの学校に集まり、授業を行えば良い。立派な校舎がなくても、子どもは友だちを作るし勉強もする。全員同じ所に登校しなくても、例えば今日は有終西小を開放し、他の校区からの子どもも通えるようになれば耐震した学校をすべて使えるようになる。」とある。孫が幼稚園から小学校へ上がる時、同級生が少なく大勢の人数に馴染めるか心配したが、大丈夫だった。学校の人数が多いのも大事かもしれないが、教育環境はその子ども自身の問題である。再編では、もっと慎重に保護者や地域の人の意見を聞いて欲しい。

⇒■慎重に丁寧に再編を進めるつもりで、このような意見交換を行っている。小規模校、大規模校それぞれに良い所と心配な所がある。それぞれ良し悪しをみんなで理解しながら、良い所を伸ばして、心配な所を少しでも小さくしていくことが必要である。

⇒◎小学校は地域の核であると思う。子どもは大人に見守られている環境にある。バスで遠くの学校へ行くと、地域の方とのつながりがなくなってしまう。



◎各学校に配当される予算に計算式はあるのか。

⇒■特にない。

⇒◎子どもの数、教職員の数、使用する単位数、単元の時間などを基に学校教育に係る標準経費をはじき出すべきである。その中で、テスト用紙は成績を評価するものだから、子どもや保護者に負担をさせてはいけななどの基準を設けないといけない。市、保護者の負担を積算し、学校への配当予算を決めるべきである。配当基準がないから、保護者への経費負担が生じている。大野市は他市と比較して学校徴集金は多いのか。少ないのか。

⇒■文部科学省が定める基準や総務省が示す交付税の算定規則に基づいて、教育予算を組んでいる。その教育費の過去10年間の平均が、市費の約10%を占めており、他市も同じような割合になっている。基準に基づいて積み上げなければならない経費と、市が上積みしていかなければならない経費を予算にしっかり組み込んでいる。

⇒◎他市と比較するとき、学校教育費だけでなく、保護者に負担をどれだけ強いているかの部分も含めて比較しないと実態はあきらかにならない。市の学校徴集金の実態を見ると、テスト、プリント、ドリルなどが非常に多い。学校でこれだけのものを行っているのか、やらせているのか疑問である。家庭学習用で買わせているのであれば、市が保護者に負担を強いているとしか言えない。教育環境を考える前に、他市と比較するな

どして検討するべきである。

⇒■毎日の学校での授業が校となるが、家庭学習を含めての学力を考えていく必要がある。家庭学習は将来、生涯学習につながっていくものと考えている。学校はあくまで、学習のやり方を教える場でもある。将来は自分で学習する人間にならないといけない。そのため、今、家庭学習のあり方について校長会で検討している。例えば、夏季休業中にドリルばかりを出すのではなく、自分が好きなことを思いっきり出来る課題を取り入れたりしている。

保護者負担については、具体的な調査をしていないが、他市の学校から異動で大野の学校へ来た教職員からは特に大野市だけ負担が大きいという話は聞いていない。反対に、社会科見学などでは、大野市ではスクールバスを使用出来るが、他市の学校ではバス代を保護者から集金しているとのことである。

⇒◎教育環境というのは、自治体がどれだけ教育にお金を掛け、義務教育の無償化にどれだけ努力しているかであると思う。

◎平成16年に策定した再編計画の背景は何か。

⇒■子どもがどんどん減り続けると予測されたからと考えている。

⇒◎人口構成上から減り続けるのは当然のことであり、なぜそうなったのかである。なぜ結婚しないのか、なぜ子どもを産まないのかなどから導き出した対策がどうなのかである。地方を考えたとき、ここにどう人を引っ張るかであり、1つの例として大分県豊後高田市の子育て施策がある。福祉、医療だけでなく教育についても対策を講じている。

⇒■豊後高田市は生涯学習も含めていろいろな取り組みを行っている。この取り組みで300人ぐらいの移住者はあるが、緩やかに人口は減少しており、歯止めはかかっていない状況と思っている。

⇒◎人口が減るのは現実であるが、それに対しての自治体の対策がどうなのかである。

⇒■学校再編も大野の教育を良いと思ってもらい、少しでも少子化に歯止めをかけるための取り組みだと考えている。

⇒■人口減少対策は自治体として必ずやっていかなければならないが、小さくなる社会に対する市の対応もしっかりやっておかないと、30年後、多大な施設を抱えてしまう状況になると考える。両方の施策を一緒に進めていかないといけないと思っている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました会員の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

